

2020年度 入学生用

Faculty of Letters

文学部

履修要項

この履修要項は、学修上の必要事項を記載したものです。
よく読んで活用してください。
この履修要項は、入学から卒業まで使用します。
再交付はしませんので、卒業まで大切に保管してください。

目次

1. 中央大学の「建学の精神」、中央大学の使命と文学部における教育研究上の目的、文学部3つのポリシー（方針）	3	(3) ドイツ語文学文化専攻	27
(1) 中央大学の「建学の精神」	3	(4) フランス語文学文化専攻	29
(2) 中央大学の使命と文学部における教育研究上の目的	3	(5) 中国言語文化専攻	32
(3) 文学部3つのポリシー（方針）	4	(6) 日本史学専攻	34
2. 新入生の皆さんへ	7	(7) 東洋史学専攻	36
3. クラス担任・授業	8	(8) 西洋史学専攻	38
(1) 授業時間	9	(9) 哲学専攻	40
(2) 休講	9	(10) 社会学専攻	42
(3) 教室変更	9	(11) 社会情報学専攻	44
(4) 掲示による連絡	9	(12) 教育学専攻	47
(5) 授業用レジュメの複写	10	(13) 心理学専攻	49
(6) 授業や定期試験の欠席について	10	8. 各専攻共通科目のガイド	51
4. C plusについて	11	(1) 総合教育科目群	51
(1) サービスの利用方法	11	① 初年次教育	51
(2) 利用上の注意	11	② 外国語科目	51
(3) 「スマートフォン版C plus」について	11	③ 健康・スポーツ	54
(4) 利用できるサービス	12	④ アカデミック外国語・ スキルアップ外国語	55
5. 履修	13	⑤ 入門科目	55
(1) 授業科目	13	⑥ 共通科目	56
(2) 単位制	13	⑦ 特別教養科目	56
(3) 卒業要件	14	(2) 学部間共通科目・随意科目	57
(4) 履修のルール	14	① キャリア教育科目	57
(5) 年間最高履修単位数	15	② 学術情報リテラシー科目	58
(6) スクリーン制度	15	③ ICT共通教育科目(情報関連共通科目)	59
(7) 副専攻の履修	15	9. ファカルティリンケージ・プログラム (FLP)	60
(8) モデル履修	16	10. グローバルFLPプログラム	62
(9) 大学院履修科目について	16	11. 試験	63
(10) 他学部履修制度	16	(1) 試験の種類	63
(11) 再履修制度	17	(2) 試験期間	63
(12) オフィスアワーについて	17	(3) 受験上の注意	63
(13) 特別科目の履修(外国人留学生のみ)	18	(4) 不正行為に関する取扱基準・取扱規則	64
6. 履修登録	20	(5) 追試験制度	66
(1) 登録の時期	20	12. 成績	67
(2) 自動登録科目	20	(1) 評価の基準	67
(3) 事前登録科目	20	(2) GPA算出方式	67
(4) 体育の科学(演習)の履修登録	20	(3) 履修中止制度	68
(5) 外国語科目の履修登録	21	(4) 成績発表	68
7. 各専攻のガイド	23	(5) 成績集計欄の見方	68
(1) 国文学専攻	23	13. 卒業論文	69
(2) 英語文学文化専攻	25	(1) 卒業論文の意義	69
		(2) ガイダンス	69

(3) 提出	70	(13) 教職科目について	91
(4) 口述試験	70	(14) 教職課程の流れ(教員免許状取得まで)	111
14. 転専攻試験	70	21. 資格課程	112
15. 国外留学制度	71	(1) 学芸員課程	112
(1) 留学について	71	(2) 社会教育主事課程	114
(2) 交換留学・認定留学	71	(3) 司書課程	115
(3) 短期留学プログラム	72	(4) 司書教諭課程	118
(4) 国際センター	73	22. 文学部パソコン教室	120
16. 学籍番号と各種手続き	74	23. 多摩キャンパスのITサービスについて	123
(1) 学籍番号	74	24. 視聴覚教育(映像言語メディアラボ)	123
(2) 住所変更	74	1. CALL教室、AV教室、自習室について	123
(3) 戸籍記載事項の変更	74	2. 端末の利用について	123
(4) 学費	74	3. 映像言語メディアラボの情報について	123
(5) 休学	75	付録 中央大学学則	124
(6) 復学	75	中央大学学則施行規則	131
(7) 退学	75	中央大学学則施行細則	132
(8) 除籍	75	個人情報の取扱いについて	134
(9) 再入学	75	緊急時の避難	138
(10) 大学センター試験利用入試単独方式(4教科 型)で入学した学生の2年次における専攻決 定について	75	多摩キャンパス学生関係事務室・体育実技 実施場所等案内図	139
(11) 卒業延期	76	中央大学事務室電話番号一覧	139
(12) 秋卒業	76	教室案内図	140
(13) 賞罰	76		
17. 奨学金制度	77		
18. 学生教育研究災害傷害保険 (通学特約含む)	79		
19. 卒業後の進路	81		
(1) 大学院進学	81		
(2) 就職	81		
20. 教職課程	82		
(1) 教職課程の履修について	82		
(2) 教員養成の目標	82		
(3) 取得できる免許状の種類及び教科	82		
(4) 教育職員免許状(1種)取得のための要件	83		
(5) その他の注意事項	83		
(6) 教職科目の履修上の特例について	84		
(7) 教育実習	84		
(8) 教職実践演習について	86		
(9) 介護等体験	87		
(10) 教職科目等履修生について	89		
(11) 教職における各種証明書の申請と交付	90		
(12) 教育職員免許状一括申請について	90		

1. 中央大学の「建学の精神」、中央大学の使命と文学部における教育研究上の目的、文学部3つのポリシー（方針）

（1）中央大学の「建学の精神」

中央大学は、1885（明治18）年、18人の若き法律家たちによって「英吉利法律学校」として創設されました。創立者たちがこの学校を設立した目的は、イギリス法（英米法）の長所である法の実地応用に優れた人材を育成するために、イギリス法の全科を教授し、その書籍を著述し、その書庫を設立することにあります。

創立者たちの「建学の精神」は、抽象的体系性よりも具体的実証性を重視し、実地応用に優れたイギリス法についての理解と法知識の普及こそが、わが国の独立と近代化に不可欠であるというものでした。それゆえ「實地應用ノ素ヲ養フ」教育によって、イギリス法を身につけ、品性の陶冶された法律家を育成し、わが国の法制度の改良をめざしたのです。

創立者たちは、イギリス法が明治の日本を近代的な法治国家にするために最も適していると確信し、経験を重んじ自由を尊ぶイギリス法の教育を通して、実社会が求める人材を養成しようとしたのでした。

（2）中央大学の使命と文学部における教育研究上の目的

中央大学は、学校教育法の定める「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」という大学の目的に即し、「中央大学の使命」を学則第2条において以下の通り定めています。

●中央大学の使命（中央大学学則 第2条）

「本大学は、その伝統及び私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法の本質に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もって個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする。」

また、中央大学では、昨今の大学設置基準の改正を一つの契機として、大学の理念・目的、教育目標及び人材養成の目的を踏まえながら、2007年度に学則の改正を行い、これまで脈々と培ってきた各学部における人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的を、「学部の教育研究上の目的（中央大学学則 第3条の2）」として改めて学則に明文化しており、各学部では、これらとその教育をはじめとする諸活動の根幹・指針に据えた組織的な展開を図っています。

現在、学則に定める文学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的は次の通りです。

●文学部の教育研究上の目的（中央大学学則 第3条の2）

「人文科学及び社会科学の諸分野に関する教育と研究を行う。専門の教育における知的訓練を経て得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成する。」

(3) 文学部 3つのポリシー (方針)

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

<養成する人材像>

文学部は、「文」すなわち広い意味での文化と、人間の様々な営みに関わる多様な学問を学ぶ場です。文学部は「實地應用ノ素ヲ養フ」という中央大学の建学の精神をふまえて教育を行い、多様性を認め互いを尊重し合うことが求められる現代社会において、専門的学識と幅広い教養を持ち、言語・文化・社会についての素養、つまり「人を読み解く力」を備えた人材を養成します。

<卒業するにあたって備えるべき資質・能力>

文学部では、所定の教育課程を修め、以下のような知識・能力・態度等を身につけた人材に対し、学士(文学・史学・哲学・社会学・教育学)の学位を授与します。

1. 専門的学識：各専攻の学問分野において求められる専門的な知識を備えている。
2. 幅広い教養：多種多様な科目から得られた幅広い教養を身に付けている。
3. 複眼的思考：専門的学識と幅広い教養を併せ持つことにより、複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができる。
4. コミュニケーション力：自分の考えを相手に伝え、理解を得るとともに、相手の考えを理解することができる。
5. 主体性：主体的に自ら学び続けることができる。

教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

<カリキュラムの基本構成>

文学部は、人文社会科学に、「国文学専攻」「英語文学文化専攻」「ドイツ語文学文化専攻」「フランス語文学文化専攻」「中国言語文化専攻」「日本史学専攻」「東洋史学専攻」「西洋史学専攻」「哲学専攻」「社会学専攻」「社会情報学専攻」「教育学専攻」「心理学専攻」の13の専攻を設置しています。

深い専門性と幅広い教養を備えた人材の養成をめざす文学部では、学位授与の方針に掲げる知識・能力・態度等を修得できるよう、以下の点を踏まえて教育課程を編成します。

1. 専攻科目群：専攻ごとの専門教育における知的訓練のための科目を配置し、それぞれの学問分野の専門的知識を修得します。
2. 総合教育科目群：幅広い視野と複眼的な発想を得るための科目を配置し、幅広い教養と自ら学ぶ力を養います。
3. 自由選択科目群：学生の多様な学びを促進するために、学部間共通科目、自由選択科目(他学部・大学院履修科目等)の履修が認められています。所属専攻の専攻科目や総合教育科目の単位を充てることもできます。自分の志向に合わせてカリキュラムを組むことを通じて、主体的に学ぶ力を養います。

<カリキュラムの体系性>

文学部では、授業科目を体系的に配置し、学生が段階を踏んで学修を進める環境が整えられています。また、関心に応じて自分の学びを主体的に組み立てる自由を保障することで、学修意欲と学修成果の向上を図っています。

1. 初年次共通教育：総合教育科目群の初年次教育科目、外国語科目等を通じて、大学生としての基礎的知識と技能を身につけます。
2. 1・2年次：各専攻の学問分野の概論、基本的な知識と技法を学びます。
3. 3・4年次：1・2年次の学修を踏まえて、より専門性の高い学び、個々人の問題関心に応じた学びへと移行し、専門的学識と方法論に支えられた分析力、思考力、判断力、表現力等を鍛えます。
4. 全年次：専攻科目群の履修を通じて専門的な知識と技能を得ることと並んで、総合教育科目群、自由選択科目群の履修を通じて幅広い視野と複眼的な思考、自分の学びを自分で組み立てる主体性を養います。

入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

<求める人材>

文学部では、人文科学系(言語、文学、芸術、歴史、哲学)・社会科学系(社会、情報、教育、心理)を含む多様な学問研究を通じて、現象の本質を洞察し概念化する想像力・創造力を養うことにより、専門的学識と幅広い教養を持ち、言語・文化・社会についての素養、つまり「人を読み解く力」を備えた人材を養成することを目的としています。この目的を達成するため、次のような学生を求めています。

- ・日本と世界各地の言語、文学、文化、歴史、社会に広く関心を寄せる人
- ・人間の思考や行動、人間関係や社会構造について深く探究する意欲をもつ人
- ・鋭い感性と幅広い教養を身に付けたいと考える人
- ・論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を養いたいと考える人

以上に基づき、次のような知識・能力・態度等を備えた学生を多様な選抜方法によって受け入れます。

- ・高等学校段階までの学習において、国語、外国語、歴史、数学等の内容を幅広くかつ十分に理解している。(知識・技能)
- ・論理的にものごとを考える基礎力を備えている。(思考力・判断力・表現力)
- ・言語、文化を学ぶ基礎としての日本語と外国語の読解力と表現力を備えている。(思考力・判断力・表現力)
- ・人間と社会に関心をもち、自ら主体的に学ぼうとする態度と意欲を有している。(主体性・協働性)

専攻で定めるポリシー

文学部では、各専攻で以下のようにポリシーを定めています。

【専攻において養成する人材像】

国文学専攻では、現代まで日本語によって創り上げられてきた文献、芸術、文化の豊かな世界を学びます。そして人間および言語情報を分析する力を養い、それを生かして現代、未来を捉える能力を持つ人材を養成します。

英語文学文化専攻では、高度な英語運用能力を養うとともに、英語学および英語圏の文学や文化の専門教育を通して、ことば・文学・文化に関する深い知識をもつ学生を養成します。

ドイツ語文学文化専攻では、学術言語としてのドイツ語の力を身に付け、活用しながら、ドイツ語圏の言語・文学・文化・歴史の各分野に関する専門の学びを深めることを教育目標としています。4年間の学びを通して、広範かつ専門的な知識・方法と実践的な経験知を身に付け、グローバルな社会や文化の多様性を理解し国際交流に貢献できる人材を養成します。

フランス語文学文化専攻では、フランス語能力を獲得し、それを基礎としてフランスの文学と文化について(語学文学文化コース)、またフランスを中心とする西洋美術史と文化としての美術館のあり方について(美術史美術館コース)、確実な知識と思考力を持つ人材を養成します。

中国言語文化専攻では、中国の諸事情を適切に理解するために、人々の暮らし・考え方の背景となる歴史や文化についての正確な知識と、高度な中国語運用能力を身に付け、中国に持続的な関心を払い、現地の情報を自分の目と耳で確かめることができる能力を有する人材を養成します。

日本史学専攻では、日本列島の社会に関わる過去のいろいろな出来事や文物を、史料(資料)を通じて明らかにし、それらの因果関係を探り、その意味を解明することによって、現代の問題を考え未来への豊かな洞察力を持つ人材を養成します。

東洋史学専攻では、アジア・アフリカに暮らす人々が築き上げてきた歴史を確かな史料に基づいて実証的に把握することを通じて、アジア・アフリカの人間と社会を深く理解し、現代世界の抱える様々な問題について主体的に考えることのできる人材を養成します。

西洋史学専攻では、異文化に対する豊かな感性を養うこと、また、自らが「西洋」を、そして世界をどのように見るかを考え、主体的に問題を設定して必要な情報を蒐集し、分析し、自分独自の見解を作り上げる能力を持つ人材を養成します。

哲学専攻では、古今東西の思想・哲学を広く身に付け、ものごとを根本的に考え、人生の諸問題にすぐれた解決法を探り出す力をもつ人材を養成します。既成の考え方ではなく、時代を超えた普遍的なものの考え方や思考様式を身に付け、さまざまな分野の最先端の動向にも常に目を配る人材であることが望ましい。言語、時間、存在といった世界の枠組をなす概念に関心をいだき、徹底して論理的思考を貫くような人材を養成します。

社会学専攻は、現代社会を〈Global〉グローバルに思考しつつも、〈Clinical〉微細に臨床的に観察し、〈Visionary〉未来を見通す知を養い、他者ととともに、この先の社会を構想し、築いていく実践者が成長していく場です。国内外で実際に社会調査する実力を養成し、社会を理論的に考察する社会構想者たる人材を養成します。

社会情報学専攻には、2つのコースがあります。「情報コミュニケーションコース」では、メディアや文化に関する理論と実態を学び、社会に関する情報の能動的・科学的な分析方法を体得することで、高度情報社会で活躍する人材を養成します。「図書館情報学コース」では、社会情報学の理論や情報処理の技術、情報メディアの知識を基盤として、情報管理技術の全体像を立体的に理解し、それを現実の問題に応用できる人材を養成します。

教育学専攻では、学校教育の問題だけではなく、子どもからおとな、高齢者に至るまでの人間の生涯全体にわたる教育や学習文化活動のあり方を学び、教育についての幅広い見方や考え方を持つ人材を養成します。

心理学専攻では、知覚、学習、認知、発達、教育、臨床、健康などの各分野において、人間心理理解のための理論を学び実証する高い能力を持つ人材を養成します。

2. 新入生の皆さんへ



文学部長 宇佐美 毅

【新入生の皆さんを歓迎します】

中央大学文学部の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。わが文学部は「知の宝庫」です。学問の楽しさや奥深さを存分に味わえる魔法の場所です。これからその場所で、おおいに学び、おおいに学生生活を楽しんでください。

これから皆さんは、今まで出会わなかったような人びと、出会わなかったような考え方、に出会うことでしょう。その「出会い」をどうか大切にしてください。

【知らないものとの「出会い」、知っているはずのものとの「出会い」】

「出会い」とは、通常は知らないものと初めて出会うことをいいます。しかし、知っているはずのものとはあらかじめ出会うこともあります。たとえば、この社会にはさまざまな年齢の人がいます。この大学では、かなりの年齢差のある人びとが集まっています。皆さんより 10 歳以上も年上の大学院生もいるでしょうし、中学や高校なら定年退職しているような年齢の先生が皆さんの前の教壇に立つかもしれません。そんな年齢差の中で感じる埋めがたいギャップもあるでしょうし、だからこそ学べることもたくさんあります。

また、この世界には男性と女性がいます。そんなことは誰でも知っていることでしょう。しかし、お互いに知らないことは山ほどあります。同性同士でもわからないことがあります。さらにいえば、男性と女性という単純な二分法では割り切れない性のありかたがあることも、本当の意味ではわかっていないのかもしれないかもしれません。わかったつもりでいたことをあらためて考えることも、大切な「出会い」なのです。

【異なるもの同士が新しい何かを作っていく場所】

大学とは、そうした「異なるもの」たち同士が協力したり、切磋琢磨したりしながら、新しい何かを作っていくとする場所です。現在の社会にあっては、このような「異なるもの」同士がどのように触れ合っていくのか、どのようにお互いを理解し合って共に生きていくのか、ということが特に大切になっています。

これまでの世紀、特に 20 世紀の後半は、民族や地域といった同じ性質を持つもの同士が団結し、自分たちの自由や独立を勝ち取っていく時代でした。しかし、これからの時代にあっては、世界的な規模で協力をしていかなければ解決できない問題がますます増えていきます。「異なるもの」同士がどのように理解し合えるか、どのようにしたら共に生きていく「共生」の世界を作っていくことができるか。それがもっとも大切な課題になるでしょう。

皆さんはこの中央大学文学部という「知の宝庫」で、多くの異なるものとの「出会い」を経験しながら、おおいに学んでください。それが人間の文化と社会のこれからについて考えることに、必ず結びついていくことでしょう。

3. クラス担任・授業

文学部では、1年次のクラスに専任教員のクラス担任をおこなっています。クラス担任は皆さんの履修や進路、さらに大学生活全般にわたる相談に応じる役割を果たしています。必要に応じてクラスミーティングを開いたり、クラス名簿を作成したりします。

2020年度入学生 クラス担任一覧表

専攻(コース)	クラス	教員氏名	
国 文 学	1	中 川 照 将	
	2	吉 野 朋 美	
	3	鈴 木 俊 幸	
英 語 文 学 文 化	4	高 尾 直 知	
	5	丹 治 竜 郎	
	6	マッシュューズ, ジョン	
	7	久 保 尚 美	
ド イ ツ 語 文 学 文 化	8	兼 武 道 子	
	9	【前期】	【後期】
	10	磯 部 裕 幸	林 明 子
フ ラ ン ス 語 文 学 文 化	11	前 之 園 望	
	12	阿 部 成 樹	
	13	小 野 潮	
中 国 言 語 文 化	14	石 村 広	
	15	榎 本 泰 子	
日 本 史 学	20	西 川 広 平	
	21	宮 間 純 一	
	22	小 林 謙 一	
	23	山 崎 圭	
東 洋 史 学	24・25	高 橋 宏 明	
西 洋 史 学	26	杉 崎 泰 一 郎	
	27	唐 橋 文	
哲 学	31	水 上 雅 晴	
	32	中 村 昇	
社 会 学	41	山 田 昌 弘	
	42	矢 野 善 郎	
	43	首 藤 明 和	
社 会 情 報 学 (情報コミュニケーションコース)	44	松 田 美 佐	
	45	安 野 智 子	
社 会 情 報 学 (図書館情報学コース)	46	小 山 憲 司	
教 育 学	51・52	古 賀 正 義	
心 理 学	53	山 口 真 美	
	54	山 科 満	

(1) 授業時間

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限
9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40	18:50～20:30

(2) 休講

- ① 担当教員から休講の連絡があり次第、1週間分を *C plus* に掲載します。各自で確認してください。電話での問い合わせには一切応じていません。
- ② *C plus* に掲載がない場合でも、授業開始時刻から30分以上経過して、教室に教員が来ない場合は、休講となります。
- ③ 降雪、台風など自然条件による交通機関の不通及び不通が予測される場合には、当日の授業実施について、午前6時に決定します。また、状況に変化があった場合には、その都度決定します。
- ④ 首都圏のJR各線、京王線、小田急線、多摩モノレールのいずれかが、ストライキを実施または予定した場合は、次のように授業を実施します。

スト指令解除時間	授 業 の 実 施						(時限)
	1	2	3	4	5	6	
当日 6 : 00前	通常通り						
当日 8 : 00前	休 講		通常通り				
当日 12 : 00前	休 講					通常通り	
当日 12 : 00過ぎ	休 講						

※「解除」とは、首都圏のJR各線、京王線、小田急線、多摩モノレールのいずれもが解除された場合です。ストライキには、出札ストライキは含みません。また、時限ストライキが実施されたときは、その都度決定します。

- ③④の周知については、中央大学公式ホームページ (<http://www.chuo-u.ac.jp>) 上の「速報」に掲載されますので確認してください（「速報」は緊急情報をお知らせする場合に限って、掲出します）。なお、電話でのお問い合わせには対応できない場合がありますので、必ず中央大学公式ホームページを確認してください。

(3) 教室変更

臨時変更（1日だけや短期間）や、通年変更の場合は、3号館3階ロビー掲示板上に掲出します。

(4) 掲示による連絡

学生への公示、告示、その他すべての伝達事項は *C plus* や3号館3階ロビー掲示板上に掲出しますので各自で確認してください。不明な点は *C plus* や関係事務室の窓口で直接確かめてください。掲示を見忘れたことによる不利益は本人の責任になります。

(5) 授業用レジュメの複写

授業で使用する報告書をレジュメといいます。レジュメの複写は、文学部事務室もしくはパソコン教室で行うことができます。その場合は、

- ① 文学部事務室窓口で「文学部学生報告書（レジュメ）複写申請書」を受け取ります。
- ② 申請書を記入して担当教員の認印をもらいます。
- ③ 申請書とレジュメ原稿、学生証を窓口に表示して許可印を受けてください。
- ④ 各自でコピー機を使用してください。
- ⑤ 地球環境保護の観点より、原稿は2枚を1枚に集約する、両面にするなど、省資源化にご協力ください。
- ⑥ 複写はレジュメ使用日の前日までに余裕をもって行ってください。印刷枚数が多い場合、文学部事務室やパソコン教室の閉室時刻直前の受付をお断りすることがあります。

(6) 授業や定期試験の欠席について

① 授業期間の欠席について

傷病等で授業を欠席する場合、その都度事務室に連絡する必要はありません（**事務室から欠席する授業の教員に個別に取り次ぐことはできません**）。回復後、授業に出席した際、担当教員に診断書等を示し個別に相談してください。ただし、感染症（インフルエンザなど）の疑いがある場合には、別途手続が必要となりますので、保健センターのホームページをご覧ください。

② 定期試験の欠席について

傷病等により定期試験を受験できない場合、所定の期間内に手続することによって追試験が認められる場合があります（診断書等の客観的な証明が必要です。また、事由によっては追試験が認められない場合もあります）。手続の詳細については試験期間の開始前に文学部事務室からお知らせします。

③ 裁判員選任に伴う授業や定期試験の欠席について

本学では、学生が裁判員候補者として選任手続期日に、又は裁判員（補充裁判員を含む。）に選任されて裁判所に出席し、授業や定期試験を欠席するときは、所定の手続を行うことで、欠席に伴う不利益な取扱いを行いません。

該当する学生は、遅くとも選任手続期日2週間前までに「裁判員等選任手続期日のお知らせ(呼出状)」を持参のうえ、所属する学部事務室で必要な手続を行ってください。

4. *C plus* について

中央大学では、インターネットを利用した大学事務システム「*C plus*」を学生のみなさんに利用してもらっています。住所変更・成績確認などの手続きをインターネット上から行うことができます。また、年度始めの最も重要な履修登録も、この「*C plus*」を利用していただきます (web 履修申請)。

また、「*C plus*」利用に必要な「ID」と「パスワード」の書類を入学時に配布していますので、無くさないように注意してください。

(1) サービスの利用方法

以下のページにアクセスし、IDとパスワードを入力してください。

※中央大学文学部ホームページからもアクセスできます。 <https://cplus.chuo-u.ac.jp/>

詳しい操作については、ログイン後、操作マニュアルへのリンクがありますので、そちらを参照してください。



(2) 利用上の注意

パスワードはすぐに変更してください。成績・住所などの大切な個人情報が漏れないよう、IDとパスワードは厳重に管理してください。

(3) 「スマートフォン版 *C plus*」について

C plus は基本的にパソコンから閲覧してください。「(4) 利用できるサービス」の※がついている機能はスマートフォン版 *C plus* から確認できます。「スマートフォン版 *C plus*」は「パソコン版 *C plus*」のログイン画面のリンクバナーからアクセスしてください。

▼ *C plus* ログイン画面

「スマートフォン版 *C plus*」はこちらのバナーからアクセスしてください

スマートフォン版はこちらから

行われる皆様、**中央大学**

C plus Chuo Univ. Portal Site

お知らせ

2013-04-01 00:00	【 <i>C plus</i> 】パスワードの再発行について	中央大学
2013-04-01 00:00	【 <i>C plus</i> 】 <i>C plus</i> の推奨環境について	中央大学
2013-04-01 00:00	【中央大学】「講義照会」メニューの一般公開停止について	中央大学
2013-04-01 00:00	よくある質問と回答 (FAQ)	中央大学

ログインID

パスワード

ログイン

Copyright (c) 2013 Chuo University. All rights reserved.

(4) 利用できるサービス

■学生情報変更

学生本人・保証人の住所や電話番号、通学区間を変更することができます。

■メールアドレス登録・変更

登録されたアドレスに事務室からのお知らせ等のメールが送られることがあります。

初期状態では新入生全員に付与される全学メールアドレス (Gmail) のみ登録されています。それ以外のメールアドレスに受信を希望する場合はこのメニューから登録してください。

※全学メールの ID、パスワード、メールアドレスは4月上旬に配付します。

※メールアドレスは、日常的に確認できるものを登録してください。大学から送信したメールを確認しなかったことによる不利益は本人の責任になります。

■履修登録 (必須)

指定期間内に必ず履修登録を行ってください (原則、C plus からの登録のみとなります)。正しく登録できたかを履修申請画面で確認してください。

■履修届チェックリスト (「スマートフォン版 C plus」では「時間割」メニュー) (※)

当該年度の履修状況を確認できます。また、在学年数や卒業見込み判定結果なども確認できます。

■成績照会

成績や卒業 (見込) 判定結果を確認することができます。

■授業変更情報 (※)

休講情報を確認することができます。

■お知らせ (※)

大学 (事務室) からの連絡事項が表示されます。

■アンケート (※)

大学 (事務室) からのアンケートが、必要に応じて設けられます。詳細については「お知らせ」をその都度掲載します。

※「スマートフォン版 C plus」でも利用できる機能です。

○端末推奨環境

C plus トップページの「よくある質問 (FAQ)」をご参照ください。

なお、サービスについては、状況により変更になる場合があります。詳細は「お知らせ」などで確認してください。

5. 履 修

(1) 授業科目

文学部では、次のような科目を設置しています。

1. 専攻科目<各専攻独自の科目>

このうち、カリキュラム表にゴシック体（太字）で表示されている科目は、他専攻の学生も履修できる科目（ゴシック科目）です。

2. 各専攻共通科目<総合教育科目群、自由選択科目>

① 総合教育科目群<初年次教育、外国語科目、健康・スポーツ、

アカデミック外国語・スキルアップ外国語、入門科目、共通科目、特別教養科目>

② 自由選択科目<自由選択科目、学部間共通科目、学芸員課程科目、大学院履修科目>

3. 特別科目<外国人留学生だけが履修できる科目>

4. 随意科目<卒業に必要な単位に含まれない科目>

5. 教職・資格科目<教職・資格を取得するための科目>

これらを1～4年次で履修するように、各専攻毎にカリキュラムが編成されています。

(2) 単位制

大学では単位制が採用され、各授業科目にはそれぞれ単位が決められていて、その授業科目を履修して、試験に合格すると単位が与えられます。各授業科目の授業時間と単位数は、概ね以下のようになります。

① 専攻科目、初年次教育、アカデミック外国語、スキルアップ外国語、入門科目、共通科目、特別教養科目、自由選択科目

*毎週1時限（2時間とする）の授業が、通年30週行われる科目

（2時間の授業＋4時間の自習）×30週＝180時間⇒4単位

*毎週1時限（2時間とする）の授業が、半期15週行われる科目

（2時間の授業＋4時間の自習）×15週＝90時間⇒2単位

② 外国語科目、健康・スポーツ（演習）

*毎週1時限（2時間とする）の授業が、通年30週行われる科目

（2時間の授業＋1時間の自習）×30週＝90時間⇒2単位

※中央大学では、上記の考え方を単位計算の基本として位置付けていますが、平成25年の大学設置基準の一部改正の趣旨に照らして、これと同等以上の十分な教育効果をあげる授業の実施を前提に100分×14週の授業を実施しています。

【大学設置基準の一部改正の趣旨】※平成25年4月1日施行

・各授業科目の授業期間について、10週又は15週にわたる期間を単位として行うことを原則としつつ、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合には、各大学及び短期大学における創意工夫により、より多様な授業期間の設定を可能とすること（大学設置基準第23条関係）。

(3) 卒業要件

卒業に必要な単位数は各専攻とも次の表の通りです。それぞれの区分・系列で必要な単位数を満たし、かつ総単位数を満たし、かつ文学部に4年間在学すると、卒業ができ学位が与えられます。

なお、8年間を超えて在籍することはできません。

区分	系 列	卒業に必要な単位数	
専攻科目群	基礎演習科目	8単位	68単位
	必修科目	60単位	
	選択科目		
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎 (1) 2単位	28単位
	外国語科目	12～16単位	
	健康・スポーツ	体育の科学 (演習) 2単位	
	アカデミック外国語・スキルアップ外国語	—	
	入門科目	—	
	共通科目	—	
	特別教養科目	—	
自由選択科目	自専攻科目の68単位超過分	30単位	
	総合教育科目の必修単位超過分		
	他学部履修科目 (30単位まで)		
	大学院履修科目 (8単位まで)		
	学部間共通科目		
	学芸員課程科目		
卒業に必要な最低修得単位数		126単位	
随意科目		卒業に必要な単位に含まれない	

(4) 履修のルール

① 専攻ごとに表示したカリキュラム表の科目が、卒業までに履修できる全ての科目です。専攻科目のうちゴシック体 (太字) で表示した科目 (=ゴシック科目) は、他専攻の学生も履修できます。なお、修得した単位は総合教育科目群に算入されます。

② ①に記した範囲で下級年次 (現在の自分の履修年次以下) に配当されている科目は、全て履修できます。(一部例外を除く)

③ 以下の科目は履修できません。

- ・ 上級年次に配当されている科目
- ・ 既に単位を修得した科目
- ・ クラス別の科目で指定されたクラス以外の科目
- ・ 同一科目名の科目

ただし、B群外国語及びグローバル・スタディーズは各専攻のカリキュラム表に記載されている数を履修できます。

例) English Reading (1)～(4)と記載されている場合は「English Reading」を4つまで履修できます。

(5) 年間最高履修単位数

新規履修登録できる最高履修単位数は、44単位です。ただし、再履修をする場合、年間最高履修単位44単位＋再履修16単位で60単位まで履修できます。16単位以上再履修をする場合は、新規履修単位を減らして、新規履修・再履修合わせて60単位以内で履修してください。

修学を延長した場合は、卒業までに履修可能な総単位数（176単位）から前年度までに修得した単位数を差し引いた数が、その年の最高履修単位数になります。ただし、上限は44単位（随意科目は除く）です。

(6) スクリーン制度

2年次から3年次へ進級する際、以下の科目（12単位）を修得しなければ2年次に留年となり、3年次以上の配当年次科目を履修することができません。よって自動的に4年間で卒業できないことになります。

○大学生の基礎(1) 2単位

○体育の科学（演習） 2単位

○外国語科目 4単位

（アカデミック外国語・スキルアップ外国語は対象としない）

○フランス語文学文化・中国言語文化・日本史学・西洋史学・哲学専攻の学生は所属専攻の基礎演習 1科目 4単位

国文学・英語文学文化・ドイツ語文学文化・東洋史学・社会学・社会情報学・教育学・心理学専攻の学生は所属専攻の基礎演習 2科目 4単位

但し、総修得単位数が40単位以上で、かつ上記の科目のうち、不合格科目が1科目のみの場合は、専攻の教員と面談のうえ、スクリーン制度の適用を保留することがあります。

(7) 副専攻の履修

1. 副専攻の趣旨

副専攻は、それぞれの専攻科目（いわば主専攻科目）を履修しながら、独自の教育目標や到達目標を持った別の新しい専門分野を系統的に学ぶ制度です。大学は主体的に勉学するところといわれますが、明確な目的を持って2つの分野（主専攻・副専攻）を学習し、密度の高い学識・技能を身につけることができます。それによって、社会で必要とされる複眼的思考が養成されます。

2. 履修のルール

① 副専攻の修了要件

- ・各副専攻で開講している科目のうち、演習科目を含めて最低20単位以上を修得していなければなりません。
- ・各副専攻での修了要件を満たした人には、卒業時に副専攻修了証書を発行します。
- ・修得した単位は、総合教育科目群の中で卒業に必要な単位数に算入されます。
- ・修得した単位が20単位未満の場合でも、総合教育科目群の中で卒業に必要な単位数に算入されます。
- ・副専攻を履修するには、所定期間に申請（「エントリーシート」の提出）が必要です。申請をしていない場合は、卒業時に「副専攻修了証書」は発行されません。

② 履修方法

原則として共通科目の履修方法と同様ですが、履修者が集中する科目及び演習科目については、事前登録

等の方法で履修者を制限する場合があります（*C plus*や掲示板等でお知らせします）。

※副専攻の履修は、専攻および授業科目の履修人数や、時間割上の制約がありますので、副専攻の修了要件は、必ずしも全学生が満たせるわけではありませんので注意してください。

(8) モデル履修

モデル履修では、所定の科目を、設定されたモデルに沿って履修することで体系的な学修を可能とします。モデル履修科目群には、約20～40科目が開設されており、モデル履修を活用すると、専攻を横断する系統的な科目履修ができ、所属専攻や副専攻以外の科目を専門的に学ぶことができます。

設定されるモデルの詳細は、「文学部時間割」冊子を参照してください。

(9) 大学院履修科目について

本学大学院文学研究科博士前期課程設置科目（大学院履修科目）を3年次から8単位を上限として履修できる制度です。取得した単位は自由選択科目の卒業要件（30単位）に含まれます。なお、大学院履修科目を修得した学生が本学大学院に進学しても、修得した単位は大学院修了に必要な単位として認められませんのでご注意ください。

講義内容や履修手続きについての詳細は3・4年次の履修登録前に*C plus*・時間割等で確認してください。

※大学院文学研究科博士前期課程に設置されているすべての科目を履修できるわけではありません。

(10) 他学部履修制度

文学部の学生が、他学部設置されている科目を履修する制度です。他学部履修できる科目は、文学部に設置されていない科目に限ります。

- ①他学部履修許可科目の一覧については、*C plus* もしくは文学部事務室窓口設置のファイルで確認してください。他学部の時間割は文学部事務室に備え付けてあります（講義要項は [manaba](#) の「シラバス検索」から確認できます）。
- ② 履修登録の際に希望する科目を科目群から選択し、登録してください。詳しくは時間割の履修登録マニュアルをご覧ください。
- ③ 卒業までに30単位を限度に登録でき、自由選択科目として卒業に必要な単位に含まれます。

(11) 再履修制度

履修登録したが、不合格または試験未受験のために単位を修得できなかった科目を再度履修する制度です。

*再履修制度を使えるのは同一科目を履修するときのみです。

- ① 再履修をする場合、年間最高履修単位44単位＋再履修16単位で60単位まで履修できます。
- ② 16単位以上再履修をする場合は、新規履修単位を減らして、新規履修・再履修合わせて60単位以内で履修してください。
- ③ 科目の担当教員は前年度までと異なっていてもかまいません。
- ④ 初年次教育科目、健康・スポーツ科目、外国語科目、基礎演習科目、専攻科目の必修科目は、その年に最優先して再履修してください。
- ⑤ 外国語科目のうち、**英語文学文化専攻以外の専攻において**、英語の再履修は**特別再履修制度**が適用されます。これは指定テキストで自学自習し、学部定期試験を受け合格すれば所定単位が与えられる制度のことです。質問のある人は指定された時間に個人研究室で教員の指導を受けることができます。なお、この特別再履修科目では、質問日時が他の履修科目と重複してもかまいません。特別再履修制度の適用を希望しない場合は、3月頃に*C plus*のお知らせをご確認ください。

※英語文学文化専攻においては、英語の再履修に特別再履修制度は適用されません。

(12) オフィスアワーについて

文学部ではオフィスアワー制度を導入しています。オフィスアワーとは、授業内容に関する質問や学習の進め方について、担当教員に直接、個別に相談するための制度です。各担当教員が指定したオフィスアワーの時間内であれば、原則として自由に相談することができます。各教員のオフィスアワーの詳細は、毎年4月以降に発表し文学部事務室に掲示します。ただし、兼任講師（中央大学が本務校ではない教員）については、その授業の前後の休み時間に文学部教員室等で質問するようにしてください。

(13) 特別科目の履修（外国人留学生のみ）

特別科目は、外国人留学生だけが履修できる科目で必修科目です。日本語は自専攻の外国語科目の代わりに履修することになります。

日本事情は共通科目に算入されます。

〈国文学専攻・日本史学専攻・社会情報学専攻〉

			1 年 次		2 年 次		備 考
			科 目	単 位	科 目	単 位	
特別科目	日本語	Aコース	日本語 A I (1) (2)	各1	日本語 A I (3) (4)	各1	外国人留学生は日本語AまたはBコースを履修する（コースの決定は日本語試験の結果による） Aコースは日本語16単位必修、Bコースは日本語8単位とその他の外国語4単位必修
			日本語 A II (1) (2)	各1	日本語 A II (3) (4)	各1	
			日本語 A III (1) (2)	各1	日本語 A III (3) (4)	各1	
			日本語 A IV (1) (2)	各1	日本語 A IV (3) (4)	各1	
	日本語	Bコース	日本語 B I (1) (2)	各1	日本語 B I (3) (4)	各1	
			日本語 B II (1) (2)	各1	日本語 B II (3) (4)	各1	
			英語読解・英語表現 または 独・仏・中国語の(1)・(2)	各2			
日本事情		日 本 事 情	2			選択科目	

〈西洋史学専攻・哲学専攻〉

			1 年 次		2 年 次		備 考
			科 目	単 位	科 目	単 位	
特別科目	日本語	Aコース	日本語 A I (1) (2)	各1	日本語 A I (3) (4)	各1	外国人留学生は日本語AまたはBコースを履修する（コースの決定は日本語試験の結果による） Aコースは日本語16単位必修、Bコースは日本語8単位とその他の外国語8単位必修
			日本語 A II (1) (2)	各1	日本語 A II (3) (4)	各1	
			日本語 A III (1) (2)	各1	日本語 A III (3) (4)	各1	
			日本語 A IV (1) (2)	各1	日本語 A IV (3) (4)	各1	
	日本語	Bコース	日本語 B I (1) (2)	各1	日本語 B I (3) (4)	各1	
			日本語 B II (1) (2)	各1	日本語 B II (3) (4)	各1	
			英語読解・英語表現 または 独・仏・中国語の(1)・(2)・(3)	各2	各専攻の外国語科目の B・C群から 1または2科目	各2	
日本事情		日 本 事 情	2			選択科目	

〈東洋史学専攻・社会学専攻・教育学専攻・心理学専攻〉

			1 年 次		2 年 次		備 考
			科 目	単 位	科 目	単 位	
特別科目	日本語	Aコース	日本語 A I (1) (2)	各1	日本語 A I (3) (4)	各1	外国人留学生は日本語AまたはBコースを履修する（コースの決定は日本語試験の結果による） Aコースは日本語16単位必修、Bコースは日本語8単位とその他の外国語8単位必修
			日本語 A II (1) (2)	各1	日本語 A II (3) (4)	各1	
			日本語 A III (1) (2)	各1	日本語 A III (3) (4)	各1	
			日本語 A IV (1) (2)	各1	日本語 A IV (3) (4)	各1	
	日本語	Bコース	日本語 B I (1) (2)	各1	日本語 B I (3) (4)	各1	
			日本語 B II (1) (2)	各1	日本語 B II (3) (4)	各1	
			英語読解・英語表現 または 独・仏・中国語の(1)・(2)	各2	各専攻の外国語科目の B・C群から2科目	各2	
日本事情		日 本 事 情	2			選択科目	

〈英語文学文化専攻〉

			1 年 次		2 年 次		備 考
			科 目	単 位	科 目	単 位	
特別科目	日本語	Aコース					外国人留学生は日本語Bコースを履修する 日本語8単位と英語10単位必修
		Bコース	日本語BⅠ(1)(2)	各1	日本語BⅠ(3)(4)	各1	
			日本語BⅡ(1)(2)	各1	日本語BⅡ(3)(4)	各1	
		General Reading(1)・(2) Linguistics for Communication Academic Writing (1)	各1	Academic Reading(1)・(2) Intermediate Communication(1)・(2) Academic Writing (2)・(3)	各1		
	日本事情	2				選択科目	

〈ドイツ語文学文化専攻・フランス語文学文化専攻〉

			1 年 次		2 年 次		備 考
			科 目	単 位	科 目	単 位	
特別科目	日本語	Aコース					外国人留学生は日本語Bコースを履修する 日本語8単位とドイツ語文学文化専攻は独語を10単位、フランス語文学文化専攻は仏語を10単位必修
		Bコース	日本語BⅠ(1)(2)	各1	日本語BⅠ(3)(4)	各1	
			日本語BⅡ(1)(2)	各1	日本語BⅡ(3)(4)	各1	
		独語(1)・(2)・(3) または仏語(1)・(2)・(3)	各2	各専攻の外国語科目の A群から 2科目	各2		
	日本事情	2				選択科目	

6. 履修登録

履修登録は授業を履修するための最も重要な手続きです。履修要項・シラバス・時間割をよく読み、学習計画を立て、履修する科目を決定して、必ず所定の期間内に履修登録を行ってください。期間内に履修登録が行われていなければ、その科目の授業に出席して、試験を受けても単位は認定されません。

(1) 登録の時期

- ① 履修登録は、後期開講科目も含めて、毎年4月の指定日時に実施してください。なお後期開講科目は、後期履修登録期間にも登録することができます（履修変更期間は前期・後期に1回ずつ設けています）。
- ② 履修登録は、専攻科目群、総合教育科目群、自由選択科目、資格・教職科目については原則として、*C plus*で「履修申請」メニューを開き、登録することにより行います。ただし、必修科目、クラス指定、定員の設定等、特別の指示のある下記の科目は、自動登録または事前登録となり、登録後は原則として変更はできません。（年度によって、履修登録方法・自動登録・事前登録の対象科目が変わる場合がありますので、ガイダンス・時間割・掲示等の指示に従ってください。）

(2) 自動登録科目

以下の科目は各年次で必修です。新規履修については文学部事務室で科目・クラスを指定して自動的に登録されます。

- ① 外国語科目（一部の再履修科目及びC群外国語科目を除く）
（C群外国語＝ギリシャ語、ラテン語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、朝鮮語の初級・上級）
A群の必修科目及び履修前年度に*C plus*のアンケートから申し込んだB群外国語が自動登録されます。
※ 外国語科目の履修登録の詳細は、次頁を参照してください。
- ② 基礎演習科目（一部専攻の再履修を除く）
- ③ 必修科目（教員を選択できる科目の一部を除く）
- ④ 特別科目（外国人留学生対象）

(3) 事前登録科目

定員がある科目は、新規履修者・再履修者とも指定のクラス分けガイダンスに出席してください。また*C plus*で抽選登録を行う科目もあります。詳細は、時間割、掲示等で指示します。

(4) 体育の科学（演習）の履修登録

体育の科学（演習）は、2単位が必修です。4月上旬のガイダンス期間中に行う「種目分け」で履修を決定します。新規履修者・再履修者ともに必ず出席してください。

- ① 種目分けには時間割・学生証・筆記用具・写真1枚（タテ4cm×ヨコ3cm）を必ず持参してください。
- ② 全クラス対象の種目とクラス指定の種目があります。どちらかの種目を選択してください。ただし、全クラス対象の種目で抽選に漏れた場合は、クラス指定の種目を選択することになります。

- ③ 各種目とも定員があるので、希望者が多い場合は抽選等によって種目を決定します。希望する種目が必ず履修できるとは限りません。
- ④ 種目が決定した学生は履修票を受け取り、必要事項を記入して提出してください。
- ⑤ 更衣は教場ごとに指定された場所で行ってください。着替えなどはバッグなどに入れ教場に持参してください。多額の現金・貴重品などは携帯しないようにして、盗難にはくれぐれも注意してください。
- ⑥ 屋外の種目は、雨天の場合には教室・体育館などに場所を移して授業を実施する場合があります。必ず文学部事務室と各教場の掲示板を確認し、電話での確認は避けてください。
- ⑦ 病気・事故の後遺症などのために運動制限が必要な学生を対象としたRH (Rehabilitation) クラスで体育の科学(演習)を履修することができます。運動制限の重いクラスが1組、軽いクラスが2組です。対象となる学生は、指定の日時にRH用ガイダンスに出席し、保健センターで校医の診断を受けて(通院中の場合は診断書を持参すること)クラス指定を受けてください。「学生健康状態報告書」に必要事項を記入の上、文学部事務室に提出してください。年度の途中でRHクラスに変更しなければならなくなった場合は、担当教員に届け出の上、同様の手続を行ってください。
- ⑧ 体育の科学(演習)の受講にあたっては、受講当該年度の健康診断の受診と心臓メディカルチェックが必須です。未受診の場合は、外部医療機関で受診(自費)する必要がありますので、注意してください。

(5) 外国語科目の履修登録

文学部では外国語科目として、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ギリシャ語・ラテン語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・朝鮮語を開設しています。この内、ドイツ語・フランス語・中国語を**初修語**と呼んでいます。

外国語科目は、12～16単位必修となっています。履修方法は専攻によって異なりますので、以下の内容をよく読んで各自注意してください。

1. 外国語科目は、履修形態により便宜上次の4つの群に区分しています。

A群(必修)＝英語文学文化専攻・ドイツ語文学文化専攻・フランス語文学文化専攻・中国言語文化専攻・社会情報学専攻のみ設置

A群(選択必修)＝入学手続時に登録

B群＝選択科目で英語系の科目は履修の前年度6月頃(予定)に事前登録、初修語は、前年度の3月下旬頃に選択可

C群＝選択科目で履修年度の4月に選択可

2. 外国語科目(A群)は、入学手続の時に申し出た2言語になりますが、その内訳は各専攻によって以下のようになっていますので注意してください。

<国文学・日本史学・東洋史学・社会学・教育学・心理学の各専攻> 2言語8単位必修

<英語文学文化専攻> 英語を含む2言語14単位必修

<ドイツ語文学文化専攻> ドイツ語を含む2言語14単位必修

<フランス語文学文化専攻> フランス語を含む2言語14単位必修

<中国言語文化専攻> 中国語を含む2言語14単位必修

<西洋史学専攻・哲学専攻> 2言語10単位必修

<社会情報学専攻> 英語を含む2言語8単位必修

3. 配当年次が2年生以上の外国語科目(B群)は科目によって登録方法が異なりますので注意してください。

① 英語系3科目「English Reading」・「Oral Communication」・「English Writing」は6月頃(予定)にガイダ

ンスを実施し、事前登録を行います。選択できるのは科目のみで、担当教員・曜日・時限は選択できません。事前登録の結果は、翌年4月初旬に*C plus*履修申請画面で、必ず確認してください。

② 外国語科目B群の初修語(3)～(6)は、6月頃(予定)のガイダンスで履修登録方法を説明します。翌年3月下旬に各自で*C plus*から登録を行いますので、日程を必ず確認してください。

③ 外国語科目B群の選択方法

・原則として科目を自由に選択できます。選択できる科目数は専攻によって以下のようになります。

<国文学・日本史学> 2科目

<社会情報学> 2科目 (English Reading、Oral Communication、English Writingの3科目のうち、2科目4単位必修)

<東洋史学・社会学・教育学・心理学の各専攻> 4科目

<西洋史学専攻・哲学専攻> 3科目

<英語文学文化・ドイツ語文学文化・フランス語文学文化・中国言語文化の各専攻> 1科目

・同じ科目名の科目を複数履修できます。

・英語は1年次の履修の有無に関らず履修できます。

・初修語は1年次と同じ初修語を選択し、担当教員・曜日・時限を自由に選択することができます。但し、必修科目などと時間割が重複した場合は、履修できません。

・2年次以降に1年次と異なる初修語を履修できます。その場合は(1)(2)の2科目を同時に履修しなければなりません。

4. 前年度までにA・B群の必修単位数を修得した場合は、3・4年次に必修単位数を超えてA・B群の外国語を履修できます。この場合、修得した単位は総合教育科目群として、卒業単位に算入されます。さらに総合教育科目群の必修単位数を超えた場合は自由選択科目群として卒業単位に算入されます。履修を希望する場合は、前年度6月頃(予定)にガイダンスを開きますので、必ず出席して登録を行ってください。

5. 外国語科目C群のギリシャ語(初級/上級)、ラテン語(初級/上級)、スペイン語(初級/上級)、イタリア語(初級/上級)、ロシア語(初級/上級)、朝鮮語(初級/上級)は、配当年次及び年間最高履修単位数に注意の上、希望者は4月に出す指示に従って登録してください。

但し、必修科目など時間割が指定された科目と希望するC群外国語科目の時間割が重複した場合は、重複したC群外国語科目は履修できません。

6. 外国語科目履修上の制限

・1年次の初修語が(1)(2)の2科目とも不合格の場合は、初修語(3)～(6)を2年次で履修することはできません。

・ドイツ語文学文化専攻でドイツ語(1)(2)(3)の3科目とも不合格の場合は、ドイツ語(4)(5)は履修できません。

・フランス語文学文化専攻でフランス語(1)(2)(3)の3科目とも不合格の場合は、フランス語(4)(5)は履修できません。また、B群内「フランス語(6)」(選択)も履修することができません。

・中国言語文化専攻で中国語(1)(2)(3)の3科目とも不合格の場合は、中国語(4)(5)は履修できません。

・A群で履修した科目が不合格の場合は、原則として同じ科目を再履修しなければなりません。再履修の方法については、4月に出す指示もしくは、事務室からの配布物で確認してください。

・具体的な選択方法については、専攻により違いがありますので、ガイダンス時に詳細を指示します。

7. 各専攻のガイド

(1) 国文学専攻

1. 教育目標

今日のわれわれの文化は、古代から現代にいたる伝統の上に築かれています。日本文化は日本語によって形作られ、日本語によって支えられてきました。そして、時代・社会・地域により、個性をもち、多様に変化します。国文学専攻では、私たちに伝わるその豊かな世界を学びます。そして映像・絵画を含むさまざまな文化・芸術・文献を対象として人間および言語情報を分析する力を養い、それを生かして現代、未来を捉える力を持つことを目標としています。

2. 学習の課程

文学・語学の研究は言語情報を取り扱う科学です。テキストを正確に理解し、その成立や歴史的意義を解明しなくてはなりません。対象を自分に引きつけて、好き勝手なことを言うのは、素人のひとりよがりです。この専攻を選んだ時点で、みなさんは、もはや素人ではありません。日本の文化を他に向けて的確にアピールできるような、この道のエキスパートになってもらわなくてはなりません。

1年次には**基礎演習**科目があり、ここで、読解・研究・プレゼンテーション方法を学びます。また、**国語学概論**で日本語の基礎を学びます。一方、**上代文学**から**近現代文学**までの時代別の文学についての講義や、**国語史**などの専門の講義科目が用意されています。知的好奇心を貪欲に発動して、さまざまな分野にわたる幅広い知識を獲得しておきましょう。また、**国文学情報処理・日本語教育・書道**といった特殊な選択科目も履修可能です。

2年次になると、**古典文学・近現代文学・国語学・漢文学・国語科教育**、それぞれの分野の**演習**科目が加わります。1年次に固めた基礎の上で、自分の「読み」をさらにとぎすませ、その成果を他の受講生に問うことで、客観的な視座の確保につとめましょう。また、この年次の11月には次年度に履修するゼミナールの選択を行わなくてはなりません。ゼミナールは4年次必修の**卒業論文**に直結します。2年次の終わりには、自分の興味・関心にしがたって、自分が専門にしようとする分野・領域をある程度絞っておく必要があるのです。そのためには、この2年間における積極的な授業参加や主体的読書体験の蓄積が大きくものをいいます。なお、ここで基礎知識テストを行い、国語の基礎力を試します。

3年次からは、**作家作品研究・日本文学研究史・日本漢文学・国語学研究・日本芸能史**といった、より専門性の高い講義科目が用意されているほか、必修の**ゼミナール**が始まります。学生生活の集大成である卒業論文に向けて、設定した自分の研究テーマを、指導教授と親しく接し、また仲間と研鑽し合いながら、より高度に発展させていく場です。なお、3年次ゼミナール(1)の単位を修得できないと4年次にゼミナール(2)ならびに卒業論文を履修できません。その場合は、4年間で卒業できなくなりますので注意してください。

4年次では、これまでの積み重ねを総動員して**卒業論文**の制作に取り組みます。これは簡単にできあがるものではありません。テーマと方法とにオリジナリティが要求されます。資料の入手とその的確な操作も必要です。単なる「長いレポート」ではありません。指導教授との密接なコミュニケーションも必須です。論文制作に関わる時間は極めて濃密で充実しています。この論文作成の経験を通して、みなさんはこの道のエキスパートとなって、この専攻を巣立ちます。

国文学専攻 2020年度入学生

区分	系列	第1年次		第2年次			第3年次			第4年次			卒業に必要な単位			
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目		単位		
専攻科目群	基礎演習科目	国文学基礎演習(1)A	2	国文学基礎演習(2)A	2	国文学基礎演習(1)B	2	国文学基礎演習(2)B	2					8単位 必修		
	必修科目	国語学概論A	2				ゼミナール(1)	4			ゼミナール(2)	4	卒業論文	8	20単位 必修	
		国語学概論B	2													
	選択科目	日本文学史A	2	中古文学B	2	近現代文学(1)A	2	国語史B	2						20単位 必修	
		日本文学史B	2	中世文学A	2	近現代文学(1)B	2	漢文学A	2							
		上代文学A	2	中世文学B	2	近現代文学(2)A	2	漢文学B	2							
		上代文学B	2	近世文学A	2	近現代文学(2)B	2									
		中古文学A	2	近世文学B	2	国語史A	2									
	書道	2	日本語教育A	2	国文学情報処理A	2									8単位 必修	
		2	日本語教育B	2	国文学情報処理B	2										
						国文学作家作品研究(1)A	2	国文学作家作品研究(2)B	2	日本文学研究史A	2	国語学研究B	2	2	12単位 必修	
						国文学作家作品研究(1)B	2	日本漢文学A	2	日本文学研究史B	2	日本芸能史A	2	2		
						国文学作家作品研究(2)A	2	日本漢文学B	2	国語学研究A	2	日本芸能史B	2	2		
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎(1)	2	【2単位必修】										大学生の基礎(1) 2単位必修		
	外国語科目	英語読解	2	英語表現	2										8単位 必修	
		A群	ドイツ語(1)	2	ドイツ語(2)	2										
			フランス語(1)	2	フランス語(2)	2										
			中国語(1)	2	中国語(2)	2										
		B群	English Reading(1)~(4)	2	Oral Communication(1)~(4)	2	English Writing(1)~(4)	2	ドイツ語(3)~(5)	2	フランス語(3)~(5)	2	中国語(3)~(5)	2		2
		C群	ギリシャ語(初級)	2	ラテン語(初級)	2	スペイン語(初級)	2	イタリア語(初級)	2	ロシア語(初級)	2	朝鮮語(初級)	2		2
	健康・スポーツ	体育の科学(演習)	2	【2単位必修】		運動の生理と医科学	2	健康と睡眠の科学	2	現代社会とスポーツ	2	身体文化と歴史	2	運動と心理	2	体育の科学 (演習) 2単位必修
	主体的な学び	＜アカデミック外国語科目(英語)＞												126単位 必修		
		Introduction to Japan Studies (1)		2	Introduction to Historical Studies (2)		2	Introduction to Philosophy		2	Introduction to Comparative Literature		2			
Introduction to Japan Studies (2)		2	Introduction to Social Sciences (1)		2	Introduction to Psychology		2	Introduction to Linguistics		2					
Introduction to Historical Studies (1)		2	Introduction to Social Sciences (2)		2	Introduction to Education Studies		2			2					
＜スキルアップ外国語科目(英語)＞																
Language Learning and Academic Strategies		2	Advanced Academic Writing		2	Practice for TOEFL		2			2					
Extensive Reading and Vocabulary Building		2	Fast Reading		2	Practice for TOEIC		2			2					
Advanced Communication		2	Extensive Listening		2	Business English		2			2					
＜アカデミック外国語科目(ドイツ語)＞																
Lehrbuch: Deutschland und Japan (1) [ドイツと日本の現代事情(1)]		2	Lehrbuch: Deutschland und Japan (2) [ドイツと日本の現代事情(2)]		2	Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史(1)]		2	Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史(2)]		2					
＜アカデミック外国語科目(フランス語)＞																
Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1) [ハイレベルドイツ語読解(1)]		2	Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2) [ハイレベルドイツ語読解(2)]		2											
＜アカデミック外国語科目(中国語)＞																
当代中国和日本(1)[中国語で学ぶ日本と中国(1)]		2	当代中国和日本(2)[中国語で学ぶ日本と中国(2)]		2											
＜アカデミック外国語科目(中国語)＞																
時事漢語(1)[時事中国語(1)]		2	出国留学漢語培訓(2)[留学のための中国語(2)]		2	高級漢語読解(1)[ハイレベル・中国語読解(1)]		2	高級漢語会話(2)[ハイレベル・中国語コミュニケーション(2)]		2					
時事漢語(2)[時事中国語(2)]		2	漢語昇級考試輔導(1)[資格のための中国語(1)]		2	高級漢語読解(2)[ハイレベル・中国語読解(2)]		2								
出国留学漢語培訓(1)[留学のための中国語(1)]		2	漢語昇級考試輔導(2)[資格のための中国語(2)]		2	高級漢語会話(1)[ハイレベル・中国語コミュニケーション(1)]		2								
入門科目																
入門・哲学		2	入門・日本文学		2	入門・歴史		2	入門・心理		2	入門・政治		2		
入門・数学		2	入門・外国文学		2	入門・社会		2	入門・経済		2					
共通科目	哲学・思想系	哲学	2	印度哲学史B	2	キリスト教概説B	2	社会思想B	2	日本倫理思想史B	2	仏教概説B	2	西洋思想B	2	
		印度哲学史A	2	キリスト教概説A	2	社会思想A	2	日本倫理思想史A	2	仏教概説A	2	西洋思想A	2	倫理学	2	
	法律・政治・経済系	公法概論A	2	私法概論A	2	経済原論A	2	国際法A	2	国際経済学A	2	国際政治学A	2	経済学	2	
		公法概論B	2	私法概論B	2	経済原論B	2	国際法B	2	国際経済学B	2	国際政治学B	2	政治学	2	
	文化・芸術系	映画論A	2	日本映画史	2	日本美術史B	2	西洋美術史B	2	音楽B	2					
		映画論B	2	日本美術史A	2	西洋美術史A	2	音楽A	2	比較文学	2					
	自然科学系	脳科学	2	宇宙論	2	統計学基礎	2	科学史	2	生物進化論	2	生命倫理	2			
		プログラム言語(1)	2	プログラム言語(2)	2	プログラム言語(3)	2	プログラム言語(4)	2							
	言語系	言語学A	2	言語学B	2	社会言語学A	2	社会言語学B	2	日本語教育方法論	2					
		比較神話A	2	比較神話B	2	民俗学A	2	民俗学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	比較文化論	2	
社会問題系	ジェンダー論	2	国際理解教育論	2	近・現代史と民主主義	2	ボランティア論	2	健康教育学	2						
	人文地理学(1)	2	日本地誌学	2	自然地理学(1)	2	アーカイブズ概論	2	外国史	2						
地理・歴史系	人文地理学(2)	2	世界地誌学	2	自然地理学(2)	2	日本史	2								
	グローバル・スタディーズ(1)	1	グローバル・スタディーズ(2)	1	グローバル・スタディーズ(3)	1	グローバル・スタディーズ(4)	1								
特別教養科目	キャリアデザイン(1)	2	キャリアデザイン(2)	2					教養総合演習(1)	4		教養総合演習(2)	4			
	特別教養(1)	2	特別教養(2)	2	特別教養(3)	2	特別教養(4)	2								
○他専攻のゴシック科目																
自由選択科目	○自専攻科目の68単位超過分						○総合教育科目の必修単位超過分						30単位 必修			
	○他学部履修科目(30単位まで)						○大学院履修科目(8単位まで)									
	学部間 共通科目	グローバルICT教育リサーチ演習	2	グローバルICTリサーチ演習	2	FLP演習A	4				FLP演習B	4			FLP演習C	4
		グローバル・チーム・リアル	2	専門インターンシップ	1											
	学芸員課程科目	短期留学プログラムⅠ	4	短期留学プログラムⅡ	4	短期留学プログラムⅢ	4	短期留学プログラムⅣ	4							
		博物館概論	2	博物館資料論	2	博物館教育論	2	博物館資料保存論	2							
最高履修単位	44				44				44				126/176単位			
任意科目	英会話(1)	4	英会話(2)	4	英会話(3)	4	英会話(4)	4	時事英語研究	4				卒業に必要な単位に 含まれない		
	キャリアデザインワークショップ	2	インターネット情報セキュリティ論	2	体育の科学(演習)A	2	体育の科学(演習)B	2	体育の科学(演習)C	2						
	学術情報の探索・活用法		2													

(2) 英語文学文化専攻

教育目標とカリキュラムの特徴

英語文学文化専攻は、イギリス文学文化・アメリカ文学文化・英語学の基本領域から構成されています。これらの領域の専門研究を通して、文学・文化・ことばに関する理解を深めることを学習の目標としています。授業科目は大きく3つに分けて(A)導入科目、(B)英語スキル養成科目、(C)専門研究科目からなっています。

★英文専門演習の履修については、2年次後期のガイダンスで、別途詳しい資料が配布されます。

英語文学文化専攻の科目構成							
年次	学期	(A) 導入科目	(B) 英語スキル養成科目			(C) 専門研究科目	
			Reading ^{※1}	Communication ^{※2}	Writing ^{※3}	セミナー科目	選択科目
1年	前	英文基礎演習(1)A Linguistics for Communication	General Reading (1)	英文基礎演習(2)A Grammar for Communication (1)			イギリスの文化(1)(2) アメリカの文化(1)(2)
	後	英文基礎演習(1)B	General Reading (2)	英文基礎演習(2)B Grammar for Communication (2)	Academic Writing (1)		英語学概説(1)(2)
2年	前		Academic Reading (1)	Presentation and Discussion (1) Intermediate Communication (1)	Academic Writing (2)	English Seminar (1)	各種講義科目 (次ページのカリキュラム表参照)
	後		Academic Reading (2)	Presentation and Discussion (2) Intermediate Communication (2)	Academic Writing (3)	English Seminar (2)	
3年	前				Essay Writing (1)	English Seminar (3) 英文専門演習(1)	
	後				Essay Writing (2)	English Seminar (4) 英文専門演習(2)	
4年	前					英文専門演習(3)	卒業論文
	後					英文専門演習(4)	

※1 Reading: (1年) 平易な英文を速く読める。(2年) 文学作品・論文が理解できる。

※2 Communication: (1年) 日常会話ができる。(2年) 英語でプレゼンテーションやディスカッションがおこなえる。

※3 Writing: (1年) E-mailなど日常必要な平易な英文が書ける。(2年) 英語で短いレポートが書ける。(3年) 英語で論文が書ける。

(A)導入科目のうち、英文基礎演習(1)Aでは、イギリス文学、アメリカ文学、英語学の3分野の授業を4回ずつ受けることにより、すべての1年生が3分野についての基礎知識を身につけられるようになっています。英文基礎演習(1)Bでは、3分野のうち1分野を選択して履修します。Linguistics for Communicationでは、英語のコミュニケーションに必要な音声や談話などの特徴について学びます。

(B)英語スキル養成科目は、少人数クラスです。授業はすべて英語を使っておこなわれます。1、2年次を中心に、読む・書く・聞く・話す(対話する・プレゼンテーションをする)というそれぞれのスキルについて到達目標を設定して授業が開設されています。科目はすべてレベル別にクラス分けがなされており、段階的に英語を身につけられるようにカリキュラムが組まれています。英文基礎演習(2)AB、Presentation and Discussion (1)(2)、Intermediate Communication (1)(2)は外国人教員が担当します。またこれら以外に、総合教育科目のアカデミック外国語・スキルアップ外国語^{注1}や随意科目の英会話を履修して、英語のスキルをより一層向上させることができます。さらに共通科目のグローバル・スタディーズや短期留学、交換・認定留学などの長期留学^{注2}をつかって実践力を身につけることもできます。注1、注2: 本要項の該当ページを参照してください。

(C)専門研究科目の履修は、1年次から始まり、2年次以上で本格化します。専門研究科目は2種類の科目から構成されています。ひとつは「選択科目」で、関心に応じて幅広く選択可能な講義形式の科目です。もうひとつは必修の「セミナー科目」で、少人数で学生の発表が中心となる授業がおこなわれます。セミナー科目では、各自が主体性をもって積極的に取り組むことが大切になります。セミナー科目のうち、3年次と4年次の英文専門演習(1)(2)(3)(4)（「ゼミ」とよばれます）は、2年間同じ専任教員の指導を受け(1)～(4)を順番に履修し、各自が関心のある分野を深く追究することになります。学習の成果として3年次末と4年次末には課題（「ゼミ論」/「英文卒業研究・卒業論文」）を提出することになります。ゼミの振り分けは2年次の後期に行いますので、それまでに専門分野に関する知識を深め、自分自身が主体的に研究したいと考える興味の対象をはっきりさせておくとういでしょう。

英語文学文化専攻 2020年度入学生

区分	系列	第1年次		第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	
専攻科目群	基礎演習科目	英文基礎演習(1)A 2 英文基礎演習(2)A 2 英文基礎演習(1)B 2 英文基礎演習(2)B 2														8単位 必修
	必修科目	Grammar for Communication(1) 1 Grammar for Communication(2) 1		Presentation and Discussion(1) 1 English Seminar(1) 2 Presentation and Discussion(2) 1 English Seminar(2) 2		英文専門演習(1) 2 English Seminar(4) 2 英文専門演習(2) 2 Essay Writing(1) 1 English Seminar(3) 2 Essay Writing(2) 1		英文専門演習(3) 2 英文専門演習(4) 2						22単位 必修		
	選択科目	イギリスの文化(1) 2 アメリカの文化(1) 2 イギリスの文化(2) 2 アメリカの文化(2) 2		英語学概説(1) 2 英語学概説(2) 2										38単位 必修		
				イギリス文学史(1) 2 アメリカ文学史(1) 2 英語史(1) 2 イギリス文学史(2) 2 アメリカ文学史(2) 2 英語史(2) 2		近代イギリス小説(1) 2 イギリス詩(2) 2 近代アメリカ小説(1) 2 アメリカ文学特殊研究(2) 2 英語学(音声学・音韻論)(1) 2 英語学(意味論・語用論)(2) 2 近代イギリス小説(2) 2 イギリス演劇(1) 2 近代アメリカ小説(2) 2 アメリカ文学文化研究(1) 2 英語学(音声学・音韻論)(2) 2 英語学(心理言語学)(1) 2 現代イギリス小説(1) 2 イギリス演劇(2) 2 現代アメリカ小説(1) 2 アメリカ文学文化研究(2) 2 英語学(形態論・統語論)(1) 2 英語学(心理言語学)(2) 2 現代イギリス小説(2) 2 イギリス文学特殊講義(1) 2 現代アメリカ小説(2) 2 世界の英語文学(1) 2 英語学(形態論・統語論)(2) 2 英語学(社会言語学)(1) 2 イギリス詩(1) 2 イギリス文学特殊講義(2) 2 アメリカ文学特殊研究(1) 2 世界の英語文学(2) 2 英語学(意味論・語用論)(1) 2 英語学(社会言語学)(2) 2				卒業論文 8						
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎(1) 2 【2単位必修】 大学生の基礎(2) 2														大学生の基礎(1) 2 2単位必修
	外国語科目	A群	General Reading(1) 1 Linguistics for Communication 1 General Reading(2) 1 Academic Writing(1) 1		Academic Reading(1) 1 Intermediate Communication(2) 1 Academic Reading(2) 1 Academic Writing(2) 1		Intermediate Communication(1) 1 Academic Writing(3) 1						10単位 必修			
			B群	ドイツ語(1) 2 ドイツ語(2) 2 フランス語(1) 2 フランス語(2) 2 中国語(1) 2 中国語(2) 2		ドイツ語(3)～(5) 2 フランス語(3)～(5) 2 中国語(3)～(5) 2						4単位 必修				
		C群	ギリシャ語(初級) 2 ラテン語(初級) 2 体育の科学(演習) 2 【2単位必修】		スペイン語(初級) 2 イタリア語(初級) 2 ロシア語(初級) 2 朝鮮語(初級) 2 ギリシャ語(上級) 2 ラテン語(上級) 2 スペイン語(上級) 2 イタリア語(上級) 2 ロシア語(上級) 2 朝鮮語(上級) 2						2単位 必修					
健康・スポーツ			運動の生理と医学 2 健康と睡眠の科学 2 運動と食事の科学 2 スポーツと安全 2		スポーツとマネージメント 2 体育・教育演習 2						体育の科学(演習) 2 2単位必修					
主体的な学び	アカデミック外国語・スキルアップ外国語	<アカデミック外国語科目(英語)>														
		Introduction to Japan Studies (1) 2		Introduction to Historical Studies (2) 2		Introduction to Philosophy 2		Introduction to Comparative Literature 2								
		Introduction to Japan Studies (2) 2		Introduction to Social Sciences (1) 2		Introduction to Psychology 2		Introduction to Linguistics 2								
		Introduction to Historical Studies (1) 2		Introduction to Social Sciences (2) 2		Introduction to Education Studies 2										
		<スキルアップ外国語科目(英語)>														
		Language Learning and Academic Strategies 2		Advanced Academic Writing 2		Practice for TOEFL 2										
	Extensive Reading and Vocabulary Building 2		Fast Reading 2		Practice for TOEIC 2											
	Advanced Communication 2		Extensive Listening 2		Business English 2											
	<アカデミック外国語科目(ドイツ語)>															
	Lehrbuch: Deutschland und Japan (1) [ドイツと日本の現代事情(1)] 2		Lehrbuch: Deutschland und Japan (2) [ドイツと日本の現代事情(2)] 2		Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史(1)] 2		Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史(2)] 2									
	<スキルアップ外国語科目(ドイツ語)>															
	Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1) [ハイレベルドイツ語読解(1)] 2		Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2) [ハイレベルドイツ語読解(2)] 2													
<アカデミック外国語科目(フランス語)>																
France d'aujourd'hui (1) [現代フランス事情(1)] 2		France d'aujourd'hui (2) [現代フランス事情(2)] 2		Histoire et culture en France (1) [フランスの歴史と文化(1)] 2		Histoire et culture en France (2) [フランスの歴史と文化(2)] 2										
<スキルアップ外国語科目(フランス語)>																
Lecture Niveau Supérieur (1) [ハイレベルフランス語読解(1)] 2		Lecture Niveau Supérieur (2) [ハイレベルフランス語読解(2)] 2														
<アカデミック外国語科目(中国語)>																
当代中国和日本(1) [中国語で学ぶ日本と中国(1)] 2		当代中国和日本(2) [中国語で学ぶ日本と中国(2)] 2														
<スキルアップ外国語科目(中国語)>																
時事漢語(1) [時事中国語(1)] 2		出国留学漢語培訓(2) [留学のための中国語(2)] 2		高級漢語閱讀(1) [ハイレベル・中国語読解(1)] 2		高級漢語会話(2) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(2)] 2										
時事漢語(2) [時事中国語(2)] 2		漢語昇級考試輔導(1) [資格のための中国語(1)] 2		高級漢語閱讀(2) [ハイレベル・中国語読解(2)] 2												
出国留学漢語培訓(1) [留学のための中国語(1)] 2		漢語昇級考試輔導(2) [資格のための中国語(2)] 2		高級漢語会話(1) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(1)] 2												
入門科目	入門・哲学 2	入門・日本文学 2	入門・歴史 2	入門・心理学 2	入門・政治 2											
入門・数学 2	入門・外国文学 2	入門・社会 2	入門・経済 2													
共通科目	哲学・思想系	哲学 2	印度哲学史B 2	キリスト教概説B 2	社会思想B 2	日本倫理思想史B 2	仏教概説B 2	西洋思想B 2								
		印度哲学史A 2	キリスト教概説A 2	社会思想A 2	日本倫理思想史A 2	仏教概説A 2	西洋思想A 2	倫理学 2								
	法律・政治・経済系	公法概論A 2	私法概論A 2	経済原論A 2	国際法A 2	国際経済学A 2	国際政治学A 2	経済学 2								
		公法概論B 2	私法概論B 2	経済原論B 2	国際法B 2	国際経済学B 2	国際政治学B 2	政治学 2								
	文化・芸術系	映画論A 2	日本映画史 2	日本美術史B 2	西洋美術史B 2	音楽B 2										
		映画論B 2	日本美術史A 2	西洋美術史A 2	音楽A 2	比較文学 2										
	自然科学系	脳科学 2	宇宙論 2	統計学基礎 2	科学史 2	生物進化論 2	生命倫理 2									
	プログラム国際系	プログラム言語(1) 2	プログラム言語(2) 2	プログラム言語(3) 2	プログラム言語(4) 2											
	言語系	言語学A 2	言語学B 2	社会言語学A 2	社会言語学B 2	日本語教育方法論 2										
	人類学・民俗学系	比較神話A 2	比較神話B 2	民俗学A 2	民俗学B 2	文化人類学A 2	文化人類学B 2	比較文化論 2								
社会問題系	ジェンダー論 2	国際理解教育論 2	近・現代史と民主主義 2	ポランディア論 2	健康教育学 2											
地理・歴史系	人文地理学(1) 2	日本地誌学 2	自然地理学(1) 2	アーカイブズ概論 2	外国史 2											
人文地理学(2) 2	世界地誌学 2	自然地理学(2) 2	日本史 2													
特別教養科目	グローバルスタディーズ(1) 1 グローバルスタディーズ(2) 1		グローバルスタディーズ(3) 1 グローバルスタディーズ(4) 1													
	キャリアデザイン(1) 2		キャリアデザイン(2) 2		教養総合演習(1) 4		教養総合演習(2) 4									
	特別教養(1) 2 特別教養(2) 2		特別教養(3) 2 特別教養(4) 2													
○他専攻のゴシック科目																
自由選択科目	○自専攻科目の68単位超過分															
	○他学部履修科目(30単位まで)															
	学部間共通科目	グローバルICT教育研修演習 2		グローバルICTアセスメント演習 2		FLP演習A 4		FLP演習B 4		FLP演習C 4						
		グローバル・キャリア・リテラシー 2		専門インターンシップ 1		グローバル総合講座 2		グローバル遠隔研修 2		グローバル集中講座 1		グローバルアクティブラーニング 1				
学芸員課程科目	短期留学プログラムI 4		短期留学プログラムII 4		短期留学プログラムIII 2		短期留学プログラムIV 2									
	博物館概論 2		博物館資料論 2		博物館教育論 2		博物館資料保存論 2									
最高履修単位	44		44		44		44									
随意科目	英会話(1) 4 英会話(2) 4		英会話(3) 4 英会話(4) 4		時事英語研究 4											
	社会デザイン・ワークショップ 2		インターナショナル情報セキュリティ論 2		体育の科学(演習)A 2		体育の科学(演習)B 2		体育の科学(演習)C 2							
	学術情報の検索・活用法 2															

(3) ドイツ語文学文化専攻

1. 教育目標

ドイツ語文学文化専攻では、学術言語としてのドイツ語の力を身に付け、活用しながら、ドイツ語圏の言語・文学・文化・歴史の各分野に関する専門の学びを深めます。具体的には以下のような目標を掲げています。

- ① 「話す・聞く・読む・書く・発表する」という総合的なドイツ語能力を身に付け、ドイツ語圏諸国の言語・文化・社会・歴史に関する基本的知識を獲得すること
- ② 広い視野から自分の専門にアプローチし分析する能力を身に付けることによって、日常および専門分野における異文化間交流能力を獲得すること
- ③ 専攻の学びを通して得たドイツ語圏の言語・文化・社会・歴史に関する知識を、日本の言語・文化・社会・歴史と対照・比較することによっても深め、ドイツ語圏を含む諸外国に対する情報発信能力を高めること
- ④ ドイツ語圏諸国の言語文化・芸術作品・社会現象などについて熟慮し、その結果として得られた自分の考えを、日本語とドイツ語によって文章あるいは口頭で表現する能力を高めること
- ⑤ ドイツ語圏が生んださまざまな書物を読んだり、芸術を視聴したりすることにより、教養を深め感性を磨くこと
- ⑥ 短期・長期の留学やさまざまな活動を取り入れることによって多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションできる力、対人交渉能力や対社会交渉能力など、全般的なコミュニケーション能力を高めること

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

ドイツ語文学文化専攻の開設科目は、ドイツ語教育関連科目と専門教育関連科目から成ります。ドイツ語教育関連科目は、さらにコミュニケーション能力育成科目と読解能力育成科目に分けられます。また、専門教育関連科目は、文学・言語学、芸術・文化学、社会誌・歴史学の分野にまたがります。授業科目は、次の①～④に区分できます。

- ① **ドイツ語関連科目**：「話す・聞く・読む・書く・発表する」という総合的なドイツ語運用能力を養うための科目です。**ドイツ語(1)～(5)**、**コミュニケーションのドイツ語**、**ドイツ語中級：コミュニケーション**、**ドイツ語中級：講読と作文およびドイツ語の音声と背景**、**留学のドイツ語**、**ドイツ語原書講読**、**資格のドイツ語**などがこれにあたります。
- ② **演習科目**：研究テーマの設定、資料の収集、研究成果の要約、研究成果の発表といった専門分野を研究するために必要な能力を養うための科目です。**独文基礎演習(1)・(2)**および**ゼミ演習**などがこれにあたります。
- ③ **講義科目**：ドイツ語圏諸国とヨーロッパ地域の言語・文化・社会・歴史に関する幅広い知識を獲得するための科目です。**ドイツ文化特講**、**ドイツ文学史**、**ドイツ思想史**、**ドイツ社会誌**、**ドイツ語学Ⅰ・Ⅱ**などがこれにあたります。
- ④ **卒業論文・卒業研究**：学生自身が選んだテーマに関して、指導教員と相談しながら400字詰め原稿用紙50枚程度の論文を執筆することによって、専門的な思考能力と文章構成力、そして発表能力を養うための科目です。またカリキュラムには含まれない課外行事として、新入生ガイダンス、クリスマス・パーティ、短期および長期のドイツ留学などが用意されています。年1回、「ヨーロッパ共通言語参照枠(CEFR)」に準拠するドイツ語の試験(A1、A2レベル)が受験できます。

3. 系統立った学習の方法

カリキュラムは系統立てて構成されているので、各学年の必修科目をしっかりと学んでゆけば、ドイツ語に関しても専門分野に関しても基礎的知識を獲得できます。遅刻・欠席をせず、予習・復習にはしっかりと取り組んでください。また休暇中は大学外の語学学校に通ったり、短期留学に参加したりするとより効果的です。専門知識の養成の面では、1、2年次から幅広く文献を読むと同時に、専門書や学術論文にも積極的に触れることをお勧めします。3、4年次ではゼミ論文、卒業論文・卒業研究の執筆に主眼を置くこととよいでしょう。

※ドイツ語文学文化専攻の必修科目「コミュニケーションのドイツ語Ⅰ」「コミュニケーションのドイツ語Ⅱ」は通年2単位の科目、「ドイツ語の音声と背景」は半期2単位の科目です。

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位																																								
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位																																									
専攻科目群	基礎演習科目	独文基礎演習(1)A	2	独文基礎演習(1)B	2	独文基礎演習(2)A	2	独文基礎演習(2)B	2									8単位必修																																								
	必修科目	ドイツ文化特講(1)	2	ドイツ文学史(2)	2	ドイツ語の音声と背景				2									14単位必修																																							
		ドイツ文化特講(2)	2	コミュニケーションのドイツ語I	2	ドイツ文学史(1)				2	卒業論文				8	卒業研究				6	6単位必修																																					
	選択科目						ドイツ語学I(1):講義				2	ドイツ語学II(1):講義				2	ドイツ語学I(3):講義				2	ドイツ語学II(3):講義				2	2単位必修																															
			現代ドイツ事情(1)				2	ドイツ社会誌(1)				2	ドイツ文学講義(1)				2	ドイツ思想史(1)				2	ドイツ文化講義(3)				2	22単位必修																														
			現代ドイツ事情(2)				2	ドイツ社会誌(2)				2	ドイツ文学講義(2)				2	ドイツ思想史(2)				2	ドイツ文化講義(4)				2																															
			現代ドイツ事情(3)				2	ドイツ社会誌(3)				2	ドイツ文学講義(3)				2	ドイツ文化講義(1)				2	ドイツ文化講義(5)				2																															
			現代ドイツ事情(4)				2	ドイツ社会誌(4)				2	ドイツ文学講義(4)				2	ドイツ文化講義(2)				2	ドイツ文化講義(6)				2																															
							ドイツ語中級:コミュニケーション(2)				2	ドイツ語中級:講義と作文(1)				2	留学のドイツ語(1)				2	資格のドイツ語(1)				2	資格のドイツ語II(1)				2	ドイツ語原書講読(1)				2	8単位必修																					
							ドイツ語中級:コミュニケーション(2)				2	ドイツ語中級:講義と作文(2)				2	留学のドイツ語(2)				2	資格のドイツ語(2)				2	資格のドイツ語II(2)				2	ドイツ語原書講読(2)				2	2単位必修																					
											ゼミ演習(1)				4	ゼミ演習(4)				4	ゼミ演習(2)				4	ゼミ演習(5)				4	ゼミ演習(3)				4	ゼミ演習(6)				4	4単位必修																	
														ゼミ演習(7)				4	ゼミ演習(10)				4	ゼミ演習(8)				4	ゼミ演習(11)				4	ゼミ演習(9)				4	ゼミ演習(12)				4	4単位必修														
						異文化交流演習(1)				2	ドイツ史演習				2	異文化交流演習(2)				2									16単位必修																													
					ドイツ語学I(2):演習				2	ドイツ語学II(2):演習				2	ドイツ文学演習(1)				2	ドイツ文化演習(1)				2	ドイツ社会誌演習(1)				2	ドイツ語学I(4):演習				2	ドイツ語学II(4):演習				2	ドイツ文学演習(2)				2	ドイツ文化演習(2)				2	ドイツ社会誌演習(2)				2				
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎(1)				2	【2単位必修】												大学生の基礎(1)	2	2単位必修																																					
	外国語科目	大学生の基礎(2)				2													10単位必修																																							
		A群	ドイツ語(1)		2	ドイツ語(3)		2	ドイツ語(4)		2							4単位必修																																								
			ドイツ語(2)		2	英語読解		2	英語表現		2																																															
		B群	フランス語(1)		2	フランス語(2)		2	中国語(1)		2	中国語(2)		2	English Reading(1)~(4)						2	Oral Communication(1)~(4)		2	English Writing(1)~(4)		2	フランス語(3)~(5)		2	中国語(3)~(5)		2	2単位必修																								
	C群		ギリシャ語(初級)		2	ラテン語(初級)		2	ギリシャ語(上級)		2	ラテン語(上級)		2	スペイン語(初級)		2	イタリア語(初級)		2	ロシア語(初級)		2	朝鮮語(初級)		2																																
		体育の科学(演習)				2	【2単位必修】				運動の生理と医学				2	健康と睡眠の科学				2	現代社会とスポーツ				2	身体文化と歴史				2	運動と心理				2	体育の科学(演習)				2	2単位必修																	
	主體的な学び	アカデミック外国語	＜アカデミック外国語科目(英語)＞				Introduction to Japan Studies (1)				2	Introduction to Historical Studies (2)				2	Introduction to Philosophy				2	Introduction to Comparative Literature				2																																
							Introduction to Japan Studies (2)				2	Introduction to Social Sciences (1)				2	Introduction to Psychology				2	Introduction to Linguistics				2																																
							Introduction to Historical Studies (1)				2	Introduction to Social Sciences (2)				2	Introduction to Education Studies				2																																					
＜スキルアップ外国語科目(英語)＞				Language Learning and Academic Strategies				2	Advanced Academic Writing				2	Practice for TOEFL				2	Extensive Reading and Vocabulary Building				2	Fast Reading				2	Practice for TOEIC				2																									
				Advanced Communication				2	Extensive Listening				2	Business English				2																																								
＜アカデミック外国語科目(ドイツ語)＞				Landschaft: Deutschland und Japan (1)[ドイツの現代事情(1)]				2	Landschaft: Deutschland und Japan (2)[ドイツと日本の現代事情(2)]				2	Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1)[ヨーロッパ文化史(1)]				2	Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2)[ヨーロッパ文化史(2)]				2																																			
				Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1)[ヘレベール・ドイツ語読解(1)]				2	Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2)[ヘレベール・ドイツ語読解(2)]				2																																													
＜アカデミック外国語科目(フランス語)＞				France d'aujourd'hui (1)[現代フランス事情(1)]				2	France d'aujourd'hui (2)[現代フランス事情(2)]				2	Histoire et culture en France (1)[フランスの歴史と文化(1)]				2	Histoire et culture en France (2)[フランスの歴史と文化(2)]				2																																			
				Lectures Niveau Supérieur (1)[ヘレベール・フランス語読解(1)]				2	Lectures Niveau Supérieur (2)[ヘレベール・フランス語読解(2)]				2																																													
＜アカデミック外国語科目(中国語)＞				当代中国和日本(1)[中国語で学ぶ日本と中国(1)]				2	当代中国和日本(2)[中国語で学ぶ日本と中国(2)]				2																																													
共通科目	入門科目	時事漢語(1)[時事中国語(1)]				2	出題留学漢語培訓(2)[留学のための中国語(2)]				2	高級漢語閱讀(1)[ヘレベール・中国語読解(1)]				2	高級漢語會話(2)[ヘレベール・中国語コミュニケーション(2)]				2																																					
						時事漢語(2)[時事中国語(2)]				2	漢語昇級考試輔導(1)[資格のための中国語(1)]				2	高級漢語閱讀(2)[ヘレベール・中国語読解(2)]				2																																						
						出題留学漢語培訓(1)[留学のための中国語(1)]				2	漢語昇級考試輔導(2)[資格のための中国語(2)]				2	高級漢語會話(1)[ヘレベール・中国語コミュニケーション(1)]				2																																						
		哲学・思想系		哲学		2	印度哲学史A		2	キリスト教概説B		2	社会思想B		2	日本倫理思想史B		2	仏教概説B		2	西洋思想B		2																																		
				印度哲学史A		2	キリスト教概説A		2	社会思想A		2	日本倫理思想史A		2	仏教概説A		2	西洋思想A		2	倫理学		2																																		
		法律・政治・経済系		公法概論A		2	私法概論A		2	経済原論A		2	国際法A		2	国際経済学A		2	国際政治学A		2	経済学		2																																		
				公法概論B		2	私法概論B		2	経済原論B		2	国際法B		2	国際経済学B		2	国際政治学B		2	政治学		2																																		
		文化・芸術系		映画論A		2	日本美術史		2	日本美術史B		2	西洋美術史B		2	音楽B		2																																								
				映画論B		2	日本美術史A		2	西洋美術史A		2	音楽A		2	比較文学		2																																								
		自然科学系		脳科学		2	宇宙論		2	統計学基礎		2	科学史		2	生物進化論		2	生命倫理		2																																					
自由選択科目	学部間共通科目	プログラムの言語(1)				2	プログラムの言語(2)				2	プログラムの言語(3)				2	プログラムの言語(4)				2																																					
						言語学A				2	言語学B				2	社会言語学A				2	社会言語学B				2	日本語教育方法論				2																												
						比較神話A				2	比較神話B				2	民俗学A				2	民俗学B				2	文化人類学A				2	文化人類学B				2	比較文化論				2																		
						ジェンダー論				2	国際理解教育論				2	近・現代史と民主主義				2	ポランディア論				2	健康教育学				2																												
						人文地理学(1)				2	日本地誌学				2	自然地理学(1)				2	アーカイブズ概論				2	外国史				2																												
						人文地理学(2)				2	世界地誌学				2	自然地理学(2)				2	日本史				2																																	
						グローバル・スタディーズ(1)				1	グローバル・スタディーズ(2)				1	グローバル・スタディーズ(3)				1	グローバル・スタディーズ(4)				1																																	
						キャリアデザイン(1)				2	キャリアデザイン(2)				2	教養総合演習(1)				4	教養総合演習(2)				4																																	
						特別教養(1)				2	特別教養(2)				2	特別教養(3)				2	特別教養(4)				2																																	
										プロジェクト科目				2																																												
○他専攻のゴシック科目																																																										
		○自専攻科目の68単位超過分														○総合教育科目の必修単位超過分																																										
		○他学部履修科目(30単位まで)														○大学院履修科目(8単位まで)																																										
		グローバル・スタディーズ(1)				2	グローバル・スタディーズ(2)				2	FLP演習A				4	FLP演習B				4	FLP演習C				4																																
		グローバル・スタディーズ(2)				2	専門・インターンシップ				1	グローバル・総合講座				2	グローバル・連環ワークショップ				2	グローバル・集中講義				1	グローバル・アクティブラーニング				1																											
		短期留学プログラムI				4	短期留学プログラムII				4	短期留学プログラムIII				4	短期留学プログラムIV				4																																					
		博物館概論				2	博物館資料論				2																																															
		博物館教育論				2	博物館資料保存論				2																																															
最高履修単位		44				44				44				44				126/176単位																																								
随意科目		英会話(1)				4	英会話(2)				4	英会話(3)				4	英会話(4)				4	時事英語研究				4																																
		キャリアデザイン(1)				2	キャリアデザイン(2)				2	体育の科学(演習)A				2	体育の科学(演習)B				2	体育の科学(演習)C				2	卒業に必要な単位に含まれない																															
		学術情報系の活用方法				2																																																				

(4) フランス語文学文化専攻

1. 教育目標と学修の指針

まず1年次で、フランス語の基礎を身につけておきましょう。それによって2年次以降の学修の基礎ができ、ひいては卒業後の進路も広がるはずです。会話については、教科書の教材を十分に利用してください。また授業とその予習復習を通じて、基礎文法と基本語彙をしっかり身につけましょう。

本専攻では、語学とあわせてフランス文学や文化、美術について、あなたの関心に合わせて広く深く探究します。さまざまな本を読み、国内外のいろいろな場所を訪ねることになるでしょう。

大学の学修から得られる充実感や収穫は、学ぶ側の姿勢に大きく左右されます。講義と演習、ゼミという一つ一つの機会を生かして、自ら学び、考え、発言する姿勢をつちかみましょう。

そのほか、仏検や学芸員を中心に資格を取得しておく、将来の進路に役立ちます。また毎年8～9月に行われるエクス・マルセイユ大学への短期留学に参加するのもよいでしょう。さらにパリ、リヨン、トゥールーズ、ブリュッセル、ジュネーヴなどへの交換留学の制度も活用できます。詳しくは教員に相談してください。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

全体は**語学文学文化コース**と、**美術史美術館コース**のふたつのコースから構成されています。1年次は共通のカリキュラムで学び、フランス語の基礎を身につけた上で、2年次からコースに分かれて深く専門的に学びます。

1、2年次には外国語科目が多く置かれています。1年次の**フランス語(1)～(3)**は(1)を日本人教員が、(2)・(3)をフランス人教員が担当し、同一の教材を用いて基礎的コミュニケーション能力を養います。以上はクラス指定の必修科目です。フランス人教員が担当する2年次の**フランス語(4)・(5)**は習熟度別のクラス編成による必修科目となります。**フランス語(6)**は選択科目で、中・上級フランス語の効率的学習法を体系的に教える授業です。

また1年次の必修科目として、**仏文基礎演習(1)・(2)**では二人の教員についてフランス文法の基礎を学びます。**フランス文学史**、**フランス文化史**、**フランス美術史**は、それぞれフランスの文学、文化、美術の歴史を概観する入門講義です。これらなるべく多く履修して、コース選択の材料にしてください。

2年次からは、1年次末に自ら選択したコースのカリキュラムに従って学修を進めます。**語学文学文化コース**では語学、文学、文化、映画等の講義・演習を中心に学びます。これらの科目は自らの関心に従って自由に選択できる余地が大きくとってあります。講義科目では、言語、小説、詩、映画、文化全般についての各講義を選んで履修します。演習科目のうち入門演習4科目では、それぞれの分野の基礎を学びます。より専門化したフランス文学演習(1)～(3)、フランス文化演習(1)～(3)で個々の分野を深めていきます。

美術史美術館コースではフランスを中心とする西洋美術史について、入門的な概論・演習から専門的な各論・演習へと系統的に学修を進め、広く深く学びます。もちろんフランス語の学修も継続できます。また美術と社会の主要な接点である美術館についても、実地見学(フィールドワーク)を交えて学修します。このコースで学ぶ人には、**学芸員資格**の取得を推奨します。この資格は美術館以外にも、文化政策やデザイン、インテリア、出版など多様な分野で評価されています。資格取得の負担を軽減するため、このコースの必修科目の一部は学芸員課程(この履修要項の「資格課程」の章にある「学芸員課程」の項目を参照してください)の選択必修科目の一部を兼ねています。皆さんの先輩には、これらの分野で活躍中の人もいます。

いずれのコースでも、3年次以降は「**専門演習**」(ゼミ)で学び、卒業論文あるいは卒業課題研究のための学修を深めます。また実用的なフランス語を伸ばすために、**資格のフランス語(1)・(2)**、**留学のフランス語**、**コミュニケーション演習(1)～(3)**等が用意されています。

フランス語文学文化専攻 語学文学文化コース 2020年度入学生

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位	
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位		
専攻科目群	基礎演習科目	仏文基礎演習(1) 4 仏文基礎演習(2) 4																8単位 必修	
	必修科目									語学文学文化専門演習(1) 4				語学文学文化専門演習(2) 4				8単位 必修	
	選択科目	フランス文学史A		2	フランス文化史A	2	フランス美術史A		2					卒業論文 8		卒業課題研究 4		4単位 必修	
		フランス文学史B		2	フランス文化史B	2	フランス美術史B		2									8単位 必修	
		フランス言語思想A		2	フランス詩A	2	フランス映画A	2	美術史概論A	2	資格のフランス語(2)A		2					12 単位 必修	
		フランス言語思想B		2	フランス詩B	2	フランス映画B	2	美術史概論B	2	資格のフランス語(2)B		2						
		フランス小説A		2	フランス文学研究A	2	フランス文化研究A	2	資格のフランス語(1)A		2	留学のフランス語A		2					
		フランス小説B		2	フランス文学研究B	2	フランス文化研究B	2	資格のフランス語(1)B		2	留学のフランス語B		2					
				美術史各論(1)A		2	美術史各論(2)A		2	美術史各論(3)A		2							
				美術史各論(1)B		2	美術史各論(2)B		2	美術史各論(3)B		2							
		フランス語学演習 4				フランス文化入門演習 4												12 単位 必修	
		フランス文学入門演習 4				フランス映画入門演習 4												12 単位 必修	
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎(1) 2 【2単位必修】 大学生の基礎(2) 2																大学生の基礎(1) 2単位必修	
	外国語科目	A群	フランス語(1)		2	フランス語(3)		2	フランス語(4)		2							10単位 必修	
			フランス語(2)		2			フランス語(5)		2							4単位 必修		
			英語読解		2	英語表現		2											
	B群	ドイツ語(1)		2	ドイツ語(2)		2									2単位 必修			
		中国語(1)		2	中国語(2)		2												
	C群	ギリシヤ語(初級)		2	ラテン語(初級)		2	スペイン語(初級)		2	イタリア語(初級)		2	ロシア語(初級)		2	朝鮮語(初級)		2
		ギリシヤ語(上級)		2	ラテン語(上級)		2	スペイン語(上級)		2	イタリア語(上級)		2	ロシア語(上級)		2	朝鮮語(上級)		2
	健康・スポーツ	体育の科学(演習) 2 【2単位必修】				運動の生理と医科学 2 健康と睡眠の科学 2 現代社会とスポーツ 2 身体文化と歴史 2 運動と心理 2				運動と食事の科学 2 スポーツと安全 2 スポーツとマネジメント 2 体育・教育演習 2								体育の科学 (演習) 2単位必修	
	主体的な学び	アカデミック 外国語 スキルアップ 外国語	<アカデミック外国語科目(英語)>				Introduction to Japan Studies (1) 2 Introduction to Historical Studies (2) 2 Introduction to Philosophy 2 Introduction to Comparative Literature 2				Introduction to Social Sciences (1) 2 Introduction to Psychology 2 Introduction to Linguistics 2				Introduction to Historical Studies (1) 2 Introduction to Social Sciences (2) 2 Introduction to Education Studies 2				126 単位 必修
<スキルアップ外国語科目(英語)>				Language Learning and Academic Strategies 2 Advanced Academic Writing 2 Practice for TOEFL 2				Extensive Reading and Vocabulary Building 2 Fast Reading 2 Practice for TOEIC 2				Advanced Communication 2 Extensive Listening 2 Business English 2							
<アカデミック外国語科目(ドイツ語)>				Landside: Deutschland und Japan (1) [ドイツ日本の現代事情(1)] 2 Landside: Deutschland und Japan (2) [ドイツ日本の現代事情(2)] 2 Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史(1)] 2 Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史(2)] 2				<スキルアップ外国語科目(ドイツ語)>				Lektoren-Kurs für Fortgeschrittene (1)[ハイレベル・ドイツ語読解(1)] 2 Lektoren-Kurs für Fortgeschrittene (2)[ハイレベル・ドイツ語読解(2)] 2							
<アカデミック外国語科目(フランス語)>				France d'aujourd'hui (1)[現代フランス事情(1)] 2 France d'aujourd'hui (2)[現代フランス事情(2)] 2 Histoire et culture en France (1)[フランスの歴史と文化(1)] 2 Histoire et culture en France (2)[フランスの歴史と文化(2)] 2				<スキルアップ外国語科目(フランス語)>				Lecture Niveau Supérieur (1)[ハイレベル・フランス語読解(1)] 2 Lecture Niveau Supérieur (2)[ハイレベル・フランス語読解(2)] 2							
<アカデミック外国語科目(中国語)>				当代中国和日本(1)[中国語で学ぶ日本と中国(1)] 2 当代中国和日本(2)[中国語で学ぶ日本と中国(2)] 2				<スキルアップ外国語科目(中国語)>				時事漢語(1)[時事中国語(1)] 2 出題留学漢語特訓(2)[留学のための中国語(2)] 2 高級漢語読解(1)[ハイレベル・中国語読解(1)] 2 高級漢語読解(2)[ハイレベル・中国語読解(2)] 2							
				時事漢語(2)[時事中国語(2)] 2 漢語異級試験特訓(1)[資格のための中国語(1)] 2 高級漢語読解(2)[ハイレベル・中国語読解(2)] 2								出題留学漢語特訓(1)[留学のための中国語(1)] 2 漢語異級試験特訓(2)[資格のための中国語(2)] 2 高級漢語読解(1)[ハイレベル・中国語読解(1)] 2							
				入門・哲学 2 入門・日本文学 2 入門・歴史 2 入門・心理 2 入門・政治 2															
				入門・数学 2 入門・外国文学 2 入門・社会 2 入門・経済 2															
				哲学 2 印度哲学史B 2 キリスト教概説B 2 社会思想B 2 日本倫理思想史B 2 仏教概説B 2 西洋思想B 2															
				印度哲学史A 2 キリスト教概説A 2 社会思想A 2 日本倫理思想史A 2 仏教概説A 2 西洋思想A 2 倫理学 2															
				公法概論A 2 私法概論A 2 経済原論A 2 国際法A 2 国際経済学A 2 国際政治学A 2 経済学 2															
				公法概論B 2 私法概論B 2 経済原論B 2 国際法B 2 国際経済学B 2 国際政治学B 2 政治学 2															
				映画論A 2 日本映画史 2 日本美術史B 2 西洋美術史B 2 音楽A 2															
				映画論B 2 日本美術史A 2 西洋美術史A 2 音楽A 2 比較文学 2															
				脳科学 2 宇宙論 2 統計学基礎 2 科学史 2 生物進化論 2 生命倫理 2															
				プログラム言語(1) 2 プログラム言語(2) 2 プログラム言語(3) 2 プログラム言語(4) 2															
				言語学A 2 言語学B 2 社会言語学A 2 社会言語学B 2 日本語教育方法論 2															
				比較神話A 2 比較神話B 2 民俗学A 2 民俗学B 2 文化人類学A 2 文化人類学B 2 比較文化論 2															
				ジェンダー論 2 国際理解教育論 2 近・現代史と民主主義 2 ボランティア論 2 健康教育学 2															
				人文地理学(1) 2 日本地誌学 2 自然地理学(1) 2 アーカイブズ概論 2 外国史 2															
				人文地理学(2) 2 世界地誌学 2 自然地理学(2) 2 日本史 2															
				グローバル・スタディーズ(1) 1 グローバル・スタディーズ(2) 1 グローバル・スタディーズ(3) 1 グローバル・スタディーズ(4) 1															
				キャリアデザイン(1) 2 キャリアデザイン(2) 2				教養総合演習(1) 4				教養総合演習(2) 4							
				特別教養(1) 2 特別教養(2) 2 特別教養(3) 2 特別教養(4) 2															
				プロジェクト科目 2															
○他専攻のゴシック科目																			
自由 選択 科目	学部間 共通科目	○自専攻科目の68単位超過分				○他学部履修科目(30単位まで)				○総合教育科目の必修単位超過分				○大学院履修科目(8単位まで)				30単位 必修	
		グローバル・フェスティバル 2 グローバル・NICTプレゼンテーション 2				FLP演習A 4				FLP演習B 4				FLP演習C 4					
		グローバル・フェスティバル 2 専門入門・ターニングシップ 1																	
		短期留学プログラムI 4 短期留学プログラムII 4 短期留学プログラムIII 4 短期留学プログラムIV 2																	
学芸員課程科目	博物館概論 2 博物館資料論 2																		
	博物館教育論 2 博物館資料保存論 2																		
最高履修単位		44				44				44				44				126/176単位	
随意科目	英会話(1)		4	英会話(2)		4	英会話(3)		4	英会話(4)		4	時事英語研究		4			卒業に必要な単位に 含まれない	
			体育の科学(演習)A 2				体育の科学(演習)B 2				体育の科学(演習)C 2								
	キャリアデザイン・ワークショップ 2		リサーチ・レポート・発表・修論 2																
学術情報の探索・活用 法 2																			

フランス語文学文化専攻 美術史美術館コース 2020年度入学生

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位			
専攻科目群	基礎演習科目	仏文基礎演習(1)	4													8単位必修		
		仏文基礎演習(2)	4													24単位必修		
	必修科目			美術史概論A	2	美術史美術館入門演習(1)	4	美術史美術館専門演習(1)	4			美術史美術館専門演習(2)	4			4単位必修		
				美術史概論B	2	美術史美術館入門演習(2)	4	美術史美術館演習	4							8単位必修		
	選択科目															8単位必修		
																8単位必修		
																20単位必修		
																8単位必修		
																8単位必修		
																20単位必修		
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎(1)	2	【2単位必修】												大学生の基礎(1) 2単位必修		
		大学生の基礎(2)	2													2単位必修		
	外国語科目	A群	フランス語(1)	2	フランス語(3)	2	フランス語(4)	2									10単位必修	
			フランス語(2)	2			フランス語(5)	2									4単位必修	
			英語読解	2	英語表現	2												2単位必修
		B群	ドイツ語(1)	2	ドイツ語(2)	2												2単位必修
			中国語(1)	2	中国語(2)	2												2単位必修
			English Reading(1)~(4)	2	Oral Communication(1)~(4)	2	English Writing(1)~(4)	2	フランス語(6)	2	ドイツ語(3)~(5)	2	中国語(3)~(5)	2				
	C群	ギリシャ語(初級)	2	ラテン語(初級)	2	スペイン語(初級)	2	イタリア語(初級)	2	ロシア語(初級)	2	朝鮮語(初級)	2					2単位必修
		ギリシャ語(上級)	2	ラテン語(上級)	2	スペイン語(上級)	2	イタリア語(上級)	2	ロシア語(上級)	2	朝鮮語(上級)	2					2単位必修
健康・スポーツ	体育の科学(演習)	2	【2単位必修】	運動の生理と医科学	2	健康と睡眠の科学	2	現代社会とスポーツ	2	身体文化と歴史	2	運動と心理	2			体育の科学(演習) 2単位必修		
主体的な学び	アカデミック外国語・スキルアップ外国語	<アカデミック外国語科目(英語)> Introduction to Japan Studies (1) 2 Introduction to Historical Studies (2) 2 Introduction to Philosophy 2 Introduction to Comparative Literature 2 Introduction to Japan Studies (2) 2 Introduction to Social Sciences (1) 2 Introduction to Psychology 2 Introduction to Linguistics 2 Introduction to Historical Studies (1) 2 Introduction to Social Sciences (2) 2 Introduction to Education Studies 2 <スキルアップ外国語科目(英語)> Language Learning and Academic Strategies 2 Advanced Academic Writing 2 Practice for TOEFL 2 Extensive Reading and Vocabulary Building 2 Fast Reading 2 Practice for TOEIC 2 Advanced Communication 2 Extensive Listening 2 Business English 2 <アカデミック外国語科目(ドイツ語)> Landskinder: Deutschland und Japan (1) [B-レベル日本の現代事情(1)] 2 Landskinder: Deutschland und Japan (2) [B-レベル日本の現代事情(2)] 2 Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [C-レベル文化史(1)] 2 Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [C-レベル文化史(2)] 2 <スキルアップ外国語科目(ドイツ語)> Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1) [ハイレベル・ドイツ語読解(1)] 2 Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2) [ハイレベル・ドイツ語読解(2)] 2 <アカデミック外国語科目(フランス語)> France d'aujourd'hui (1) [現代フランス事情(1)] 2 France d'aujourd'hui (2) [現代フランス事情(2)] 2 Histoire et culture en France (1) [フランスの歴史と文化(1)] 2 Histoire et culture en France (2) [フランスの歴史と文化(2)] 2 <スキルアップ外国語科目(フランス語)> Lecture Niveau Supérieur (1) [ハイレベル・フランス語読解(1)] 2 Lecture Niveau Supérieur (2) [ハイレベル・フランス語読解(2)] 2 <アカデミック外国語科目(中国語)> 当代中国和日本(1) [中国語で学ぶ日本と中国(1)] 2 当代中国和日本(2) [中国語で学ぶ日本と中国(2)] 2 <スキルアップ外国語科目(中国語)> 時事漢語(1) [時事中国語(1)] 2 出国留学漢語培訓(2) [留学のための中国語(2)] 2 高級漢語閱讀(1) [ハイレベル・中国語読解(1)] 2 高級漢語會話(2) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(2)] 2 時事漢語(2) [時事中国語(2)] 2 漢語昇級考試輔導(1) [資格のための中国語(1)] 2 高級漢語閱讀(2) [ハイレベル・中国語読解(2)] 2 出国留学漢語培訓(1) [留学のための中国語(1)] 2 漢語昇級考試輔導(2) [資格のための中国語(2)] 2 高級漢語會話(1) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(1)] 2 入門科目 入門・哲学 2 入門・日本文学 2 入門・歴史 2 入門・心理 2 入門・政治 2 入門・数学 2 入門・外国文学 2 入門・社会 2 入門・経済 2 共通科目 哲学 哲学 2 印度哲学史B 2 キリスト教概説B 2 社会思想B 2 日本倫理思想史B 2 仏教概説B 2 西洋思想B 2 印度哲学史A 2 キリスト教概説A 2 社会思想A 2 日本倫理思想史A 2 仏教概説A 2 西洋思想A 2 倫理学 2 法律・政治・経済系 公法概論A 2 私法概論A 2 経済原論A 2 国際法A 2 国際経済学A 2 国際政治学A 2 経済学 2 公法概論B 2 私法概論B 2 経済原論B 2 国際法B 2 国際経済学B 2 国際政治学B 2 政治学 2 文化・芸術系 映画論A 2 日本映画史 2 日本美術史B 2 西洋美術史B 2 音楽B 2 映画論B 2 日本美術史A 2 西洋美術史A 2 音楽A 2 比較文学 2 自然科学系 脳科学 2 宇宙論 2 統計学基礎 2 科学史 2 生物進化論 2 生命倫理 2 プログラム言語系 プログラム言語(1) 2 プログラム言語(2) 2 プログラム言語(3) 2 プログラム言語(4) 2 言語系 言語学A 2 言語学B 2 社会言語学A 2 社会言語学B 2 日本語教育方法論 2 人類学・民俗学系 比較神話A 2 比較神話B 2 民俗学A 2 民俗学B 2 文化人類学A 2 文化人類学B 2 比較文化論 2 社会問題系 ジェンダー論 2 国際理解教育論 2 近・現代史と民主主義 2 ボランティア論 2 健康教育学 2 地理・歴史系 人文地理学(1) 2 日本地誌学 2 自然地理学(1) 2 アークカイブズ概論 2 外国史 2 人文地理学(2) 2 世界地誌学 2 自然地理学(2) 2 日本史 2 グローバル・スタディーズ(1) 1 グローバル・スタディーズ(2) 1 グローバル・スタディーズ(3) 1 グローバル・スタディーズ(4) 1 キャリアデザイン(1) 2 キャリアデザイン(2) 2 教養総合演習(1) 4 教養総合演習(2) 4 特別教養科目 特別教養(1) 2 特別教養(2) 2 特別教養(3) 2 特別教養(4) 2 プロジェクト科目 2 ○他専攻のゴシック科目																
	自由選択科目	学部間共通科目	○自専攻科目の68単位超過分 ○他学部履修科目(30単位まで)														30単位必修	
			○総合教育科目の必修単位超過分 ○大学院履修科目(8単位まで)															
		学芸員課程科目	FLP演習A 4 FLP演習B 4 FLP演習C 4 グローバル・フェスティバル 2 専門インターンシップ 1 グローバル総合講座 2 グローバル連携ワークショップ 2 グローバル集中講義 1 グローバルメディアワークショップ 1 短期留学プログラムI 4 短期留学プログラムII 4 短期留学プログラムIII 2 短期留学プログラムIV 2 博物館概論 2 博物館資料論 2 博物館教育論 2 博物館資料保存論 2															
			最高履修単位	44				44				44				44		
	随意科目	英会話(1) 4 英会話(2) 4 英会話(3) 4 英会話(4) 4 時事英語研究 4 体育の科学(演習)A 2 体育の科学(演習)B 2 体育の科学(演習)C 2 キャリアデザイン・ワークショップ 2 ネットワークと情報リテラシー論 2 学術情報の探索・活用 2														卒業に必要な単位に含まれない		

(5) 中国言語文化専攻

1. 教育目標

飛躍的な経済発展を遂げ世界の中で存在感を増している中国。同じアジアの隣国として、わたしたちの日々の生活にも密接な関係を持っています。しかししばしば報道されるように、両国の人々の相互理解は必ずしも深まっているとは言えません。このような状況において、わたしたちが目指すことは、中国に持続的な関心を払い、中国の諸事情を正しく理解することです。そのためには、①高度な中国語運用能力を養い、様々な情報を直接自分の目と耳で確かめる、②人々の暮らし・考え方の背景となる歴史や文化について、正確な知識を身につける、ということが重要です。本専攻ではこの二点を大きな教育目標としています。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

1年次：現代中国語の正しい発音の習得から始めて、「聴く」「話す」「読む」「書く」という四技能をバランスよく養います。中国語(1)(2)では、日本人教員が授業を行います。中国語(3)と中国言語文化基礎演習(2)では、ネイティブ教員が中国語のみを使って授業を行います。中国語の学習に加えて、中国言語文化基礎演習(1)により、近現代の歴史や文化をはじめ、中国の言語・文化を学ぶための前提となる基本的な知識を身につけます。講義科目の現代中国事情、中国語学概論、中国文学概論、中国文化概論、現代中国文学では、現代中国の諸事情、言語・文字の仕組みや、文学・芸術の伝統と今日における展開などについて、幅広い視野を身につけます。

2年次：中国語(4)(5)ではより高度な中国語運用能力を養います。このほか選択科目の中国語会話、中国語作文、中国語講読を履修することで、リスニング・スピーキング・作文・読解など、自分が強化したい面を重点的に学習することができます。中国学実習・中国学研究法では、パソコンを使いながら調査・報告の技法を学びます。

3、4年次：中国語会話、中国語作文、中国語講読で引き続き実践的な中国語運用能力を養います。中国語学講義、中国文学講義、中国文化講義ではより専門的で高度な知識を身につけます。中国語学演習、中国古典文学演習、中国近現代文学演習、中国近現代文化演習、中国近現代思想演習では、専門的な文献の講読と同時に、資料調査・口頭発表・レポート執筆の方法などを学びます。4年次にはロングレポートを執筆します。選択科目の卒業論文では、指導教員の指導を受けながら、各自テーマを設定し、文献を調査し、論理的・実証的な文章にまとめます。演習における資料の調査・発表・討論・レポートや卒業論文の作成を通して、自らの中国理解が4年間で格段に深まったことを感じるはずです。

3. 系統立てた学習の方法

中国語の運用能力を高めるには、中国語そのものの学習に加えて、言語の背景となる文化について幅広く学習することが必要です。一方、中国に対する理解は、中国語で発信される情報によらなければ、深められません。言語運用能力と文化理解の間には、切り離せない関係があるのです。

中国語運用能力を高めることに主要な関心がある人も、文化理解に努力する必要があります。また、中国文化に主要な関心がある人も、中国語をしっかり勉強する必要があります。

今、新たな変化を示しつつある中国は、悠久の歴史を持つ国でもあります。現代に興味がある人が、歴史的背景にも関心を払うならば、理解はより深まります。「歴史の国」としての中国に興味を持つ人が、その関心を現代と結びつけるならば、より有意義な知識が得られます。言語のありかたを見ても、現代中国語は古代中国語の歴史的变化の結果であり、古い中国語の表現がしばしば引用されます。また、古い中国語を理解する上で、現代中国語の知識が役立つ場合もあります。「故きを温ねること」と「新しきを知ること」の並行を目指してください。

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位	
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位				
専攻科目群	基礎演習科目	中国語文化基礎演習(1) 4 中国語文化基礎演習(2) 4																8単位 必修	
	必修科目					中国学実習 2 中国学研究法 2												4単位 必修	
	選択科目	現代中国事情A		2	中国語概論A		2	現代中国文学A		2									12単位 必修
		現代中国事情B		2	中国語概論B		2	現代中国文学B		2									
		中国文学概論A		2	中国文化概論A		2									44単位 必修			
		中国文学概論B		2	中国文化概論B		2												
	初年次教育	大学生の基礎(1)		2	【2単位必修】										大学生の 基礎(1) 2単位必修				
		大学生の基礎(2)		2															
	外国語科目	A群	中国語(1)	2	中国語(3)	2	中国語(4)	2									10単位 必修		
			中国語(2)	2			中国語(5)	2											
英語読解			2	英語表現	2									4単位 必修					
B群	ドイツ語(1)	2	ドイツ語(2)	2									2単位 必修						
	フランス語(1)	2	フランス語(2)	2															
健康・スポーツ	C群	ギリシャ語(初級)	2	ラテン語(初級)	2	スペイン語(初級)	2	イタリア語(初級)	2	ロシア語(初級)	2	朝鮮語(初級)	2			2単位 必修			
		ギリシャ語(上級)	2	ラテン語(上級)	2	スペイン語(上級)	2	イタリア語(上級)	2	ロシア語(上級)	2	朝鮮語(上級)	2						
総合教育科目群	主体的な学び	体育の科学(演習)		2	【2単位必修】		運動の生理と医科学		2	健康と睡眠の科学	2	現代社会とスポーツ	2	身体文化と歴史	2	運動と心理	2	体育の科学 (演習) 2単位必修	
		＜アカデミック外国語科目(英語)＞		Introduction to Japan Studies (1)		2	Introduction to Historical Studies (2)		2	Introduction to Philosophy		2	Introduction to Comparative Literature		2			28単位 必修	
		Introduction to Japan Studies (2)		2	Introduction to Social Sciences (1)		2	Introduction to Psychology		2	Introduction to Linguistics		2						
		Introduction to Historical Studies (1)		2	Introduction to Social Sciences (2)		2	Introduction to Education Studies		2									
		＜スキルアップ外国語科目(英語)＞		Language Learning and Academic Strategies		2	Advanced Academic Writing		2	Practice for TOEFL		2							
		Extensive Reading and Vocabulary Building		2	Fast Reading		2	Practice for TOEIC		2									
		Advanced Communication		2	Extensive Listening		2	Business English		2									
		＜アカデミック外国語科目(ドイツ語)＞		Landskunde: Deutschland und Japan (1) [ドイツ日本の現代事情(1)]		2	Landskunde: Deutschland und Japan (2) [ドイツ日本の現代事情(2)]		2	Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史(1)]		2	Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史(2)]		2				
		＜スキルアップ外国語科目(ドイツ語)＞		Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1) [ハイレベルドイツ語読解(1)]		2	Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2) [ハイレベルドイツ語読解(2)]		2										
		＜アカデミック外国語科目(フランス語)＞		France d'aujourd'hui (1) [現代フランス事情(1)]		2	France d'aujourd'hui (2) [現代フランス事情(2)]		2	Histoire et culture en France (1) [フランスの歴史と文化(1)]		2	Histoire et culture en France (2) [フランスの歴史と文化(2)]		2				
＜スキルアップ外国語科目(フランス語)＞		Lectures Niveau Supérieur (1) [ハイレベルフランス語読解(1)]		2	Lectures Niveau Supérieur (2) [ハイレベルフランス語読解(2)]		2												
＜アカデミック外国語科目(中国語)＞		当代中国和日本(1) [中国語で学ぶ日本と中国(1)]		2	当代中国和日本(2) [中国語で学ぶ日本と中国(2)]		2												
＜スキルアップ外国語科目(中国語)＞		時事漢語(1) [時事中国語(1)]		2	出題留学漢語培訓(2) [留学のための中国語(2)]		2	高級漢語閱讀(1) [ハイレベル・中国語読解(1)]		2	高級漢語會話(2) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(2)]		2						
時事漢語(2) [時事中国語(2)]		2	漢語昇級考試輔導(1) [資格のための中国語(1)]		2	高級漢語閱讀(2) [ハイレベル・中国語読解(2)]		2											
出題留学漢語培訓(1) [留学のための中国語(1)]		2	漢語昇級考試輔導(2) [資格のための中国語(2)]		2	高級漢語會話(1) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(1)]		2											
共通科目	入門科目	入門・哲学	2	入門・日本文学	2	入門・歴史	2	入門・心理	2	入門・政治	2								
		入門・数学	2	入門・外国文学	2	入門・社会	2	入門・経済	2										
	哲学・ 思想系	哲学	2	印度哲学史B	2	キリスト教概説B	2	社会思想B	2	日本倫理思想史B	2	仏教概説B	2	西洋思想B	2				
		印度哲学史A	2	キリスト教概説A	2	社会思想A	2	日本倫理思想史A	2	仏教概説A	2	西洋思想A	2	社会学	2				
	法・政・ 経済系	公法概論A	2	私法概論A	2	経済原論A	2	国際法A	2	国際経済学A	2	国際政治学A	2	経済学	2				
		公法概論B	2	私法概論B	2	経済原論B	2	国際法B	2	国際経済学B	2	国際政治学B	2	政治学	2				
	文化・ 芸術系	映画論A	2	日本映画史	2	日本美術史B	2	西洋美術史B	2	音楽B	2								
		映画論B	2	日本美術史A	2	西洋美術史A	2	音楽A	2	比較文学	2								
	自然科学系	脳科学	2	宇宙論	2	統計学基礎	2	科学史	2	生物進化論	2	生命倫理	2						
		プログラム言語(1)	2	プログラム言語(2)	2	プログラム言語(3)	2	プログラム言語(4)	2										
言語系	言語学A	2	言語学B	2	社会言語学A	2	社会言語学B	2	日本語教育方法論	2									
	比較神話A	2	比較神話B	2	民俗学A	2	民俗学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	比較文化論	2					
社会問題系	ジェンダー論	2	国際理解教育論	2	近・現代史と民主主義	2	ポラリティア論	2	健康教育学	2									
	人文地理学(1)	2	日本地誌学	2	自然地理学(1)	2	アーカイブズ概論	2	外国史	2									
地理・歴史系	人文地理学(2)	2	世界地誌学	2	自然地理学(2)	2	日本史	2											
	グローバル・スタディーズ(1)	1	グローバル・スタディーズ(2)	1	グローバル・スタディーズ(3)	1	グローバル・スタディーズ(4)	1											
特別教養科目	キャリアデザイン(1)	2	キャリアデザイン(2)	2	教養総合演習(1)		4	教養総合演習(2)		4									
	特別教養(1)	2	特別教養(2)	2	特別教養(3)	2	特別教養(4)	2											
○他専攻のポシック科目																			
自由選択科目	○自専攻科目の68単位超過分														○総合教育科目の必修単位超過分				
	○他学部履修科目(30単位まで)														○大学院履修科目(8単位まで)				
	学部間 共通科目	グローバル教育リソース演習	2	グローバルICTプレゼンテーション	2	FLP演習A	4					FLP演習B	4	FLP演習C	4				
		グローバルキャリアフェスティバル	2	専門インターンシップ	1	グローバル総合講義	2	グローバル進路ワーキング	2	グローバル集中講義	1	グローバルキャリアワーキング	1						
学芸員課程科目	短期留学プログラムI	4	短期留学プログラムII	4	短期留学プログラムIII	2	短期留学プログラムIV	2											
	博物館概論	2	博物館資料論	2	博物館教育論	2	博物館資料保存論	2											
最高履修単位	44				44				44				126/176単位						
随意科目	英会話(1)		4	英会話(2)		4	英会話(3)		4	英会話(4)		4	時事英語研究		4				
	キャリアデザイン・ワークショップ		2	インターネット&情報セキュリティ論		2	体育の科学(演習)A		2	体育の科学(演習)B		2	体育の科学(演習)C		2	卒業に必要な単位に 含まれない			
	学術情報の探索・活用法		2																

(6) 日本史学専攻

1. 教育目標

日本史学は、日本にかかわる過去のいろいろな出来事を、歴史資料を通じて明らかにし、それらの因果関係を探り、その意味を解明する学問です。今日、日本やそれを取り巻く国際社会におこっている多くの出来事は突然に発生したわけではなく、歴史に根ざした長い人間の営みの所産なのです。歴史がわからなければ、現代のさまざまな問題は理解できないともいえるでしょう。また、新しい史料や考古学的な発見、埋もれた史実の解明、異なった解釈や考え方、自然科学的分析の導入が、常識化していた歴史の意味やイメージを大きく変えてしまうことも珍しくはありません。過去の人間の営みとの絶えまない対話を通じて現代の問題を考え、未来への豊かな想像力を培うのが歴史学なのです。

日本史学専攻の基本的な教育目標は、先ず何よりもさまざまな歴史資料を的確に分析し、必要とする基礎的な歴史的知識を身につけ、それを通じて歴史状況をできるだけ客観的・多角的に考察し、広い視野と深い洞察力に基づいて、その意味を解明する能力と方法を身につけることにあります。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

専攻に関する科目には、基礎演習科目、必修科目、選択科目があります。日本史学基礎演習(1)と(2)は必修で、1年次にクラス単位で週2コマ履修します。これは先史・古代・中世・近世・近現代の各時代に関する記録・文書・史書等の文献史料や考古資料等をテキストに、歴史資料の分析力を養い、基礎的な知識と研究の手法を身につけることを目的とする科目であり、(1)と(2)は時代の異なるものを学びます。2年次では基礎演習の発展科目として必修で史料演習を履修します。そのほか1、2年次で日本史学入門と日本史概説が必修となっています。

選択科目としては、2、3年次に日本古代史、日本中世史、日本近世史、日本近現代史の各時代史や考古学、古文書学のほか、古文書学演習と考古学実習があり、3、4年次には日本文化史、日本思想史、日本政治・法制史、日本社会経済史、日本家族史、対外関係史、明治維新史の部門史や、特殊なテーマの講義(日本史特講、考古学特講、記録史料学)、各時代・分野の日本史演習が開講されています。各自の興味と関心に応じて自由に科目を選べるようになっています。3、4年次の日本史演習では各時代・分野のさまざまな歴史資料を用いて、より専門的な知識や多角的な分析・考察の能力を身につけることを目指します。

3. 系統立てた学習の方法

1、2年次では、自分の興味や関心をあまり狭い特定の時代や分野に限定しない方が良いでしょう。演習や講義で指示されたテキスト・関連資料・参考文献を精読することはもちろんですが、同時に旺盛な好奇心を抱いて、博物館や遺跡を訪ねたり歴史書や文学作品の類いを大いに「濫読」することも必要です。また、課題のレポートの作成などを通じて、自分で文献や歴史資料を調べ、特定のテーマについて文章を書く訓練を怠らないことが大切です。3年次、4年次と進むにつれて、自分の専門としたい時代や分野を絞り込んでいきます。

卒業論文の研究テーマは、3年次までの演習や講義で触発された興味や問題関心に基づいて、4年次のはじめに決めます。そして、指導教授の指導・助言のもとで、自分の計画に則して参考文献を読み、関係史料を集め、研究を進めて、12月中旬までに本文20,000字程度(200字詰原稿用紙100枚程度)の卒業論文を書き上げるのです。それは、日本史学専攻における4年間の学習の成果の集大成ともいえるもので、とくに重要視されています。

Main curriculum table with columns for '区分' (Division), '系列' (Series), '科目' (Subject), '単位' (Credits), and '卒業に必要な単位' (Credits required for graduation). It is divided into '専攻科目群' (Major Subject Groups) and '総合教育科目群' (General Education Subject Groups).

(7) 東洋史学専攻

1. 教育目標

東洋史学は、欧米（古代オリエントと新大陸を含む）・日本を除いた、広大な地域の歴史を研究対象とする学問です。本専攻では、この地域に暮らす人々が築き上げてきた歴史を学ぶ過程で、以下の3つの点をみなさんに修得していただくことを、教育目標として掲げています。

1. 歴史事象を、確かな史料に基づいて、実証的に把握すること。
2. 歴史をとおして、アジア・アフリカの人間と社会を、深く理解すること。
3. 現代世界の抱えるさまざまな問題について、主体的に考えること。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

東洋史学専攻では、史料読解力と語学力の向上を重視しています。1年次必修の**東洋史学基礎演習**では、漢文と英文のテキストを使用して史料・文献の初歩的な読解力を養い、2年次必修の**史料講読**では、さらに難易度の高い史料・文献を扱います。また、興味関心に応じて、**アラビア語**や**サンスクリット**といったアジア諸言語に関する演習も、1年次から履修できます。

歴史をとおしてアジア・アフリカの人間と社会を理解する基礎を固めるために、1年次配当の必修科目・**東洋史概説(1)**では東アジアとイスラーム圏、**東洋史概説(2)**では中央ユーラシアと海域世界について、その歴史を最新の学術研究の成果に基づいて概観します。2年次必修の**東洋史学研究法**においては、歴史学の考えかたや東洋史学の歴史・方法論を学び、同じく2年次必修の**史学概論**では、歴史理論・歴史哲学に触れることによって、歴史から現代をみることの重要性や、歴史学の存在意義について考えます。

専門の講義科目には、アジア・アフリカの諸地域を網羅した地域史・時代史に関する科目群と、歴史地理学・環境史・生活史・心性史・グローバルヒストリーといった方法論に関する科目群とに分かれています。いずれも2年次から履修が可能になります。専門の演習科目としては、諸地域の史料を講読する**東アジア史演習**や**中央ユーラシア史演習**・**イスラーム地域史演習**・**アジア地域史演習**を3・4年次に選択履修し、史料読解や史料操作の具体的方法についての訓練を積んでいきます。

さらに、以上の学習の総決算として、4年次の終わりには、**卒業論文**（16,000字以上）を提出します。

3. 系統立てた学習の方法

東洋史学専攻のカリキュラムは、みなさんが専攻の教育目標を確実に達成できるように構成されていますが、系統立てて学習を進めるには、それなりの工夫も必要です。

1年次において、専攻開設の科目は、基礎演習と東洋史概説・外国語科目しか履修できないようになっていきます。史料読解力や語学力がしっかりしていないと、先々多くの局面で支障をきたしますし、概説において新しい研究動向をふまえた歴史の流れを把握しておかないと、専門科目の内容についていくことができないからです。これらの科目にしっかりと取り組み、基礎的な力を養ってください。

2年次には、史料講読・東洋史学研究法・史学概論が学習の核になります。史料講読で史料読解力と語学力を鍛えておけば、あとで後悔せずにすみます。研究法と史学概論では、歴史学の勘どころがつかめますし、それは大学で歴史学を学んだ証ともなるでしょう。専門の講義科目も履修できるようになりますが、卒業論文のことを考えて、地域史・方法論の一方に偏ることのないよう、配分には注意を払ってください。事象に関する知識だけでも、事象を扱ううえでの理論だけでも、卒業論文を仕上げることはできません。

3年次では、専門の演習科目（ゼミ）と講義科目を中心にします。ゼミは、史料読解力や語学力を高めるとともに、主体的に考える力を養う場でもあります。複数履修できますが、卒業論文の指導を受ける予定の専任教員のゼミは、必ず履修してください。また、専門の講義科目も、できるだけ3年次のうちに取りきっておくべきです。そうしておけば、4年次には、ゼミと卒業論文だけに集中できます。卒業論文の準備・執筆には非常に頭を使い、時間もかかりますので、そのための準備をあらかじめしておくことが大切なのです。

東洋史学専攻 2020年度入学生

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位	
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位		
専攻科目群	基礎演習科目	東洋史学基礎演習(1)A 2 東洋史学基礎演習(2)A 2 東洋史学基礎演習(1)B 2 東洋史学基礎演習(2)B 2																8単位必修	68 単位 必修
	必修科目	東洋史概説(1)A 2 東洋史概説(2)A 2 東洋史概説(1)B 2 東洋史概説(2)B 2 史料講読A 2 東洋史学研究法 2 史料講読B 2 史学概論 2 卒業論文 8																24単位必修	
	選択科目	日本史学専攻、西洋史学専攻のゴシック科目																12単位必修	
		東アジア古代史 2 東アジア近現代史 2 イスラーム前近代史 2 中央アジア史 2 生活史・心性史の方法 2 東アジア中世史 2 東南アジア史 2 イスラーム近現代史 2 イスラーム近現代史の方法 2 歴史地理学の方法 2 グローバルヒストリー入門 2 東アジア近世史 2 南アジア史 2 朝鮮史 2 環境史の方法 2																12単位必修	
		東洋美術史A 2 東洋考古学A 2 東洋史特論A 2 史料研究 2 東洋美術史B 2 東洋考古学B 2 東洋史特論B 2																12単位必修	
		アラビア語(1)A 2 アラビア語(2)A 2 アジア諸言語(1)A 2 アジア諸言語(2)A 2 アラビア語(1)B 2 アラビア語(2)B 2 アジア諸言語(1)B 2 アジア諸言語(2)B 2																	
		東アジア史演習(1)A 2 イスラーム地域史演習(1)A 2 東アジア史演習(3)A 2 イスラーム地域史演習(2)A 2 東アジア史演習(1)B 2 イスラーム地域史演習(1)B 2 東アジア史演習(3)B 2 イスラーム地域史演習(2)B 2																	
		東アジア史演習(2)A 2 アジア地域史演習(1)A 2 東アジア史演習(4)A 2 アジア地域史演習(3)A 2 東アジア史演習(2)B 2 アジア地域史演習(1)B 2 東アジア史演習(4)B 2 アジア地域史演習(3)B 2																	
		中央ユーラシア史演習(1)A 2 アジア地域史演習(2)A 2 中央ユーラシア史演習(2)A 2 アジア地域史演習(4)A 2 中央ユーラシア史演習(1)B 2 アジア地域史演習(2)B 2 中央ユーラシア史演習(2)B 2 アジア地域史演習(4)B 2																	
		初年次教育 大学生の基礎(1) 2 【2単位必修】 大学生の基礎(2) 2																	
外国語科目	A群	英語読解 2 英語表現 2 ドイツ語(1) 2 ドイツ語(2) 2 フランス語(1) 2 フランス語(2) 2 中国語(1) 2 中国語(2) 2																8単位必修	16 単位 必修
		B群	English Reading(1)~(4) 2 Oral Communication(1)~(4) 2 English Writing(1)~(4) 2 ドイツ語(3)~(5) 2 フランス語(3)~(5) 2 中国語(3)~(5) 2																
	C群		ギリシャ語(初級) 2 ラテン語(初級) 2 スペイン語(初級) 2 イタリア語(初級) 2 ロシア語(初級) 2 朝鮮語(初級) 2 ギリシャ語(上級) 2 ラテン語(上級) 2 スペイン語(上級) 2 イタリア語(上級) 2 ロシア語(上級) 2 朝鮮語(上級) 2																
		健康・スポーツ	体育の科学(演習) 2 【2単位必修】 運動の生理と医科学 2 健康と睡眠の科学 2 現代社会とスポーツ 2 身体文化と歴史 2 運動と心理 2 運動と食事の科学 2 スポーツと安全 2 スポーツマネジメント 2 体育・教育演習 2																
総合教育科目群	主体的な学び	＜アカデミック外国語科目(英語)＞ Introduction to Japan Studies (1) 2 Introduction to Historical Studies (2) 2 Introduction to Philosophy 2 Introduction to Comparative Literature 2 Introduction to Japan Studies (2) 2 Introduction to Social Sciences (1) 2 Introduction to Psychology 2 Introduction to Linguistics 2 Introduction to Historical Studies (1) 2 Introduction to Social Sciences (2) 2 Introduction to Education Studies 2 ＜スキルアップ外国語科目(英語)＞ Language Learning and Academic Strategies 2 Advanced Academic Writing 2 Practice for TOEFL 2 Extensive Reading and Vocabulary Building 2 Fast Reading 2 Practice for TOEIC 2 Advanced Communication 2 Extensive Listening 2 Business English 2 ＜アカデミック外国語科目(ドイツ語)＞ Landskinder, Deutschland und Japan (1) [ドイツ日本の現代事情 (1)] 2 Landskinder, Deutschland und Japan (2) [ドイツ日本の現代事情 (2)] 2 Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史 (1)] 2 Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史 (2)] 2 ＜スキルアップ外国語科目(ドイツ語)＞ Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1)[ハイレベル・ドイツ語読解 (1)] 2 Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2)[ハイレベル・ドイツ語読解 (2)] 2 ＜アカデミック外国語科目(フランス語)＞ France d'aujourd'hui (1) [現代フランス事情 (1)] 2 France d'aujourd'hui (2) [現代フランス事情 (2)] 2 Histoire et culture en France (1) [フランスの歴史と文化 (1)] 2 Histoire et culture en France (2) [フランスの歴史と文化 (2)] 2 ＜スキルアップ外国語科目(フランス語)＞ Lecture Niveau Supérieur (1) [ハイレベル・フランス語読解 (1)] 2 Lecture Niveau Supérieur (2) [ハイレベル・フランス語読解 (2)] 2 ＜アカデミック外国語科目(中国語)＞ 当代中国和日本(1) [中国語で学ぶ日本と中国 (1)] 2 当代中国和日本(2) [中国語で学ぶ日本と中国 (2)] 2 ＜スキルアップ外国語科目(中国語)＞ 時事漢語(1) [時事中国語 (1)] 2 出国留学漢語培訓(1) [留学のための中国語 (1)] 2 高級漢語閱讀(1) [ハイレベル・中国語読解 (1)] 2 高級漢語会話(1) [ハイレベル・中国語コミュニケーション (1)] 2 時事漢語(2) [時事中国語 (2)] 2 漢語昇級考試輔導(1) [資格のための中国語 (1)] 2 高級漢語閱讀(2) [ハイレベル・中国語読解 (2)] 2 出国留学漢語培訓(2) [留学のための中国語 (2)] 2 漢語昇級考試輔導(2) [資格のための中国語 (2)] 2 高級漢語会話(2) [ハイレベル・中国語コミュニケーション (2)] 2																28 単位 必修	
		入門科目	入門・哲学 2 入門・日本文学 2 入門・歴史 2 入門・心理 2 入門・政治 2 入門・数学 2 入門・外国文学 2 入門・社会 2 入門・経済 2																
		共通科目	哲学・思想系	哲学 2 印度哲学史B 2 キリスト教概説B 2 社会思想B 2 日本倫理思想史B 2 仏教概説B 2 西洋思想B 2 印度哲学史A 2 キリスト教概説A 2 社会思想A 2 日本倫理思想史A 2 仏教概説A 2 西洋思想A 2 倫理学 2															
			法律・政治・経済系	公法概論A 2 私法概論A 2 経済原論A 2 国際法A 2 国際経済学A 2 国際政治学A 2 経済学 2 公法概論B 2 私法概論B 2 経済原論B 2 国際法B 2 国際経済学B 2 国際政治学B 2 政治学 2															
			文化・芸術系	映画論A 2 日本映画史 2 日本美術史B 2 西洋美術史B 2 音楽B 2 映画論B 2 日本美術史A 2 西洋美術史A 2 音楽A 2 比較文化 2															
			自然科学系	脳科学 2 宇宙論 2 統計学基礎 2 科学史 2 生物進化論 2 生命倫理 2															
			プログラム言語系	プログラム言語(1) 2 プログラム言語(2) 2 プログラム言語(3) 2 プログラム言語(4) 2															
			言語系	言語学A 2 言語学B 2 社会言語学A 2 社会言語学B 2 日本語教育方法論 2															
			人類学・現代学系	比較神話A 2 比較神話B 2 民俗学A 2 民俗学B 2 文化人類学A 2 文化人類学B 2 比較文化論 2															
			社会問題系	ジェンダー論 2 国際理解教育論 2 近・現代史と民主主義 2 ボランティア論 2 健康教育学 2															
地理・歴史系	人文地理学(1) 2 日本地誌学 2 自然地理学(1) 2 アーカイブズ概論 2 外国史 2 人文地理学(2) 2 世界地誌学 2 自然地理学(2) 2 日本史 2																		
	グローバル・スタディーズ(1) 1 グローバル・スタディーズ(2) 1 グローバル・スタディーズ(3) 1 グローバル・スタディーズ(4) 1 キャリアデザイン(1) 2 キャリアデザイン(2) 2 教養総合演習(1) 4 教養総合演習(2) 4 特別教養(1) 2 特別教養(2) 2 特別教養(3) 2 特別教養(4) 2 プロジェクト科目 2																		
○他専攻のゴシック科目																			
自由選択科目	学部間共通科目	○自専攻科目の68単位超過分 ○他学部履修科目(30単位まで)																○総合教育科目の必修単位超過分 ○大学院履修科目(8単位まで)	
		グローバルICT教育実践演習 2 グローバルICTイノベーション 2 FLP演習A 4 FLP演習B 4 FLP演習C 4 グローバル・ジャーナリズム 2 専門インターンシップ 1 グローバル総合講座 2 グローバル遠隔ラーニング 2 グローバル集中講義 1 グローバルアクティブラーニング 1																	
		短期留学プログラムI 4 短期留学プログラムII 4 短期留学プログラムIII 2 短期留学プログラムIV 2																	
		博物館概論 2 博物館資料論 2 博物館教育論 2 博物館資料保存論 2																	
学芸員課程科目																			
最高履修単位 44 44 44 44 126/176単位																			
随意科目	英会話(1) 4 英会話(2) 4 英会話(3) 4 英会話(4) 4 時事英語研究 4 体育の科学(演習)A 2 体育の科学(演習)B 2 体育の科学(演習)C 2 キャリアデザイン・ワークショップ 2 インターネットと情報セキュリティ論 2 学術情報の活用・活用法 2																卒業に必要な単位に含まれない		

(8) 西洋史学専攻

1. 教育目標

西洋史学専攻の教育目標は次の二つの点にまとめることができます。第一に、異文化にたいする豊かな感性を養うこと。現代は国際化社会といわれ、世界の情報を瞬時にして入手することができます。しかし、その情報をより深く読み解くためには、情報の発信源の歴史を理解することが必要であり、また、そのような作業を通してこそはじめて異文化との真の意味での交流も可能になるはずで。第二は、自ら主体的に問題を設定し、必要な情報を蒐集し、分析し、最後に自分独自の見解をつくり上げることができる、そのような人材を育成することです。歴史を学ぶとは、「過去」を通じて私たちが生きる「現在」を理解することにほかなりません。21世紀を生きてゆくみなさんが歴史を学ぶ意義はそこにあります。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

本専攻のカリキュラムは、4年次の**卒業論文**を中軸にすえて構成されています。まず、1年次に二つの**西洋史学基礎演習**がもうけられており、それぞれ西洋史学の導入教育をうけ、英文テキストの読解法を学びます。2年次には**外書講読**において英語、仏語および独語のいずれかによる外国語文献の読解を行います。3、4年次では、**西洋史演習**、**仏語演習**、**独語演習**においてより専門的な文献を読むこととなります。そして、3年次には**西洋史学特別演習**を必ず受講しなければなりません。専任教員が全員担当し、学生はそれぞれ希望する教員を選択することができます。そこでは日本語の文献を用いて、学生一人ひとりが順番で研究報告を行い、その内容を文章にまとめていく訓練を受けます。これは卒業論文作成のためのもっとも重要な準備作業となります。講義科目としては、全員必修の**西洋史概説**にはじまって、選択科目の**古代史**、**中世史**、**近世史**、**近現代史**、**各国史(1)～(5)**が開講されており、それぞれの関心に応じて受講することができます。最後に、4年次には各自希望する専任教員のもとで個別指導を受けつつ**卒業論文**を書くこととなります。

3. 系統立てた学習の方法

西洋史学専攻の**卒業論文**は、15,000字以上の分量が求められます。中身も、自ら問題を設定し、独自に分析したものでなければなりません。たんなる感想文でも、本の要約でもありません。そうとう厳しいものだと心得てください。したがって、専門科目のみならず共通科目や他専攻の科目（ゴシック科目）もそのことを念頭におきつつ履修すると良いでしょう。たとえば、宗教史に関心があれば、宗教学や神話学の講義を受講するというように。歴史学は総合的な学問です。旺盛な好奇心をもって、さまざまな領域に果敢に挑戦することが大切なのです。

4. 図書館の利用

西洋史学専攻図書室と中央図書館には、卒業論文は勿論のこと、レポートやゼミ報告等々に使えるような資料が、とくに和文であれば、まず間違いなく所蔵されています。この「宝の山」を掘り尽くすためには、出来るだけ早いうちから図書の検索方法をマスターしておく必要があります。

西洋史学専攻 2020年度入学生

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位	
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位		
専攻科目群	基礎演習科目	西洋史学基礎演習(1) 4 西洋史学基礎演習(2) 4																8単位必修	
	必修科目	西洋史概説A 2								西洋史学特別演習 4				卒業論文 8				20単位必修	
		西洋史概説B 2																20単位必修	
	選択科目	日本史学専攻、東洋史学専攻のゴシック科目																12単位必修	
西洋古代史A 2		西洋中世史A 2		西洋近世史A 2		西洋近現代史A 2		西洋各国史(1)A 2		西洋各国史(2)A 2		西洋各国史(3)A 2		西洋各国史(4)A 2		20単位必修			
西洋古代史B 2		西洋中世史B 2		西洋近世史B 2		西洋近現代史B 2		西洋各国史(1)B 2		西洋各国史(2)B 2		西洋各国史(3)B 2		西洋各国史(4)B 2		20単位必修			
								仏語演習(1) 4		西洋史演習(1) 4		仏語演習(2) 4		西洋史演習(4) 4		8単位必修			
								独語演習(1) 4		西洋史演習(2) 4		独語演習(2) 4		西洋史演習(5) 4		8単位必修			
										西洋史演習(3) 4				西洋史演習(6) 4		8単位必修			
総合教育科目群	初年次教育		大学生の基礎(1) 2		【2単位必修】												大学生の基礎(1) 2単位必修		
			大学生の基礎(2) 2														2単位必修		
	外国語科目	A群	英語読解 2		英語表現 2												10単位必修		
			ドイツ語(1) 2		ドイツ語(3) 2														
			ドイツ語(2) 2																
			フランス語(1) 2		フランス語(3) 2										6単位必修				
			フランス語(2) 2																
			中国語(1) 2		中国語(3) 2														
			中国語(2) 2																
			English Reading(1)~(4) 2		Oral Communication(1)~(4) 2		English Writing(1)~(4) 2		ドイツ語(4)~(6) 2		フランス語(4)~(6) 2		中国語(4)~(6) 2						
		C群		ギリシャ語(初級) 2		ラテン語(初級) 2		スペイン語(初級) 2		イタリア語(初級) 2		ロシア語(初級) 2		朝鮮語(初級) 2					
				ギリシャ語(上級) 2		ラテン語(上級) 2		スペイン語(上級) 2		イタリア語(上級) 2		ロシア語(上級) 2		朝鮮語(上級) 2					
健康・スポーツ		体育の科学(演習) 2		【2単位必修】		運動の生理と医科学 2		健康と睡眠の科学 2		現代社会とスポーツ 2		身体文化と歴史 2		運動と心理 2		体育の科学(演習) 2単位必修			
						運動と食事の科学 2		スポーツと安全 2		スポーツとマネージメント 2		体育・教育演習 2							
主体的な学び	<アカデミック外国語科目(英語)>																		
			Introduction to Japan Studies (1) 2		Introduction to Historical Studies (2) 2		Introduction to Philosophy 2		Introduction to Comparative Literature 2										
			Introduction to Japan Studies (2) 2		Introduction to Social Sciences (1) 2		Introduction to Psychology 2		Introduction to Linguistics 2										
			Introduction to Historical Studies (1) 2		Introduction to Social Sciences (2) 2		Introduction to Education Studies 2												
	<スキルアップ外国語科目(英語)>																		
			Language Learning and Academic Strategies 2		Advanced Academic Writing 2		Practice for TOEFL 2												
			Extensive Reading and Vocabulary Building 2		Fast Reading 2		Practice for TOEIC 2												
			Advanced Communication 2		Extensive Listening 2		Business English 2												
	<アカデミック外国語科目(ドイツ語)>																		
			Landeskunde: Deutschland und Japan (1) [ドイツと日本の現代事情(1)] 2		Landeskunde: Deutschland und Japan (2) [ドイツと日本の現代事情(2)] 2		Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史(1)] 2		Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史(2)] 2										
	<スキルアップ外国語科目(ドイツ語)>																		
			Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1) [ハイレベル・ドイツ語読解(1)] 2		Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2) [ハイレベル・ドイツ語読解(2)] 2														
	<アカデミック外国語科目(フランス語)>																		
			France d'aujourd'hui (1) [現代フランス事情(1)] 2		France d'aujourd'hui (2) [現代フランス事情(2)] 2		Histoire et culture en France (1) [フランスの歴史と文化(1)] 2		Histoire et culture en France (2) [フランスの歴史と文化(2)] 2										
	<スキルアップ外国語科目(フランス語)>																		
			Lecture Niveau Supérieur (1) [ハイレベル・フランス語読解(1)] 2		Lecture Niveau Supérieur (2) [ハイレベル・フランス語読解(2)] 2														
	<アカデミック外国語科目(中国語)>																		
			当代中国和日本(1) [中国語で学ぶ日本と中国(1)] 2		当代中国和日本(2) [中国語で学ぶ日本と中国(2)] 2														
	<スキルアップ外国語科目(中国語)>																		
			時事漢語(1) [時事中国語(1)] 2		出国留学漢語培訓(2) [留学のための中国語(2)] 2		高級漢語閱讀(1) [ハイレベル・中国語読解(1)] 2		高級漢語會話(2) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(2)] 2										
		時事漢語(2) [時事中国語(2)] 2		漢語昇級考試輔導(1) [資格のための中国語(1)] 2		高級漢語閱讀(2) [ハイレベル・中国語読解(2)] 2		高級漢語會話(1) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(1)] 2											
		出国留学漢語培訓(1) [留学のための中国語(1)] 2		漢語昇級考試輔導(2) [資格のための中国語(2)] 2		高級漢語閱讀(1) [ハイレベル・中国語読解(1)] 2		高級漢語會話(1) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(1)] 2											
入門科目		入門・哲学 2		入門・日本文学 2		入門・歴史 2		入門・心理 2		入門・政治 2									
		入門・数学 2		入門・外国文学 2		入門・社会 2		入門・経済 2											
共通科目		哲学・思想系		哲学 2		印度哲学史B 2		キリスト教概説B 2		社会思想B 2		日本倫理思想史B 2		仏教概説B 2		西洋思想B 2			
				印度哲学史A 2		キリスト教概説A 2		社会思想A 2		日本倫理思想史A 2		仏教概説A 2		西洋思想A 2		倫理学 2			
				法律・政治・経済系		公法概論A 2		私法概論A 2		経済原論A 2		国際法A 2		国際経済学A 2		国際政治学A 2		経済学 2	
						公法概論B 2		私法概論B 2		経済原論B 2		国際法B 2		国際経済学B 2		国際政治学B 2		政治学 2	
				文化・芸術系		映画論A 2		日本映画史 2		日本美術史B 2		西洋美術史B 2		音楽B 2					
						映画論B 2		日本美術史A 2		西洋美術史A 2		音楽A 2		比較文化 2					
				自然科学系		脳科学 2		宇宙論 2		統計学基礎 2		科学史 2		生物進化論 2		生命倫理 2			
				プログラム言語系		プログラム言語(1) 2		プログラム言語(2) 2		プログラム言語(3) 2		プログラム言語(4) 2							
				言語系		言語学A 2		言語学B 2		社会言語学A 2		社会言語学B 2		日本語教育方法論 2					
				人類学・民俗学系		比較神話A 2		比較神話B 2		民俗学A 2		民俗学B 2		文化人類学A 2		文化人類学B 2		比較文化論 2	
		社会問題系		ジェンダー論 2		国際理解教育論 2		近・現代史と民主主義 2		ポランティア論 2		健康教育学 2							
		地理・歴史系		人文地理学(1) 2		日本地誌学 2		自然地理学(1) 2		アーカイブズ概論 2		外国史 2							
				人文地理学(2) 2		世界地誌学 2		自然地理学(2) 2		日本史 2									
				グローバル・スタディーズ(1) 1		グローバル・スタディーズ(2) 1		グローバル・スタディーズ(3) 1		グローバル・スタディーズ(4) 1									
				キャリアデザイン(1) 2		キャリアデザイン(2) 2						教養総合演習(1) 4		教養総合演習(2) 4					
		特別教養科目		特別教養(1) 2		特別教養(2) 2		特別教養(3) 2		特別教養(4) 2									
								プロジェクト科目 2											
		○他専攻のゴシック科目																	
自由選択科目	○自専攻科目の68単位超過分																		
	○他学部履修科目(30単位まで)																		
	○総合教育科目の必修単位超過分																		
	○大学院履修科目(8単位まで)																		
学部間共通科目		グローバルICT教育リソース演習 2		グローバルICTプレゼンテーション 2		FLP演習A 4		FLP演習B 4		FLP演習C 4		FLP演習D 4							
		グローバル・チュートリアル 2		専門インターンシップ 1		グローバル総合講座 2		グローバル連携ラーニング 2		グローバル集中講義 1		グローバルアクティブラーニング 1							
		短期留学プログラムI 4		短期留学プログラムII 4		短期留学プログラムIII 2		短期留学プログラムIV 2											
学芸員課程科目				博物館概論 2		博物館資料論 2		博物館教育論 2		博物館資料保存論 2									
最高履修単位		44		44		44		44		44		44		44		126/176単位			
随意科目		英会話(1) 4		英会話(2) 4		英会話(3) 4		英会話(4) 4		時事英語研究 4		体育の科学(演習)A 2		体育の科学(演習)B 2		体育の科学(演習)C 2			
		キャリアデザイン・ワークショップ 2		インターネットと情報モラル論 2		学術情報の探索・活用 2													

68単位必修

16単位必修

6単位必修

126単位必修

28単位必修

30単位必修

126/176単位

卒業に必要な単位に含まれない

(9) 哲学専攻

1. 教育目標

哲学専攻は、西洋哲学と東洋哲学の二つの分野をもっています。西洋哲学は古代・中世・近代・現代に分けられ、東洋哲学については、中国哲学と日本思想史とに二分されます。中国哲学はさらに先秦漢代の思想と宋明の思想とに大きく分けられます。

本専攻では上であげたなかから、自分をもっとも気に入った思想を選んで学ぶことができます。その方法は講義を聴いて単に知識を得ることにとどまりません。わが専攻がもっとも重視するのは、原典の詳しい読解を通じて先人の思想を解釈し、その作業のなかからみずからの思索力を養うということです。

ひとこと言えば、むずかしい原典を読むのが哲学専攻の日常です。すぐれた古典は、ひとりだけで読んだのではなかなか十分には理解できません。やはりその道の先輩の指導による訓練が必要なのです。わが哲学専攻はそのような訓練をする場です。哲学専攻での勉学によって、広く古今東西の思想を身につけるとともに、ものごとを根本的に考える習慣や、人生の諸々の問題に直面してよい解決法を探り出す力を養い、しっかりした人格をつくってほしいと思っています。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

1年次では英語と漢文の**哲学基礎演習**、2年次ではドイツ語・フランス語・漢文のいずれかの**原典講読**があり、全員がこれを履修しなければなりません。これによって東西の哲学の基礎知識が身につくとともに、文献の論理的読解力も養われます。この力が3、4年次での**哲学講読**や**哲学演習**で哲学の基本文献を読むときに、とても役に立つのです。講義には、大きく分けて哲学史・概論と哲学講義の二種類があります。**哲学史**や**概論**によって、哲学の歴史や多くの思想を広く学ぶことができます。他方**哲学講義**では、特定のテーマにしぼって古今東西の哲学者の思想を身につけることができます。なお、**卒業論文**（後述）は必修です。

3. 系統立てた学習の方法

1、2年次では自分の知的興味・関心をさほど限定する必要はありません。むしろ概論・講義や基礎演習・原書講読で出会ったテキスト・文献・参考書などを幅広く読んでみるのもよいでしょう。旺盛な好奇心を抱いて、思想関係の本を濫読するのも悪くありません。不思議なことに、たくさん読むと、いい文章が書けるようになるものです。また授業のレポートの作成などを通じて、論理的で哲学的な文章を書くことも、できるようになるでしょう。3、4年次に進むにつれて、自分の専門としたい分野を決めなければなりません。必修である卒業論文のテーマは、3年次までの演習・講義で触発された主題や自分自身の関心に応じて4年次のはじめに決めることとなります。それに先立つ3年次の夏休み前（6月下旬）に暫定的なテーマを決め、それに応じて指導教員が決まります。その先生の指導と助言のもと、自分の関心に沿って、一年間で卒業論文を書き上げていきます。4年次の12月中旬ころまでに20,000字前後の卒業論文を仕上げます。卒業論文は哲学専攻での勉強の集大成とも言えるもので、とくに重要視されています。

哲学専攻 2020年度入学生

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位			
専攻科目群	基礎演習科目	哲学基礎演習(1)	4														8単位必修	
	必修科目	西洋哲学史(1)	2	西洋哲学史(2)	2	西洋哲学史(3)	2	中国哲学史(1)	2	哲学概論(1)	2						28単位必修	
		西洋哲学史(2)	2				西洋哲学史(4)	2	中国哲学史(2)	2	哲学概論(2)	2			卒業論文	8		
	選択科目					倫理学概論	4	倫理思想史	4	現代論理学	4	科学哲学研究	4				8単位必修	
									哲学講義(1)	2	哲学講義(6)	2	哲学講義(11)	2	哲学講義(16)	2	12単位必修	
									哲学講義(2)	2	哲学講義(7)	2	哲学講義(12)	2	哲学講義(17)	2		
										哲学講義(3)	2	哲学講義(8)	2	哲学講義(13)	2	哲学講義(18)	2	
									哲学講義(4)	2	哲学講義(9)	2	哲学講義(14)	2	哲学講義(19)	2	12単位必修	
									哲学講義(5)	2	哲学講義(10)	2	哲学講義(15)	2	哲学講義(20)	2		
									哲学演習(1)	4	哲学演習(5)	4	哲学演習(9)	4	哲学演習(13)	4		
									哲学演習(2)	4	哲学演習(6)	4	哲学演習(10)	4	哲学演習(14)	4		
									哲学演習(3)	4	哲学演習(7)	4	哲学演習(11)	4	哲学演習(15)	4		
									哲学演習(4)	4	哲学演習(8)	4	哲学演習(12)	4	哲学演習(16)	4		
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎(1)	2	【2単位必修】													大学生の基礎(1) 2単位必修	
	外国語科目	A群	英語読解	2	英語表現	2												10単位必修
			ドイツ語(1)	2	ドイツ語(3)	2												
			フランス語(1)	2	フランス語(3)	2												
			中国語(1)	2	中国語(3)	2												
			中国語(2)	2														
		B群	English Reading(1)~(4)	2	Oral Communication(1)~(4)	2	English Writing(1)~(4)	2	ドイツ語(4)~(6)	2	フランス語(4)~(6)	2	中国語(4)~(6)	2				
	C群	ギリシャ語(初級)	2	ラテン語(初級)	2	スペイン語(初級)	2	ロシア語(初級)	2	朝鮮語(初級)	2					6単位必修		
	健康・スポーツ	体育の科学(演習)	2	【2単位必修】	運動の生理と医科学	2	健康と睡眠の科学	2	現代社会とスポーツ	2	身体文化と歴史	2	運動と心理	2			体育の科学(演習) 2単位必修	
	主體的な学び	＜アカデミック外国語科目(英語)＞	Introduction to Japan Studies (1)	2	Introduction to Historical Studies (2)	2	Introduction to Philosophy	2	Introduction to Comparative Literature	2								
＜スキルアップ外国語科目(ドイツ語)＞		Language Learning and Academic Strategies	2	Advanced Academic Writing	2	Practice for TOEFL	2											
＜アカデミック外国語科目(フランス語)＞		Lecture Niveau Supérieur (1)[ハイレベル・フランス語読解(1)]	2	Lecture Niveau Supérieur (2)[ハイレベル・フランス語読解(2)]	2													
＜アカデミック外国語科目(中国語)＞		当代中国和日本(1)[中国語で学ぶ日本と中国(1)]	2	当代中国和日本(2)[中国語で学ぶ日本と中国(2)]	2													
＜アカデミック外国語科目(韓国語)＞		時事漢語(1)[時事中国語(1)]	2	時事漢語(2)[時事中国語(2)]	2	韓国語検定試験対策(1)[資格のための中国語(1)]	2	韓国語検定試験対策(2)[資格のための中国語(2)]	2									
＜アカデミック外国語科目(日本語)＞		時事漢語(1)[時事中国語(1)]	2	時事漢語(2)[時事中国語(2)]	2	韓国語検定試験対策(1)[資格のための中国語(1)]	2	韓国語検定試験対策(2)[資格のための中国語(2)]	2									
＜アカデミック外国語科目(英語)＞		Language Learning and Academic Strategies	2	Advanced Academic Writing	2	Practice for TOEFL	2											
＜アカデミック外国語科目(ドイツ語)＞		Lecture Niveau Supérieur (1)[ハイレベル・フランス語読解(1)]	2	Lecture Niveau Supérieur (2)[ハイレベル・フランス語読解(2)]	2													
＜アカデミック外国語科目(中国語)＞		当代中国和日本(1)[中国語で学ぶ日本と中国(1)]	2	当代中国和日本(2)[中国語で学ぶ日本と中国(2)]	2													
＜アカデミック外国語科目(韓国語)＞		時事漢語(1)[時事中国語(1)]	2	時事漢語(2)[時事中国語(2)]	2	韓国語検定試験対策(1)[資格のための中国語(1)]	2	韓国語検定試験対策(2)[資格のための中国語(2)]	2									
＜アカデミック外国語科目(日本語)＞		時事漢語(1)[時事中国語(1)]	2	時事漢語(2)[時事中国語(2)]	2	韓国語検定試験対策(1)[資格のための中国語(1)]	2	韓国語検定試験対策(2)[資格のための中国語(2)]	2									
入門科目		入門・哲学	2	入門・日本文学	2	入門・歴史	2	入門・心理	2	入門・政治	2							
共通科目		哲学	2	印度哲学史B	2	キリスト教概説B	2	キリスト教概説A	2	日本倫理思想史B	2	仏教概説B	2	西洋思想B	2			
		印度哲学史A	2	キリスト教概説A	2	社会思想A	2	日本倫理思想史A	2	仏教概説A	2	西洋思想A	2	倫理学	2			
		法政・政治・経済系	公法概論A	2	私法概論A	2	経済原論A	2	国際法A	2	国際経済学A	2	国際政治学A	2	経済学	2		
	公法概論B	2	私法概論B	2	経済原論B	2	国際法B	2	国際経済学B	2	国際政治学B	2	政治学	2				
	文化・芸術系	映画論A	2	日本映画史	2	日本美術史B	2	西洋美術史B	2	音楽B	2							
	映画論B	2	日本美術史A	2	西洋美術史A	2	音楽A	2	比較文学	2								
	自然科学系	脳科学	2	宇宙論	2	統計学基礎	2	科学史	2	生物進化論	2	生命倫理	2					
	プログラム言語系	プログラム言語(1)	2	プログラム言語(2)	2	プログラム言語(3)	2	プログラム言語(4)	2									
	言語学系	言語学A	2	言語学B	2	社会言語学A	2	社会言語学B	2	日本語教育方法論	2							
	人類学・民俗学系	比較神話A	2	比較神話B	2	民俗学A	2	民俗学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	比較文化論	2			
社会問題系	ジェンダー論	2	国際理解教育論	2	近・現代史と民主主義	2	ポランティア論	2	健康教育学	2								
地理・歴史系	人文地理学(1)	2	日本地誌学	2	自然地理学(1)	2	アークライズ概論	2	外国史	2								
	人文地理学(2)	2	世界地誌学	2	自然地理学(2)	2	日本史	2										
特別授業科目	グローバル・スタディーズ(1)	1	グローバル・スタディーズ(2)	1	グローバル・スタディーズ(3)	1	グローバル・スタディーズ(4)	1										
	キャリアデザイン(1)	2	キャリアデザイン(2)	2					教養総合演習(1)	4			教養総合演習(2)	4				
	特別授業(1)	2	特別授業(2)	2	特別授業(3)	2	特別授業(4)	2										
○他専攻のゴシック科目																		
自由選択科目	学部間共通科目	○専攻科目の68単位超過分				○総合教育科目の必修単位超過分				○大学院履修科目(8単位まで)								30単位必修
	学芸員課程科目	グローバルICT教育実践演習 2 グローバルICTアプリケーション 2				FLP演習A 4				FLP演習B 4				FLP演習C 4				
		グローバル・フェスティバル 2 専門インターンシップ 1				グローバル総合講座 2 グローバル遠隔トレーニング 2 グローバル集中講座 1 グローバルアクティブラーニング 1												
	短期留学プログラムⅠ 4 短期留学プログラムⅡ 4				短期留学プログラムⅢ 2 短期留学プログラムⅣ 2													
				博物館概論 2 博物館資料論 2														
				博物館教育論 2 博物館資料保存論 2														
最高履修単位数	44				44				44				44				126/176単位	
随意科目	英会話(1) 4 英会話(2) 4				英会話(3) 4 英会話(4) 4				時事英語研究 4									
	体育の科学(演習)A 2				体育の科学(演習)B 2				体育の科学(演習)C 2									

(10) 社会学専攻

1. 教育目標

社会学専攻では、多様な問題を抱える現代社会に立ち向かい、新しい社会のあり方を提案し、構想し、実践していく学生を育てようとしています。とりわけ当専攻では、三つの「知」を伸ばすことを目標に、教育・研究活動を行います。①「Visionary時代を読み解く知」：ここでは、歴史から学び未来を見通す力を養います。②「Clinical微細に観察する知」：この領域では、地域社会や人間関係で起こる現象を精細に分析検討する力を養います。最後に③「Globalグローバルに思考する知」：ここでは、地球規模で起こっている諸現象を大きくまとめて観察する力を養います。この三つの「知」の根本となるのが社会調査と社会理論です。社会調査に関わる様々な授業では、実際に社会で起こっていることをデータにもとづいて観察し、理解する方法を学びます。また社会理論に関わる様々な授業では、社会を理解するための多様な見方や考え方を学びます。

過去から未来。微細な空間とグローバルな世界。この時間軸と空間軸を縦横に駆け抜けるような学習によって得られる洞察力や観察力は、大学卒業後の職業選択さらには将来の人生設計においても、大きな力を発揮します。毎日の授業から知的な刺激を受け、学びを深め、新しい社会の姿を提案し創造することのできる社会構想者——これが中央社会学の創る人材です。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

社会学専攻では、基礎となる社会調査の技法と社会理論を学び、それを応用する社会構想のトレーニングまで、三つの「知」に関わる総合的なカリキュラムを用意しています。

調査については、基礎として1年次に**社会学基礎演習(1) A・B**、**社会調査法(1) (基礎)**および**社会統計学概論**を学びます。2年次では、当専攻の名物である**社会調査実習(1)～(4)**で、インタビュー、フィールドワーク、アンケート、ドキュメント分析という四つの調査技法を実習形式で訓練します。他にも**社会調査法(2)**、**(3)**や、**国際フィールドワーク論**などでより深い調査法について学ぶこともできます。

社会学の理論や専門知識については、まず基礎として**社会学概論 A・B**、**社会学史 A・B**を1年次で学びます。そして2年次以降には、三つの「知」を深めるための専門科目として**理論社会学**、**グローバリゼーション**、**地域社会**、**社会階層**、**家族**、**宗教**、**文化**、**産業・労働**、**政治**、**環境**、**社会運動**、**社会問題**、**社会政策**、**臨床社会学**が置かれるとともに、時代の様々な課題を読み解くための**現代社会研究(1)～(10)**が置かれています。とりわけグローバルな知については、**グローバル・スタディーズ**での海外訪問、**グローバル・ソシオロジー・プログラム**や**Introduction to Social Sciences**など英語開講科目への参加も可能です。

最後に、三つの「知」を応用し、周囲と対話をしながら、社会構想者のトレーニングを提供するのが3・4年次の**社会学演習**となります。演習としては、専任教員の担当する6つの**演習**だけでなく、学外の著名な研究者による5つの**演習**、**社会情報学専攻(情報コミュニケーションコース)**の**演習**も履修できます。

3. 系統立てた学習の方法

1年次は必修科目が多く、社会学専攻の教育目標である三つの「知」の習得にとって必須の技法・理論を学ぶこととなります。2年次は必修科目の**社会調査実習**が中心となります。社会学的な「知」を広げるためのさまざまな専門科目や**現代社会研究**も選択できます。他専攻・FLP・他学部・協定のある大妻女子大学にも社会学関連科目があり、受講できます。3年次からは必修科目の**演習**が中心となります。**演習**は原則として、二年間同じ教員の演習を履修することになり、演習の担当教員は、**卒業論文・卒業研究論文**の指導教員となります。2年次までに、自分の研究したいテーマについて考え、自分に合った指導教員を慎重に選びましょう。4年次以上の履修する**演習**は、**卒業論文**ないしは**卒業研究論文**の合格をもって単位が与えられます。**卒業論文・卒業研究論文**は、社会構想者をめざす最重要のトレーニングとなります。学生生活の集大成を志してください。

社会学専攻 2020年度以降入学生

Table with columns for course categories (e.g., 基礎演習科目, 必修科目, 選択科目), subjects, credit units, and graduation requirements. It details the curriculum for the Sociology Major, including core courses and elective options.

(11) 社会情報学専攻

1. 教育目標

コンピュータやインターネットをはじめとする情報技術の目覚ましい進歩は、情報の流通・蓄積・利用に大きな変化をもたらしています。このような社会的潮流の中、社会情報学専攻では、伝統的な学問分野を押し広げ、これからの社会を理解し、人間や組織と情報の新たな、そして健全な関係を構築することに貢献する教育と研究を進めています。

本専攻には、情報コミュニケーションと図書館情報学の2つのコースが設けられています。

情報コミュニケーションコースは、メディアや情報が鍵を握る現代社会に対応できる学生を育てます。ディシプリンとしての社会情報学の視点を基盤に、メディア・コミュニケーションやメディア文化に関する理論と実態を学び、社会調査やデータ処理を実践的に習得し、現在の、そしてこれからの社会を能動的・科学的に分析する力を身につけます。

図書館情報学コースは、システムエンジニア、ライブラリアン（司書）、データベースサーチャーなどの情報管理のスペシャリストを養成する実学的なコースです。単なる職業教育にとどまらず、社会情報学の理論や情報処理の技術、それに冊子、電子を問わず広く情報メディアの知識を基礎にして、情報の収集・整理・蓄積・検索といった情報管理技術の全体像を立体的に理解し、それを現実の問題に応用できる力を養うことを目指しています。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

社会情報学専攻のカリキュラムの第一の特色は、数多くの専門科目を開設している点です。これは情報という観点から現代社会をとらえる視点が極めて多くあることに対応しています。このため、学生それぞれが科目群を参考にしつつ、自らの関心に基づき、視野を広げたり、知識を深めたりすることができます。

第二の特色は、1人1台のコンピュータを使う情報処理の実習が多く用意されている点です。必修のプログラミング(1)～(2)に加え、情報技術に関する多くの選択科目が用意されており、本気で勉強すれば情報処理関係の資格試験に合格することや教員免許（情報）の取得も可能です。

第三の特色は、3・4年次のゼミ（演習）選択の自由度が高い点です。情報コミュニケーションコースの学生は図書館情報学コースや社会学専攻のゼミに所属すること、また図書館情報学コースの学生は情報コミュニケーションコースのゼミに所属することもできます。自らの意志で学びを広げましょう。

3. 系統立てた学習の方法

社会情報学専攻には、多彩な専門科目群が用意されており、学生の関心に沿った多様な学習が可能ですが、自覚的に一つまたは二つの柱を立てての学習をおすすめします。その方が、専門を深めると同時に、それを中心に広い視野をも持つというバランスのとれた知識習得ができるからです。具体的には、「社会情報学の基礎」を踏まえた上で、「メディア・文化研究」、「データサイエンス・社会調査」、「情報システム学」、「図書館情報学」（司書資格の取得も含む）などの柱を中心に学習を進めましょう。

大学の特徴の一つは、専門性を明確にして勉強することです。早い段階でこれらの柱となるトピックを選び、少なくとも一つのテーマについて掘り下げて研究するために、体系的に関連科目を履修してください。分からないことがあれば、教員に遠慮なく質問してください。教員は、学生の主体的学習の支援者でもあるのです。

そのためには皆さんが、自分から積極的に勉強に取り組むことが必要です。ぜひ、幅広い教養と深い専門性を併せ持つ、心豊かな現代人を目指してください。

社会情報学専攻 情報コミュニケーションコース 2020年度入学生

Table with columns for '区分' (Division), '系列' (Series), '科目' (Subjects), '単位数' (Credits), and '卒業に必要な単位' (Credits required for graduation). It details the curriculum for the Social Informatics Specialization, Information Communication Course for 2020 entrants, including 1st to 4th year subjects and elective options.

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位			
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位						
専攻科目群	基礎演習科目	社会情報学基礎演習(1)A 2 社会情報学基礎演習(1)B 2				社会情報学基礎演習(2)A 2 社会情報学基礎演習(2)B 2								8単位必修							
	必修科目	社会情報学概論(1) 2 プログラミング(1) 2 社会情報学概論(2) 2 プログラミング(2) 2 データサイエンス 2 図書館情報学概論 2 図書館情報技術論 2				情報システム設計 2 情報システム開発 2								18単位必修							
	選択科目					図書館情報資源概論 2 ネットワーク技術(1) 2 情報サービス論 2 データベース技術 2 デジタル・ライブラリ 2 情報資源組織論 2 ネットワーク技術(2) 2 情報サービス演習(1) 2 人工知能・自然言語処理 2 ハイパーテキスト 2 情報資源組織演習(1) 2 マルチメディア技術 2 情報サービス演習(2) 2 図書館サービス概論 2 情報メディアの活用 2 情報資源組織演習(2) 2 専門資料論(1) 2 図書・図書館史 2 読書と豊かな人間性 2 児童サービス論 2				図書館情報学実習 2				卒業論文 8							
		プログラミング(3) 2 プログラミング(4) 2 モデリング 2				社会情報調査実習(量的調査) 2 デバイスコミュニケーション(1) 2 社会情報調査実習(質的調査) 2 デバイスコミュニケーション(2) 2 社会心理学(1) 2 メディア文化の社会学(1) 2 社会心理学(2) 2 メディア文化の社会学(2) 2				情報とテクノロジー 2 コミュニケーション論(1) 2 消費者行動論 2 ネットワーク社会学 2 データマイニング 2 情報社会と倫理 2 コミュニケーション論(2) 2 ジャーナリズム論 2 メディアとポピュラー文化論 2 シミュレーション(初級) 2 情報社会とキャリア形成 2 広告論(1) 2 出版論 2 データ解析(初級) 2 シミュレーション(中級) 2 広告論(2) 2 放送論 2 データ解析(中級) 2 実験計画法 2											
						社会情報学演習(1) 4 社会情報学演習(4) 4 社会情報学演習(2) 4 社会情報学演習(5) 4 社会情報学演習(3) 4								4単位必修							
										社会情報学演習(6) 4 社会情報学演習(9) 4 社会情報学演習(7) 4 社会情報学演習(10) 4 社会情報学演習(8) 4								4単位必修			
	初年次教育	大学生の基礎(1) 2 【2単位必修】 大学生の基礎(2) 2												大学生の基礎(1) 2 4単位必修							
	外国語科目	A群	英語読解 2 英語表現 2 ドイツ語(1) 2 ドイツ語(2) 2 フランス語(1) 2 フランス語(2) 2 中国語(1) 2 中国語(2) 2												4単位必修						
			B群	English Reading(1)~(4) 2 Oral Communication(1)~(4) 2 English Writing(1)~(4) 2 ドイツ語(3)~(5) 2 フランス語(3)~(5) 2 中国語(3)~(5) 2												4単位必修					
				C群	ロシア語(初級) 2 ラテン語(初級) 2 スペイン語(初級) 2 イタリア語(初級) 2 ロシア語(初級) 2 朝鮮語(初級) 2 ロシア語(上級) 2 ラテン語(上級) 2 スペイン語(上級) 2 イタリア語(上級) 2 ロシア語(上級) 2 朝鮮語(上級) 2												4単位必修				
健康・スポーツ	体育の科学(演習) 2 【2単位必修】				運動の生理と医学 2 健康と睡眠の科学 2 現代社会とスポーツ 2 身体文化と歴史 2 運動と心理 2 運動と食事の科学 2 スポーツと安全 2 スポーツとマネージメント 2 体育・教育演習 2								体育の科学(演習) 2 2単位必修								
総合教育科目群	主体的な学び	<アカデミック外国語科目(英語)> Introduction to Japan Studies (1) 2 Introduction to Historical Studies (2) 2 Introduction to Philosophy 2 Introduction to Comparative Literature 2 Introduction to Japan Studies (2) 2 Introduction to Social Sciences (1) 2 Introduction to Psychology 2 Introduction to Linguistics 2 Introduction to Historical Studies (1) 2 Introduction to Social Sciences (2) 2 Introduction to Education Studies 2				<スキルアップ外国語科目(英語)> Language Learning and Academic Strategies 2 Advanced Academic Writing 2 Practice for TOEFL 2 Extensive Reading and Vocabulary Building 2 Fast Reading 2 Practice for TOEIC 2 Advanced Communication 2 Extensive Listening 2 Business English 2				<アカデミック外国語科目(ドイツ語)> Landskunde: Deutschland und Japan (1) [ドイツの現代事情(1)] 2 Landskunde: Deutschland und Japan (2) [ドイツの現代事情(2)] 2 Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史(1)] 2 Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史(2)] 2 <スキルアップ外国語科目(ドイツ語)> Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1) [ヘレベール・ドイツ語読解(1)] 2 Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2) [ヘレベール・ドイツ語読解(2)] 2				<アカデミック外国語科目(フランス語)> France d'aujourd'hui (1) [現代フランス事情(1)] 2 France d'aujourd'hui (2) [現代フランス事情(2)] 2 Histoire et culture en France (1) [フランスの歴史と文化(1)] 2 Histoire et culture en France (2) [フランスの歴史と文化(2)] 2 <スキルアップ外国語科目(フランス語)> Lectures Niveau Supérieur (1) [ヘレベール・フランス語読解(1)] 2 Lectures Niveau Supérieur (2) [ヘレベール・フランス語読解(2)] 2				<アカデミック外国語科目(中国語)> 当代中国和日本(1) [中国語で学ぶ日本と中国(1)] 2 当代中国和日本(2) [中国語で学ぶ日本と中国(2)] 2 <スキルアップ外国語科目(中国語)> 時事漢語(1) [時事中国語(1)] 2 出国留学漢語培訓(2) [留学のための中国語(2)] 2 高級漢語閱讀(1) [ヘレベール・中国語読解(1)] 2 高級漢語會話(2) [ヘレベール・中国語コミュニケーション(2)] 2 時事漢語(2) [時事中国語(2)] 2 漢語昇級考試輔導(1) [資格のための中国語(1)] 2 高級漢語閱讀(2) [ヘレベール・中国語読解(2)] 2 出国留学漢語培訓(1) [留学のための中国語(1)] 2 漢語昇級考試輔導(2) [資格のための中国語(2)] 2 高級漢語會話(1) [ヘレベール・中国語コミュニケーション(1)] 2			
		入門科目	入門・哲学 2 入門・日本文学 2 入門・歴史 2 入門・心理 2 入門・政治 2 入門・数学 2 入門・外国文学 2 入門・社会 2 入門・経済 2																		
		共通科目	哲学・思想系	哲学 2 印度哲学史B 2 キリスト教概説B 2 社会思想B 2 日本倫理思想史B 2 仏教概説B 2 西洋思想B 2 印度哲学史A 2 キリスト教概説A 2 社会思想A 2 日本倫理思想史A 2 仏教概説A 2 西洋思想A 2 倫理学 2																	
			法律・政治・経済系	公法概論A 2 私法概論A 2 経済原論A 2 国際法A 2 国際経済学A 2 国際政治学A 2 経済学 2 公法概論B 2 私法概論B 2 経済原論B 2 国際法B 2 国際経済学B 2 国際政治学B 2 政治学 2																	
			文化・芸術系	映画論A 2 日本映画史 2 日本美術史B 2 西洋美術史B 2 音楽B 2 映画論B 2 日本美術史A 2 西洋美術史A 2 音楽A 2 比較文学 2																	
			自然科学系	脳科学 2 宇宙論 2 統計学基礎 2 科学史 2 生物進化論 2 生命倫理 2																	
			言語系	言語学A 2 言語学B 2 社会言語学A 2 社会言語学B 2 日本語教育方法論 2 人文学・民俗学系 比較神話A 2 比較神話B 2 民俗学A 2 民俗学B 2 文化人類学A 2 文化人類学B 2 比較文化論 2																	
		社会問題系	ジェンダー論 2 国際理解教育論 2 近・現代史と民主主義 2 ボランティア論 2 健康教育学 2																		
		地理・歴史系	人文地理学(1) 2 日本地誌学 2 自然地理学(1) 2 アークタイプ概論 2 外国史 2 人文地理学(2) 2 世界地誌学 2 自然地理学(2) 2 日本史 2																		
		特別授業科目	グローバルスタディーズ(1) 1 グローバルスタディーズ(2) 1 グローバルスタディーズ(3) 1 グローバルスタディーズ(4) 1 キャリアデザイン(1) 2 キャリアデザイン(2) 2 特別授業(1) 2 特別授業(2) 2 特別授業(3) 2 特別授業(4) 2				プロジェクト科目 2				教養総合演習(1) 4 教養総合演習(2) 4										
自由選択科目	学部間共通科目	○自専攻科目の68単位超過分 ○他学部履修科目(30単位まで)				○総合教育科目の必修単位超過分 ○大学院履修科目(8単位まで)								30単位必修							
		グローバルに教育を行う演習 2 グローバルICTプロジェクト 2 FLP演習A 4				FLP演習B 4 FLP演習C 4															
		グローバル・チャリティリアル 2 専門インターンシップ 1				グローバル身体総合講座 2 グローバル・連携ラーニング 2 グローバル・集中講義 1 グローバル・アクティブラーニング 1															
		短期留学プログラムI 4 短期留学プログラムII 4 短期留学プログラムIII 2 短期留学プログラムIV 2				博物館概論 2 博物館資料論 2 博物館教育論 2 博物館資料保存論 2															
学芸員課程科目																					
最高履修単位	44				44				44				126/176単位								
随意科目	英会話(1) 4 英会話(2) 4 英会話(3) 4 英会話(4) 4 時事英語研究 4				体育の科学(演習)A 2				体育の科学(演習)B 2 体育の科学(演習)C 2				卒業に必要な単位に含まれない								
	キャリアデザインワークショップ 2 (インターナショナル情報メディア)編 2 学術情報の検索・活用法 2																				

(12) 教育学専攻

1. 教育目標

教育学は教育という事象を対象に、それを科学的にとらえようとする学問です。これまでに十数年に渡って学校生活を体験してきた皆さんにとって、教育は日常生活の一部としてあまりにも身近すぎる事柄かもしれません。しかし、高校までの授業において、そうした教育実践やその背後にある教育思想を分析したり、それが現代社会の中で果たす役割について体系立てて考える機会はほとんどなかったことでしょう。その意味で、教育学は大学に入って初めて学ぶ学問分野です。

教育学専攻では、学校教育の問題はもとより、子どもから大人、高齢者に至る人間の生涯にわたる教育や学習文化活動の在り方をも学び、教育についての幅広い見方や考え方を身につけることをめざしています。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

1年次の**教育の理念と歴史、教育と社会・制度**、は入門的な共通必修科目で、教育の本質や制度的特徴などについての基礎を学びます。加えて、1年次から教育学の基本的な領域に対応した専門科目（教育哲学、教育史、教育行政学、教育社会学、教育方法学、生涯教育論）が用意され、規定単位以上を選択して履修します。

1、2年次にわたる**教育学基礎演習(1)(2)**はテキストや資料を自分たちで読んで検討し、発表し、討論し合うもので、主体的・参加的学习が求められます。

2年次からは、基礎学習と同時に自分の視野を広げたり、興味ある教育の分野に深く入っていきけるように、さまざまな専門科目が用意されています。その中には、発達教育学、比較教育社会史、教育制度学、学校社会学、多文化教育学、キャリア教育論の科目群と、教育心理学、発達心理学、学校臨床心理学、社会教育概論(1)(2)、教育思想史、教育課程論、特別支援教育論、教育法、国際比較教育学、教育学特講(1)～(4)の科目群があります。

3年次の**教育実地研究**は必修で、毎年特定の地域を選び、各自の問題関心に合わせてテーマごとにグループを作り、学生の主体的運営によって教育の実際場面のフィールドワーク（4泊5日）を行い、その調査結果を報告書にまとめます。その前提として、2年次必修の**教育研究法**では調査や研究方法についての基礎を学びます。

3、4年次には、より一層専門化された少人数制の科目が置かれています。**教育学演習(1)～(12)**はゼミ形式の授業で、複数の専任教員の授業を履修することが求められています。これらの多様な領域の学習を通して自分の問題関心を発見したり、卒業論文で取り組むテーマを決定してほしいと考えています。

卒業論文の指導は3年次の後半から始まり、指導教員の決定は冬休み前までに行われます。テーマに沿って幅広い学習をするためには、春休みの学習がきわめて重要です。4年次の学習は卒業論文の作成を軸に進められることとなります。

3. 系統立てた学習の方法

最終学年は卒業論文や就職活動で忙しいからと言って、3年次までに無理をして多くの単位を取るようなことはせず、4年次も継続して専門科目を履修するような各学年でバランスのとれた履修計画を立ててください。

教育学専攻 2020年度入学生

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位													
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位														
専攻科目群	基礎演習科目	教育学基礎演習(1)A 2 教育学基礎演習(1)B 2				教育学基礎演習(2)A 2 教育学基礎演習(2)B 2												8単位 必修													
	必修科目	教育の理念と歴史 2 教育と社会・制度 2				教育研究法 2				教育実地研究 2				卒業論文 8				16単位 必修													
	選択科目	教育哲学 2 教育史 2				教育行政学 2 教育社会学 2 教育方法学 2				生涯教育論 2								10単位 必修													
						発達教育学 2 比較教育社会史 2 教育制度学 2				学校社会学 2 多文化教育学 2				キャリア教育論 2				8単位 必修													
				教育心理学 2 学校臨床心理学 2 発達心理学 2												14単位 必修															
						社会教育概論(1) 2 教育思想史 2 特別支援教育論 2				国際比較教育学 2 教育学特講(2) 2				教育学特講(4) 2				12単位 必修													
										教育学演習(1) 4 教育学演習(4) 4				教育学演習(7) 4 教育学演習(10) 4				4													
										教育学演習(2) 4 教育学演習(5) 4				教育学演習(8) 4 教育学演習(11) 4				4													
										教育学演習(3) 4 教育学演習(6) 4				教育学演習(9) 4 教育学演習(12) 4				4													
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎(1) 2 【2単位必修】 大学生の基礎(2) 2																大学生の 基礎(1) 2単位 必修													
	外国語科目	A群	英語読解 2 英語表現 2																8単位 必修												
			ドイツ語(1) 2 ドイツ語(2) 2																												
		フランス語(1) 2 フランス語(2) 2																8単位 必修													
		中国語(1) 2 中国語(2) 2																													
	B群					English Reading(1)~(4) 2 Oral Communication(1)~(4) 2				English Writing(1)~(4) 2 ドイツ語(3)~(5) 2				フランス語(3)~(5) 2 中国語(3)~(5) 2				2													
	C群	ギリシャ語(初級) 2 ラテン語(初級) 2				スペイン語(初級) 2 イタリア語(初級) 2				ロシア語(初級) 2 朝鮮語(初級) 2								2													
					ギリシャ語(上級) 2 ラテン語(上級) 2				スペイン語(上級) 2 イタリア語(上級) 2				ロシア語(上級) 2 朝鮮語(上級) 2				2														
	健康・スポーツ	体育の科学(演習) 2 【2単位必修】				運動の生理と医学 2 健康と睡眠の科学 2				現代社会とスポーツ 2 身体文化と歴史 2				運動と心理 2				体育の科学 (演習) 2単位 必修													
					運動と食事の科学 2 スポーツと安全 2				スポーツとマネジメント 2 体育・教育演習 2								2														
主体的な学び	アカデミック 外国語 ・ スキルアップ 外国語	<アカデミック外国語科目(英語)>																													
		Introduction to Japan Studies (1) 2				Introduction to Historical Studies (2) 2				Introduction to Philosophy 2				Introduction to Comparative Literature 2				2													
		Introduction to Japan Studies (2) 2				Introduction to Social Sciences (1) 2				Introduction to Psychology 2				Introduction to Linguistics 2				2													
		Introduction to Historical Studies (1) 2				Introduction to Social Sciences (2) 2				Introduction to Education Studies 2								2													
		<スキルアップ外国語科目(英語)>																													
		Language Learning and Academic Strategies 2				Advanced Academic Writing 2				Practice for TOEFL 2								2													
		Extensive Reading and Vocabulary Building 2				Fast Reading 2				Practice for TOEIC 2								2													
		Advanced Communication 2				Extensive Listening 2				Business English 2								2													
		<アカデミック外国語科目(ドイツ語)>																													
		Landeskunde Deutschland und Japan (1) [ドイツ語の現代事情(1)] 2				Landeskunde Deutschland und Japan (2) [ドイツ語の現代事情(2)] 2				Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史(1)] 2				Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史(2)] 2				2													
	<スキルアップ外国語科目(ドイツ語)>																														
	Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1) [ハイレベルドイツ語読解(1)] 2				Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2) [ハイレベルドイツ語読解(2)] 2												2														
	<アカデミック外国語科目(フランス語)>																														
	France d'aujourd'hui (1) [現代フランス事情(1)] 2				France d'aujourd'hui (2) [現代フランス事情(2)] 2				Histoire et culture en France (1) [フランスの歴史と文化(1)] 2				Histoire et culture en France (2) [フランスの歴史と文化(2)] 2				2														
	<スキルアップ外国語科目(フランス語)>																														
	Lecture Niveau Supérieur (1) [ハイレベルフランス語読解(1)] 2				Lecture Niveau Supérieur (2) [ハイレベルフランス語読解(2)] 2												2														
	<アカデミック外国語科目(中国語)>																														
	当代中国和日本(1) [中国語で学ぶ日本と中国(1)] 2				当代中国和日本(2) [中国語で学ぶ日本と中国(2)] 2																										
	<スキルアップ外国語科目(中国語)>																														
	時事漢語(1) [時事中国語(1)] 2				出国留学漢語培訓(2) [留学のための中国語(2)] 2				高級漢語閱讀(1) [ハイレベル・中国語読解(1)] 2				高級漢語會話(2) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(2)] 2				2														
時事漢語(2) [時事中国語(2)] 2				漢語昇級考試輔導(1) [資格のための中国語(1)] 2				高級漢語閱讀(2) [ハイレベル・中国語読解(2)] 2								2															
出国留学漢語培訓(1) [留学のための中国語(1)] 2				漢語昇級考試輔導(2) [資格のための中国語(2)] 2				高級漢語會話(1) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(1)] 2								2															
入門科目	入門・哲学 2				入門・日本文学 2				入門・歴史 2				入門・心理 2				入門・政治 2														
	入門・数学 2				入門・外国文学 2				入門・社会 2				入門・経済 2																		
	共通科目	哲学・ 思想系	哲学 2				印度哲学史B 2				キリスト教概説B 2				社会思想B 2				日本倫理思想史B 2				仏教概説B 2				西洋思想B 2				
			印度哲学史A 2				キリスト教概説A 2				社会思想A 2				日本倫理思想史A 2				仏教概説A 2				西洋思想A 2				倫理学 2				
		法律・政治・ 経済系	公法概論A 2				私法概論A 2				経済原論A 2				国際法A 2				国際経済学A 2				国際政治学A 2				経済学 2				
			公法概論B 2				私法概論B 2				経済原論B 2				国際法B 2				国際経済学B 2				国際政治学B 2				政治学 2				
		文化・ 芸術系	映画論A 2				日本映画史 2				日本美術史B 2				西洋美術史B 2				音楽B 2												
			映画論B 2				日本美術史A 2				西洋美術史A 2				音楽A 2				比較文学 2				日本 2								
		自然科学系	脳科学 2				宇宙論 2				統計学基礎 2				科学史 2				生物進化論 2				生命倫理 2								
			プログラム言語系				プログラム言語(1) 2				プログラム言語(2) 2				プログラム言語(3) 2				プログラム言語(4) 2												
言語系		言語学A 2				言語学B 2				社会言語学A 2				社会言語学B 2				日本語教育方法論 2													
		人類学・ 民俗学系				比較神話A 2				比較神話B 2				民俗学A 2				民俗学B 2				文化人類学A 2				文化人類学B 2				比較文化論 2	
社会問題系	ジェンダー論 2				国際理解教育論 2				近・現代史と民主主義 2				ポアンティア論 2				健康教育学 2														
	地理・歴史系				人文地理学(1) 2				日本地誌学 2				自然地理学(1) 2				アーカイブズ概論 2				外国史 2										
				人文地理学(2) 2				世界地誌学 2				自然地理学(2) 2				日本史 2															
特別教養科目	グローバル・スタディーズ(1) 1				グローバル・スタディーズ(2) 1				グローバル・スタディーズ(3) 1				グローバル・スタディーズ(4) 1																		
	キャリアデザイン(1) 2				キャリアデザイン(2) 2								教養総合演習(1) 4				教養総合演習(2) 4														
	特別教養(1) 2				特別教養(2) 2				特別教養(3) 2				特別教養(4) 2																		
プロジェクト科目 2																															
○他専攻のゴシック科目																															
自由 選択 科目	○専攻科目の68単位超過分																														
	○他学部履修科目(30単位まで)																														
	学部間 共通科目	グローバルICT教育リサーチ演習 2				グローバルICTフロンティア演習 2				FLP演習A 4				FLP演習B 4				FLP演習C 4													
		グローバル・デュアル 2				専門インターンシップ 1																									
	学芸員課程科目	短期留学プログラムⅠ 4				短期留学プログラムⅡ 4				短期留学プログラムⅢ 4				短期留学プログラムⅣ 4																	
				博物館概論 2				博物館資料論 2																							
				博物館教育論 2				博物館資料保存論 2																							
最高履修単位	44				44				44				44				126/176単位														
随意科目	英会話(1) 4				英会話(2) 4				英会話(3) 4				英会話(4) 4				時事英語研究 4														
					英会話(5) 4				英会話(6) 4				英会話(7) 4				英会話(8) 4														
	キャリアデザイン・ワークショップ 2				インターネット&情報セキュリティ論 2				学術情報の探査・活用法 2				体育の科学(演習)A 2				体育の科学(演習)B 2				体育の科学(演習)C 2										
卒業に必要な単位に含まれない																															

126
単位
必修

28
単位
必修

30
単位
必修

(13) 心理学専攻

1. 教育目標

人間の心の働きについて、主に知覚、学習、認知、発達、教育、臨床などの各分野から教育・研究を行います。上述の各分野に関して、実証科学としての心理学の研究に要求されている、人間の心理をどう理解するかの理論性と、その理論の正しさや現実の人間の心理状況を事実によって証明する実証性の双方について、高い力量をもって研究できるようにすることが目標です。

2. カリキュラムの特徴と科目の構成

1年次では、現代心理学全般の理論や成果について**心理学概論(1)・(2)**で学びます(前・後期それぞれ2名の教員が担当します)。また、科学としての心理学を学ぶのに必須である**心理統計法(1)・(2)**で、実験や調査の計画法やデータ処理方法の基本的能力を身につけます。クラス単位で行う基礎演習科目としては、クラス担任が受け持つ**心理学基礎演習(1)A・B**があり、基本的文献の講読や発表・議論を行っていきます。また、**心理学特別演習**では、心理学研究に必要な情報リテラシーを獲得することを目指します。

2年次には、実験法や調査法など心理学の研究方法を学ぶ**基礎実験(1)・(2)**、さらに英語論文の講読を行う**心理学基礎演習(2)A・B**があります。また**知覚・学習心理学、発達心理学、教育心理学、学校臨床心理学**などの専門科目を選択学習できます。

3、4年次には、**認知心理学、記憶心理学、神経心理学、言語心理学、児童・青年心理学、生涯発達心理学、発達理論、障害児心理学、心理検査法、犯罪心理学**などの専門科目を選択学習できます。また、**心理学演習**として2科目が用意されており、ここでは認知・感覚心理学、人格・臨床心理学が演習形式で学習できます。

3年次から、全専任教員が担当する必修の**心理学特殊研究**が始まり、これは4年次で必修となる**卒業論文**作成に要求される専門能力や技術を習得するために演習形式で行われます。

3. 系統立てた学習の方法

心理学は大学に入って初めて学ぶ学問の1つです。そこで、次のような点に注意して心理学を学ぶ必要があります。

(1) 科学としての心理学を学ぶこと

1. で述べたように、心理学の研究には実証性が要求されています。心理学は、人間一般に当てはまる理論や法則を基に人間理解を進めていく科学ですから、その心理学の科学性と、自分が知りたいと思う個別の事柄を一般化して証明・確認するための論理や方法について、特に1、2年次でしっかりと学習することが必要です。

(2) 明確な問題意識をもって学ぶこと

これは1、2年次にも当てはまるのですが、3、4年次では特に、自分が何を知りたいのかはっきりした疑問や問題意識をもって学ぶことが必要です。そうしないと、心理学の学習は、不可解な人間に関する、その時だけ面白いと思う断片的な知識を得ることだけになりかねません。人間とは何か、社会は人間の心理とどのように関係しているか、心は脳とどのような関係にあるのかなど、最も基本的な問題意識を4年間通して持ち続けて学習できればよいのはもちろんですが、例えば「今年は〇〇を特に知りたい」として、1年間ある事柄を集中して学習してもよいと思います。

4. 心理学関連の資格について

(公社)日本心理学会が規定する所定の単位を修得すると、同学会が定める「認定心理士」の資格を申請することができます。これは、心理学の専門家として仕事をするために必要最小限の標準的基礎学力と技能を修得していることを公的に明らかにする資格です。申請は卒業時にすることができ、一度取得すると、更新せずに標榜し続けることができます。所定の単位については、日本心理学会のホームページに詳細が提示されていますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

心理学専攻 2020年度入学生

区分	系列	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				卒業に必要な単位	
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位		
専攻科目群	基礎演習科目	心理学基礎演習(1)A 2 心理学基礎演習(1)B 2				心理学基礎演習(2)A 2 心理学基礎演習(2)B 2												8単位 必修	
	必修科目	心理統計法(1) 2 心理学概論(1) 2 心理統計法(2) 2 心理学概論(2) 2				基礎実験(1)A 1 基礎実験(2)A 1 基礎実験(1)B 1 基礎実験(2)B 1				心理学特殊研究(1) 4 卒業論文 8				心理学特殊研究(2) 4				28単位 必修	
	選択科目	心理学特別演習 2				教育心理学 2 発達心理学 2				児童・青年心理学 2 乳幼児心理学 2 発達理論 2 生涯発達心理学 2 学校社会心理学 2 発達相談 2				8単位 必修					
						知覚・学習心理学 2 学校臨床心理学 2				言語心理学 2 記憶心理学 2 神経心理学 2 認知心理学 2 比較心理学 2 大脳生理学 2				8単位 必修					
総合教育科目群	初年次教育	大学生の基礎(1) 2 【2単位必修】 大学生の基礎(2) 2																大学生の基礎(1) 2単位必修	
	外国語科目	A群	英語読解 2 英語表現 2		ドイツ語(1) 2 ドイツ語(2) 2		フランス語(1) 2 フランス語(2) 2		中国語(1) 2 中国語(2) 2										8単位 必修
			B群	English Reading(1)~(4) 2 Oral Communication(1)~(4) 2		English Writing(1)~(4) 2		ドイツ語(3)~(5) 2		フランス語(3)~(5) 2		中国語(3)~(5) 2						8単位 必修	
		C群		ギリシャ語(初級) 2 ラテン語(初級) 2		スペイン語(初級) 2 イタリア語(初級) 2		ロシア語(初級) 2 朝鮮語(初級) 2		ギリシャ語(上級) 2 ラテン語(上級) 2		スペイン語(上級) 2 イタリア語(上級) 2		ロシア語(上級) 2 朝鮮語(上級) 2					
	健康・スポーツ	体育の科学(演習) 2 【2単位必修】				運動の生理と医科学 2 健康と睡眠の科学 2 現代社会とスポーツ 2 身体文化と歴史 2				運動と心理 2								体育の科学(演習) 2単位必修	
	主体的な学び	アカデミック ・ スキルアップ ・ 外国語	<アカデミック外国語科目(英語)>																
			Introduction to Japan Studies (1) 2				Introduction to Historical Studies (2) 2				Introduction to Philosophy 2				Introduction to Comparative Literature 2				
			Introduction to Japan Studies (2) 2				Introduction to Social Sciences (1) 2				Introduction to Psychology 2				Introduction to Linguistics 2				
			Introduction to Historical Studies (1) 2				Introduction to Social Sciences (2) 2				Introduction to Education Studies 2								
			<スキルアップ外国語科目(英語)>																
Language Learning and Academic Strategies 2				Advanced Academic Writing 2				Practice for TOEFL 2											
Extensive Reading and Vocabulary Building 2				Fast Reading 2				Practice for TOEIC 2											
Advanced Communication 2				Extensive Listening 2				Business English 2											
<アカデミック外国語科目(ドイツ語)>																			
Landeskunde: Deutschland und Japan (1)[ドイツと日本の現代事情(1)] 2				Landeskunde: Deutschland und Japan (2)[ドイツと日本の現代事情(2)] 2				Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1)[ヨーロッパ文化史(1)] 2				Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2)[ヨーロッパ文化史(2)] 2							
<スキルアップ外国語科目(ドイツ語)>																			
Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1)[ハイレベル・ドイツ語読解(1)] 2				Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2)[ハイレベル・ドイツ語読解(2)] 2															
<アカデミック外国語科目(フランス語)>																			
France d'aujourd'hui (1)[現代フランス事情(1)] 2				France d'aujourd'hui (2)[現代フランス事情(2)] 2				Histoire et culture en France (1)[フランスの歴史と文化(1)] 2				Histoire et culture en France (2)[フランスの歴史と文化(2)] 2							
<スキルアップ外国語科目(フランス語)>																			
Lecture Niveau Supérieur (1)[ハイレベルフランス語読解(1)] 2				Lecture Niveau Supérieur (2)[ハイレベルフランス語読解(2)] 2															
<アカデミック外国語科目(中国語)>																			
当代中国和日本(1)[中国語で学ぶ日本と中国(1)] 2				当代中国和日本(2)[中国語で学ぶ日本と中国(2)] 2															
<スキルアップ外国語科目(中国語)>																			
時事漢語(1)[時事中国語(1)] 2				出国留学漢語(2)[留学のための中国語(2)] 2				高級漢語(1)[ハイレベル・中国語読解(1)] 2				高級漢語(2)[ハイレベル・中国語読解(2)] 2							
時事漢語(2)[時事中国語(2)] 2				漢語昇級試験輔導(1)[資格のための中国語(1)] 2				高級漢語(2)[ハイレベル・中国語読解(2)] 2											
出国留学漢語(1)[留学のための中国語(1)] 2				漢語昇級試験輔導(2)[資格のための中国語(2)] 2				高級漢語(1)[ハイレベル・中国語読解(1)] 2				高級漢語(2)[ハイレベル・中国語読解(2)] 2							
共通科目	入門科目	入門・哲学 2		入門・日本文学 2		入門・歴史 2		入門・心理 2		入門・政治 2									
		入門・数学 2		入門・外国文学 2		入門・社会 2		入門・経済 2											
	哲学・ 思想系	哲学 2		印度哲学史B 2		キリスト教概説B 2		社会思想B 2		日本倫理思想史B 2		仏教概説B 2		西洋思想B 2					
		印度哲学史A 2		キリスト教概説A 2		社会思想A 2		日本倫理思想史A 2		仏教概説A 2		西洋思想A 2		倫理学 2					
	法律・政治・ 経済系	公法概論A 2		私法概論A 2		経済原論A 2		国際法A 2		国際経済学A 2		国際政治学A 2		経済学 2					
		公法概論B 2		私法概論B 2		経済原論B 2		国際法B 2		国際経済学B 2		国際政治学B 2		政治学 2					
	文化・ 芸術系	映画論A 2		日本映画史 2		日本美術史B 2		西洋美術史B 2		音楽B 2									
		映画論B 2		日本美術史A 2		西洋美術史A 2		音楽A 2		比較文学 2									
	自然科学系	脳科学 2		宇宙論 2		統計学基礎 2		科学史 2		生物進化論 2		生命倫理 2							
		プログラム言語(1) 2		プログラム言語(2) 2		プログラム言語(3) 2		プログラム言語(4) 2											
言語系	言語学A 2		言語学B 2		社会言語学A 2		社会言語学B 2		日本語教育方法論 2										
	比較神話A 2		比較神話B 2		民俗学A 2		民俗学B 2		文化人類学A 2		文化人類学B 2		比較文化論 2						
社会問題系	ジェンダー論 2		国際理解教育論 2		近・現代史と民主主義 2		ポランディア論 2		健康教育学 2										
	人文地理学(1) 2		日本地誌学 2		自然地理学(1) 2		アーカイブズ概論 2		外国史 2										
地理・歴史系	人文地理学(2) 2		世界地誌学 2		自然地理学(2) 2		日本史 2												
	グローバル・スタディーズ(1) 1		グローバル・スタディーズ(2) 1		グローバル・スタディーズ(3) 1		グローバル・スタディーズ(4) 1												
特別教養科目	キャリアデザイン(1) 2		キャリアデザイン(2) 2						教養総合演習(1) 4		教養総合演習(2) 4								
	特別教養(1) 2		特別教養(2) 2		特別教養(3) 2		特別教養(4) 2												
○他専攻のゴシック科目																			
自由 選択 科目	学部間 共通科目	○自専攻科目の68単位超過分 ○他学部履修科目(30単位まで)														○総合教育科目の必修単位超過分 ○大学院履修科目(8単位まで)			
		グローバルICT教育研修-演習 2		グローバルICTプレゼンテーション 2		FLP演習A 4				FLP演習B 4		FLP演習C 4							
		グローバル・フェトリアル 2		専門インターンシップ I 1		グローバル総合講座 2		グローバル遠隔ラーニング 2		グローバル集中講義 1		グローバルアブゾノミクス 1							
		短期留学プログラム I 4		短期留学プログラム II 4		短期留学プログラム III 4		短期留学プログラム IV 2											
学芸員課程科目	博物館概論 2		博物館資料論 2						博物館教育論 2		博物館資料保存論 2								
	博物館教育論 2		博物館資料保存論 2																
最高履修単位		44				44				44				44				126/176単位	
任意科目	英会話(1) 4		英会話(2) 4		英会話(3) 4		英会話(4) 4		時事英語研究 4		体育の科学(演習)B 2				体育の科学(演習)C 2		卒業に必要な単位に 含まれない		
	英会話(1) 4		英会話(2) 4		英会話(3) 4		英会話(4) 4		時事英語研究 4		体育の科学(演習)B 2				体育の科学(演習)C 2				

126
単位
必修

126/176
単位

8. 各専攻共通科目のガイド

(1) 総合教育科目群

① 初年次教育

1. 教育目標と概要

文学部学生共通の導入教育として、大学生活と研究活動を有意義に行うための基礎的態度・知識・考え方を専攻の垣根を越えて学びます。

大学生の基礎(1)では、さまざまな視点から大学生活に必要な知識を身につけ、学外での課題学習も行います。

大学生の基礎(2)は大学の教育・研究に必要な基礎能力や幅広い視野を身につけるための科目で、コミュニケーション基礎、表現技法、異文化コミュニケーションの3種類の中から選択することができます。

2. カリキュラムの特徴・科目の構成

大学生の基礎(1)は必修科目、大学生の基礎(2)は選択科目です(いずれも半期2単位の科目です)。また、2年次までに大学生の基礎(1)を修得しないと、3年次に進級することができませんので(※詳細は「スクリーン制度」のページを参照)、欠席・遅刻をせず積極的に授業に出席することが不可欠です。

大学生の基礎(1)は、リレー講義方式の授業形態です。初回授業で「開設の趣旨の説明と注意事項」がありますので、必ず出席してください。また、毎回の授業でショートレポートの提出が義務づけられています。

大学生の基礎(2)の「コミュニケーション基礎」と「表現技法」は、後期に開講します。「異文化コミュニケーション」は前期開講で、留学生には特に履修をすすめています。詳細は時間割表に記載します。

② 外国語科目

【英語】

文学部の英語関係の科目※1は、外国語科目、アカデミック外国語・スキルアップ外国語※2、自由選択科目、随意科目の4種類の科目から構成されています。

まず外国語科目として、1年次には**英語読解**、**英語表現**が開設され、2年次では**English Reading**、**Oral Communication**、**English Writing**の3科目の中から組み合わせることで選択できるようになっています。3年次以降にこれらの科目を履修することもできます。

随意科目としては、**英会話(1)～(4)**と**時事英語研究**が設けられています。英会話(1)～(4)という数字は単なる整理番号であって、授業の程度や履修条件を示すものではありませんから、どのような順序で履修しても構いません。

この他に、英語文学文化専攻の専攻科目がゴシック科目として他専攻にも開放されています。

このように文学部の英語関係の科目は、質量ともに充実した多様な選択肢を設けていますので、皆さんはそれぞれ自分の英語学習の目的に沿った科目を見つけて学習計画を立ててください。授業は講義科目以外は全て少人数クラス編成で行われます。外国語科目のクラス定員は、**Communication(会話)**系30人、**Writing(表現)**系20人、**Reading(読解)**系35人を基準としています。なお、英語読解、英語表現はクラス指定です。

※1：英語文学文化専攻の学生は、「英語スキル養成科目」が必修科目として自動で登録されます。英語文学文化専攻のガイドページを参照してください。

※2：アカデミック外国語・スキルアップ外国語としては英語で日本文化を学ぶ「Introduction to Japan Studies」、英語で言語学を学ぶ「Introduction to Linguistics」、海外の学生とオンラインでやりとりをする「Advanced Communication」などの科目があります。これらの科目は、英語で授業が行われます。

【ドイツ語】

1. A群「ドイツ語(1)・(2)・(3)」(1年次配当)〈ドイツ語文学文化専攻以外の学生〉

1年次に履修する科目です。西洋史学専攻、哲学専攻でドイツ語を選択した学生はドイツ語(1)・(2)・(3)を、他の専攻の学生はドイツ語(1)・(2)を履修します。西洋史学専攻、哲学専攻の場合、ドイツ語(1)・(2)の授業では、ドイツ語文法の教科書を使用しながら、主としてドイツ語の文法と発音の基礎を学習します。基礎的な読解力も養います。ドイツ語(3)ではドイツ語(1)・(2)で得た基礎知識を体系的に確認し、運用力を高めます。他の専攻の学生は、ドイツ語(1)で文法・発音の基礎を、ドイツ語(2)では、読解力も合わせて身につけます。

2. B群「ドイツ語(3)～(6)」(2～4年次配当)〈ドイツ語文学文化専攻以外の学生〉※西洋史学・哲学専攻は(4)～(6)

コミュニケーション系：ドイツ語による基礎的な会話能力と作文能力を養成する授業です。文法と発音の復習をしながら、日常会話でよく用いられる表現を会話練習を通して身につけていきます。また独作文の練習を通して、正しい文の作り方を学習します。

読解系：ドイツ語による比較的やさしい文章の読解から始めて、ドイツの雑誌や新聞の記事の読解ができる程度の読解力を養うための授業です。単なる訳読に終始することなく、1年次に学習したドイツ語文法を復習しながら文法の基礎を固め、ドイツ語の文章構造を論理的に分析し、文法的に理解する習慣と能力を身につけます。文学作品や哲学書など、また専門分野の参考文献を読む能力にもつながります。この他に、ドイツ語文学文化専攻の専攻科目が、ゴシック科目として他専攻にも解放されています。

*1：ドイツ語文学文化専攻では、専門領域を深く学修するのに必要な語学力を身につけるため、独自のドイツ語の授業を実施します。

*2：アカデミック外国語・スキルアップ外国語の科目としては「ドイツと日本の現代事情」「ヨーロッパ文化史」「ハイレベルドイツ語読解」があります。これらの科目は、ドイツ語で授業が行われます。

【フランス語】

世界との交流チャンネルは複数あった方が望ましく、英語の他にもう一つ外国語を学ぶことは大学生として当然の教養です。フランス語は英語に次ぐ国際語であり、芸術・文学・思想の分野で日本の近代化に大きな影響を与えてきた言語です。将来、フランスやフランス語圏を旅するときのために、あるいは専門分野の原典研究に備えて、フランス語を基礎から学びます。

ことばは文字であるより前にまず音です。フランス語学習も音から入った方が有効です。CDのある教科書はそれを何度も聞いて耳を慣らし、繰り返し発音練習をしてください。基礎表現を暗記してしまえばあとが楽です。

フランス語学習で発音と並んで重要なのは動詞の活用です。一つ一つ着実にマスターしてください。

1年目秋に仏検5級を受け、2年目秋か3年目春には3級をめざしましょう。毎年8～9月に行われるエクス・マルセイユ大学での短期留学や協定校への交換留学の制度も積極的に活用してください。

1. A群「フランス語(1)・(2)・(3)」(1年次配当)〈フランス語文学文化専攻以外の学生〉

フランス語(1)・(2)は1年次に履修する初級フランス語の授業です。2人の先生が組んで週2回授業を行い、文法の説明とドリルを中心にフランス語の骨格を学びます。西洋史学専攻と哲学専攻の履修者にはフランス語(3)が加わり、授業は週3回になります。やさしい読み物を教材に、さらにフランス語の基礎を固めます。

2. B群「フランス語(3)～(6)」(2～4年次配当)〈フランス語文学文化専攻以外の学生〉※西洋史学・哲学専攻は(4)～(6)

2年次から履修できる中級フランス語の授業です。レベルと内容の異なるクラスがそれぞれの時限に複数設けられているので、その中から選択して履修します。何科目履修できるかは専攻によって異なります。3月下旬にシラバスを読んで希望を出し、それに基づいて履修するクラスが決定します。

3. 「フランス語(1)・(2)・(3)」〈フランス語文学文化専攻1年次配当〉、「フランス語(4)・(5)」〈フランス語文学文化専攻2年次配当〉、フランス語(6)〈フランス語文学文化専攻2～4年次配当〉

フランス語文学文化専攻では、専門領域を深く学修するのに必要な語学力を身につけるため、独自のフラン

ス語の授業を実施します。

なお、以上の外国語科目の他に、フランス語文学文化専攻の専攻科目のうちゴシック科目は、専攻を問わず履修することができます。

【中国語】

「中国語は日本語と同じ漢字を使うから、英語やドイツ語、フランス語よりやさしいに違いない」—あなたは、そんなふうに考えていませんか？それはとんでもない間違いです。当り前のことですが、英語やフランス語、ドイツ語が私たち日本人にとって外国語であるように、「中国語は外国語」なのです。

近頃は、テレビのニュース番組などでも中国語を耳にすることがよくあります。あなたはその音を聞いて何を言っているのかわかりますか？「音はダメでも字は同じ漢字じゃないか、読んだり書いたりするのは簡単なんじゃないか」と思うかもしれません。しかし、音だけではなく語法の仕組み、それに個々の言葉の意味や使われ方も、中国語と日本語の間には大きな開きがあります。「我去中国」は「ワタシハ中国ニ行キマス」です。中国の「去」は「去ル」ではなく、「行ク」なのです。「主語—動詞—目的語」と、言葉の並び方も日本語とは違いますね。また中国では線路を走るの「火車（きしゃ）」、「汽車（じどうしゃ）」は「汽油（ガソリン）」を燃料にして街を走り回っています。

あなたが中国語を本気で学ぼうというのであれば、まず「中国語—漢字—やさしい」といった安易な考えを捨ててください。そうでなければしっかりした中国語の土台を作ることはできないのです。

1. A群「中国語(1)・(2)・(3)」〈中国言語文化専攻以外の学生〉

1年次に履修する初級の授業です。週2回の(1)・(2)の授業は1冊の共通テキストを使ってリレー式にすすめます。西洋史学専攻と哲学専攻の履修者は(1)・(2)に中国語(3)が加わり、授業は週3回となります。

まず、発音の練習とあわせて「拼音（ピンイン）」と呼ばれる中国語のローマ字表記法のルールを習得してから、語法の基礎についての学習とそれを応用した口語表現の練習をすすめると同時に、ごくやさしい文章を教材にして、読み・聴き・話す力の土台作りをしていきます。中国語(3)は作文や文型練習を中心に中国語(1)・(2)で学んだことをもう一度確かめながらより多様な表現の仕方、より多くの語彙を習得するための授業です。

2. B群「中国語(3)～(6)」(2～4年次配当)〈中国言語文化専攻以外の学生〉※西洋史学・哲学専攻は(4)～(6)

2年次から学ぶ中級の授業です。コミュニケーション系、読解系、総合（基礎）系のいずれの科目を選ぶかは、履修者の自由な選択に任されています。1年次で学んだ基礎知識をもとに学習をすすめます。コミュニケーション系の授業は、会話の訓練や聞き取りの練習などを通して、日常生活に密着した口語表現を高めることに重点を置きます。聴き・話す力をつけるには、まず話し手自身がより正しい中国語の音を身につけることが不可欠です。発音の矯正もこの授業の大きなポイントになります。授業は主に中国人教員が担当します。

読解系の授業では、比較的平易な読み物を通して中国語の文章表現に慣れ、文章を正しく読み取る力をつけると同時に、中国語という言語のもとになる現代中国の文化や社会などについて学びます。

総合（基礎）系の授業では、1年次で学んだ語法や口語表現を復習しながら、バランスの取れた基礎固めを目標とします。

3. 「中国語(1)・(2)・(3)」〈中国言語文化専攻1年次配当〉、「中国語(4)・(5)」〈中国言語文化専攻2年次配当〉

中国言語文化専攻では、専門領域を深く学修するのに必要な語学力を身につけるため、独自の中国語の授業を実施します。

この他に、中国言語文化専攻の専攻科目が、ゴシック科目として他専攻にも開放されています。

【ギリシャ語】【ラテン語】【スペイン語】【イタリア語】【ロシア語】【朝鮮語】

文学部では前述の4言語に加えて、ギリシャ語、ラテン語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、朝鮮語、の6つの外国語科目を設置しています。それぞれ初級科目と上級科目を設けており、選択制で履修することができます。様々な語学に触れることは、直接的に語学能力を高めるだけでなく、いろいろな国の文化や書物に触れる機会を増やすことにもなります。皆さんの研究対象分野や興味に応じて積極的に活用してください。なお、初級科目は人数制限を行う科目の為、年度始めに抽選にて受講者を決定します。詳細は時間割表を参照し

てください。

③ 健康・スポーツ

1. 教育目標

「健康は失ってみてはじめてそのありがたみがわかる」といわれるように、多くの人達は日頃自分自身のからだや健康について知識を深めたり、特別な配慮が必要であるという認識をもちあわせていないようです。確かに現代の日常生活を全うしていく上で、体力測定で評価されるような運動能力や体力の差が決定的な意味を持つという状況は殆ど考えられません。スポーツを職業としようというごく一部の人を除いて、皆さんの今後の生活と、体育・健康科学科目との接点は、健康教育、スポーツの社会的・文化的価値の理解、健やかな心身を育てるための身体活動、余暇としてのスポーツ活動といった点に求められると思われまます。

したがって、大学での体育・健康科学科目の目標も、当然この点をふまえて設定されています。個人スポーツ、ボールゲーム、ラケットスポーツ、武術、アウトドアスポーツ、ニュースポーツ等の多様な種目を開設していますので、これらの中から興味を持った種目を選択し、実践を通して『生涯にわたってスポーツを楽しむための素養や企画力・運営能力を育成していくこと』が目標です。ですから単に種目の上手・下手（技能の優劣）だけで成績評価されることはありません。

健康やからだについて悩む事の比較的少ない若い年代にこそ、本当にかげがえのない自分自身の心とからだを見つめ直し、人生の土台をゆるぎないものにしてもらいたいと考えます。

2. カリキュラムの特徴・科目の構成

健康・スポーツ科目は、**体育の科学（演習）** 通年2単位必修です。講義形式では、(1)プレイ・レジャーとしてのスポーツ論（文化・教養としてのスポーツの意義に着目し、文化的視点からスポーツを考えます）、(2)健康・体力づくりのためのスポーツ論（日常生活における運動の必要性を自然科学的、生物学的視点から考えます）、(3)社会学的視座からみた今日のスポーツ論（地域振興とスポーツ、オリンピック・ムーブメント等について考えます）などについて、授業が進められます（学期始めと終わり、夏休み前に実施）。

実技形式では、バレーボール、バスケットボール、サッカー、エアロビクス、フィジカルエクササイズ、バドミントン、ソフトボール、卓球、太極拳と中国武術、ニュースポーツ、テニス等が開設される予定です。また、合宿を含んだテニス、ゴルフ、スキー、トレッキングや、運動制限を必要とする学生を対象としたリハビリテーション・クラス（RH）も選択可能です。

3. 系統立てた学習の方法

2. に記した体育の科学（演習）は1年次の必修科目ですが、さらに踏みこんだ学習を希望する人に向け、**現代社会とスポーツ、運動の生理と医科学、運動と食事の科学、スポーツとマネジメント、身体文化と歴史、運動と心理、健康と睡眠の科学、スポーツと安全、体育・教育演習**の9つを、全学年共通の選択科目として開設しています。これらのうち演習形態のものでは、それぞれのテーマにそくした実技と平行して、各人が自分の興味に応じて設定した課題の発表を、ゼミナール形式で行なったりします。また、随意科目として2年次以降の体育の科学（演習）の履修も可能です。さらに専門的に学びたい人は、FLPスポーツ・健康科学の履修を2年次以降に検討してください。

④ アカデミック外国語・スキルアップ外国語

英語・ドイツ語・フランス語・中国語の各言語で授業が行われる外国語科目です。アカデミック外国語では、たとえば英語で哲学や社会学などを学んだり、ドイツ語・フランス語でドイツやフランスの現代事情などを学んだり、中国語で中国の社会や文化について学んだりすることができます。スキルアップ外国語では、それぞれの言語の会話や読解の力を伸ばしたり、たとえばTOEFLやTOEICなどの語学検定試験に対する実践的な対策を行ったりすることができます。海外留学を目指す人、あるいは海外留学から帰国した人には特に履修をお勧めします。「外国語を学ぶ」ことからレベルアップして、「外国語で学ぶ」ことを目指しましょう。設置される科目の詳細は、「シラバス」を参照してください。

＜アカデミック外国語科目(英語)＞							
Introduction to Japan Studies (1)	2	Introduction to Historical Studies (2)	2	Introduction to Philosophy	2	Introduction to Comparative Literature	2
Introduction to Japan Studies (2)	2	Introduction to Social Sciences (1)	2	Introduction to Psychology	2	Introduction to Linguistics	2
Introduction to Historical Studies (1)	2	Introduction to Social Sciences (2)	2	Introduction to Education Studies	2		
＜スキルアップ外国語科目(英語)＞							
		Advanced Communication	2	Extensive Listening	2	Business English	2
Language Learning and Academic Strategies	2	Advanced Academic Writing	2	Practice for TOEFL	2		
Extensive Reading and Vocabulary Building	2	Fast Reading	2	Practice for TOEIC	2		
＜アカデミック外国語科目(ドイツ語)＞							
		Landeskunde: Deutschland und Japan (1) [ドイツと日本の現代事情(1)]	2	Landeskunde: Deutschland und Japan (2) [ドイツと日本の現代事情(2)]	2		
		Einführung in die europäische Kulturgeschichte (1) [ヨーロッパ文化史(1)]	2	Einführung in die europäische Kulturgeschichte (2) [ヨーロッパ文化史(2)]	2		
＜スキルアップ外国語科目(ドイツ語)＞							
		Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (1) [ハイレベル・ドイツ語読解(1)]	2	Lektüre-Kurs für Fortgeschrittene (2) [ハイレベル・ドイツ語読解(2)]	2		
＜アカデミック外国語科目(フランス語)＞							
		France d'aujourd'hui (1) [現代フランス事情(1)]	2	France d'aujourd'hui (2) [現代フランス事情(2)]	2		
		Histoire et culture en France (1) [フランスの歴史と文化(1)]	2	Histoire et culture en France (2) [フランスの歴史と文化(2)]	2		
＜スキルアップ外国語科目(フランス語)＞							
		Lecture Niveau Supérieur (1) [ハイレベル・フランス語読解(1)]	2	Lecture Niveau Supérieur (2) [ハイレベル・フランス語読解(2)]	2		
＜アカデミック外国語科目(中国語)＞							
		当代中国和日本(1) [中国語で学ぶ日本と中国(1)]	2	当代中国和日本(2) [中国語で学ぶ日本と中国(2)]	2		
＜スキルアップ外国語科目(中国語)＞							
時事漢語(1) [時事中国語(1)]	2	出国留学漢語培訓(2) [留学のための中国語(2)]	2	高級漢語閱讀(1) [ハイレベル・中国語読解(1)]	2	高級漢語會話(2) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(2)]	2
時事漢語(2) [時事中国語(2)]	2	漢語昇級考試輔導(1) [資格のための中国語(1)]	2	高級漢語閱讀(2) [ハイレベル・中国語読解(2)]	2		
出国留学漢語培訓(1) [留学のための中国語(1)]	2	漢語昇級考試輔導(2) [資格のための中国語(2)]	2	高級漢語會話(1) [ハイレベル・中国語コミュニケーション(1)]	2		

⑤ 入門科目

これは、総合教育科目の根幹を担う科目群であり、これまでとは異なる新しい発想で2017年度より設けられたものです。すべてに「入門」ということばが付いていますが、それはけっして「初歩的な」という意味ではありません。これらの科目は、多くの学生が本格的な学者・学問にふれる機会をつくりたいと考えて設置したものです。

したがって、ここで学ぶことは、ある分野の概論ではなく、ひとつの智を“大きくつかむ”ことをめざしています。たとえば、「入門・社会」は、社会学概論として設定されているのではなく、「社会」が存立する場について、モノ [風水土 (物質圏=大気圏・水圏・地圏)]、イキモノ [生命系 (生物圏)]、ヒト [類的存在としての人類の文明 (人間圏)] などから解きほぐしていくこととなります。そのうえで、個々の社会問題まで行き着く議論を展開していきます。「入門科目」には、「哲学」「数学」「文学」「歴史」などの多様な切口から、人間の営み全体を眺望するような講義が用意されています。

それぞれの専攻における専門教育とともに、いまわたしたちが生きているこの世の中のあり方をどのように認識していくかということは、大学での学びにとって決定的に重要なこととなります。その認識なくして学問は成り立たないからです。この「入門科目」によって、これまで当たり前のこととしてとくに問題とは感じないできたさまざまな事象についての見方が変わることでしょう。

入学後はおそらく大学での新しい学びのスタイルに戸惑うこともあるかもしれません。だからこそ、まず、学問とは何か、研究するとはどういうことなのか、これまでの長い歴史の中で人類は何を考え、何を後世に伝えてきたのかといった大きな議論・大きな学びにふれることが重要です。「門」をたたき、奥深い世界にふれてほしいと思います。それが、きっと各専門の学習・研究の基盤となるはずで、このような趣旨で設置されたのがこの「入門科目」です。

⑥ 共通科目

1. 共通科目とは

文学部のカリキュラムの体系は、大きく分けて三つに区分されています。共通科目は総合教育科目群の中に入っています。総合教育科目は、文学部のすべての学生諸君に開かれた授業で、文学部の教育の重要な一翼を担っています。そして、共通科目は、総合教育科目群の中核をなす科目群です。

さらに共通科目群は、いくつかの「系」に分かれています。文学部の専門にとらわれない多くの学問が、従来の分け方とは異なったやり方で系統だって入っています。いままで人類が蓄積してきた錯綜した「知の森」がわかりやすく分類されています。自由にいろいろな分野の科目を履修することができます。

また、教養総合演習という科目は、ゼミ形式で、領域横断的な授業がおこなわれます。創造的な授業形式で、さまざまな議論や多角的な視点が提供されます。

共通科目は、①いくつかの専攻の学問から見て共通したもの、②教育職員免許資格、学芸員資格を始めとした各種資格を取得するうえで必要な科目、③所属の専攻とは異なる分野の科目などがあります。自分の専門の間口を拡げ、奥行きを深めていったり、資格を取得してスキル・アップしたり、自専攻とは異なる視点を身につけたり、いくつもの可能性に開かれた科目群です。

2. 共通科目の履修

共通科目のなかにある、これらの多様な科目は、「教養総合演習（1）（2）」を除き、何年次生であっても受講できます。ただし、自分の履修時間割を決めるときに、必修科目の時間と重なる場合があり、高学年になって共通科目を履修できなくなる可能性もあります。したがって、共通科目群で興味をもち履修したいと思った科目は、なるべく早く履修した方がいいでしょう。

⑦ 特別教養科目

1. 教育目標と概要

特別教養科目は、自分が所属する専攻の学問だけでなく、さまざまな分野の学問を総合的・有機的に結びつけ、多角的な思考を身につける科目です。

特別教養科目には、**特別教養(1)～(4)**と**プロジェクト科目**とがあります。特別教養は、その時代の最先端の学問や、その時代に必要な教養を学ぶ科目です。従来の学問の区分にとらわれず、さまざまな角度から時代の要求に応じた知を獲得できます。また、プロジェクト科目は、一つの課題に沿って文学部の各専門分野が創造的にかかわり、新しい知識や領域の可能性を探求する科目です。

2. カリキュラムの特徴・科目の構成

特別教養(1)～(4)は、興味のある授業を1年次から自由に選択することができます。また、プロジェクト科目は、2年次から履修が可能となります。

(2) 学部間共通科目・随意科目

① キャリア教育科目

キャリア教育科目とは、自立した社会人・職業人としての自己実現を目指し、自らの将来設計について考えるための科目として設定している科目です。「キャリア」とは、単に資格や経歴、職業経験などを意味するだけではなく、生涯を通じて豊かな人生を築いていくため不可欠な「生き生きとした自分らしい生き方」を意味していません。

入学直後から、将来の人生設計を立て、卒業後の進路を考えるのはなかなか難しいことです。しかし、在学中に自分の進路や将来についてよく考えず、十分な準備をしないまま進路選択・就職活動を行うと、自分に合わない職業や仕事を選択してしまうことにもなりかねません。

そのような選択にならないように、社会に出るにあたって自信をもって進路先を選択することができるよう、1～2年生の段階から、自分自身について、社会・仕事について、そして自分と社会の繋がりについて思いを巡らせ認識を深め、また様々な職業を具体的に知っておいてほしいと思っています。その上で皆さんが将来設計について考えることを望んでいます。そのための手助けとなるのがこのキャリア教育科目です。

キャリア教育科目として開講される科目については、毎年度発行される授業時間割を参照してください。なお、他学部における「キャリア教育科目」を受講するためには、他学部履修の手続きをとってください。

2020年度開講科目

学部	科目名	開講期間	単位	配当年次
経済学部、商学部、 文学部、総合政策学部 国際経営学部 (学部間共通)	キャリア・デザイン・ ワークショップ	前期	2単位 (随意科目)	1年
理工学部	キャリア・デザイン・ ワークショップ	前期	2単位 (自由科目)	1年～

*この科目は、グループワークが中心の科目になります。定員を超える履修登録希望があった場合、初回の授業で抽選により履修者を決定します。

*再履修および2年生以上の履修はできません(理工学部は除く)。

この授業は事前登録科目です。初回授業にて登録を行います。

履修を希望する学生は、初回授業に必ず出席してください。希望者が多い場合には、初回授業の中で抽選を行い、履修者を決定します。

2020年度開講科目(各学部)

学部	科目名	開講期間	単位	配当年次
法学部	総合講座1 職業・差別・人権1	前期(春学期)	2単位	1年～4年
	総合講座1 職業・差別・人権2	後期(秋学期)	2単位	1年～4年
商学部	総合講座「働くこと入門」	後期(秋学期)	2単位	1年～4年
	ビジネス・プロジェクト講座I	前期・後期	2単位	1年
文学部	キャリアデザイン(1)	前期	2単位	1年・2年
	キャリアデザイン(2)※	後期	2単位	1年・2年

理工学部	技術と法	前期	2単位	学科により異なる
	知的財産法演習	後期	2単位	
	知的財産取扱基礎知識	前期	2単位	
	知的財産取扱文書演習（注）	後期	2単位	

※文学部設置科目「キャリアデザイン（2）」は抽選登録科目です。登録方法および登録期間は文学部時間割冊子を確認してください。

（注）「知的財産取扱文書演習」は、2020年度休講予定です。

* キャリア教育科目は、中央大学『知性×行動特性』プログラムのテーマ別プロジェクト「キャリア教育プロジェクト」科目に設定されています。（一部の科目を除く）

中央大学『知性×行動特性』学修プログラムとは

中央大学では、学生生活を通じて知性（専門知識・技術）と行動特性（コンピテンシー）の二つの能力を高めるために、社会で活躍するために必要となる能力を培うことができる『知性×行動特性』学修プログラムを展開しています。

また行動特性（コンピテンシー）とは、コミュニケーション力や問題解決力といった、卒業後に社会的、職業的に自立するために必要な能力のことです。

本学では、その行動特性（コンピテンシー）を高めるために、皆さんに「テーマ別プロジェクト」を展開しています。「テーマ別プロジェクト」は、正課・課外の様々な取組みで構成しており、行動特性（コンピテンシー）を高めることができる取組みを分かりやすくまとめています。

■『知性×行動特性』学修プログラムに関する詳細はこちら↓

http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/gp/competency_pro/

■テーマ別プロジェクトに関する詳細はこちら↓

http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/gp/competency_pro/project/



② 学術情報リテラシー科目

学術情報リテラシー科目とは、大学で学ぶにあたって、基本的に身につけるべき学術情報の取り扱い方を体系的に学ぶための科目です。図書館での伝統的な調べ物の手法からインターネット上の検索まで、実習を通して調べ物の基本的スキルを学びます。

- ☑ 図書、雑誌、データベース、インターネットなど多様な媒体を駆使して情報検索をおこない、信頼性が高く学術的価値のある資料を見分ける力を習得します。
- ☑ 各自でテーマをひとつ設定し、レポートを作成します。収集した情報（辞書・事典類の記事事項、雑誌記事、図書の情報など）を活用して、引用の仕方、参考文献リストの書き方、著作権等の基礎知識を身につけ、体系的な学習スキルへと発展させます。

2020年度開講科目（学部間共通科目）

対象学部	科目名	開講期間	単位	配当年次
法学部・経済学部 商学部・文学部 総合政策学部 国際経営学部	学術情報の探索・活用法	前期 後期	2単位 ※随意科目	1・2年次

※ 随意科目のため、取得単位は**卒業必要単位数には含まれません。**

⌘ 前期・後期開講の事前登録科目です。後期を受講する方も前期に履修登録を行ってください。また、希望者が定員を超えた場合は抽選となります。

⌘ 原則、履修中止・履修変更はできません。

③ ICT 共通教育科目（情報関連共通科目）

ICT 共通教育科目は、本学学生が共通して獲得しておきたい ICT スキルを向上させることを目的として、学部間で共通して開講する科目として設置されました。開講科目及び開講学部は下表の通りです。

これらの科目では、情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどの主体的な活用や収集、処理、表現する能力に加え、グローバルな現代社会において必要とされる情報通信技術に関する科目を学ぶことができます。

設置科目

対象学部	科目名	開講期間	単位	配当年次
経済学部 文学部 総合政策学部 国際経営学部	グローバル ICT 教育リテラシー演習	前期	2 単位	1 年次
経済学部 文学部 総合政策学部 国際経営学部	グローバル ICT プレゼンテーション	後期	2 単位	1 年次
経済学部 商学部 文学部 総合政策学部 国際経営学部	インターネット&情報セキュリティ論*1	前期	2 単位	1 年次

*1：この科目は、単位を修得しても、卒業に必要な単位に含まれません(随意科目)。

9. ファカルティリンケージ・プログラム（FLP）

中央大学の全学の「知」を結集した、総合大学ならではの教育システム「ファカルティリンケージ・プログラム—Faculty-Linkage Program—（FLP）」の履修は2年次からとなり、1年次生を対象に実施される選考試験（11月実施予定）に合格しなければなりません。

(1) ファカルティリンケージ・プログラム（FLP）とは

ファカルティリンケージ・プログラム（FLP）とは、各学部設置されている授業科目を有機的にリンクさせ、新たな知的関心の領域に対応する教育の「場」を設定するプログラムです。

(2) ファカルティリンケージ・プログラムの目的

学生諸君がそれぞれの所属学部で主専攻の課程を修めるといった基本的な枠組みのもとに、学部の枠を越えて設けられた新たな知的領域を系統的・体系的に学修し、学際的な視点から専門知識の修得と問題解決能力を高めることを目的としています。

(3) 開設されるプログラムの種類

現在は、「環境・社会・カバナンス」「ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」の5プログラムが開設されています。プログラムは、新規開講・廃止することがあります。

(4) 教育システム

プログラムが指定する講義科目と演習科目を、2年次から4年次の3年間継続して履修します。

【修了要件】

科目区分	授業科目	単位	配当年次	設置学部	設置学部履修方法	
講義科目	プログラムが指定する 各学部の講義科目・単位		1～4	文学部 又は他学部	10単位※	22単位※
演習科目	FLP演習A	4	2	学部間共通	12単位	
	FLP演習B	4	3			
	FLP演習C	4	4			

※国際協力プログラムは、講義科目20単位および演習科目12単位の合計32単位です。

講義科目とは、各学部設置されている授業科目の中の、プログラムが指定する科目（所属学部設置科目と他学部設置科目があります）のことで、この中から各プログラムが定める単位数を修得します。

演習科目とは、少人数制のゼミナール形式の授業科目のことで、各年次においてFLP演習A・B・Cを1科目ずつ履修し、3年間で12単位修得します。演習科目の再履修は認められませんので、履修に当たっては、十分に注意をしてください。演習科目の評価が不合格になった時点で、本プログラムの履修を継続することができなくなります。

講義科目、演習科目共に、所属学部の履修単位に含まれ、卒業要件としての単位数にも含めます。

本プログラム所定の単位を修得した履修者には、卒業時に「修了証書」を交付します。

(5) 卒業要件との関係

本プログラムの指定により修得した講義科目と演習科目の単位は、所属学部の履修単位に算入されます。なお、年次途中でプログラムの履修を取りやめても、「FLP」として履修し、修得した単位は、所属学部の単位として認められます。また、他学部設置の科目を履修する場合、他学部履修の30単位の枠に含まれますので注意してください。

①講義科目

○文学部設置科目は、「文学部授業科目一覧」の当該科目の単位となります。

○他学部設置科目は、「文学部授業科目一覧」の自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

②演習科目は、「文学部授業科目一覧」の中の学部間共通科目に設置され、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

(6) 募集と選考

少人数教育の演習科目を本プログラムの基幹科目としていることから、全てのプログラムで募集定員を設定しています。履修希望者には、エントリーシートの提出が義務づけられており、そのエントリーシートに基づき、「書類選考」、「面接試験」等を実施します。

(7) 履修希望者へのガイダンス日程

まず、6月下旬に開催予定の総合ガイダンスに出席してください。総合ガイダンスでは、FLPの全般に関することと、今後の手続きについて説明します。その後、9月下旬に開催予定のプログラム別ガイダンスに出席してください。プログラム別ガイダンスで配布される募集要項をもとに、詳細な説明が行われますので、履修希望者は、希望するプログラムのガイダンスに必ず出席してください。**総合ガイダンス及びプログラム別ガイダンスの日程は、C plus等で発表します。**

(8) 将来の進路

「環境・社会・ガバナンスプログラム」

シンクタンク、企業、金融機関、国家公務員、地方公務員、国際機関の職員、外交官、法曹・会計事務所、NPO・NGO等への就職、本学の大学院や国内外の大学院への進学をめざします。

「ジャーナリズムプログラム」

マス・メディア（新聞・通信社、放送・通信、出版、映画、広告、PR会社、音楽など）の内外各企業及び日本新聞協会や日本民間放送連盟等への就職、ジャーナリズム・コミュニケーション関連の国内外の大学院への進学をめざします。

「国際協力プログラム」

開発関連のNGO（将来の指導者やオーガナイザーと期待される）、アジアを中心に国際的に展開するグローバル企業、銀行、証券、損保、旅行、ホテルなどアジアに展開するサービス産業、開発コンサルタント関連の企業や団体、JICA、JETROなど開発関係の公共団体やシンクタンク、国際公務員への就職、国内外の大学院への進学をめざします。

「スポーツ・健康科学プログラム」

スポーツ関連ビジネス（スポーツメーカー、広告代理店、代理人等）、サービス（フィットネス産業、介護ビジネス）、行政（社会教育、社会福祉）、スポーツメディア、プロスポーツチームのフロント等への就職、大学院への進学をめざします。

「地域・公共マネジメントプログラム」

国家公務員、地方公務員、地域公益団体職員、政治家、政策秘書、社会起業家、ベンチャー起業家、コミュニティビジネスリーダーなどのほか、シンクタンク、NPO法人への就職や本プログラムの教育内容と密接な関係にある国内外大学院への進学をめざします。

10. グローバルFLPプログラム

(1) グローバルFLPとは

グローバルFLPとは、中央大学の伝統である実学教育を通じて修得した専門知識・技能をグローバル社会で発揮することができる「グローバル・プロフェッショナル」の育成を目指し、すべての科目を外国語で教える全学的教育プログラムです。

(2) グローバルFLPの目的

本プログラムは、グローバル化が急速に進展する時代に、実践的要素と実務的海外体験を取り入れた外国語による全学的国際化教育の機会を学部学生に提供することを目的としています。

(3) グローバルFLP履修生のみが履修できる科目

(1) グローバル・テュートリアル(必修科目)

実践的要素として、プログラムの必修科目である「グローバル・テュートリアル」(半期2単位)があります。学部学生(日本人学生・学部留学生)、選科生が、外国語でアクティブに参加しながらともに学べる少人数制の「グローバル・テュートリアル」に英語または中国語で参加することによって、国際的に活躍するための実践的素養を身につけます。

(2) 専門インターンシップ

本科目では、(夏季または春季休業期間中)2週間の就業経験を通して、物理的・文化的環境の異なる海外の職場で働くために学ぶべき知識、身につけるべきスキル、海外で通用するための姿勢(態度)を、自ら目標を設定しながら身につけます。履修者は、グローバル・テュートリアルで所定の成績評価を得た者から選考により決定され、事前指導の後、現地での実習、そして帰国後に成果報告会を実施します。なお、原則として、インターンシップの受け入れ先は、学修の一環として履修生自身が交渉して探します。

(4) 修了要件

「座学」として、必修科目である「グローバル・テュートリアル」2単位及び、「指定講義科目」(指導言語:英語等)から6単位以上の計8単位以上を修得します。また、海外における「体験型学修」として、「海外インターンシップ」・「単位付き留学」科目から1単位以上を修得します。「専門インターンシップ」1単位を修得した場合、「単位付き留学」として算入されます。(長期留学先で修得した単位については、単位付き留学科目の単位として認定し、さらに修得した単位があれば、「指定講義科目」の単位を修得したものとみなします)

以上の「座学」・「体験型学修」を併せて、合計で9単位以上がプログラム修了要件となり、これを満たした上で修了申請をすることで、修了証の授与を受けることができます。

■科目構成

学びの形式	授業科目	単位	配当年次	履修者数	開講学期	修了要件
座学	グローバル・テュートリアル	2	1年次～	20(max)*3	前期・後期	2単位
	指定講義科目*1*2	科目指定のとおり				6単位
体験型学修	海外インターンシップ *2	科目設置学部指定のとおり				1単位
	単位付き留学 *2	各学部設置科目				
		専門インターンシップ	1	1年次～	15(max)	

*1 各学部設置の科目のうち、英語等による授業科目

*2 具体的な科目は *C-plus* のお知らせと manaba コース「グローバルFLP」上に掲載いたします。

*3 20名を超えた場合は抽選となる場合もあります。

(5) 卒業要件との関係

本プログラムの指定により修得した単位は、所属学部の履修単位に算入されます。また、他学部設置の科目を履修する場合、他学部履修の30単位の枠に含まれますので注意してください。

なお、プログラムが設置する学部間共通科目「グローバル・テュートリアル」、「専門インターンシップ」、「グローバル総合講座」、「グローバル集中講義」の単位算入先については各学部のカリキュラム表をご確認ください。

(6) 募集と履修方法

グローバルFLPは、必修科目である「グローバル・テュートリアル」の履修登録をもって、プログラムが開始されます。グローバルFLPを出願するためには、プログラムが指定する応募資格が必要となります。詳細は全学連携教育機構事務室が発行する募集要項でご確認ください。なお、募集要項等の関連書類は、*C plus* のお知らせと manaba コース「グローバルFLP」に掲載いたします。

11. 試 験

(1) 試験の種類

試験には次の4種類があります。

- ① 前期・春学期試験 外国語科目・前期終了科目・通年科目の一部
- ② 臨時試験 臨時に授業中行われる試験（日程などは掲示ではなく、授業中に指示されるだけの場合もあります。）
- ③ 後期・秋学期試験 外国語科目・後期終了科目・通年科目
- ④ 追試験 前期・春学期試験、後期・秋学期試験を、病気その他やむを得ない事由で受験できなかった学生に対する試験

(2) 試験期間

- ① 外国語科目（再履修科目を含む）

前期、後期とも原則として授業最終週に授業教室で試験を行います。英語の特別再履修科目は、前期、後期のそれぞれの試験期間に行います。

- ② 半期終了科目

原則として履修した前期または後期の授業最終週に授業教室で試験を行います。ただし、科目によっては、前期・後期の試験期間に別途試験時間割を組んで、試験を行う場合があります。

- ③ 通年科目

原則として授業最終週に授業教室で試験を行います。ただし、科目によっては、前期・後期の試験期間に別途試験時間割を組んで、試験を行う場合があります。

※いずれも科目によっては繰り上げ（下げ）試験を行ったり、定期試験を行わずに授業中の試験やレポート等により成績を評価する場合があります。

試験に関する情報は*C plus*等で発表します。

(3) 受験上の注意

- ① 前期・春学期試験及び後期・秋学期試験期間中に行う試験は、学生証を携帯しなければ受験できません。忘れた場合は、試験開始前に文学部事務室で仮受験票発行の手続きを行ってください。また、試験中は学生証を机の通路側の試験監督者の見やすい場所に置いてください。また答案用紙の学籍番号・氏名は、ペンまたはボールペンで記入し、監督者の検印を受けてください。
- ② 試験開始後30分以上経過しなければ退場できません。また、試験開始後30分以上遅刻した場合は受験できません。
- ③ 前期・春学期試験及び後期・秋学期試験期間中に行う試験で、受験科目が同一試験日の同一時限に2科目以上重複している場合は、定められた期間内に文学部事務室に「試験重複届」を提出してその指示に従って受験してください。
- ④ 試験中は試験監督者の指示に従い、厳正な態度で受験しなければなりません。
試験中に不正な行為のあった場合は、次ページ以降の「不正行為に関する取扱基準・取扱規則」に従って、相応の処分がなされます。

(4) 不正行為に関する取扱基準・取扱規則

① 学部定期試験等における不正行為に関する取扱基準

(趣旨)

1. この取扱基準は、中央大学学則第五十二条及び中央大学学生懲戒処分規程第四条第二項に基づき、学部定期試験等における不正行為に対する懲戒処分について、行為の軽重と教育上の必要を考慮して、必要な事項を定める。

(不正行為)

2. 前項でいう不正行為は、次の各号のとおりとする。
 - ①代理受験を依頼した行為及び代理受験をした行為
 - ②参照が認められていない教科書、参考書、ノート（写しを含む）、プリント、その他の資料等の使用及びこれに準ずる行為
 - ③参照が認められている六法及び各種の資料等への書き込みの不正使用
 - ④携帯電話等の電子機器を用いて不正に情報を取得する行為
 - ⑤覗き込み及びこれに類する行為
 - ⑥その他試験監督者の指示に従わず、又は公正な試験を妨げると認められる行為

(処分の種類及び基準)

3. 処分の種類と処分基準は、次の各号のとおりとする。
 - ①訓告 前項②から⑥までのいずれかを行った者
 - ②停学 前項①を行った者、又は、前項②から⑥までのいずれかを在学中に複数回にわたり行った者
 - ③退学 停学の事由に該当する者で、反省の意思がなく、かつ、改善の見込みがないと認められる者

(単位認定の取扱い)

4. 処分を受けた者の単位認定の取扱いは、次の各号のとおりとする。
 - ①訓告処分 当該試験期の当該試験科目無効又は当該試験期の全試験科目無効
 - ②停学処分 当該試験期の全試験科目無効
 - ③退学処分 当該学年度の全試験科目無効

(処分原案の作成)

5. 各学部が設置する懲戒委員会（以下「懲戒委員会」という。）は、中央大学学生懲戒処分規程第十五条に基づき、当該学部の学部長（以下「学部長」という。）から懲戒に関する付議を受けた場合は、同規程の定めるところに従い、懲戒手続を進める。この場合において、処分原案の内容は第3項に定めるところによらなければならない。

(処分決定の特例)

6. 学部長は、当該不正行為が訓告処分に該当する行為であると判断した場合は、訓告処分と単位認定の取り扱いを決定することができる。この場合、その執った措置を事後に教授会に報告しなければならない。

(通知)

7. 前項で決定された処分は、本人及び保証人に通知する。ただし、教授会が特別の事情があると認めた場合は、この限りでない。

(処分に関する情報の公表)

8. 第6項で決定された処分は、これを学内に掲示し、公表する。

(試験期間・試験科目)

9. 学部定期試験等における試験期間・試験科目については、別に定めるところによる。

(細目)

10. この基準の運用に必要な細目は、別に定める。

附 則

この基準は、平成27年5月22日から施行する。

附 則

この基準の第9項に定める別表は、平成27年5月22日から施行する。

② レポート・卒業論文等の不正行為に関する文学部における取扱規則

(趣旨)

1. この規則は、「学部定期試験等における不正行為に関する取扱基準」(以下、取扱基準と略称)第1項に定める「学部定期試験等」に、レポート若しくはレポートとペーパーテストとの併用又は卒業論文等による方法が含まれることにかんがみ、レポート又は卒業論文等における不正行為につき、全学規程の文学部における細則を定める。

(対象)

2. 懲戒処分対象となる取扱基準第2項⑥「公正な試験を妨げると認められる行為」には、レポート又は卒業論文等における剽窃および代作を含む。

(剽窃・二重提出)

3. この規則において剽窃とは、インターネット上からのコピー&ペースト、書籍その他の刊行物からの書き写し、又はその他各種の手段により、他人のアイデア又は知見あるいは文章又は表現を、公正な慣行や方法に合致しない仕方で、自己のものであるかのようにレポート又は卒業論文等に提示する行為をいう。

(2) 過去にすでに他の課題に対して提出したものを、新たなレポート又は卒業論文等として二重提出した場合も前掲規定に準じて扱う。

(代作)

4. この規則において代作とは、レポート又は卒業論文等を全部的であれ部分的であれ他の者に作成させ、これを自己が作成したものとして提出することをいう。

(取扱手続)

5. レポート又は卒業論文等が第3項又は第4項に該当する場合、これを取扱基準第2項⑥「公正な試験を妨げると認められる行為」とし、その取扱および処分は取扱基準を適用する。

(2) レポート又は卒業論文等が第3項又は第4項に該当する場合、当該科目の担当教員は、同一専攻又は専門分野が最も近い他の教員1名の意見を徴した上で、剽窃・二重提出又は代作に相当すると認められるときは、その該当箇所と範囲等の摘示をした現物、第3項(2)に該当することの簡潔な説明を添えた現物、又は代作であることを証した現物を添えて、事案を事務長に回付するものとする。

(3) 事務長は、「学部定期試験等における不正行為に関する取扱要領」(以下、取扱要領と略称)第4項①、同②、及び同③に定める手続をとらなければならない。

(4) 第3項および第4項に定める行為の実行者が文学部の正課生でない学生の取扱は、「取扱要領」の付記(了解事項)による。

附則 この規則は、2012年4月1日から施行する。

附則 この規則は、2013年4月1日から施行する。

附則 この規則は、2015年6月18日から施行する。

(5) 追試験制度

前期・春学期試験および後期・秋学期試験を、病気その他やむを得ない事由により受験できなかった者に対して追試験を行います。詳細については、試験時間割発表時の掲示および*C Plus*で確認してください。

① 受験資格

- ・二親等内の親族（実父母・実祖父母・実兄弟姉妹）が死亡した場合
- ・本人の病気・事故などの場合
- ・その他やむを得ない事由と認められる場合

② 受験できる科目

以下にあげる科目のうち、筆記試験を実施した科目

- ・基礎演習科目
- ・必修科目
- ・選択科目
- ・初年次教育（大学生の基礎(2)）
- ・外国語科目（ただし日本語を除く）
- ・健康・スポーツ（ただし体育の科学(演習)を除く）
- ・アカデミック外国語・スキルアップ外国語
- ・入門科目
- ・共通科目
- ・特別教養科目
- ・教職科目
- ・資格科目
- ・他学部履修科目

③ 受験できない科目

- ・平常点またはレポートで成績を評価する科目
- ・卒業論文
- ・初年次教育（大学生の基礎(1)）
- ・健康・スポーツ（体育の科学(演習)）

④ 受験手続

受験を希望する学生は、定められた期間内に所定の手続きが必要です。手続き詳細は*C plus*で案内します。

⑤ 受験許可

受験の許可発表は、*C plus*にて通知します。受験を許可された学生は、指定された日時に追試験を受験してください。

⑥ その他

受験許可後に、受験資格等で不都合な点が判明した場合は、受験許可の取り消し、または試験答案を無効とします。

12. 成績

成績評価は、担当教員の授業方針・評価方針により、試験（筆記・口述・実技等）、レポート、授業参加の状況（出席・発表等）、その他に基づき担当教員が行います。

(1) 評価の基準

	点数	評価	成績原簿表記	成績証明書表記	GPA（注1）	
						グレードポイント
5 段 階 評 価	100～90点	A	A	A	※総履修単 位数とし て分母の 計算基礎 になります。	4.0
	89～80点	B	B	B		3.0
	79～70点	C	C	C		2.0
	69～60点	D	D	D		1.0
	59点以下 (不合格)	E	E	表示しない		0
—	未受験 (評価不能)	F	F	表示しない		0
—	履修中止	W	W	表示しない	—	—
—	認定	N	N	N	—	—

（注1）GPAは、成績原簿・成績証明書ともに記載されますが、前期の成績発表分の成績によるGPAは9月の時点では成績証明書に反映されません。ただし、秋卒業の場合は9月の時点でGPAが成績証明書に反映されます。

A、B、C、Dいずれかの評価を得た科目には、所定の単位が与えられます。4年間で必要な単位数を修得すれば卒業になります。なお、成績原簿や成績照会画面には、評価がEあるいはF（空欄）、W、Nの科目も記載されますが、成績証明書には単位を修得した科目だけが記載されます。

(2) GPA 算出方式

GPA (Grade Point Average) とは、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。評価を以下のとおり計算し、そのGPA（年次毎のGPAと総トータルのGPA）を成績原簿と成績証明書に記載します。なお、GPAの算出基礎になる科目は「卒業要件の対象となる科目（教職等資格科目、随意科目を除く）」とします。

[GPAの算出式]

<グレードポイント A：4ポイント、B：3ポイント、C：2ポイント、D：1ポイント>

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{A 修得単位数} + 3 \times \text{B 修得単位数} + 2 \times \text{C 修得単位数} + 1 \times \text{D 修得単位数})}{\text{総履修単位数 (E・Fを含むが、W・Nは含まない)}}$$

(少数第3位四捨五入)

[注意点]

上の算出式にあるように、GPAにはE（不合格）・F（試験未受験等により評価できない）評価の履修単位数が分母として計算基盤に含まれますので、みなさんは自分が履修登録した科目について責任を持って履修し、しっかり学修を行わないと、GPAが下がることになります。

なお、履修登録した科目について、やむを得ず途中で履修をやめたい、試験を受けるつもりがない等といった場合は、履修中止期間に履修中止の手続きを行えば、GPA算出の対象にはなりません。

詳しくは（3）履修中止制度を参照してください。

(3) 履修中止制度

履修中止制度とは、履修登録をして授業に出てみたが、

- ①授業の内容が自分が勉強したいものと違っていた。
- ②授業のスピードについて行けるだけの知識が不足していた。
- ③健康上、履修科目数を減らしたい。

等といった理由から、途中で履修を中止する制度です。

履修登録をした科目のうち、下記の科目を除いて履修中止を認めますが、履修中止期間に所定手続をする必要があります。なお履修中止した科目の代わりに他の科目を新たに履修することはできませんのでご注意ください。

<履修中止を認めない科目>

基礎演習科目・必修科目・体育の科学（演習）・外国語科目（C群除く）・大学生の基礎（1）

特別科目（外国人留学生対象）・大妻女子大学開講科目・教職科目・資格科目・随意科目

(4) 成績発表

成績は、前期終了科目は9月頃に、後期終了科目と通年科目は3月上旬～中旬頃にC plusで発表します。試験を受けた科目の評価が「F」であるなど、成績に疑義のある場合は、指定の期間（C plusで発表）に文学部事務室で手続きを行ってください。教職科目・資格科目の成績も確認してください。

なお、前期終了科目の疑義は3月には受け付けません。

(5) 成績集計欄の見方

成績集計欄には、各専攻のカリキュラム表に対応するように、卒業に必要な単位数、修得した単位数、過不足の単位数が記載されています。

（フランス語文学文化専攻の例）

成績集計欄			
科目区分名	卒業	算入	不足
◎専攻・コース科目◎	68	4	-64
基礎演習科目	8	0	-8
必修科目	16	4	-12
選択科目A	4	0	-4
選択科目B	12	0	-12
選択科目C	8	0	-8
選択科目D	16	0	-16
選択科目E	4	0	-4
◎総合教育科目◎	28	8	-20
初年次教育（必修科目）	2	2	
外国語科目	16	0	-16
A群外国語	14	0	-14
B群外国語	2	0	-2
健康・スポーツ（必修科目）	2	0	-2
◎自由選択科目◎	30	2	-28
◎総合計◎	126	14	-112

- ① 卒業＝卒業するために必要な分野別の必要最低単位数です。それぞれの分野でその単位数を満たさなければ、総修得単位数が126単位を超えていても卒業はできません。詳細な見方はガイダンスで説明します。必修単位数はそれぞれの専攻で異なりますので、各自、カリキュラム表で確認してください。
- ② 算入＝前年までに修得した単位数を分野別に集計して表示しています。上の欄の卒業単位数を超えている場合は、超えた単位数が「自由選択科目」の分野の単位数として計算されています。
- ③ 不足＝それぞれの分野で「(卒業)－(算入)」を計算して、マイナスの場合は表示されます。満たした場合は空欄になり、超えた単位数は「自由選択科目」の分野の単位数として計算されています。
「不足」欄に1ヶ所でもマイナスがある場合には、総単位数が126単位を超えていても卒業できませんので注意してください。

13. 卒業論文

(1) 卒業論文の意義

卒業論文は、文学部に入学してから卒業までに自分が何を学習していくか、そのためには自分は今何をすべきなのかを示してくれる重要な目標です。

その目標を見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要です。そして、様々な学問分野にふれ、多くのことに興味、関心を抱く、その中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいく、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組む。その過程そのものが、言うならば文学部で学習する過程そのものなのです。

そういう意味では、卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し自分自身の成果を創造する、まさに絶好の機会といえます。

卒業論文の作成に当たっては、まず、どのようなテーマを設定するか、そこから第一歩が始まります。そのためには、1・2年次のうちに基礎知識を十分身につけるとともに、できるだけ広範囲な学習機会に接して自分の間口を広げておくことがたいへん重要です。それを踏まえておおまかなテーマを念頭に置き、徐々に3・4年次の体系的な履修へと進んでいくわけです。

なお、卒業論文は専攻によってはカリキュラムの中で必修科目に置かれています。また、大学院への進学を希望している場合は、受験資格の多くが卒業論文を書いていることを課していますので、希望する学生はそのつもりで取り組んでください。

(2) ガイダンス

卒業論文作成の具体的な準備は、3年次から始まります。それぞれの専攻で行われる卒業論文ガイダンスが卒業論文の作成への第一歩です。スケジュールは、それぞれの専攻で異なりますので、スケジュール一覧や文学部事務室、各共同研究室の掲示板でよく確認して怠りのないよう十分注意してください。

※専攻別の卒業論文作成上のガイドブックが各共同研究室に置いてありますので、卒業論文を作成する前に必ず一読するようにしてください。

(3) 提出

卒業論文の提出は、12月中旬で指定日時に遅れることは絶対に許されません。

ただし、病気その他の理由で締切時刻までに本人が提出できないことが事前に判明している場合は、指定の期日までにその旨を文学部事務室に連絡の上、代理人に提出を依頼することができます。

卒業論文提出に必要な事務手続については、その都度掲示または*C plus*で発表しますので、その指示に従ってください。

(4) 口述試験

提出された卒業論文は指導教授が審査を行い、その内容について口述試験を実施します。

14. 転専攻試験

文学部の各専攻にはそれぞれ定員が設定されていますが、2年次または3年次に進級する際に、選考試験を行った上で転専攻を認める場合があります。詳細については、12月上旬から文学部事務室で配布する募集要項を参照してください。なお、以下の内容は変更になることがありますので、必ず募集要項で確認してください。

- * 休学歴のある者（休学中の者を含む）も、出願資格に該当する場合は受験が可能です。詳細については文学部事務室にお問い合わせください。
- * 他学部への転部・転科制度はありません。
- * 統一入試、一般入試、英語外部検定試験利用入試、センター試験利用入試、海外帰国生等特別入試、英語運用能力特別入試、ドイツ語・フランス語特別入試、外国人留学生入試、自己推薦特別入試の入試形態で本学に入学した者は出願可能です。
- * 指定校推薦入試、スポーツ推薦入試、附属推薦入試の入試形態で本学に入学した者は、出願できません。

15. 国外留学制度

(1) 留学について

中央大学では教育方針の大きな柱の一つとして国外留学制度を設けています。この制度は学生に留学の機会を与え、海外での大学生活を通じて広い視野と豊かな経験を得ることにより、国際的な感覚を備えた人材を育成することを目的としています。中央大学の留学制度は次のような種類、形態があります。

交換留学	本学が交流協定を締結している海外の大学への留学
認定留学	学生自身が希望する海外の大学（学位の授与権を有する大学）で、その大学等から留学が認められており、かつ本学が留学を許可する場合の留学
短期留学	協定校における語学・文化研修（春季・夏季の約1ヶ月間）

※交換留学・認定留学制度を利用する場合、留学先大学の正規の授業を受けることが必要であり、語学のみ修得を目的とした留学（語学留学）は認められません。

※交換留学・認定留学制度を利用しないで、授業期間中に海外の大学等で勉学をする場合は、休学をして留学することになります。休学願に海外留学・旅行計画書（所定用紙）を添付し、各学部事務室で手続きをしてください。

(2) 交換留学・認定留学

(1) 留学の資格

交換留学、認定留学の制度により外国の大学へ留学を希望する場合は、次の条件を満たし、さらに「国外留学願書」（所定用紙）等を提出し、本学の留学許可を受ける必要があります。受入大学による条件がある場合は、その条件が優先となります。

- ① 本学に1年以上在学し、かつ在学1カ年につき28単位以上の単位を修得した者
- ② 留学で学業成果をあげるのに十分な外国語の能力を備えていること（留学先大学によっては所定基準があります）
- ③ 学業成績が優秀な者〔留学年度の前年度までのGPAが2.00以上となる者、ただし応募をする際には留学年度の前年度GPA2.00以上の見込みの者も応募できる〕

※語学要件は各学部によって異なりますので、各学部事務室までお問い合わせください。

(2) 留学の期間

留学期間は原則として1年または1学期間（セメスター）です。認定留学に限り、これを延長することもできますが、許可が必要です（延長の2ヶ月前までに申請してください）。

(3) 出願期間・方法

交換留学	認定留学
春派遣…6月、9月／秋派遣…12月 文学部事務室・国際センター事務室に備え付けの募集要項（Cplus上でも公開）に従い、出願手続を行う。	学生自らが留学希望大学へ出願・留学手続を行い、留学の受入許可がおりたら、文学部事務室に「国外留学願書」（所定用紙）等を提出する。原則として留学開始の3ヶ月前までを提出期限とするが、長期休暇を挟む場合は、休暇開始の1ヶ月前までを提出期限とする。

(4) 選考方法

留学の資格を備えている者に対して、選考を行います。なお、交換留學生については、学部における選考後、国際センターにおける全学的な調整を経て決定します。

(5) 留学の許可

選考のうえ、大学が教育上有益と認めた者について学長が許可します。

(6) 留学終了後の手続

留学を終えて帰国した者は、帰国後速やかに留学終了届・単位認定願等の書類を各学部事務室に提出しなければなりません。

(7) 単位の認定

留学先の大学で修得した単位は、文学部の卒業に必要な単位として認定されます。

そのため、留学しても、専攻によっては4年間での卒業が可能になります。単位数は、授業時間数をもとに換算します。認定

された科目はGPA算出基礎に含まれません。

(8) 継続履修制度

留学する時期が年次の中途の場合(前期・春学期を本学部で履修し、後期・秋学期に留学するケース)は、通年科目で前期に履修した科目を、帰国年度の後期・秋学期に引き続き履修することになります。これを「継続履修」といいます。「継続履修」については文学部事務室に相談してください。

(9) 経済的特別措置について(交換留学・認定留学共通)

① 学費の減免措置

交換留学について、原則として留学先の学費は免除になることから、本学学費は納入となります。認定留学について、留学先の学費は個人の負担になることから、学生の経済的負担を考慮し、特に学力が優れている者について、留学期間中の本学学費のうち授業料・実験実習料を減免する制度があります。

② 国外留学生奨学金

本学では、学力が特に優れている者を対象として、留学期間1年を限度として国外留学生奨学金を給付する制度があります(採用人数50名程度)。また、国際センターでは、留学に伴う各種奨学金の紹介を行っています。

(10) 協定校について

募集先は年度ごとに発表される募集要項で確認してください。

※応募資格として、協定校別に所定の語学能力が要求され、語学能力証明書(英語圏—TOEFL や IELTS のスコアレポート、ドイツ語圏—ドイツ語技能検定試験等の証明書、フランス語圏—実用フランス語技能検定試験等の証明書、スペイン語圏—スペイン語技能検定試験等の証明書、中国語圏—漢語水平考試(HSK)、中国語検定試験等の証明書、韓国語—ハングル能力検定試験等の証明書)等の提出が求められますので、応募希望者は早い時期から準備を進めてください。

(3) 短期留学プログラム

短期留学プログラムは、春季と夏季の年2回実施しており、参加学生に対し、本学の協定校における学習の機会を与え、外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を修得させ、あわせて現地の人々や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的としています。

【春季短期留学プログラム】

本学における事前研修(3回)、春季休業期間中の現地研修(3~4週間)、事後研修(1回)に参加することにより、本学の授業科目としての単位(2単位)が与えられるプログラムとなっています。

(1) 2020年春季実施校(募集人数に満たなかった場合、実施プログラムは変更になる場合があります。)

授業科目(単位数)	プログラム名(国名)
短期留学プログラムⅢ(2単位) 短期留学プログラムⅣ(2単位)*	ハワイ大学マノア校(SPAS)(アメリカ)
	ハワイ大学マノア校(NICE)(アメリカ)
	モナシュ大学(オーストラリア)
	スウィンバーン工科大学(オーストラリア)
	オークランド大学(ニュージーランド)

*Ⅲ・Ⅳの別について、1回目の参加は「短期留学プログラムⅢ」の履修となり、2回目の参加は「短期留学プログラムⅣ」の履修となります。また、原則として同一大学のプログラムに複数回参加することはできません。

(2) 参加要件

春季短期留学プログラムは、原則的に1~3年次生に参加資格があります。ただし、プログラムごとの所定期間内に申し込みを行い、その後の書類審査に合格しなければ参加することができません。

(3) 応募時期: 派遣前年の9月下旬~10月中旬

【夏季短期留学プログラム】

本学における前期授業(14回)と夏季休業期間中の現地研修(3～4週間)に参加することにより、本学の授業科目としての単位(4単位)が与えられるプログラム、または、本学における事前研修(3回)、夏季休業期間中の現地研修(3～4週間)、事後研修(1回)に参加することで本学の授業科目としての単位(2単位)が与えられるプログラムとなります。

(1)2020年度実施予定校(実施プログラム/実施内容は変更になる場合があります。)

授業科目 (単位数)	プログラム名 (国名)
短期留学プログラムⅠ (4単位) 短期留学プログラムⅡ (4単位) *	カリフォルニア大学デイヴィス校 (アメリカ)
	ウィニペグ大学 (カナダ)
	シェフィールド大学 (イギリス)
	チュービンゲン大学 (ドイツ)
短期留学プログラムⅢ (2単位) 短期留学プログラムⅣ (2単位)	エクス・マルセイユ大学 (フランス)
	スウィンバーン工科大学 (オーストラリア)
	檀国大学 (韓国)
	淑明女子大学 (韓国)
	慶熙大学 (韓国)

*Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの別について、1回目の参加は「短期留学プログラムⅠまたはⅢ」の履修となり、2回目の参加は「短期留学プログラムⅡまたはⅣ」の履修となります。また、原則として同一大学のプログラムに複数回参加することはできません。

(2)参加要件

夏季短期留学プログラムは、1～4年次生に参加資格があります(チュービンゲン大学プログラムはドイツ語既修者、エクス・マルセイユ大学プログラムはフランス語既修者に限ります)。ただし、プログラムごとの所定期間内に申し込みを行い、その後の選考(面接・書類審査等)に合格しなければ参加することができません。

(3)応募時期:3月下旬～4月上旬

申込み等、短期留学に関する詳細は、本学国際センター発行の「短期留学プログラム短期留学募集要項」(学部事務室・国際センター備付)を参照してください。授業内容については、講義要項で確認してください。

(4) 国際センター

国際センターでは随時留学の相談を受け付けています。学費の減免制度や奨学金に関する情報提供や、留学に関する資料を閲覧できますので、情報収集の一環として活用してください。

国際センター 11号館2階 電話:042-674-2211 e-mail: inq-grp@g.chuo-u.ac.jp

16. 学籍番号と各種手続き

(1) 学籍番号

入学手続きが完了すると11桁の学籍番号が付与され、学生証に記載されます。この学籍番号は転専攻・コース変更など特別の事由がない限り卒業するまで変わりません。試験や各種手続きの際には記入が必要ですから、正しく記憶してください。

入学年度	学部	専攻	組	番号	検
20	E	xx	xx	xxx	x

↑
西暦の下2桁

↑ 学籍コードを自動的に
チェックする特殊コード

11…国文	12…英語	13…ドイツ語	14…フランス語	15…中国言語	21…日本史	22…東洋史	23…西洋史
31…哲学	41…社会	42…情コミ	43…図情	51…教育	52…心理		

(2) 住所変更

本人または父母の住所・電話番号等が変更になった場合は、すみやかにC plusの「住所変更・通学区間申請（在学生）」にて変更してください。

※変更するにはメールアドレスの登録が必要です。メールアドレスの登録・変更はC plusの「メールアドレス登録」から行えます。

(3) 戸籍記載事項の変更

本人または父母の氏名等を変更する場合は、「氏名・生年月日等変更・訂正届（所定用紙）」に必要事項を記入・捺印のうえ、戸籍抄本1通（原本）を添えて窓口に提出してください。

(4) 学 費

1年分の一括納入を原則としますが、2回に分けての分納が可能です。学費の納入期限については、一括納入の場合は6月30日とし、分納の場合は1回目(前期分)を6月30日、2回目(後期分)を1月14日とします。

	1回目（前期分）	2回目（後期分）
授 業 料	2 分 の 1 額	2 分 の 1 額
実 験 実 習 料	2 分 の 1 額	2 分 の 1 額
施 設 設 備 費	2 分 の 1 額	2 分 の 1 額
諸 会 費	全 額	—

学費納入の期限日までに納入できない場合、保証人と連署の「延納願」を提出し、延納の許可を受けてください。1回目（前期分）の納入期限6月30日までに納入できない場合は7月14日まで、2回目（後期分）の納入期限1月14日までに納入できない場合は1月28日まで延納が可能です。延期された納入期限までに学費を納入しなかった場合は除籍となります。

「延納願」を提出する時は、延納を必要とするやむを得ない事由および延長した期日までに支払いが可能であることを記載した「支弁計画書」を添えて提出をしなければなりません。

(5) 休学

傷病、海外留学その他やむを得ない事由によって、学期のうち2カ月以上修学することができないときは、その理由を附して、保証人と連署の「休学願」(所定用紙)を提出し、許可された場合、その学期の終了日[前期(春学期):9月20日、後期(秋学期)3月31日]まで休学することができます。ただし、卒業延期生は休学できません。休学の手続期間によって学費の減免措置を受けることができます。詳細はホームページまたは文学部事務室でご確認ください。

(6) 復学

復学に伴う手続きは特にありません。

前期(春学期)休学者は、当該年度の9月20日、後期(秋学期)休学者は当該年度の3月31日をもって休学期間が満了します。再度休学または退学の手続をとらない場合は、休学期間満了翌日付で自動的に復学となります。

復学予定者には学部事務室から9月中旬(あるいは3月末)までに通知を送付します。

(7) 退学

病気、その他やむを得ない理由により退学する場合は、所属学部事務室と相談の上、「退学届」(学部事務室の所定用紙)と学生証を所属学部事務室に提出してください。

※退学をした場合、学費全納または分納に関わらず、いったん納入した学費、その他の納付金は返還しませんのでご注意ください。

(8) 除籍

次の各項のいずれかに該当する場合は除籍になります。

- (1) 新入生で指定された期限までに履修届を提出しない者、その他本学において修学する意志がないと認められる者
- (2) 学則に定める期限までに、学費を完納しない者
- (3) 在学できる年数を越える者(8年、編入生は6年まで)
- (4) 退学届を提出し、退学の決定をされた者

(9) 再入学

退学または除籍された者が再入学を希望する場合は、再入学願(所定用紙)に必要事項を記入し、本人と保証人が署名捺印して提出してください。また、再入学者の在籍できる年数は、除籍中を含めて入学から起算して8年です。したがって、在学年限内に卒業の見込みが立たない場合は再入学できません。

再入学を希望する場合は、必ず事前に文学部事務室に相談してください。

(10) 大学センター試験利用入試単独方式(4教科型)で入学した学生の2年次における専攻決定について

大学センター試験利用入試単独方式(4教科型)で入学した学生は、専攻決定を1年次終了時まで遅らせることができます。

詳細は11月上旬に文学部事務室窓口で確認してください。

(11) 卒業延期

4年次生以上で、かつ、中央大学学則第43条の卒業要件を満たした者が、在学期間を延長して学修の継続を希望し、卒業延期を許可された場合、卒業延期をすることができます。10月頃、文学部事務室にて要項を配布しますので内容をよく確認の上申請してください。

(12) 秋 卒 業

(1) 卒業時期

3月の学年末に限らず9月の前期(春学期)末に卒業することが可能です。

(2) 対象者

秋卒業の対象者は、前期(春学期)で卒業要件を充足する見込みのある学生および卒業延期生（既に卒業要件は満たしているが、引き続き学修の継続を希望し、認められた学生）に限ります。ただし、上記に該当する学生であっても、秋卒業に限らず、休学中の者は卒業することはできません。

なお、卒業要件として4年間以上在学（休学・除籍期間を除く）することが必要となりますので、卒業に必要な単位を修得しても、4年次の秋に卒業することはできません。

(3) 手続き

秋卒業を希望する場合は、その理由を附して、定められた期間内に文学部事務室に申請書を提出する必要があります。

秋卒業の申請が認められ、前期(春学期)終了時の卒業判定において卒業許可となった場合、秋卒業となります。

なお、秋卒業を申請しない場合の卒業時期は3月です。

秋卒業の申請手続きの詳細については、文学部事務室でご確認ください。

(4) 秋卒業の取下げについて

秋卒業の申請の取下げを希望する場合は、定められた秋卒業申請取下げ期間内に、文学部事務室で手続きを行ってください。ただし、取下げ期間終了後の取下げについては、いかなる理由があっても認められません。

(5) 秋卒業の学費について

秋卒業をする年度の学費は、学則に定める授業料、実験実習料及び施設設備費の2分の1額（分納時の前期分）となります。既に学費を一括納入している場合は、分納時の後期分相当額を返還します。

(13) 賞 罰

学生として表彰に値する行為があった場合は、表彰されます。

また、学則に違反したり、その他不都合な行為があった場合は、行為の軽重と教育上の必要性を考慮して、訓告、停学、または退学の処分をします。この処分を行ったときは保証人に連絡します。

ただし、退学処分は、次の各項のいずれかに該当する者に限ります。

- ① 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- ② 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- ③ 正当の理由がなくて出席の常でない者
- ④ 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

17. 奨学金制度

奨学金は、特に学力・人物の優れている学生、または学力が優れているにもかかわらず経済的な理由で修学が困難な学生を対象として、給付・貸与される修学資金です。主な奨学金は次の通りです。ただし、年度により内容が変更になる場合がありますので注意してください。

名 称	種 別	金 額	給付・貸与 期間	募集人数	対 象
中央大学 学部生給付奨学金	給 付	詳細は次ページをご覧ください。			
学長賞・学部長賞 給付奨学金	給 付	学部毎に決定 (文学部は次ページ参照)	1年間 (再出願可)	学部毎に決定 (文学部 は27名)	各学部の2~4年次に在学し、 学力・人物共に優秀な学生
経済援助給付奨学金 (所得条件型) (*1)	給 付	154,000円 ※給付金額は減額になる 可能性がある	半年(1学期間) ※前期・後期で 募集し、再出願 ・再受給可能	前期・後期 合計700名 程度	修学意志があるにもかかわらず、 経済的理由により修学が 困難な学生
経済援助給付奨学金 (緊急・応急)	給 付	当該年度学費の1/2相当額 以内	1年間	—	家計急変事由により修学の 継続が著しく困難となった 学生(例:家計支持者の死 亡・解雇等 要相談)
文化・スポーツ活動 等奨励給付奨学金	給 付	学費相当額を限度とし、奨 励内容により異なる	1年間 (再出願可)	約25名	学内または学外における課 外活動等において優れた実 績を収めた学生、または今 後の成果が期待できる学生
国外留学生奨学金	給 付	(年)30万円限度 (留学先地域により異なる)	1年間	約50名	認定留学生・交換留学生の うち特に学力が優れている 学生
外国人留学生奨学金 (学部・大学院 給付奨学金)	給 付	授業料・実験実習料の50% 相当額	1年間 (再出願可)	約70名 (うち学部生 約30名)	外国人留学生(2年次以上) のうち特に学力が優れてい る学生(国費留学生を除く)
外国人留学生奨学金 (学部入学時給付 奨学金)	給 付	授業料・実験実習料の30% 相当額	1年間	約5名	外国人留学生(1年次)の うち特に学力が優れている 学生(国費留学生を除く)
外国人留学生奨学金 (国際交流活動等 奨励給付奨学金)	給 付	10万円	1年間	若干名	学内または学外における国 際交流活動などを通じ、国 際相互理解または国際友好 親善に顕著な貢献を行なっ たと認められる学生
指定試験奨学金	給 付	学費減免後の授業料・実験 実習料の4/5相当額	1年間	約50名	大学が指定する国家試験 (*2)を受験する修学延 長学生(5年次以上)
日本学生支援機構 給付奨学金	給 付	(月額) 自宅 自宅外 第Ⅰ区分 38,300円 75,800円 (42,500円) 第Ⅱ区分 25,600円 50,600円 (28,400円) 第Ⅲ区分 12,800円 25,300円 (14,200円)	標準修業年限 (4年次) まで (継続審査あり)	2020年度 開始	住民税非課税世帯とそれに 準ずる世帯の学生(*3) (詳しくは給付奨学金案内 にてご確認ください。)
日本学生支援機構 第一種奨学金	貸 与 (無利子)	(月)自宅 5.4万円・4万円・ 3万円・2万円 (月)自宅外6.4万円・5万円・ 4万円・3万円・2万円	標準修業年限 (4年次) まで (継続審査あり)	約180名 (2019年度 実績)	経済的理由により修学が困 難で、学力・人物が優秀な 学生 ※家計急変の場合の対応あり
日本学生支援機構 第二種奨学金	貸 与 (有利子)	(月)2万~12万円の中で、 1万円ごとに選択		約360名 (2019年度 実績)	
地方公共団体奨学金 及び民間団体奨学金	給 付 貸 与	(月)1~10万円 (団体により異なる)	主に標準修業 年限まで	団体により 異なる	団体により異なる

(*1) 2020年度入学生は後期分のみ募集を行います。

(*2) 大学指定の国家試験=公認会計士試験・国家公務員総合職試験

(*3) 生活保護世帯で自宅から通学する学生及び児童養護施設等から通学する学生は、()内の金額となります。

中央大学学部生給付奨学金、学長賞・学部長賞給付奨学金、指定試験奨学金については文学部事務室、国外留学生奨学金・外国人留学生対象の奨学金については国際センター、その他の奨学金については学生部事務室厚生課へ問い合わせてください。

中央大学学部生給付奨学金（予定）

名 称	給付金額	給付期間	募集人数	対 象	出願時期
学長賞・学部長賞 給付奨学金	学長賞 約41万円 (授業料の1/2相当額) 学部長賞 23万円	1年間 (再出願可)	学長賞1名 学部長賞26名	文学部の2～4年次に在学し、学業成績・人物共に優秀な学生	3～4月頃
文学部給付奨学金	12万円	1年間 (再出願可)	20名程度	文学部の2～4年次に在学し、学業成績・人物共に優秀な学生	3～4月頃
短期留学プログラム 給付奨学金	18万円	1年間 (再出願不可)	20名程度	本学で設置している短期留学プログラムへの参加決定者	春派遣11月頃 夏派遣4月頃
長期留学奨励奨学金	1年留学の場合： 36万円 半年留学の場合： 18万円	1年間 (再出願不可)	15名程度	本学の制度による長期留学（交換留学・認定留学）決定者・予定者	春派遣11月頃 秋派遣4月頃
学外活動応援奨学金	計画にかかる予算額に応じて10万円～30万円	1年間	20名程度	文学部に在学し、学外での活動に従事する者	5月頃

※詳細については募集要項を参照してください。

※募集要項は*C plus*で随時お知らせします。

※上記の奨学金を複数受給することは可能ですが、同一年度内の総受給額が当該年度の学費を超えた場合には、給付額を減額することがありますので、ご了承ください。

文学部卒業生篤志家寄付による奨学金

名 称	給付金額	給付期間	募集人数	対 象	出願時期
文学部フランス語圏 派遣留学生特別奨学金 (卒業生篤志家寄付)	1年留学の場合： 最高50万円 半年留学の場合： 最高25万円	1年間 (再出願不可)	4名程度	本学の制度による長期留学（交換留学）でフランス語圏に留学する者	4月頃

※詳細については募集要項を参照してください。

※募集要項は*C plus*で随時お知らせします。

18. 学生教育研究災害傷害保険（通学特約含む）

本学は、教育研究活動中の不慮の災害事故補償、および通学中と学校施設等相互間の移動中の事故補償のために、学部在籍する全学生を対象として「学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約を含む）」に一括して加入しています。

保険が適用される事故が発生したときは文学部事務室に連絡してください。

課外活動中に事故が発生した場合には学生課、学友会事務室（学友会所属サークル活動中の場合）に連絡してください。

1 保険金が支払われる場合

(1) 学生教育研究災害傷害保険普通保険

本学の教育研究活動中の急激かつ偶然な外来の事故による身体の傷害。

① 正課中

講義、実験・実習、演習または実技による授業（以上を総称して以下「授業」といいます。）を受けている間をいい、次に掲げる「間」を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかる場所においてこれらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき授業の準備もしくは後始末を行っている間または、授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

ハ. 大学設置基準第 28 条および大学院設置基準第 15 条の規定に基づき、他の大学の正課を履修している間。なお、ここという「他の大学」には、外国の大学も含まれます。

② 学校行事中

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ 上記以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している学校施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間または大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設以外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間または大学が禁じた行為を行っている間を除きます。また、山岳登坂やハングラライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

(2) 通学中等傷害危険担保特約

被保険者の住居と学校施設等との間の通学中、学校施設等相互間の移動中に発生した身体の傷害事故。

① 通学中

学校の授業等、学校行事または課外活動への参加の目的をもって、合理的な経路および方法（学校が禁じた方法を除きます）により、住居と学校施設等の構内との間を往復する間。

② 学校施設等相互間の移動中

学校の授業等、学校行事または課外活動への参加の目的をもって、合理的な経路および方法（学校が禁じた方法を除きます）により、学校が教育研究のために所有、使用または管理している施設の他、授業等、学校行事または課外活動の行われる場所の相互間を移動している間。

2 保険金が支払われない場合

故意、闘争行為、犯罪行為、自殺行為、疾病、妊娠、地震、噴火、津波、戦争、暴動、核燃料物質の放射性、爆発性等の有害な特性による事故、放射線照射または放射能汚染、無免許運転、飲酒運転、施設外の課外活動（クラブ活動）で危険なスポーツを行っている間など。

なお、飲酒による急性アルコール中毒症など急激、偶然の条件を充足しない事故も対象となりません。

3 支払保険金の種類と金額（2018年4月1日以降に発生した事故が対象）

担保範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金
正課・学校行事中	1,200万円	72万円～ 1,800万円	治療日数1日から対象 3,000円～30万円	1日につき 4,000円
学校施設内（課外活動を 除く）、通学中、学校施設 等相互間の移動中	600万円	36万円～ 900万円	治療日数4日以上が対象 6,000円～30万円	
学校施設内外で大学に届 け出た課外活動中	600万円	36万円～ 900万円	治療日数14日以上が対象 3万円～30万円	

※入院加算金は、1日目から支払われます（180日を限度）。（2014年4月1日改定）

※学校施設内の事故について、医療保険金の支払い可能日数が、「14日以上」から「4日以上」に変更となります。但し、課外活動中を除きます。（2018年4月1日改定）

4 連絡先など（保険事故の発生と保険金の請求）

- ① 保険事故が発生したときは、直ちに事故の日時・場所・状況・傷害の程度を所定の事故通知はがきまたは FAX や PC・携帯電話で遅滞なく下記に通知してください。詳しくは、日本国際支援協会の HP より「事故通知方法のご案内」をご確認ください。

<http://jees.or.jp/gakkensai/inform.htm>

事故の日から 30 日以内に通知のない場合は、保険金が支払われないことがあります。

- ② 保険金の請求は被保険者、または代理人（被保険者が未成年のときは原則として親権者）が、所定の保険金請求書を直接、下記に提出してください。

○所定の葉書、保険金請求書は文学部事務室・学生課・学友会事務室に常備してあります。

○**保険事故発生の際の通知先、および保険金請求書の提出先は、下記のとおりです。**

〒105-8551 東京都港区西新橋3-9-4 虎ノ門東京海上日動ビルディング
東京海上日動火災保険㈱ 本店損害サービス第二部
傷害保険損害サービス第三課(学校保険コーナー)
Tel 03-6632-0736、Fax 03-6402-3567、フリーダイヤル 0120-868-066

上記「学生教育研究災害傷害保険」の他、中央大学では、中央大学学生の医療費援助に関する規程に基づき、正課授業（実験・実習・実技等を含む）中に発生した事故により障害等を負った在学学生に対して、その程度が保健センターでの応急処置の範囲を超え医師の診断治療を要する場合に、その医療費の援助を受けることができます。詳しくは、文学部事務室にお問い合わせください。

19. 卒業後の進路

(1) 大学院進学

「専門分野についての研究を更に深め、将来、研究者になりたい」「より一層高度な専門知識を必要とする職業に就きたい」といった、明確な目標がある学生は、大学院への進学をお勧めします。

博士前期課程では、「講義」と「演習」を基本とし、それぞれの分野の基礎的な専門知識を修得できるように指導が展開されます。さらに、それらの専門知識とあわせ、広い視野に立った高度な教養を修得できるよう、専門の垣根を越えた科目（共通科目）も開講されています。また、学術誌、各機関誌への論文発表や各種研究発表会への参加など、講義・演習以外にも多様な教育・研究の場が用意されています。

入学試験は、秋季入試が7月に、春季入試が12月に募集され、筆答試験（専門・外国語）と口述試験が課されます。ほとんどの専攻で、卒業論文またはそれに準ずる論文の提出が求められており、また、専門知識に加えて、語学力を問う試験も課されています。

そのため、大学院への進学を志す際には、明確な研究目標を定めるとともに、専門書を読み込むために必要となる語学力についても十分養っておくことが大切となります。

詳細については、大学院入学試験要項などで確認してください（不明な点は大学院事務室までお問い合わせください）。なお、大学院への進学に関心のある学生は、大学院授業科目履修の制度を利用することで、学部4年生で大学院の科目を履修することができます。是非、履修に挑戦してみてください。

(2) 就 職

学生生活を通じて社会的・職業的自立に向け、基礎となる必要な能力・態度を育て、進路を具体化していきましょう。

キャリアセンターは入学時より利用できる様々なサービスを提供しています。簡単にご紹介しますので是非活用してください。

・Career Center net (WEB)

キャリアセンターから発信される各種イベントの情報を得たり、就職活動やインターンシップに参加した先輩の体験記を読んだり、大学に来ている求人票を調べるなど、キャリアセンターに関わる様々な情報収集を行うためのWEBページです。また、進路が決まった際には、進路先の報告や就職活動の体験記等を、このCareer Center net(WEB)を通じて入力していただけます。

(URL) http://www.chuo-u.ac.jp/career/center/info_system/

・「キャリアデザイン・ノート」

学生一人ひとりが自分の将来について考え、社会で自分の力を十分に発揮するための目標設定や行動設計することをサポートするためのものです。「キャリアデザイン・ノート」は、①大学生活とキャリアデザイン②就職活動に関する記事③中央大学のキャリア・サポートから構成されており、このノートを通じて、自分の考えや行動特性レベルの確認、見直しを行うことができます。このことは、自分の強みや弱み、興味・関心、価値観を知り、自分が“やりたいこと”や“できること”を探す出発点にもなります。

・個人面談

将来についての相談、選考対策（書類添削・面接練習）など、進路に関わることはなんでも相談できます。

・就職活動体験記・インターンシップ体験記

就職活動やインターンシップを終えた先輩たちが、自らの体験談を記した体験記をCareer Center net(WEB)を通して見ることができ、選考を控える皆さんの心強い味方になります。

・OBOG 情報

企業からいただいている卒業生の名簿を閲覧できます。OBOG 訪問の際に活用してください。

・資料の閲覧

四季報やそれぞれの業界に関する書籍や、公務員・教員に関する資料などが閲覧できます。求人票はCareer Center net(WEB)を通して常に最新の情報が確認できます。

キャリアセンターでは、1年生から利用できるプログラムを多数用意しています。社会的基礎力を身につける講座はもちろんのこと、民間企業、公務員、教員の進路別に特化した講座も開講しています。詳細はCareer Center net (WEB) や大学HPにてその都度確認をしてください。

20. 教職課程

(1) 教職課程の履修について

中学校、高等学校等の教員になるには、学校種・教科ごとの教員免許状が必要です。本学では、文部科学大臣から教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定を受け、学科単位で教職課程を設置し、教員養成を行っています。文系学部では、1年次後期から教職課程を履修することができます。

(2) 教員養成の目標

本学の教職課程では、学部・学科の総合的かつ実践的な教育を通して、教育現場で活躍できる専門職業人の養成を目指しています。現在の教育現場で活躍できる専門職業人となるためには、教員としての高度な専門性に加えて、広い教養や豊かな人間性を持つことが必要です。そのために、社会的な要請の変化に対応できる実地応用力を有し、かつ、学校で教授される人間生活全般に関連した叡智の基盤を有する人材の養成を目標としています。本学教職課程は、この目標に沿って、長年に渡り教育現場に多くの教員を輩出してきた実績を持っています。

現在の教育現場においては、生徒の個性や多様性が重視されるようになっており、その教育を担当する教員には、その多様性に対応できる能力と人間性が求められています。教員養成を主たる目的とする大学や専門職大学院の卒業生、修了生だけではなく、さまざまな分野の高度な専門教育を受けた教員や、一般企業、公務員などの他業種を経験した教員など、多様な知識や経験と専門性を持つ教員集団によって教育が行われることは、多様な生徒への対応のために必要不可欠です。本学は、教員養成を主たる目的とする大学ではありませんが、そのような教育現場の要請にしたがって、高度な専門性、広い教養、豊かな人間性を持つ教員を一貫して養成し続けています。

(3) 取得できる教員免許状の種類及び教科

1. 教職課程を履修し定められた単位を修得し、所要の手続きをとることにより、以下の学校種・教科の普通免許状（一種免許状）を取得することができます。
2. 2009(平成 21)年に教員免許更新制が導入されて以降、普通免許状には 10 年の有効期間が定められています。つまり、本学で教職課程を履修し定められた単位を修得し、卒業と同時に取得した免許状は、卒業から 10 年後の年度末で失効します。ただし、大学で修得した単位が無効になるわけではないので、30 時間の免許状更新講習を受講すれば、新たに免許状が授与されます。

学科	専攻	学校種・教科	
		中学校一種免許状	高等学校一種免許状
文学部 人文社会学科	国文学専攻	国語	国語
	英語文学文化専攻	英語	英語
	ドイツ語文学文化専攻	ドイツ語、英語	ドイツ語、英語
	フランス語文学文化専攻	フランス語、英語	フランス語、英語
	中国言語文化専攻	中国語、国語または英語	中国語、国語または英語
	日本史学専攻	社会	地理歴史、公民
	東洋史学専攻	社会	地理歴史、公民
	西洋史学専攻	社会	地理歴史、公民
	哲学専攻	社会	地理歴史、公民
	社会学専攻	社会	地理歴史、公民
	社会情報学専攻	社会	地理歴史、公民、情報
	教育学専攻	社会または国語または英語	地理歴史、公民または国語または英語
	心理学専攻	社会	地理歴史、公民

(4) 教育職員免許状（一種）取得のための要件

1. 基礎資格として、学士の学位を有することが必要です。
2. 法律上は、教育職員免許法に定める「教科及び教職に関する科目」59単位、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目8単位、合わせて67単位以上の修得が必要です。
3. 中学校と高等学校の免許状を両方取得する場合、教職課程の科目は共通の科目として使用することができます。
4. 「*」印のついた「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち、「教科に関する科目」の20単位程度と、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の8単位は、各学部の学位を取得するための授業科目と重複しています。
5. 教育職員免許法の特例により、中学校の教員免許状を取得したい場合は、7日間以上の介護等体験が必要となります。

法令上の科目区分等		最低修得単位数	
		中学校一種免許状	高等学校一種免許状
教育職員免許法に定める「教科及び教職に関する科目」	教科及び教科の指導法に関する科目*	28	24
	教育の基礎的理解に関する科目	10	10
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	8
	教育実践に関する科目	7	5
	大学が独自に設定する科目	4	12
	合計	59単位	59単位
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2
	体育	2	2
	情報機器の操作	2	2
	外国語コミュニケーション	2	2
	合計	8単位	8単位
介護等体験特例法に定める介護等体験		要	不要

※あくまで免許法上の最低修得単位数を示したものであるため、本学での必要単位数などは科目一覧表のページで確認してください。

(5) その他の注意事項

1. 教職課程の履修を希望する場合は、6月頃に開催する「教職新規履修ガイダンス」に必ず出席してください。また、教職課程には出席重視の必修科目があったり、介護等体験や教育実習のためのガイダンスやオリエンテーションに遅刻や欠席をするとその時点で失格となったりするので、注意してください。
2. 教職課程を履修し定められた単位を修得しただけでは教育職員免許状は授与されません。卒業と同時に免許状を受領したい場合は、卒業年度に学内で「教育職員免許状一括申請」の手続きをとることが必要です。
3. 教職課程の履修には学費以外の費用が必要です。具体的には、①教職課程履修料:18,000円、②介護等体験:10,450円、③教育実習:13,000円、合計41,450円となっています(前年度実績)。この他にポートフォリオ(バインダー)購入、細菌検査、保険加入などが必要です。また、教育職員免許状の申請手数料として、別途3,400円×申請教科数が必要となります。
4. 学士入学者は、学部の科目で換算された単位が必ずしも免許法上の認定単位とは限りません。前大学の「成績証明書」と「学力に関する証明書」を持参し、文学部事務室で個別指示を受けてください。

(6) 教職科目の履修上の特例について

- (1) 教職科目〔履修要項に設置区分「教職」となっている科目〕を履修する場合、その科目の単位は各年次の最高履修単位の上限に拘束されません。したがって教職科目の単位分だけ最高履修単位を超えて履修することができます。
- (2) 高校「地理歴史」及び高校「公民」の免許状を取得するのに必要な「教科及び教科の指導法に関する科目」を履修することにより、中学「社会」の免許状を取得するのに必要な「教科及び教科の指導法に関する科目」を全て履修したことになります。

(7) 教育実習

(1) 教育実習の心得

教職に関する科目の中でも「教育実習」は、教育現場で実際に実習し単位を修得することになるので、十分な準備をしたうえで真剣に取り組む必要があります。

教育実習の授業科目としては、「教育実習Ⅰ（3単位）」と「教育実習Ⅱ（2単位）」があります。「教育実習Ⅰ（3単位）」には、事前・事後指導1単位が含まれています。事前・事後指導には、指導教授による直接指導のほか3年次から7回実施される教育実習オリエンテーションも含まれます。

中学校一種普通免許状を取得する場合は、教育実習の単位として5単位が必要となるので、「教育実習Ⅰ（3単位）」と「教育実習Ⅱ（2単位）」の両方を修得しなければなりません。ただし、実際には3週間（15日間以上）の教育実習を行うことによって「教育実習Ⅰ（3単位）」と「教育実習Ⅱ（2単位）」の両方を同時に修得したことになります。

高等学校一種普通免許状を取得する場合は、教育実習の単位として3単位のみ必要なので、「教育実習Ⅰ」のみ修得すればよいことになります。実習期間は、2週間（10日間以上）です。

なお、中学校と高校の教員免許状を同時に取得希望の場合は、3週間（15日間以上）の教育実習を行い5単位を修得する必要があります。実習先は中学校でも高校でも構いません。

教育実習は、実習校において実際に教壇に立ち授業をするだけでなく、ホームルームで話をしたり学校内の様々な業務を行ったりします。特に実習の成果を高めるためには、事前に実習教科について十分に時間をかけて教材研究をするとともに、実習期間中は授業参観を通じて他の先生方の指導ぶりを学んだり、生徒達とも積極的に交流し部活動にも参加したりする必要があります。

教育実習を行う実習校は、大学の指導体制の関係もあり、本学附属の学校あるいは都内公立中学校・都立高等学校（これらを指定校と言います）で行うことを基本としています。ただし、それだけでは受入数が不足するため、地方（母校）校での実習も認めています。なお、実習校には教育実習生受入の義務はなく、また受け入れることによりその指導のために実習校にも多くの負担が生じます。にもかかわらず、教職を志す学生への厚意と教員養成に対する協力のために実習生を受け入れ、指導をしてくださっています。そのようなことに鑑み、教職に就く意思が薄弱な者、基礎学力が不足している者、教育実習を安易に考えている者、教育実習に対して熱意のない者には教育実習の履修を許可しません。

(2) 教育実習の履修資格要件

教育実習の履修にあたっては、以下の諸条件を満たしていることが必要です。一つでも満たしていない場合は履修できません。

- ① 「教職基幹科目」のうち以下に掲げる科目を実習実施前年度中に修得済であること

「教育の理念と歴史」「教職の基礎」「教育と社会・制度」「発達と学習の心理」「(各教科の)教科教育法1・2」

- ②教育実習事前指導の一環として実習前年度より実施する「教育実習オリエンテーション」に全回出席していること。
- ③ 教育実習に関する必要な諸手続を遅滞なく完了していること。
- ④ 教職に対する理解と熱意、また免許取得しようとする教科についての十分な基礎学力や専門知識を持っていること。

なお、以上の教育実習履修資格要件に加えて、更に、下枠の「東京都立学校教育実習取扱要綱」に定められている教育実習資格を満たさない場合も、教育実習は履修できません。

(3) 教育実習申し込みと行事ならびに諸手続

教育実習に関する事務は、教職事務室が取り扱っています。教育実習希望者はオリエンテーションに出席して、実習申込手続きをするとともにその他の諸手続きや指導を受けなければなりません。

<注> 1. 教育実習に関する事務取扱いは教職事務室（文学部事務室並び・電話042-674-3726）

- 2. 教職事務室掲示板と文学部掲示板の掲示は常に注意すること。
- 3. 上記の行事は、すべて出席が不可欠の要件である。とくに教育実習の前年度に行われるオリエンテーションに遅刻や無断欠席をした場合は教育実習の申し込みは取り消され、次年度の教育実習の履修登録はできません。
- 4. オリエンテーション・その他行事にやむをえない理由（授業・介護体験等との重複）により出席できない場合は必ず事前に教職事務室で手続きをとること。【事前届出制】
- 5. 教育実習の申し込み時には「教育実習手数料」を納入しなければなりません。
- 6. 行事や手続き内容等について変更がある場合は、掲示及びホームページに掲載するので注意すること。

(4) 教育実習校の決定

教育実習を行う実習校は、大学の「指定校」と「地方母校」からなっています。

大学の「指定校」で実習する場合は、実習生の教科や人数、実習校の受入事情等を総合的に考慮して大学が決定し発表します。

また、「地方母校」で実習する場合は、実習前年度の指定の期日までに「教育実習生受入内諾書」を提出することが前提となります。詳細は「教育実習オリエンテーション」で説明します。

東京都立学校教育実習取扱要綱抜粋

（教育実習生の実習資格）

第5条 この要綱に基づき、公立学校において教育実習ができる者は、次の各号に掲げる要件を備えた者に限る。

(1) 東京都内にキャンパスがある大学等に在籍する者で次の各号に該当するもの

(ア) 東京都内にキャンパスがある大学等に在籍する者のうち教育実習の実施について、あらかじめ東京都教育委員会に実施の届出を行った大学等に在籍する者であること。

(イ) 大学等の最高学年に在学し、若しくはこれと同等以上で教育職員免許状取得見込みで、教職に就く意思のある者であること。

〈中略〉

2 前項各号の規定にかかわらず、次の各号に該当するものは除く。

(1) 伝染の恐れのある疾病若しくは教育実習を行う上で妨げとなる精神障害等のある者

(2) 公立学校の正常な教育活動を妨げる恐れのある者

（教育実習生の責務）

第12条 教育実習生は、大学等及び教育実習校の指導に誠実に従わなくてはならない。

(8) 教職実践演習について

1. 「教職実践演習」の設置について

2008年11月12日公布の教育職員免許法施行規則の改正（2010年度大学入学生より適用）によって、全ての免許種の必修科目として「教職実践演習」2単位が設けられました。「教職実践演習」は、4年次後期に開設しています。

2. 「教職実践演習」の趣旨・目的

教職実践演習は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じ、履修者が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば教職課程4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。履修者はこの科目を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目的としています。なお、教職実践演習の授業は少人数授業を中心に行われます。

3. 「教職履修ポートフォリオ」について

この「教職実践演習」において、教職課程の履修状況を振り返る材料として「教職履修ポートフォリオ」の作成が義務づけられています。「教職履修ポートフォリオ」は、大学側が学生の履修状況を把握するためのものであると同時に、学生自身が自らの教職課程の学びの履歴を確認するためのものです。

本学ではこのポートフォリオを「CUORE（クオーレ）」と名付けています。

「教職実践演習」の履修にあたっては、その授業開始までに「CUORE」が完全に記入済みであることが前提となります。従って、教職課程履修者は各自で「CUORE」に綴じ込む資料を「ファイル一覧」によって確認しファイルするとともに、各教職科目の履修終了時に指定用紙に「教職科目の履修・成績状況」を記述し、それらを踏まえて「自己評価表」を記入しておきましょう。

◆ 活用について

「CUORE」は、主に4年次後期の「教職実践演習」において用いられるものですが、1～3年次においても教職関係の授業で提出を求められることがあります。

ただし、「教職実践演習」および個別指導の中で「CUORE」が用いられた場合でも、教員免許状取得のための必要単位の確認や、免許状取得を保証するものではありません。教職課程の履修計画にあたっては、各自が各専攻の「教職科目一覧表」に従い、自己の責任において履修してください。

◆ 保管について

「CUORE」は、教職課程履修開始時に購入し、本学の教職課程を履修する上で使用するものですが、本学を卒業後に他大学等で教職課程を履修する場合に、その大学から提出を求められることもあります。各自で教員免許状を取得するまで大切に保管してください。

◆ 作成について

「CUORE」の作成については、そのためのガイダンスを教職新規履修ガイダンス後に開催し、説明します。作成にあたって必要となるバインダーを生協で購入し、そのバインダーを持参のうえ、ガイダンスに必ず出席してください。日時等は教職掲示板等でお知らせします。

4. 「教職実践演習」の履修要件

教職実践演習を履修するためには、原則として、前期終了日までに教育実習を終了していることが条件になります。

ただし、後期開始日以降に教育実習を行わざるを得なくなった場合は、実習校の内諾を得る前に、必ず教職事務室に相談してください。それがやむを得ない理由であると大学が判断したときは、例外として教職実践演習の履修を許可することがあります。

5. 「教職実践演習」の履修にあたっての留意事項

履修に際しては 2. 「教職実践演習」の趣旨・目的にもあるように教職課程4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として履修することが求められています。よって学生の皆さんはそのことに留意し、教職科目一覧表に示された科目を配当年次にしっかりと修得してください。

(9) 介護等体験

中学校教諭の普通免許状を取得するためには、介護等体験が必要となります。介護等体験については、本要項では概要しか記載してありません。従って、教職課程を履修し介護等体験が必要な人は、毎年3月下旬から4月上旬に開催の介護等体験申込説明会に出席し、介護等体験申し込み時に配布される「介護等体験の手引き」を参照したうえで、申し込みをすることになります。

(1) 介護等体験制度

① 体験の義務付け

介護等体験特例法(1998年4月1日施行の「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の略称)により1998年4月に入学した大学・短大の1年次から、小学校・中学校の教諭の普通免許状(専修免許状・一種免許状・二種免許状)を取得する場合、従来から必要とされている教職関係科目等の所定単位の修得及び卒業(修了)資格のほか、新たに介護等体験(以下「体験」と略称する)を行うことが必要になりました。

※教員免許状(小学校・中学校の普通免許状)申請の際は、体験証明書を提出しなければなりません。

② 受入施設・学校

受入施設は、社会福祉施設(以下「施設」と略称する)と特別支援学校((以下「学校」と略称する)の二つです。

③ 体験年齢(年次)

体験は、18歳に達していればできることになっています。ただし、本学の場合は2年次から行うこととなります(各都道府県の教育委員会及び社会福祉協議会等も、ほとんどのところが2年次から受け入れることにしています)。

④ 体験の日数(期間)

体験は、7日間(原則として1年目に施設で連続5日間、2年目に学校で2日間)行うことになっています。

⑤ 体験時期(時間)

受入施設・学校側の都合に合わせて決められます。また、施設での体験時間は、1日概ね5～6時間とされています。学校では体験・内容により体験時期が異なる場合もあります。

⑥ 体験内容

受入施設・学校の判断に任されていますが、一般的には、介護、介助のほか障害者、高齢者の話し相手、散歩の付き添いなどの交流等の体験、あるいは掃除や洗濯などのように受入施設の職員が行う業務の補助など、幅広い体験内容が想定されています。

⑦ 体験の証明

体験を行う場合、原則として体験者自身が東京都教育委員会所定の「証明書」(用紙)を体験初日に受入施設(学校)へ持参し、体験最終日の終了後に「証明書」を発行してもらうこととなります。

(2) 体験の手続

① 申込

介護等体験を行う場合は、「介護等体験申込説明会」に出席したうえで体験費用等を納入し、申し込み手続きをしなければなりません。本学の場合、学校については全員都内の特別支援学校で体験することになります。施設についても、原則として都内の社会福祉施設で体験することになります。

② 時期

手続期間は、4月上旬の予定です。具体的な日時等については、「介護等体験申込説明会」の際にお知らせします。

③ 保険の加入

介護等体験を行う場合、財団法人日本国際教育支援協会を介して以下の2種類の保険に加入しなければなりません。加入していない場合は、学校・施設とも体験できません。

ただし、アの保険は入学時に大学が一括加入していますので、イの保険にのみ新たに加入することになります。

ア.「学生教育研究災害障害保険」…自分が怪我をした場合の保険です。

イ.「インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険」…怪我をさせたり、施設のことを誤って壊した場合の保険です。

※上記の保険は、いずれも体験活動中に発生した場合が対象になります。

④ 経費(体験費用)の徴収

施設での体験を行うには費用がかかります(学校での体験には、原則として費用はかかりません)。体験費用は、申し込み手続きをする際に納入することになります。納入後は、いかなる場合も(辞退等で体験活動を行わなかった場合でも)返還できませんので安易な申し込みは絶対に行わないでください。

東京都の社会福祉施設の場合、2019年度徴収された体験費用は、10,260円(5日間分)です。

また、施設からの細菌検査(検便)の要請があります。検査費用は2019年度の場合、580円です。

(3) 体験関係の年間行事等(年度によって変更する場合があります。詳細は1月の介護体験ガイダンスでお知らせします。)

【社会福祉施設(1年目)】

時 期	行 事・手 続 等 (含提出書類・留意事項)
1月下旬	介護等体験ガイダンス
3月下旬 ┆ 4月上旬	介護等体験申込説明会 (介護等体験手引き、体験申込書配布)
4月上旬	介護等体験申込書提出 定期健康診断 (体験予定者は必ず受診のこと)
5月初旬と6月 下旬	社会福祉施設事前指導Ⅰ、Ⅱ
8月上旬 ┆ 3月下旬	◇体験開始 ◇体験前は、参考図書等を読み予備知識を身につけておく必要があります。 ◇体験前の提出書類→体験希望学生個人票・介護等体験事前学習報告書・健康診断書・「麻疹抗体検査受診票」貼付表・検便/細菌検査結果など ◇体験前に受取る書類→体験証明書・体験記/感想文・自己評価票等の用紙など ◇体験後の提出書類→体験証明書・体験記/感想文・自己評価票など

【特別支援学校（2年目）】

時 期	行 事・手 続 等（含提出書類・留意事項）
3月下旬 ～ 4月上旬	特別支援学校事前指導 ※一人一冊「フィリア」（参考図書）を貸出します。 定期健康診断（体験予定者は必ず受診のこと）
5月中旬 ～ 3月下旬	◇体験開始 ◇体験前は、参考図書等を読み予備知識を身につけておく必要があります。 ◇体験前の提出書類→介護等体験事前学習報告書 ◇体験前事前グループ指導→体験期間に応じて、少人数で体験前事前グループ指導を受けていただきます。 ◇体験前に受取る書類→体験証明書・体験記／感想文など ◇体験後の提出書類→体験証明書・体験記／感想文・フィリア（参考図書）

注1. 試験期間については、本学より各受入調整機関等に対し体験期間から除外して貰う手続きをとります。従って、繰り上げ試験（特に12月に実施されるものに留意すること）が想定される場合は、分かる範囲で体験の申し込みをする時に予め申告してもらうことになります。

注2. 当該年度の4月に大学が実施する「学生定期健康診断」を必ず受診（無料）し、健康であることが証明されないと体験はできません。大学で受診しなかった場合は、他の医療機関等で健康診断を受診することになり、高額な費用を自己負担することになります。

(10) 教職科目等履修生について

将来、教育職員をめざす人で学部卒業までに教員免許状を取得するための必要単位を一部または全部修得できなかった人や、すでに免許状を取得していて、卒業後に別の教科の免許状を取得したい人は、教職課程の科目等履修生の制度によって必要単位を修得し免許状を取得することができます。

科目等履修生制度の概要は次のとおりです。詳しくは教職事務室にお問い合わせください。

- (1) 本学卒業生（学士の学位を有する者）であること。
- (2) 取得できる免許教科は、学部・学科に与えられた教科であること。
- (3) 科目等履修生募集要項を2月上旬に教職事務室で入手の上、指定期日（3月中旬）に選考試験を受け合格する必要があります。
- (4) 履修期間は1年間。1年間で免許状を取得できない場合は、次年度における科目等履修生の選考を経て、履修することになります。なお、教育実習の単位を未修得の場合は、教育実習履修前年度における事前指導（オリエンテーション）を受講後、教育実習の履修となるため、1年間で免許状を取得することはできません。また、この事前指導（オリエンテーション）の受講のみ及び、介護等体験のみで在籍することはできません。
- (5) 科目等履修生は法改正等により在学中と履修要件が変更になる場合があります。

(11) 教職における各種証明書の申請と交付

証明書の申請は、在學生・卒業生は全て文学部事務室へ申請してください。なお、科目等履修期間の各種申請は教職事務室となります。

証明書の提出先によっては、本学様式以外の「指定された証明書用紙」を必要とする場合がありますから、十分注意してください。

証明書種類	資格および対象	料金	備考
教育職員免許状取得見込証明書	教職単位修得見込の在學生 (4年次生以上)	在學生・卒業生・離籍生…一部につき300円 一部につき500円	本学・学外指定用紙
学力に関する証明書	卒業生・退學生		〃
教育職員に関する人物証明書	在學生・卒業生		教育実習指導教授またはクラス担任・卒論担任が証明し文学部事務室へ
成績証明書	教職の授業科目修得の在學生・卒業生・退學生		文学部事務室へ
教職成績証明書	教職科目等履修生		教職事務室へ
在籍証明書	教職科目等履修生		〃

<注意> 教育職員免許状授与証明書は中央大学では発行できません。免許状を授与された教育委員会へ申請してください。

(12) 教育職員免許状一括申請について

教職課程の所定の単位を修得した人には、卒業と同時に教育職員免許状（教員免許状）が授与されます。

教員免許状は、本来各人が卒業後、その居住する都道府県の教育委員会へ個人申請をして授与されるものですが、卒業と同時に教職に就くことが予定されている人の便宜をはかるためと、授与権者（東京都教育委員会）からの事務処理上の要請から、大学ごとにとりまとめて一括して免許状の申請手続きをとることになっています。

このため、対象者は、4年次の4月下旬のオリエンテーションGで申請手続きを行います。その申請手続きをした人について、教職事務室が取りまとめて東京都教育委員会へ教員免許状の一括申請手続きを開始します。

また、上記の免許状一括申請者を対象に、10月下旬から11月上旬頃に「免許状一括申請ガイダンス」を開催します。そこでは、個人毎にプリントされた「免許状授与申請チェックリスト」を配布し、各自その記載事項をチェックしたうえ、宣誓書に署名捺印してもらいますので、印鑑（シャチハタ印不可）を携帯して必ず出席してください。

なお、以上の手続きを怠った場合は、免許状一括申請はできません。その場合は卒業後に自分で申請時に居住する各都道府県教育委員会に出向いて直接個人申請手続きをすることになります。

免許状一括申請を完了した人の免許状の授与は、卒業式当日となります。

(13) 教職科目について

①教職課程カリキュラム表（全体）

「教職基幹科目」は本ページに記載の科目を履修し、それ以外の科目区分は各該当ページを参照してください。

免許法施行規則に定める科目区分等		履修すべき科目	単位数	設置区分	配当年次	最低修得単位数		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項					中学	高校	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	文学部の授業科目	*	文	*	28	24	教科毎の科目の詳細は次ページ以降を参照
		教職所管の共通開設科目	*	教職	*			
		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	*	教職	*			
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	教職・教育学専攻	1	10	10	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職の基礎	2	教職	1			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育と社会・制度	2	教職・教育学専攻	1			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	発達と学習の心理	2	教職	1			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の基礎	2	教職	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法	2	教職	3	10	8	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程と総合的な学習の時間	2	教職	2			
	総合的な学習の時間の指導法	生徒指導と特別活動	2	教職	2			
	特別活動の指導法	教育の方法と技術	2	教職	2			
	生徒指導の理論及び方法	教育相談と進路指導	2	教職	2			
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		2	教職	2			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ（事前・事後指導の1単位を含む）	3	教職	4	5	3	
	教職実践演習	教育実習Ⅱ	2	教職	4			
		教職実践演習	2	教職	4			
大学が独自に設定する科目	上記の科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する科目	文学部の授業科目	*	文	*	4	12	国英は8
		教職所管の科目	*	教職	*			
		文学部の授業科目（※1）	*	文	*			
		学校インターンシップ1	1	教職	2・3			
		学校インターンシップ2	1	教職	2・3			
		単位数小計				59	59	
66条の6に定める科目	日本国憲法	公法概論A	2	共通科目	1-4	4		（※1）詳細は後掲の「③大学が独自に設定する科目」のページを参照
		公法概論B	2		1-4			
	体育	体育の科学（演習）	2	健康・スポーツ	1	2		
		外国語コミュニケーション	英語表現	2	外国語科目	1	2	
	Oral Communication (1)～(4)		2	2-4				
	Intermediate Communication(1)		1	英語文学文化専攻		2		
			Intermediate Communication(2)	1		2		
情報機器の操作	情報機器の操作	2	教職	2-4	2			

<注>①科目を複数開講しており、単位数と配当年次を記載できない場合は「*」としています。

②「各教科の指導法」の単位は受けようとする免許教科ごとに修得する必要があります。

③「各教科の指導法」を複数履修した場合、修得した単位は免許を受けようとする教科のみにしか算入されません。

④中学校の場合は上記の単位修得に加え「介護等体験」も必要です。

②教科及び教科の指導法に関する科目

< 中学 国語 >

国文学専攻・中国言語文化専攻・教育学専攻

		免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数
必修	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文書表現に関するものを含む。）	国語学概論 A	2	国文学専攻	1・2	8
			国語学概論 B	2		1・2	
			日本語教育 A	2		1・2	
			日本語教育 B	2		1・2	
		国文学（国文学史を含む。）	日本文学史 A	2		1・2	4
			日本文学史 B	2		1・2	
		漢文学	漢文学 A	2		1・2	4
			漢文学 B	2		1・2	
		書道（書写を中心とする。）	書道	2		1・2	2
		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	国語科教育法 1	2		教職	2
	国語科教育法 2		2	2			
	国語科教育法 3		2	3			
	国語科教育法 4		2	3			
	選択	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文書表現に関するものを含む。）	国語史 A	2	国文学専攻	1・2
国語史 B				2	1・2		
国語学研究 A				2	3・4		
国語学研究 B				2	3・4		
国文学（国文学史を含む。）			上代文学 A	2	1・2		
			上代文学 B	2	1・2		
			中古文学 A	2	1・2		
			中古文学 B	2	1・2		
			中世文学 A	2	1・2		
			中世文学 B	2	1・2		
			近世文学 A	2	1・2		
			近世文学 B	2	1・2		
			近現代文学 (1) A	2	1・2		
			近現代文学 (1) B	2	1・2		
			近現代文学 (2) A	2	1・2		
			近現代文学 (2) B	2	1・2		
漢文学		国語科教育演習 A	2	2・3			
		国語科教育演習 B	2	2・3			
		国文学作家作品研究 (1) A	2	3・4			
		国文学作家作品研究 (1) B	2	3・4			
		国文学作家作品研究 (2) A	2	3・4			
		国文学作家作品研究 (2) B	2	3・4			
漢文学		日本文学研究史 A	2	3・4			
		日本文学研究史 B	2	3・4			
		日本芸能史 A	2	3・4			
		日本芸能史 B	2	3・4			
		日本漢文学 A	2	3・4			
		日本漢文学 B	2	3・4			

<高校 国語>

国文学専攻・中国言語文化専攻・教育学専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数		
必修	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文書表現に関するものを含む。）	国語学概論 A	2	国文学専攻	1・2	8	
			国語学概論 B	2		1・2		
			日本語教育 A	2		1・2		
			日本語教育 B	2		1・2		
		国文学（国文学史を含む。）	日本文学史 A	2		1・2	4	
			日本文学史 B	2		1・2		
			漢文学	漢文学 A		2	1・2	4
				漢文学 B		2	1・2	
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	国語科教育法 1	2	教職	2	8		
		国語科教育法 2	2		2			
		国語科教育法 3	2		3			
		国語科教育法 4	2		3			
選択	教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文書表現に関するものを含む。）	国語史 A	2	国文学専攻	1・2	28 28単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。	
			国語史 B	2		1・2		
			国語学研究 A	2		3・4		
			国語学研究 B	2		3・4		
	国文学（国文学史を含む。）	上代文学 A	2	1・2				
		上代文学 B	2	1・2				
		中古文学 A	2	1・2				
		中古文学 B	2	1・2				
		中世文学 A	2	1・2				
		中世文学 B	2	1・2				
		近世文学 A	2	1・2				
		近世文学 B	2	1・2				
		近現代文学 (1) A	2	1・2				
		近現代文学 (1) B	2	1・2				
		近現代文学 (2) A	2	1・2				
		近現代文学 (2) B	2	1・2				
		国語科教育演習 A	2	2・3				
		国語科教育演習 B	2	2・3				
		国文学作家作品研究 (1) A	2	3・4				
		国文学作家作品研究 (1) B	2	3・4				
		国文学作家作品研究 (2) A	2	3・4				
		国文学作家作品研究 (2) B	2	3・4				
		日本文学研究史 A	2	3・4				
		日本文学研究史 B	2	3・4				
		日本芸能史 A	2	3・4				
		日本芸能史 B	2	3・4				
		漢文学	日本漢文学 A	2		3・4		
			日本漢文学 B	2		3・4		

< 中学・高校 英語 >

英語文学文化専攻・ドイツ語文学文化専攻・フランス語文学文化専攻・中国言語文化専攻・教育学専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数	
必修	教科に関する専門的事項	英語学	英語学概説(1)	英語文学文化専攻	1・2	2	
		英語文学	イギリス文学史(1)		2	2・3	4
			アメリカ文学史(1)		2	2・3	
		英語コミュニケーション	Presentation and Discussion(1)		1	2	2
			Presentation and Discussion(2)		1	2	2
		異文化理解	イギリスの文化(1)		2	1・2	4
	アメリカの文化(1)		2	1・2			
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語科教育法 1	2	教職	2	8	
		英語科教育法 2	2		2		
		英語科教育法 3	2		3		
		英語科教育法 4	2		3		
	選択	英語学	Grammar for Communication(1)	1	英語文学文化専攻	1	28 28単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。
Grammar for Communication(2)			1	1			
英語学概説(2)			2	1・2			
英語史(1)			2	2・3			
英語史(2)			2	2・3			
英語学(意味論・語用論)(1)			2	2-4			
英語学(意味論・語用論)(2)			2	2-4			
英語学(形態論・統語論)(1)			2	2-4			
英語学(形態論・統語論)(2)			2	2-4			
英語学(社会言語学)(1)			2	2-4			
英語学(社会言語学)(2)			2	2-4			
英語学(心理言語学)(1)			2	2-4			
英語学(心理言語学)(2)			2	2-4			
英語学(音声学・音韻論)(1)			2	2-4			
英語学(音声学・音韻論)(2)			2	2-4			
英語文学			イギリス文学史(2)	2		2・3	
			アメリカ文学史(2)	2		2・3	
			イギリス文学特殊講義(1)	2		2-4	
			イギリス文学特殊講義(2)	2		2-4	
			現代イギリス小説(1)	2		2-4	
			現代イギリス小説(2)	2		2-4	
			現代アメリカ小説(1)	2		2-4	
			現代アメリカ小説(2)	2		2-4	
			近代イギリス小説(1)	2		2-4	
		近代イギリス小説(2)	2	2-4			
		近代アメリカ小説(1)	2	2-4			
		近代アメリカ小説(2)	2	2-4			
		イギリス詩(1)	2	2-4			
		イギリス詩(2)	2	2-4			
		イギリス演劇(1)	2	2-4			
		イギリス演劇(2)	2	2-4			
		アメリカ文学特殊研究(1)	2	2-4			
		アメリカ文学特殊研究(2)	2	2-4			
アメリカ文学文化研究(1)		2	2-4				
アメリカ文学文化研究(2)		2	2-4				
世界の英語文学(1)		2	2-4				
世界の英語文学(2)		2	2-4				
異文化理解		イギリスの文化(2)	2	1・2			
		アメリカの文化(2)	2	1・2			

教職(英語)

<中学 ドイツ語>
ドイツ語文学文化専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数	
必修	教科に関する専門的事項	ドイツ語学	ドイツ語学Ⅰ(1):講義	2	ドイツ語文学文化専攻	2	2
		ドイツ文学	ドイツ文学史(1)	2		1	4
			ドイツ文学史(2)	2		1	
		ドイツ語コミュニケーション	コミュニケーションのドイツ語Ⅰ	2		1	4
			コミュニケーションのドイツ語Ⅱ	2		1	
		異文化理解	ドイツ文化特講(1)	2		1	4
			ドイツ文化特講(2)	2		1	
		各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	ドイツ語科教育法1	2		3	教職
	ドイツ語科教育法2		2	3			
	ドイツ語科教育法3		2	4			
	ドイツ語科教育法4		2	4			
	選択	ドイツ語学	ドイツ語学Ⅰ(2):演習	2	ドイツ語文学文化専攻	2-4	28 28単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。
ドイツ語学Ⅰ(3):講義			2	2			
ドイツ語学Ⅰ(4):演習			2	2-4			
ドイツ語学Ⅱ(1):講義			2	2			
ドイツ語学Ⅱ(2):演習			2	2-4			
ドイツ語学Ⅱ(3):講義			2	2			
ドイツ語学Ⅱ(4):演習			2	2-4			
ドイツ文学			ドイツ文学講義(1)	2		1-3	
			ドイツ文学講義(2)	2		1-3	
			ドイツ文学講義(3)	2		1-3	
			ドイツ文学講義(4)	2		1-3	
ドイツ語コミュニケーション			ドイツ語の音声と背景	2		2・3	
			ドイツ語中級:コミュニケーション(1)	2		2-4	
			ドイツ語中級:コミュニケーション(2)	2		2-4	
			ドイツ語中級:講読と作文(1)	2		2-4	
			ドイツ語中級:講読と作文(2)	2		2-4	
			留学のドイツ語(1)	2		2-4	
			留学のドイツ語(2)	2		2-4	
		ドイツ語原書講読(1)	2	2-4			
		ドイツ語原書講読(2)	2	2-4			
		資格のドイツ語Ⅰ(1)	2	2-4			
		資格のドイツ語Ⅰ(2)	2	2-4			
		資格のドイツ語Ⅱ(1)	2	2-4			
資格のドイツ語Ⅱ(2)		2	2-4				
異文化理解		ドイツ文化講義(1)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(2)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(3)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(4)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(5)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(6)	2	1-3			
		ドイツ社会誌(1)	2	1-3			
		ドイツ社会誌(2)	2	1-3			
		ドイツ社会誌(3)	2	1-3			
		ドイツ社会誌(4)	2	1-3			
		現代ドイツ事情(1)	2	1-3			
		現代ドイツ事情(2)	2	1-3			
		現代ドイツ事情(3)	2	1-3			
		現代ドイツ事情(4)	2	1-3			

※免許教科外国語(ドイツ語)を履修する場合は、「ドイツ語」と「英語」の2教科を同時に履修し、教育実習は「英語」を履修してください。

<高校 ドイツ語>
ドイツ語文学文化専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数	
必修	教科に関する専門的事項	ドイツ語学	ドイツ語学Ⅰ(1)：講義	2	ドイツ語文学文化専攻	2	2
		ドイツ文学	ドイツ文学史(1)	2		1	4
			ドイツ文学史(2)	2		1	
		ドイツ語コミュニケーション	コミュニケーションのドイツ語Ⅰ	2		1	4
			コミュニケーションのドイツ語Ⅱ	2		1	
		異文化理解	ドイツ文化特講(1)	2		1	4
	ドイツ文化特講(2)		2	1			
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	ドイツ語科教育法1	2	教職	3	4	
ドイツ語科教育法2		2	3				
選択	教科に関する専門的事項	ドイツ語学	ドイツ語学Ⅰ(2)：演習	2	ドイツ語文学文化専攻	2-4	24 24単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。
			ドイツ語学Ⅰ(3)：講義	2		2	
			ドイツ語学Ⅰ(4)：演習	2		2-4	
			ドイツ語学Ⅱ(1)：講義	2		2	
			ドイツ語学Ⅱ(2)：演習	2		2-4	
			ドイツ語学Ⅱ(3)：講義	2		2	
			ドイツ語学Ⅱ(4)：演習	2		2-4	
		ドイツ文学	ドイツ文学講義(1)	2		1-3	
			ドイツ文学講義(2)	2		1-3	
			ドイツ文学講義(3)	2		1-3	
			ドイツ文学講義(4)	2		1-3	
		ドイツ語コミュニケーション	ドイツ語の音声と背景	2		2・3	
			ドイツ語中級：コミュニケーション(1)	2		2-4	
			ドイツ語中級：コミュニケーション(2)	2		2-4	
			ドイツ語中級：講読と作文(1)	2		2-4	
			ドイツ語中級：講読と作文(2)	2		2-4	
			留学のドイツ語(1)	2		2-4	
			留学のドイツ語(2)	2		2-4	
			ドイツ語原書講読(1)	2		2-4	
			ドイツ語原書講読(2)	2		2-4	
			資格のドイツ語Ⅰ(1)	2		2-4	
	資格のドイツ語Ⅰ(2)		2	2-4			
	異文化理解	資格のドイツ語Ⅱ(1)	2	2-4			
		資格のドイツ語Ⅱ(2)	2	2-4			
		ドイツ文化講義(1)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(2)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(3)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(4)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(5)	2	1-3			
		ドイツ文化講義(6)	2	1-3			
		ドイツ社会誌(1)	2	1-3			
		ドイツ社会誌(2)	2	1-3			
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	ドイツ語科教育法3	2	教職	4		
		ドイツ語科教育法4	2		4		

※免許教科外国語（ドイツ語）を履修する場合は、「ドイツ語」と「英語」の2教科を同時に履修し、教育実習は「英語」を履修してください。

<中学 フランス語>
フランス語文学文化専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数	
必修	教科に関する専門的事項	フランス語学	フランス語学演習	4	フランス語文学文化専攻	2-4	4
		フランス文学	フランス文学史 A	2		1-4	4
			フランス文学史 B	2		1-4	
		フランス語コミュニケーション	コミュニケーション演習(1)	4		3・4	4
	異文化理解	フランス文化史 A	2	1-4	4		
		フランス文化史 B	2	1-4			
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		フランス語科教育法 1	2	教職	3	8
			フランス語科教育法 2	2		3	
			フランス語科教育法 3	2		4	
			フランス語科教育法 4	2		4	
選択	教科に関する専門的事項	フランス語学	フランス言語思想 A	2	フランス語文学文化専攻	2-4	28 28単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。
			フランス言語思想 B	2		2-4	
	フランス文学	フランス小説 A	2	2-4			
		フランス小説 B	2	2-4			
		フランス文化研究 A	2	2-4			
		フランス文化研究 B	2	2-4			
		フランス文学研究 A	2	2-4			
		フランス文学研究 B	2	2-4			
		フランス詩 A	2	2-4			
		フランス詩 B	2	2-4			
	フランス語コミュニケーション	フランス文学入門演習	4	2-4			
		コミュニケーション演習(2)	4	3・4			
	異文化理解	コミュニケーション演習(3)	4	3・4			
		フランス文化入門演習	4	2-4			

※免許教科外国語(フランス語)を履修する場合は、「フランス語」と「英語」の2教科を同時に履修し、教育実習は「英語」を履修してください。

<高校 フランス語>
フランス語文学文化専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数	
必修	教科に関する専門的事項	フランス語学	フランス語学演習	4	フランス語文学文化専攻	2-4	4
		フランス文学	フランス文学史 A	2		1-4	4
			フランス文学史 B	2		1-4	
		フランス語コミュニケーション	コミュニケーション演習(1)	4		3・4	4
	異文化理解	フランス文化史 A	2	1-4	4		
		フランス文化史 B	2	1-4			
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	フランス語科教育法 1	2	教職	3	4	
フランス語科教育法 2		2	3				
選択	教科に関する専門的事項	フランス語学	フランス言語思想 A	2	フランス語文学文化専攻	2-4	24 24単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。
			フランス言語思想 B	2		2-4	
		フランス文学	フランス小説 A	2		2-4	
			フランス小説 B	2		2-4	
			フランス文化研究 A	2		2-4	
			フランス文化研究 B	2		2-4	
			フランス文学研究 A	2		2-4	
			フランス文学研究 B	2		2-4	
			フランス詩 A	2		2-4	
			フランス詩 B	2		2-4	
		フランス文学入門演習	4	2-4			
		フランス語コミュニケーション	コミュニケーション演習(2)	4		3・4	
			コミュニケーション演習(3)	4		3・4	
		異文化理解	フランス文化入門演習	4		2-4	
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	フランス語科教育法 3	2	教職	4		
フランス語科教育法 4		2	4				

教職(フランス語)

※免許教科外国語(フランス語)を履修する場合は、「フランス語」と「英語」の2教科を同時に履修し、教育実習は「英語」を履修してください。

< 中学 中国語 >
中国言語文化専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数	
必修	教科に関する専門的事項	中国語学	中国語学概論 A	2	中国言語文化専攻	1・2	4
			中国語学概論 B	2		1・2	
		中国文学	中国文学概論 A	2		1・2	4
			中国文学概論 B	2		1・2	
		中国語コミュニケーション	中国語会話 (1) A	2		2-4	4
			中国語会話 (1) B	2		2-4	
		異文化理解	現代中国事情 A	2		1・2	4
			現代中国事情 B	2		1・2	
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		中国語科教育法 1	2	教職	3	8
			中国語科教育法 2	2		3	
			中国語科教育法 3	2		4	
			中国語科教育法 4	2		4	
選択	教科に関する専門的事項	中国語学	中国語学講義 (1) A	2	中国言語文化専攻	3・4	28 28単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。
			中国語学講義 (1) B	2		3・4	
			中国語学講義 (2) A	2		3・4	
			中国語学講義 (2) B	2		3・4	
		中国文学	現代中国文学 A	2		1・2	
			現代中国文学 B	2		1・2	
			中国文学講義 (1) A	2		3・4	
			中国文学講義 (1) B	2		3・4	
			中国文学講義 (2) A	2		3・4	
			中国文学講義 (2) B	2		3・4	
			中国語講読 (1) A	2		2-4	
			中国語講読 (1) B	2		2-4	
			中国語講読 (2) A	2		2-4	
			中国語講読 (2) B	2		2-4	
		中国語コミュニケーション	中国語作文 (1) A	2		2-4	
			中国語作文 (1) B	2		2-4	
			中国語作文 (2) A	2		2-4	
			中国語作文 (2) B	2		2-4	
			中国語作文 (3) A	2		2-4	
			中国語作文 (3) B	2		2-4	
			中国語会話 (2) A	2		2-4	
			中国語会話 (2) B	2		2-4	
		異文化理解	中国語会話 (3) A	2		2-4	
			中国語会話 (3) B	2		2-4	
			中国文化概論 A	2		1・2	
			中国文化概論 B	2		1・2	
			中国文化講義 (1) A	2		3・4	
			中国文化講義 (1) B	2		3・4	
中国文化講義 (2) A	2	3・4					
中国文化講義 (2) B	2	3・4					

※免許教科外国語 (中国語) を履修する場合は、「中国語」と「国語」又は「英語」の2教科を同時に履修し、教育実習は「国語」又は「英語」を履修してください。

<高校 中国語>
中国言語文化専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数				
必修	教科に関する専門的事項	中国語学	中国語学概論 A	2	中国言語文化専攻	1・2	4			
			中国語学概論 B	2		1・2				
		中国文学	中国文学概論 A	2		1・2	4			
			中国文学概論 B	2		1・2				
		中国語コミュニケーション	中国語会話 (1) A	2		2-4	4			
			中国語会話 (1) B	2		2-4				
		異文化理解	現代中国事情 A	2		1・2	4			
			現代中国事情 B	2		1・2				
		各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		中国語科教育法 1		2	教職	3	4	
				中国語科教育法 2		2		3		
選択	教科に関する専門的事項	中国語学	中国語学講義 (1) A	2	中国言語文化専攻	3・4	24 24単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。			
			中国語学講義 (1) B	2		3・4				
			中国語学講義 (2) A	2		3・4				
			中国語学講義 (2) B	2		3・4				
		中国文学	現代中国文学 A	2		1・2				
			現代中国文学 B	2		1・2				
			中国文学講義 (1) A	2		3・4				
			中国文学講義 (1) B	2		3・4				
			中国文学講義 (2) A	2		3・4				
			中国文学講義 (2) B	2		3・4				
			中国語講読 (1) A	2		2-4				
			中国語講読 (1) B	2		2-4				
			中国語講読 (2) A	2		2-4				
			中国語講読 (2) B	2		2-4				
		中国語コミュニケーション	中国語講読 (3) A	2		2-4				
			中国語講読 (3) B	2		2-4				
			中国語作文 (1) A	2		2-4				
			中国語作文 (1) B	2		2-4				
			中国語作文 (2) A	2		2-4				
			中国語作文 (2) B	2		2-4				
			中国語作文 (3) A	2		2-4				
			中国語作文 (3) B	2		2-4				
		異文化理解	中国語会話 (2) A	2		2-4				
			中国語会話 (2) B	2		2-4				
			中国語会話 (3) A	2		2-4				
			中国語会話 (3) B	2		2-4				
			中国文化概論 A	2		1・2				
			中国文化概論 B	2		1・2				
		中国語科教育法	中国文化講義 (1) A	2		3・4				
			中国文化講義 (1) B	2		3・4				
			中国文化講義 (2) A	2		3・4				
			中国文化講義 (2) B	2		3・4				
		各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		中国語科教育法 3		2		教職	4	
				中国語科教育法 4		2			4	

※免許教科外国語（中国語）を履修する場合は、「中国語」と「国語」又は「英語」の2教科を同時に履修し、教育実習は「国語」又は「英語」を履修してください。

< 中学 社会 >

日本史学専攻・東洋史学専攻・西洋史学専攻・哲学専攻・社会学専攻・社会情報学専攻・教育学専攻・心理学専攻

		免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数	
必修	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本史	2	共通科目	1-4	4	
			外国史	2		1-4		
		地理学（地誌を含む。）	人文地理学	2	教職	1-4	6	
			自然地理学	2				
			地誌学	2				
	「法律学、政治学」	政治学	2	共通科目	1-4	2		
	「社会学、経済学」	経済学	2		1-4	2		
	「哲学、倫理学、宗教学」	倫理学	2		1-4	2		
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	社会科・地理歴史科教育法1	2	教職	3	8		
		社会科・地理歴史科教育法2	2					
社会科・公民科教育法1		2						
社会科・公民科教育法2		2						
選択	教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本史概説A	2	日本史学専攻	1・2	28 28単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。	
			日本史概説B	2		1・2		
			古文書学(1)	2		2・3		
			古文書学(2)	2		2・3		
			古文書学(3)	2		2・3		
			日本古代史A	2		2・3		
			日本古代史B	2		2・3		
			日本中世史A	2		2・3		
			日本中世史B	2		2・3		
			考古学A	2		2・3		
			考古学B	2		2・3		
			日本近世史A	2		2・3		
			日本近世史B	2		2・3		
			日本近現代史A	2		2・3		
			日本近現代史B	2		2・3		
			日本文化史A	2		3・4		
			日本文化史B	2		3・4		
			日本思想史A	2		3・4		
			日本思想史B	2		3・4		
			日本政治・法制史A	2		3・4		
			日本政治・法制史B	2		3・4		
			日本社会経済史A	2		3・4		
			日本社会経済史B	2		3・4		
			日本家族史A	2		3・4		
			日本家族史B	2		3・4		
			対外関係史A	2		3・4		
			対外関係史B	2		3・4		
			明治維新史A	2		3・4		
			明治維新史B	2		3・4		
			記録史料学A	2		3・4		
			記録史料学B	2		3・4		
			日本史特講A	2		3・4		
			日本史特講B	2		3・4		
			考古学特講A	2		3・4		
			考古学特講B	2		3・4		
			東洋史学専攻	東洋史概説(1)A		2		1
				東洋史概説(1)B		2		1
				東洋史概説(2)A		2		1
				東洋史概説(2)B		2		1
				東洋史特論A		2		1-4

選 択

教科に関する専門的事項

日本史・外国史	東洋史特論 B	2	東洋史学専攻	1-4	
	東洋美術史 A	2		1-4	
	東洋美術史 B	2		1-4	
	東洋考古学 A	2		1-4	
	東洋考古学 B	2		1-4	
	史料研究	2		1-4	
	生活史・心性史の方法	2		2-4	
	東アジア古代史	2		2-4	
	東アジア中世史	2		2-4	
	グローバルヒストリー入門	2		2-4	
	朝鮮史	2		2-4	
	東アジア近世史	2		2-4	
	東アジア近現代史	2		2-4	
	中央アジア史	2		2-4	
	歴史地理学の方法	2		2-4	
	環境史の方法	2		2-4	
	イスラーム前近代史	2		2-4	
	イスラーム近現代史	2		2-4	
	南アジア史	2		2-4	
	東南アジア史	2		2-4	
	西洋史概説 A	2		西洋史学専攻	1・2
	西洋史概説 B	2	1・2		
	西洋古代史 A	2	1-4		
	西洋古代史 B	2	1-4		
	西洋中世史 A	2	1-4		
	西洋中世史 B	2	1-4		
	西洋近世史 A	2	1-4		
	西洋近世史 B	2	1-4		
	西洋近現代史 A	2	1-4		
	西洋近現代史 B	2	1-4		
	西洋各国史 (1) A	2	1-4		
	西洋各国史 (1) B	2	1-4		
	西洋各国史 (2) A	2	1-4		
西洋各国史 (2) B	2	1-4			
西洋各国史 (3) A	2	1-4			
西洋各国史 (3) B	2	1-4			
西洋各国史 (4) A	2	1-4			
西洋各国史 (4) B	2	1-4			
西洋各国史 (5)	2	1-4			
地理学 (地誌を含む。)	日本地誌学	2	共通科目		1-4
	世界地誌学	2			1-4
	人文地理学 (1)	2		1-4	
	人文地理学 (2)	2		1-4	
	自然地理学 (1)	2		1-4	
自然地理学 (2)	2	1-4			
「法学、政治学」	公法概論 A	2	共通科目	1-4	
	公法概論 B	2		1-4	
	国際法 A	2		1-4	
	国際法 B	2		1-4	
	国際政治学 A	2		1-4	
	国際政治学 B	2		1-4	
	私法概論 A	2		1-4	
私法概論 B	2	1-4			
「社会学、経済学」	社会学概論 A	2	社会学専攻・ 社会情報学 専攻	1	
	社会学概論 B	2		1	
	社会学史 A	2		1	
	社会学史 B	2		1	

選択

教科に関する専門的事項

社会調査法(1)(基礎)	2		1
社会心理学(1)	2		2
社会心理学(2)	2		2
メディア・コミュニケーション学(1)	2		2
メディア・コミュニケーション学(2)	2		2
メディア文化の社会学(1)	2		2
メディア文化の社会学(2)	2		2
家族	2		2-4
地域社会	2		2-4
産業・労働	2		2-4
政治	2		2-4
文化	2		2-4
社会政策	2		2-4
社会問題	2		2-4
理論社会学	2		2-4
社会運動	2		2-4
社会調査法(2)(量的調査)	2		2-4
社会調査法(3)(質的調査)	2	社会学専攻・ 社会情報学 専攻	2-4
社会階層	2		2-4
環境	2		2-4
宗教	2		2-4
グローバル化	2		2-4
臨床社会学	2		2-4
コミュニケーション論(1)	2		2-4
コミュニケーション論(2)	2		2-4
消費者行動論	2		2-4
ネットワーク社会学	2		2-4
現代社会研究(1)	2		2-4
現代社会研究(2)	2		2-4
現代社会研究(3)	2		2-4
現代社会研究(4)	2		2-4
現代社会研究(5)	2		2-4
現代社会研究(6)	2		2-4
現代社会研究(7)	2		2-4
現代社会研究(8)	2		2-4
現代社会研究(9)	2		2-4
現代社会研究(10)	2		2-4
経済原論A	2	共通科目	1-4
経済原論B	2		1-4
国際経済学A	2		1-4
国際経済学B	2		1-4
西洋哲学史(1)	2	哲学専攻	1
西洋哲学史(2)	2		1
西洋哲学史(3)	2		2
西洋哲学史(4)	2		2
中国哲学史(1)	2		2
中国哲学史(2)	2		2
倫理学概論	4		2-4
倫理思想史	4		2-4
現代論理学	4		2-4
科学哲学研究	4		2-4
哲学講義(1)	2		3
哲学講義(2)	2		3
哲学講義(3)	2		3
哲学講義(4)	2		3
哲学講義(5)	2		3
哲学講義(6)	2		3

「社会学、経済学」

「哲学、倫理学、
宗教学」

選 択	教科に関する専門的事項	「哲学、倫理学、宗教学」	哲 学 講 義 (7)	2	哲学専攻	3	
			哲 学 講 義 (8)	2		3	
			哲 学 講 義 (9)	2		3	
			哲 学 講 義 (10)	2		3	
			哲 学 概 論 (1)	2		3・4	
			哲 学 概 論 (2)	2		3・4	
			哲 学 講 義 (11)	2		4	
			哲 学 講 義 (12)	2		4	
			哲 学 講 義 (13)	2		4	
			哲 学 講 義 (14)	2		4	
			哲 学 講 義 (15)	2		4	
			哲 学 講 義 (16)	2		4	
			哲 学 講 義 (17)	2		4	
			哲 学 講 義 (18)	2		4	
			哲 学 講 義 (19)	2		4	
			哲 学 講 義 (20)	2		4	
			キ リ ス ト 教 概 説 A	2		共通科目	1 - 4
			キ リ ス ト 教 概 説 B	2			1 - 4
			仏 教 概 説 A	2			1 - 4
			仏 教 概 説 B	2			1 - 4

<高校 地理歴史>

日本史学専攻・東洋史学専攻・西洋史学専攻・哲学専攻・社会学専攻・社会情報学専攻・教育学専攻・心理学専攻

教職（地理歴史）

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数			
必修	教科に関する専門的事項	日本史	日本史	2	共通科目	1-4	2		
		外国史	外国史	2		1-4	2		
		人文地理学及び自然地理学	人文地理学	2	教職	1-4	4		
			自然地理学	2		1-4			
		地誌	地誌学	2		1-4	2		
		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	社会科・地理歴史科教育法1	2		3	4		
社会科・地理歴史科教育法2	2		3						
選択	教科に関する専門的事項	日本史	日本史概説 A	2		日本史学専攻	1・2	24 24単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。	
			日本史概説 B	2	1・2				
			古文書学 (1)	2	2・3				
			古文書学 (2)	2	2・3				
			古文書学 (3)	2	2・3				
			日本古代史 A	2	2・3				
			日本古代史 B	2	2・3				
			日本中世史 A	2	2・3				
			日本中世史 B	2	2・3				
			日本近世史 A	2	2・3				
			日本近世史 B	2	2・3				
			日本近現代史 A	2	2・3				
			日本近現代史 B	2	2・3				
			考古学 A	2	2・3				
			考古学 B	2	2・3				
			日本文化史 A	2	3・4				
			日本文化史 B	2	3・4				
			日本思想史 A	2	3・4				
			日本思想史 B	2	3・4				
			日本政治・法制史 A	2	3・4				
			日本政治・法制史 B	2	3・4				
			日本社会経済史 A	2	3・4				
			日本社会経済史 B	2	3・4				
			日本家族史 A	2	3・4				
			日本家族史 B	2	3・4				
			対外関係史 A	2	3・4				
			対外関係史 B	2	3・4				
			明治維新史 A	2	3・4				
			明治維新史 B	2	3・4				
			記録史料学 A	2	3・4				
			記録史料学 B	2	3・4				
			日本史特講 A	2	3・4				
			日本史特講 B	2	3・4				
			考古学特講 A	2	3・4				
			考古学特講 B	2	3・4				
			外国史	東洋史学専攻	東洋史概説 (1) A		2		1
					東洋史概説 (1) B		2		1
					東洋史概説 (2) A		2		1
					東洋史概説 (2) B		2		1
					東洋史特論 A		2		1-4
					東洋史特論 B		2		1-4
					東洋美術史 A		2		1-4
東洋美術史 B	2	1-4							
東洋考古学 A	2	1-4							
東洋考古学 B	2	1-4							

選 択	教科に関する専門的事項	外国史	史料研究	2	東洋史学専攻	1-4	
			生活史・心性史の方法	2		2-4	
			東アジア古代史	2		2-4	
			東アジア中世史	2		2-4	
			グローバルヒストリー入門	2		2-4	
			朝鮮史	2		2-4	
			東アジア近世史	2		2-4	
			東アジア近現代史	2		2-4	
			中央アジア史	2		2-4	
			歴史地理学の方法	2		2-4	
			環境史の方法	2		2-4	
			イスラーム前近代史	2		2-4	
			イスラーム近現代史	2		2-4	
			南アジア史	2		2-4	
			東南アジア史	2		2-4	
			西洋史概説 A	2		西洋史学専攻	1・2
			西洋史概説 B	2			1・2
			西洋古代史 A	2			1-4
			西洋古代史 B	2			1-4
			西洋中世史 A	2			1-4
			西洋中世史 B	2			1-4
			西洋近世史 A	2			1-4
			西洋近世史 B	2			1-4
			西洋近現代史 A	2			1-4
			西洋近現代史 B	2			1-4
			西洋各国史 (1) A	2			1-4
			西洋各国史 (1) B	2			1-4
			西洋各国史 (2) A	2			1-4
		西洋各国史 (2) B	2	1-4			
		西洋各国史 (3) A	2	1-4			
		西洋各国史 (3) B	2	1-4			
		西洋各国史 (4) A	2	1-4			
		西洋各国史 (4) B	2	1-4			
		西洋各国史 (5)	2	1-4			
		人文地理学・自然地理学	人文地理学 (1)	2	共通科目		1-4
			人文地理学 (2)	2		1-4	
			自然地理学 (1)	2		1-4	
			自然地理学 (2)	2		1-4	
		地誌	日本地誌学	2		1-4	
			世界地誌学	2		1-4	

<高校 公民>

日本史学専攻・東洋史学専攻・西洋史学専攻・哲学専攻・社会学専攻・社会情報学専攻・教育学専攻・心理学専攻

教職（公民）

		免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数			
必修	教科に関する専門的事項	「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	政治学	2	共通科目	1-4	2			
			経済学	2		1-4	2			
			倫理学	2		1-4	2			
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		社会科・公民科教育法1	2	教職	3	4			
			社会科・公民科教育法2	2		3				
選択	教科に関する専門的事項	「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	公法概論A	2	共通科目	1-4	24			
			公法概論B	2		1-4				
			国際法A	2		1-4				
			国際法B	2		1-4				
			国際政治学A	2		1-4				
			国際政治学B	2		1-4				
			私法概論A	2		1-4				
			私法概論B	2		1-4				
			教科に関する専門的事項	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		社会学概論A		2	社会学専攻・社会情報学専攻	1
						社会学概論B		2		1
						社会学史A		2		1
						社会学史B		2		1
						社会調査法(1)(基礎)		2		1
						社会心理学(1)		2		2
	社会心理学(2)	2			2					
	メディア・コミュニケーション学(1)	2			2					
	メディア・コミュニケーション学(2)	2			2					
	メディア文化の社会学(1)	2			2					
	メディア文化の社会学(2)	2			2					
	家族	2			2-4					
	地域社会	2			2-4					
	産業・労働	2			2-4					
	政治	2			2-4					
	文化	2			2-4					
	社会政策	2			2-4					
	社会問題	2			2-4					
	理論社会学	2			2-4					
	社会運動	2			2-4					
	社会調査法(2)(量的調査)	2			2-4					
	社会調査法(3)(質的調査)	2			2-4					
	社会階層	2			2-4					
	環境	2			2-4					
	宗教	2			2-4					
	グローバルゼーション	2			2-4					
	臨床社会学	2	2-4							
	コミュニケーション論(1)	2	2-4							
	コミュニケーション論(2)	2	2-4							
	消費者行動論	2	2-4							
	ネットワーク社会論	2	2-4							
	現代社会研究(1)	2	2-4							
現代社会研究(2)	2	2-4								
現代社会研究(3)	2	2-4								
現代社会研究(4)	2	2-4								
現代社会研究(5)	2	2-4								
現代社会研究(6)	2	2-4								

24単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。

選 択 教科に関する専門的事項	「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」	現代社会研究 (7)	2	社会学専攻・ 社会情報学 専攻	2-4		
		現代社会研究 (8)	2		2-4		
		現代社会研究 (9)	2		2-4		
		現代社会研究 (10)	2		2-4		
		「哲学、倫理学、 宗教学、心理学」	経済原論 A 経済原論 B 国際経済学 A 国際経済学 B	経済原論 A	2	共通科目	1-4
				経済原論 B	2		1-4
				国際経済学 A	2		1-4
				国際経済学 B	2		1-4
	西洋哲学史 (1) (2) (3) (4) 中国哲学史 (1) (2) 倫理学概論 倫理思想史 現代論理学 科学哲学研究 哲学概論 (1) (2) 哲学講義 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) 学校臨床心理学 発達心理学 心理学概論 (1) (2) 知覚・学習心理学 犯罪心理学 児童・青年心理学 生涯発達心理学 認知心理学 言語心理学 障害児心理学 記憶心理学 比較心理学 キリスト教概説 A キリスト教概説 B 仏教概説 A 仏教概説 B			西洋哲学史 (1)	2	哲学専攻	1
				西洋哲学史 (2)	2		1
				西洋哲学史 (3)	2		2
				西洋哲学史 (4)	2		2
			中国哲学史 (1)	2	2		
			中国哲学史 (2)	2	2		
			倫理学概論	4	2-4		
			倫理思想史	4	2-4		
			現代論理学	4	2-4		
			科学哲学研究	4	2-4		
			哲学概論 (1)	2	3・4		
			哲学概論 (2)	2	3・4		
			哲学講義 (1)	2	3		
			哲学講義 (2)	2	3		
			哲学講義 (3)	2	3		
			哲学講義 (4)	2	3		
		哲学講義 (5)	2	3			
		哲学講義 (6)	2	3			
		哲学講義 (7)	2	3			
		哲学講義 (8)	2	3			
	哲学講義 (9)	2	3				
	哲学講義 (10)	2	3				
	哲学講義 (11)	2	4				
	哲学講義 (12)	2	4				
	哲学講義 (13)	2	4				
	哲学講義 (14)	2	4				
	哲学講義 (15)	2	4				
	哲学講義 (16)	2	4				
	哲学講義 (17)	2	4				
	哲学講義 (18)	2	4				
	哲学講義 (19)	2	4				
	哲学講義 (20)	2	4				
	教育学専攻 心理学専攻	学校臨床心理学	2	2			
		発達心理学	2	2			
		心理学概論 (1)	2	1			
		心理学概論 (2)	2	1			
		知覚・学習心理学	2	2			
		犯罪心理学	2	3・4			
児童・青年心理学		2	3・4				
生涯発達心理学		2	3・4				
認知心理学		2	3・4				
言語心理学		2	3・4				
障害児心理学		2	3・4				
記憶心理学		2	3・4				
共通科目	比較心理学	2	3・4				
	キリスト教概説 A	2	1-4				
	キリスト教概説 B	2	1-4				
	仏教概説 A	2	1-4				
仏教概説 B	2	1-4					

<高校 情報>
社会情報学専攻

	免許法科目	履修すべき科目	単位	設置区分	年次	最低修得単位数		
必修	教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	情報とテクノロジー	2	社会情報学専攻	2-4	4	
			情報社会と倫理	2		2-4		
		コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	プログラミング(1)	2		1	4	
			プログラミング(2)	2		1		
		情報システム(実習を含む。)	情報システム設計	2		2	4	
			情報システム開発	2		2		
		情報通信ネットワーク(実習を含む。)	ネットワーク技術(1)	2		2-4	4	
			ネットワーク技術(2)	2		2-4		
	マルチメディア表現・技術 (実習を含む。)	マルチメディア技術	2	2-4	2			
				2-4				
	情報と職業	情報社会とキャリア形成	2	2-4	2			
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	情報科教育法	1	2	教職	3	4		
		2	2		3			
選択	教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	社会情報学概論(1)	2	社会情報学専攻	1	24 24単位以上修得した単位は、「大学が独自に設定する科目」の単位として算入する。	
			社会情報学概論(2)	2		1		
			社会情報学演習(1)	4		3		
			社会情報学演習(2)	4		3		
			社会情報学演習(3)	4		3		
			社会情報学演習(4)	4		3		
			社会情報学演習(5)	4		3		
			社会情報学演習(6)	4		4		
			社会情報学演習(7)	4		4		
			社会情報学演習(8)	4		4		
			社会情報学演習(9)	4		4		
			社会情報学演習(10)	4		4		
			コンピュータ・情報処理(実習を含む。)	プログラミング(3)		2		1
				プログラミング(4)		2		1
	データサイエンス	2		1				
	人工知能・自然言語処理	2		2-4				
	データ解析(初級)	2		2-4				
	データ解析(中級)	2		2-4				
	マルチメディア表現・技術(実習を含む。)	モデリング	2	1				
		シミュレーション(初級)	2	2-4				
		シミュレーション(中級)	2	2-4				
		ハイパーテキスト	2	2-4				
		データベース技術	2	2-4				

③大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」は、中学校一種免許状を取得する場合で4単位以上、高等学校一種免許状を取得する場合には12単位以上、修得する必要があります。これらの単位は以下の方法によって満たすことができます。いずれか2つ以上の方法を組み合わせてもかまいません。

- ①「教科及び教科の指導法に関する科目」を所定の最低単位数より多く履修することによって、その超過分の単位を「大学が独自に設定する科目」に算入します。
- ②「教職基幹科目」を所定の最低単位数より多く履修することによって、その超過分の単位を「大学が独自に設定する科目」に算入します。高校の「教育実習Ⅱ」が該当します。
- ③文学部が開設している下表科目は、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けています。

科目区分	単位	設置区分	年次	最低修得単位数
社 会 教 育 概 論 (1)	2	教育学専攻	2 - 4	中一種 4単位 高一種 12単位
社 会 教 育 概 論 (2)	2		2 - 4	
生 涯 教 育 論	2		1 - 3	
キ ャ リ ア 教 育 論	2		2 - 4	
国 際 比 較 教 育 学	2		2 - 4	
特 別 支 援 教 育 論	2		2 - 4	
教 育 法	2		2 - 4	
健 康 教 育 学	2	共通科目	1 - 4	
国 際 理 解 教 育 論	2		1 - 4	

高等学校一種免許状に関しては、「道德教育の理論と方法」の単位を修得することによって、その単位を「大学が独自に設定する科目」として算入します。

- ④「学校インターンシップ1, 2」は「大学が独自に設定する科目」として認定を受けています。

(14) 教職課程の流れ（教員免許状取得まで）

【1年次】

○教職課程は1年次後期から履修開始となりますが、4年間を通して計画的な履修が必要です。所属学部の履修要項の該当箇所を確認し、前期に履修できる科目については履修・修得しておきましょう。

スタート 6月

教職新規履修ガイダンス
【教職履修料納入】
【ポートフォリオ(CUORE)購入】

9月

教職科目履修登録
ポートフォリオ(CUORE)作成
ガイダンス

1月

★介護等体験ガイダンス

【2年次】

4月

★介護等体験申込説明会
★介護等体験申し込み

5月～6月

★介護等体験事前指導I
(社会福祉施設)
★介護等体験事前指導II
(社会福祉施設)

7月

学校ボランティア活動等をはじめ、学校現場に触れる機会を増やしましょう！

8月～3月
(随時)

★社会福祉施設体験5日間

1月～3月

☆教育実習ガイダンス
☆オリエンテーションA
★介護等体験事前指導III
(特別支援学校)

【3年次】

4月

☆オリエンテーションA
(3月実施と同内容)
☆オリエンテーションB
☆教育実習申し込み

5月～7月

☆教育実習内諾書提出
★特別支援学校事前指導
★特別支援学校体験2日間
(5月～翌年3月随時)

9月～10月

☆オリエンテーションC
教員採用試験対策講座
【16回実施】任意有料

11月～12月

☆オリエンテーションD
☆実習校内定(指定校)

3月

☆オリエンテーションE
☆教育実習決定

【4年次】

4月

☆オリエンテーションF
☆オリエンテーションG
☆指導教授事前指導

5月～

☆教育実習開始

6月～7月

教員採用試験
※都道府県ごとに試験日等
が異なるので各教育委員
会ホームページを確認。

11月

免許状一括申請ガイダンス

ゴール 3月

卒業式
【教員免許状受領】

1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程新規履修ガイダンスに出席し、必要な手続を行う。 (教職課程の履修には、ガイダンスへの出席が必須です。) ・ポートフォリオ(CUORE)作成ガイダンスに出席し、作成を始める。
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験申込説明会・事前指導に出席した上で、社会福祉施設で5日間の介護等体験をする。 (中学校教諭免許を取得する場合は必須) ・ポートフォリオ(CUORE)の記入・作成を進める。
3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションAから始まる教育実習オリエンテーション(事前指導)で、実習に向けた諸手続等を行っていきます。 これらのオリエンテーションは教育実習の単位の一部なので、欠席すると4年次に教育実習の履修登録ができなくなります。 ・教育実習を行う前年度(3年次)までに修得しておかなければならない科目があるので、それらについて確実に履修・修得する。 (詳細は履修要項で確認) ・ポートフォリオ(CUORE)の記入・作成を進める。 ・介護等体験事前指導に出席した上で、特別支援学校で2日間の介護等体験をする。 (中学校教諭免許を取得する場合は必須)
4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・前期(春学期)中に教育実習を行う。 ・後期(秋学期)に、教職実践演習を履修する。 ・免許状取得に必要な科目で未修得科目がある場合は、確実に履修・修得する。 ・免許状一括申請の手続を行う。 ・免許状取得に必要なすべての科目の単位を修得し、定められた一括申請の手続を行うことで、卒業式当日に教育職員免許状を受領することができます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・履修要項を熟読し、各年次に必要な科目を確実に履修・修得しておくこと。 ・中学、高校両方の免許状を取得していなければ、教職に就くことが難しくなっているので、科目の履修や介護等体験への参加にあたっては注意すること。 ・教師を目指すにあたっては、早い段階から学校ボランティア活動などで、数多く学校現場に触れる機会を持つことを勧めます。

☆教育実習
★介護等体験

各種行事については、年度によって開催時期等が変更になる場合があります。
詳細は掲示等で必ず確認のこと。

21. 資格課程

(1) 学芸員課程

■博物館とは

博物館には大きく分けて自然系（自然や科学の博物館、動植物園、水族館など）と人文系があり、後者には主として歴史や民俗、考古を扱う狭義の博物館・資料館のほか、美術館、文学館などが含まれます。中央大学では、後者の人文系博物館に勤務することを想定して学芸員を養成しています。

■学芸員とは

学芸員の職務とは、博物館資料の収集・保管・展示および調査研究、その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどることです。博物館は社会教育機関と規定されているので、学芸員の職務は専門的な調査研究と、それに基づく教育活動（展示、展覧会や教育普及活動の企画運営など）を二本柱とするとよいでしょう。

■学芸員に求められるものとは

博物館がその目的を十分に達成できるかどうかは、施設や収蔵品の質とともに学芸員の活動・能力にかかっていると言っても過言ではありません。特に学芸員制度の歴史が欧米などに比べて浅い日本では、専門的職員として有能な学芸員の層がまだ十分とは言えません。そして近代の博物館は研究機関であると同時に社会教育の機能を持っているので、収蔵品の専門家であると共に教育者であることが学芸員に要求されます。履修するにあたっては、このような社会の要請に十分応えられるようにしっかりと心構えと努力を怠らないようにしてください。新しい時代感覚を持った、社会教育の担い手としての学芸員が一人でも多く巣立ち、活躍することを期待しています。

○ 学芸員の資格

学芸員となる資格を有する者を博物館法第5条第1号は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」と規定しています。

この規定に基づいて、本学では卒業要件を満たし、学芸員課程の所定科目の単位を修得した人に対して、卒業の際に学芸員となる資格の取得に必要な科目の単位を修得したことを証する「修了証書」を授与します。なお、「修了証書」は学芸員となる資格を持つことを証明するもので、学芸員であることを証するものではありません（学芸員となるには、博物館等に学芸員として採用される必要があります）。教員免状のような免許に類するものは発行されませんので注意してください。

○ 履修資格

学芸員課程は2年次以上の学生が履修できます。履修を希望する学生は、前年度の3月に行う学芸員課程選抜試験を受けてください。この試験に合格しなければ、学芸員課程を履修することはできません。なお、資格課程の履修は卒業までに教職課程を含めて2課程までとなっていますので十分考慮して出願してください。

○ 履修手続

学芸員選抜試験に合格した学生は、合格者ガイダンスに必ず出席してください。欠席した場合は合格を取り消します。ガイダンスでは課程履修料振込方法を説明しますので、必ず期限までに課程履修料を振り込んでください。課程履修料が未納の場合は、学芸員課程の履修はできません。

○ 履修科目

博物館に関する科目と単位については、博物館法施行規則第1条に規定されていますが、文学部ではより専門性の高い学芸員を目指すために、所定の科目の他に選択必修科目の履修を課しています。選択必修科目は日本史学専攻とフランス語文学文化専攻および共通科目において開講されているので（次頁の表を参照）、歴史・民俗・考古系の博物館を目指す人は日本史学専攻開講科目、美術館を目指す人はフランス語文学文化専攻開講科目および共通科目から選択して履修してください。履修にあたっては、ガイダンスでの説明を十分参考にした上で、目的に合わせて選択してください。

学芸員課程科目一覧表

法規上の科目・単位		本学における授業科目・単位				
科目	単位	授業科目	設置区分	配当年次	単位	履修方法
生涯学習概論	2	社会教育概論(1)	教育学専攻	2-4	2	2単位必修
		社会教育概論(2)		2-4	2	
博物館概論	2	博物館概論	資格科目 ※注3)	2	2	必修
博物館経営論	2	博物館経営論		2	2	
博物館資料論	2	博物館資料論		2	2	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論		2-4	2	
博物館展示論	2	博物館展示論		2-4	2	
博物館実習	3	博物館実習		3	3	
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論		2-4	2	
博物館教育論	2	博物館教育論		2-4	2	
		古文書学(1)	日本史学専攻	2・3	2	2単位必修
		古文書学(2)		2・3	2	
		古文書学(3)		2・3	2	
		美術史概論A	フランス語	2-4	2	2単位必修
		美術史概論B	文学文化専攻	2-4	2	
		古文書学演習(1)	日本史学専攻	2・3	2	
		古文書学演習(2)		2・3	2	
		古文書学演習(3)		2・3	2	
		考古学実習		2・3	2	
		美術史美術館入門演習(1)	フランス語	2	4	
美術史美術館入門演習(2)	文学文化専攻	2	4			
考古学A	日本史学専攻	2・3	2	8単位必修		
考古学B		2・3	2			
記録史料学A		3・4	2			
記録史料学B		3・4	2			
日本文化史A		3・4	2			
日本文化史B		3・4	2			
民俗学A	共通科目	1-4	2			
民俗学B		1-4	2			
西洋美術史A		1-4	2			
西洋美術史B		1-4	2			
日本美術史A		1-4	2			
日本美術史B		1-4	2			

注1) ゴシック体(太字)で表示されている科目は、他専攻の学生が履修できる科目(ゴシック科目)です。

注2) 日本史学専攻以外の学生は、「古文書学演習(1)(2)(3)」「考古学実習」を資格科目として履修します(卒業に必要な単位には含まれません)。

フランス語文学文化専攻美術史美術館コース以外の学生は、「美術史美術館入門演習(1)(2)」を資格科目として履修します(卒業に必要な単位には含まれません)。

注3) 「博物館概論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館教育論」については、設置区分上は資格科目ですが、自由選択科目として卒業に必要な単位に含まれます。それ以外の資格科目は、卒業単位に含まれません。

注4) 選択必修科目のうち、同一科目名でA・Bの開講があるもの(例:「考古学A」「考古学B」)は、可能な限りA・Bをセットで履修してください。これらの科目を半期のみ履修した場合、専門職に就く上で不利になることが考えられます。

○ 博物館実習

学芸員の資格を得るためには「博物館実習」の単位を習得する必要があります。「博物館実習」は前年度までに「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」を修得していなければ履修できません。したがって、履修できるのは3年次以降です。

「博物館実習」は、学内実習(事前事後指導、実務実習[前期14週の授業と土曜日等1日の授業]、見学実習)、および博物館等で行う館園実習で構成されます。

特に、博物館等で行う館園実習の前段階として実務実習（土曜日等1日の授業）と見学実習を行いますので、必ず出席してください。

ガイダンスでは課程履修料振込方法を説明しますので、必ず期限までに課程履修料を振り込んでください。実習手数料が未納の場合は、「博物館実習」の履修はできません。館園実習は、見学・調査・実技・実務などにわたって実施され、都内のほか地方で行う場合もあります。なお、実習先の博物館等は原則として、本人が探すことになります。その際の交通費・宿泊費等は個人負担となります。実習先によっては別途実習費用が必要な博物館等もあります。

○ 博物館への就職と大学院進学について

国公立・私立の博物館・資料館・文書館・美術館等が対象になりますが、いずれも専門分野における深い知識と技能を持ち、即戦力となる人材を求めているので、大学院博士前期（修士）課程へ進むことが事実上必須となっています（比較的小規模な館ではこの限りではありません）。なお大学院進学後も学芸員資格課程の履修は可能ですが、費用も余計にかかることになるほか、研究活動との両立は困難を伴うこともあります。取得を希望する人は学部在学中の取得を強く勧めます。

採用については、公立の場合、公務員の採用試験に合格しなければならない場合もあります。なお近年は国立・公立館でも独法化、財団化されている施設が多く、その場合は民間と同じく各館の個別採用となりますので、採用情報を集めて応募することになります。近年は教育普及担当、広報担当を含め任期付職員や非常勤職としての募集も多いようです。ただし、非常勤職、アルバイトや博物館実習の時の働きぶりが認められて正規採用される場合もあります。また教員との互換性を重視する県では、教員免許状を併せ持つことが有利となっているようです。

学芸員資格は、文化財や文化史、美術史に関する専門的な知識と実践的な経験を証明する資格と捉えることもできます。この資格は法の裏付けと長い歴史を持ち、それにふさわしい社会的認知度がありますから、それを博物館・美術館以外の進路を目指す際に活用することも考えられます。

歴史・考古分野に関心のある人は、各種の調査研究機関（文化財研究所・埋蔵文化財センター・文化財行政職や民間文化財調査会社）を目指すこともできます。

美術史に関心のある人は、展示施設の企画・制作を行う会社（乃村工藝社、丹青社など）やイメージ・アーカイヴ（DNPアートコミュニケーションズなど）から、文化財団、ギャラリー（美術商）、出版・広告、デザイン、建築、旅行・観光など広い分野で資格を活かすことが期待できます。

自らの専攻する分野と学芸員資格を組み合わせ、未来を切り開くことも考えてみてください。

(2) 社会教育主事課程

社会教育主事は都道府県および市町村の教育委員会におかれる専門的教育職員（教育公務員特例法第2条第5項）のことです。

職務は「社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える」（社会教育法第9条の3第1項）ことであり、具体的には公民館・文化センター・図書館・博物館などの社会教育施設の職員や青少年団体・婦人会・PTAなどの社会教育関係団体の指導者に社会教育施設のあり方やその活動、社会教育関係団体の運営や活動について専門的技術的指導や助言を行います。

社会教育主事の職務における重要性は、近年大いに注目されています。婦人や青年の学習文化活動や青少年の学校外教育なども大変活発になってきており、生涯教育の重要性も益々高まっています。それにつれて社会教育主事の活動分野も広くなり、社会からも優秀な社会教育主事の育成が強く求められています。

また、近年では、これらの施設の管理運営を委託・指定された団体・法人での活躍も期待されています。

本学でも、この分野の資格課程を設置し、優秀な社会教育主事育成のための科目を開設しています。履修するにあたっては、社会教育主事の重要性をよく認識し、社会の要請に応えられるように十分な心構えが必要です。

○ 社会教育主事の資格

社会教育主事となる資格を有する者を社会教育法の第9条の4第3項で「大学に2年以上在学して62単位以上を修得し、かつ、大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で」1年以上社会教育主事補の職にあった者と規定しています。

この規定に基づいて、本学においては社会教育主事課程の所定の科目の単位を修得した人に対して、卒業と同時に社会教育主事の基礎資格を取得したことを証する「修了証書」を授与します。

○ 社会教育士（養成課程）の称号

社会教育主事課程科目一覧表に記載の科目の単位の全部を修得すると、「社会教育士（養成課程）」と称することができます。

○ 履修資格

社会教育主事課程は2年次以上の学生が履修できます。履修を希望する学生は、3月に行う社会教育主事課程選抜試験を受けてください。この試験に合格しなければ、社会教育主事課程を履修することはできません。教育学専攻の学生で社会教育主事課程の履修を希望する学生も必ず選抜試験願書を提出してください（選抜試験を受ける必要はありません）。なお、資格課程の履修は卒業までに教職課程を含めて2課程までとなっていますので十分考慮して出願してください。

○ 履修手続

社会教育主事選抜試験に合格した学生は、合格者ガイダンスに必ず出席してください。欠席した場合は合格を取り消します。ガイダンスでは課程履修料振込方法を説明しますので、必ず期限までに課程履修料を振り込んでください。課程履修料が未納の場合は、社会教育主事課程の履修はできません。なお、教育学専攻の学生は課程履修料を納入する必要はありません。

○ 履修科目 授業科目は次の一覧表に従って履修してください。

社会教育主事課程科目一覧表

法規上の科目・単位		本学における授業科目・単位					
科目	単位	授業科目	設置区分	配当年次	単位	履修方法	
生涯学習概論	4	社会教育概論(1)	教育学	2-4	2	必修	
		社会教育概論(2)		2-4	2		
社会教育経営論	4	生涯学習経営論(1)	資格	2-4	2		
		生涯学習経営論(2)		2-4	2		
生涯学習支援論	4	生涯学習支援論(1)		2-4	2		
		生涯学習支援論(2)		2-4	2		
社会教育演習、社会教育実習、社会教育課題研究のうち、1以上の科目	3	社会教育演習(1)		3・4	2		
		社会教育演習(2)		3・4	2		
社会教育実習	1	社会教育実習			2-4		1
社会教育特講	8	社会教育特講(1)		資格	3・4		2
		社会教育特講(2)			3・4	2	
		社会教育特講(3)			3・4	2	
		社会教育特講(4)	3・4		2		
		キャリア教育論	教育学	2-4	2		
		生涯教育論		1-3	2		
		生涯発達心理学		心理学	3・4	2	
		健康教育学	共通科目	1-4	2		
		図書館サービス概論	社会情報学	2-4	2		
博物館教育論	資格	2-4	2				

注1) ゴシック体(太字)で表示されている科目は、他専攻の学生が履修できる科目(ゴシック科目)です。

注2) 設置区分が資格科目の科目は卒業に必要な単位には含まれません。

注3) 「博物館教育論」は学芸員課程履修者のみ履修可能。

○ 社会教育主事としての就職

社会教育主事として就職を希望する学生は、都道府県または市町村の教育委員会に問い合わせてください。

(3) 司書課程

図書館の専門的職務に携わる職員を図書館法では司書と規定しています。

図書館は、多様な要求に応じた学習・研究および調査を可能にし、また、情報化社会においては専門化した情報を容易かつ的確に提供するための施設です。そこで職務に携わる司書は図書館資料を収集し、整理分類すると共に、レファレンス・サービス、読書の案内と指導等の専門的事務に従事します。

しかし、現在の図書館はコンピュータでの処理が進んでおり、図書館単体ではなくオンラインで他の図書館の図書を検索したり、CD-ROMによつての検索等といったように新しい図書館へ変貌をとげようとしています。それに伴い司書の職務内容も大きく変わろうとしています。本学ではこのような状況に対応し、カリキュラム・授業内容を改正し、専門家をめざすための十分な体制を整えています。履修にあたっては十分な履修計画を練って、この司書課程を履修してください。

○ 司書の資格

司書となる資格を有する者を図書館法第5条1で「大学を卒業した者で大学において文部科学省令で定める図書館に関する科目を履修したもの」と規定しています。

この規定に基づいて本学においては、司書課程の所定の科目の単位を修得した人に対して、卒業の際に司書となる資格の修得に必要な科目の単位を修得したことを証する「修了証書」を授与します。

○ 履修資格

司書課程は2年次以上の学生が履修できます。履修を希望する学生は、3月に行う司書課程選抜試験を受けてください。この試験に合格しなければ、司書課程を履修することはできません。図書館情報学コースの学生で司書課程の履修を希望する学生も必ず選抜試験願書を提出してください（選抜試験を受ける必要はありません）。なお、資格課程の履修は卒業までに教職課程を含めて2課程までとなっていますが、司書課程と司書教諭課程は合わせて1課程とみなします。

○ 履修手続

司書課程選抜試験に合格した学生は、合格者ガイダンスに必ず出席してください。欠席した場合は合格を取り消します。ガイダンスでは課程履修料振込方法を説明しますので、必ず期限までに課程履修料を振り込んでください。課程履修料が未納の場合は、司書課程と司書教諭課程の履修はできません。なお、図書館情報学コースの学生は課程履修料を納入する必要はありません。

○ 履修科目 授業科目は次の一覧表に従って履修してください。

司書課程科目一覧表

法規上の科目・単位			本学における授業科目・単位			
区分	科目	単位	授業科目	配当年次	単位	履修方法
必修 22 単位	生涯学習概論	2	社会教育概論(1)	2-4	2	2単位必修
			社会教育概論(2)	2-4	2	
	図書館概論	2	図書館情報学概論	1	2	必修
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	1	2	
	図書館制度・経営論	2	図書館・情報センター経営論	2-4	2	
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2-4	2	
	情報サービス論	2	情報サービス論	2-4	2	
	児童サービス論	2	児童サービス論	2-4	2	
	情報サービス演習	2	情報サービス演習(1)	2-4	2	
			情報サービス演習(2)	2-4	2	
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2-4	2	
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2-4	2	
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習(1)	2-4	2		
		情報資源組織演習(2)	2-4	2		
選択 2 単位	図書館基礎特論	1	専門資料論(1)	2-4	2	4単位必修
	図書館サービス特論	1	専門資料論(2)	2-4	2	
	図書館情報資源特論	1	記録管理論	2-4	2	
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	2-4	2	
	図書館施設論	1				
	図書館総合演習	1				
	図書館実習	1	図書館情報学実習	3・4	2	

注1) ゴシック体(太字)で表示されている科目は、他専攻の学生が履修できる科目(ゴシック科目)です。

注2) 図書館情報学コース以外の学生は、図書館情報学コースに設置されている科目を資格科目として履修します(卒業に必要な単位には含まれません)。

注3) 「図書館情報学実習」は図書館情報学コース以外の学生は履修できません。

(4) 司書教諭課程

司書教諭は学校図書館の専門的職務に従事する教育職員（教員）です。

小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校には学校図書館法で学校図書館を設置することになっています。司書教諭は、学校図書館の専門的職務を行うために置くことが義務付けられており、司書教諭講習を修了した教諭でなければなりません。

司書教諭は、学校図書館運営の中心となり、読書活動等を通じた児童・生徒の豊かな人間性の育成に関する見識はもとより、学校図書館の経営能力や、情報教育や各種資料の活用に対する知識をもち、学校の教育課程の展開に寄与すると共に児童生徒の健全な育成を図ることを職務としています。

また、読書会・研究会・鑑賞会・映写会・資料展示会等を開催したり、児童・生徒に対して図書館利用の指導を行ったりすることも重要な職務の一つです。

○ 司書教諭の資格

司書教諭の資格条件は、以下の3つの条件を備えることを学校図書館司書教諭講習規程で定められています。

- ① 学士の称号を有すること
- ② 教員免許状を有すること
- ③ 司書教諭の資格取得に必要な科目の単位を有すること

従って、司書教諭の資格を取得するには卒業に必要な科目の修得のほかに教職課程と司書教諭課程の2課程を履修しなければなりません。そのためにしっかりとした心構えを持つことが重要であり、計画的に履修することが必要です。

○ 司書教諭資格取得について

司書教諭の資格を取得するためには学校図書館法第5条2で司書教諭の講習を修了しなければならないと定められています。この講習は学校図書館司書教諭規程で文部科学省から委嘱を受けている大学（国立大学）で行われており、教員免許状を取得した後、受講することになります。この講習で規定の単位を修得した人には、文部科学省から司書教諭講習修了証書が交付されます。この修了証書が司書教諭資格の証明書になります。

本学では、司書教諭課程で取得しなければならない科目を全て設置しています。本学の司書教諭課程を修了し必要な科目・単位を修得した人は、司書教諭の講習を修了したものと見なすことができます。従って、前述の講習を受講することなく、文部科学省の学校図書館司書教諭講習規程による講習の修了証書の交付を申請することができます。

なお、修了証書の交付時期は講習（本学学生は免除）修了後になりますので、卒業してから1年後の4月頃になります。

○ 履修資格

司書教諭課程は2年次以上の学生が履修できます。履修を希望する学生は、3月に行う司書教諭課程選抜試験を受けてください。この試験に合格しなければ、司書教諭課程を履修することはできません。図書館情報学コースの学生で司書教諭課程の履修を希望する学生も必ず選抜試験願書を提出してください（選抜試験を受ける必要はありません）。なお、司書教諭の資格は教職課程の履修が前提ですので、司書課程以外の他の資格課程は履修できません。

○ 履修手続

司書教諭選抜試験に合格した学生は、合格者ガイダンスに必ず出席してください。欠席した場合は合格を取り消します。ガイダンスでは課程履修料振込方法を説明しますので、必ず期限までに課程履修料を振り込んでください。課程履修料が未納の場合は、司書教諭課程の履修はできません。なお、図書館情報学コースの学生は課程履修料を納入する必要はありません。

○ 履修科目

授業科目は次の一覧表に従って履修してください。

司書教諭課程科目一覧表

法規上の科目・単位		本学における授業科目・単位			
科 目	単 位	授 業 科 目	配当年次	単 位	履修方法
学校経営と学校図書館	2	学 校 図 書 館 論	2-4	2	必 修
学校図書館メディアの構成	2	図書館情報資源概論		2	
		情報資源組織論		2	
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館		2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性		2	
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用		2	

注1) 図書館情報学コースの学生は、すべて自専攻の科目として履修します。

注2) 図書館情報学コース以外の学生は、すべて資格課程の科目として履修します(卒業単位に含まれません)。

○ 司書教諭講習修了証の交付申請手続き

- ① 「司書教諭の資格」で掲げた3条件をそろえた人には本人からの申請に基づき、「司書教諭講習修了証書」が文部科学省より交付されます。
- ② 詳細は、司書教諭課程修了者を対象にガイダンスを実施し、お知らせします。交付の時期は卒業してから1年後の4月頃の予定です。

22. 文学部パソコン教室

文学部パソコン教室は、主として情報処理関連科目の実習用として開設されています。原則として授業等が行われる時間帯には受講者以外入室できませんが、授業のない時間帯は自習や補習のための「個人利用時間」になります。「中央大学ソーシャル・メディア・ガイドライン（学生用）」や「文学部パソコン教室学生利用基準」をよく読んでからご利用ください。

<参考1>パソコン教室のシステム構成

	第1PC教室（3452教室）	第2PC教室（3451教室）	第3PC教室（3256教室）
学生用機	60台	60台	30台
マルチメディア機	5台	6台	
プリンター	8台	8台	1台
基本OS	Windows 7・Windows 10		

<参考2>「Office365 ProPlus」の利用について

中央大学では、日本マイクロソフト社との「Microsoft 教育機関向け総合ライセンス契約」を結んでおり、その特典として学生向け・教職員向けの「Office365 ProPlus」の利用が可能です。

「Office365 ProPlus」とは、中央大学在学期間中に個人所有の Windows/MAC PC、タブレット、スマートフォンにそれぞれ最大5台まで Microsoft Office をインストールできます。インストール方法は右のQRコードから確認してください。利用にあたっては以下の遵守事項にしたがって利用してください。



Office365ProPlus
インストール方法

【遵守事項】

- 申請には全学メールアドレスが必要です。
- 本学と日本マイクロソフト社の契約が解除された場合や、本学の学生、または教職員でなくなった場合はソフトウェアを利用できなくなります。
- 30日に1回、インターネットに接続した状態でライセンス認証を行う必要があります。認証できない場合は機能制限モードになり、ドキュメントの表示及び印刷のみの利用になります。

(1) パソコン教室の利用について

1) 授業で利用する場合

- 入室手続は不要です。また、特に教員からの指示がない場合には座席の指定はありません。
- 履修する授業の担当教員の許可を得た場合を除き、履修者以外は入室禁止です。
- 授業時間中に一部のスペースで個人利用を許可する場合があります。入口ドアの掲示等の指示に従って利用してください。

2) 個人利用時間で利用する場合

①利用時間

利用は原則として補講期間を含む授業期間中の授業以外の時間帯が、個人利用時間となります（夏季・春季休業期間中も利用ができます）。個人利用ができるのは第1パソコン教室および第2パソコン教室のみです（第3パソコン教室は授業専用）。

個人利用の時間帯はパソコン教室前の掲示板で確認してください。なお、当日と翌日の予定はパソコン教室のwebページ (<http://www2.chuo-u.ac.jp/literature/pcr/> 右QRコードからも可) からでも確認ができます。開室時間や個人利用時間は臨時授業やメンテナンス作業などのために急きょ変更する場合がありますので、利用する際は、掲示等に常に注意を払うようにしてください。

②利用方法

個人利用時間に、学生証をパソコン教室受付に提出し、指定された座席を使用してください。



PC 教室 HP
QR コード

(2) パソコンの利用方法について

1) パソコン教室のユーザー名・パスワード

パソコン教室のコンピューターを起動するためには、ユーザー名 (ID: アイディー) と パスワード が必要となります。ユーザー名とパスワードは、統合認証システムのID、パスワードと同一です（統合認証については以下を参照）。

【統合認証について】

「統合認証システム」とは、複数のサービス(システム)から共通して使えるような認証基盤です。統合認証のアカウント情報は、大学のパソコンへのログイン、C plus、など、在学中いろいろなシステムで使われます。統合認証システムの詳細は、<http://www2.chuo-u.ac.jp/c-auth/>から確認できます。



統合認証システム
詳細ページ

統合認証のIDとパスワードは、学生証交付時に配付しています。交付時のパスワードは、任意の文字列となっていますので、自分でも忘れないものに変更しておくことを勧めます。パスワードを変更する場合は、[統合認証パスワード変更サイト](https://pw.net.chuo-u.ac.jp/webmtn/LoginServlet)から変更することができます。統合認証パスワード変更サイト <https://pw.net.chuo-u.ac.jp/webmtn/LoginServlet>



※右のQRコードからも入ることができます

統合認証パスワード変更サイト

2) パソコン教室での印刷について

- ユーザーを識別するため、出力された文書の左下には学籍番号が自動的に入ります。
- 授業・ゼミに無関係な印刷は厳禁です。ユーザー毎に印刷される枚数を管理しており、1日あたりの印刷枚数は50枚までとしています。
- 授業時間は先生の指示に従ってください(その時間の授業に無関係なものは印刷できません)。
- 利用できる用紙サイズはA4とB5です。
- すべてモノクロプリンターです。カラー印刷はできません。

(3) 「全学メール (Gmail)」について

中央大学は、「全学(学生・教員・職員)」を対象に、中央大学独自のドメイン「g.chuo-u.ac.jp」でGoogle(グーグル)社の「Gmail」を利用できるサービスを提供しており、これを「全学メール」と呼称しています。Googleサイトにアクセスできる環境であれば、どの場所からでも「全学メール」のメール確認ができます。

「全学メール」のメールアドレスは、統合認証パスワード変更サイト(下のURL、右のQRコード)にログインすると確認できます(<https://pw.net.chuo-u.ac.jp/webmtn/LoginServlet>)。

文学部の学生のみなさんは入学時に「全学メール」のアドレスがC plusに登録されているので、C plusからのお知らせが全学メールのアドレスに届きます。

「全学メール」を利用するためには…

- ① <https://mail.google.com/a/g.chuo-u.ac.jp/> (右QRコードでも可) にアクセスし、「統合認証ID」と「パスワード」でログインしてください(文学部ホームページにある「全学メール」のリンクからアクセスすることもできます)。
- ② ユーザー情報の送信についての確認画面が表示されたら、3つの選択肢のいずれかを選択し(任意)、「次」をクリックする。
- ③ 送信確認画面が表示されたら「送信」をクリックする。

～通常のGmailログイン画面からログインする場合～

通常のGmailログイン画面からも中央大学の全学メールにログインすることができます。

その際はユーザー名に、メールアドレス「全学メールID@g.chuo-u.ac.jp」を入力してください。

通常のGmailログイン画面からでは、統合認証のIDではログインできませんので注意してください。

「全学メール」こんな風に使うと便利です！

- 大学からのお知らせ(奨学金・留学の出願や)受信・確認用メールアドレスとして…
- 授業・ゼミなどの連絡用として…
- 就職活動における企業やOB・OGとのやり取り用として… など



「全学メール」の使用方法・機能など詳細については、<https://sites.google.com/a/g.chuo-u.ac.jp/gmail/>を参照してください(右下のQRコードからも可)。



全学メール サイト

【文学部パソコン教室学生利用基準（抜粋）】

- 第1条 本基準においてパソコン教室とは第1パソコン教室（3452号室）及び第2パソコン教室（3451号室）をいう。
ただし、パソコン利用が可能な教室で、文学部所有のパソコンを使用する際にも、本基準を準用する。
- （利用資格者）
- 第2条 パソコン教室を利用することのできる者は次に掲げる者で、第4条及び第5条に基づきパソコン教室の利用許可を受けた者とする。
- （1） 本学文学部学生
 - （2） 本学文学研究科大学院生
 - （3） その他、文学部パソコン教室運営委員会（以下単に委員会とする）の特別に許可した者
- （利用目的）
- 第3条 パソコン教室は、学習及び研究以外の目的で利用することはできない。
- （一括登録）
- 第4条 （省略）
- （個別利用登録）
- 第5条 第2条の（1）・（2）及び（3）に掲げる者であって、第4条に定める一括登録とは別に個人としてパソコン教室の利用を希望する者は、所定の許可申請手続をし利用許可を受けることができる。
- 2 利用許可は、第2条（1）及び（2）については在学期間有効とし、同（3）については年度毎に受けるものとする。
 - 3 1項の許可手続については、別に細目を定める。
 - 4 1項により利用許可を受けた者は、第8条に定める時間帯に限りパソコン教室を利用することができる。
- （利用規範の遵守）
- 第6条 パソコン教室を利用する者は、利用に際し本基準のほか利用に関する各種の遵守事項を誠実に守らなければならない。
- （登録証等の携帯義務）
- 第7条 パソコン教室を利用するに当たり、利用者は学生証を携帯しなければならない。提示を求められた時はこれに応じなければならない。
- （利用時間）
- 第8条 パソコン教室の利用時間は毎年度初めの委員会決定による。
- 2 パソコン教室の利用は、授業または講座が臨時にパソコン教室を利用する場合その他の事情により制限される場合がある。
- （禁止事項）
- 第9条 パソコン教室を利用する者は「中央大学文学部パソコン教室 ネットワーク関連運用基準」の第5条（利用者の遵守事項）を遵守しなければならない。
- （損害賠償）
- 第10条 パソコン教室の機器及びソフトに故意又は過失により損害を加えた者は賠償の責めを負わなければならない。
- （利用資格の剥奪等）
- 第11条 委員会は、パソコン教室の運営に当たり著しく不都合であると判断した場合、パソコン教室の利用資格の剥奪を含む相当な措置を講ずることができる。
- （以下略）

【中央大学文学部パソコン教室ネットワーク関連運用基準（抜粋）】

- （目的）
- 第1条 この基準は、中央大学文学部パソコン教室（以下「PCR」という。）のネットワーク関連の管理運用を円滑に行うため、必要な事項を定める。
- （中略）
- （利用者の遵守事項）
- 第5条 PCRの利用者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
- （1） 一般的遵守事項
 - ① 市民社会及び大学生活で一般に要求される倫理的及び法的な規範を遵守しなければならない。
 - ② 本学における研究教育以外の目的でPCRを利用してはならない。
 - ③ プログラムその他のコンピュータ・ソフトウェアが知的財産権によって保護されていることを認識し、その取り扱いに際しては、常に慎重に配慮しなければならない。
 - ④ 個人情報の保護に常に留意し、他人のプライバシーを侵害しないようにしなければならない。
 - ⑤ 学部外のネットワーク利用に際しては、PCRの遵守事項のほか、各ネットワークの管理運用基準を厳守しなければならない。
 - ⑥ ソフト、マニュアル、書籍、備品等を委員会の許可なく教室外に持ち出してはならない。
 - ⑦ 他の利用者に迷惑となるような行為をしてはならない。
 - ⑧ 室内で飲食、喫煙してはならない。
 - ⑨ その他パソコン教室の運営に支障をきたすおそれのある行為をしてはならない。
 - （2） 目的外利用の禁止に関する事項
 - ① 営利を目的としてPCRを利用してはならない。
 - ② PCRにおいて、他人を誹謗中傷する内容のファイル等を作成又は送信してはならない。
 - ③ PCRにおいて、大学人としての品位を欠くような内容のファイル等を作成又は送受信してはならない。
 - （3） 知的財産権の保護に関する遵守事項
 - ① PCRの利用に際して、知的財産権によって保護されているプログラムその他のソフトウェアを、使用許諾権の範囲を超えて複製、修正又は配布してはならない。又そのようなことを試みてはならない。
 - ② 前号の行為を行う手段を他人に提供してはならない。
 - （4） セキュリティに関する遵守事項
 - ① 他人の登録番号及びパスワードを不正に入手、所有又は使用してはならない。又そのようなことを試みてはならない。
 - ② 自己の登録番号及びパスワードを不正に他人に提供し又は利用させてはならない。
 - ③ 正当な権限なしに、他人及びシステム内部のデータその他の情報を入手してはならない。又そのよう

- なことを試みてはならない。
- ④ 正当な権限なしに、データその他の情報を閲覧、修正、配布又は複製してはならない。又そのようなことを試みてはならない。
- ⑤ 前項②の行為を行う手段を、他人に提供してはならない。
- (5) システムの機能維持に関する遵守事項
- ① 正当な権限なしに、PCRに係る設置機器の配線及び周辺機器の接続構成を変更してはならない。又そのようなことを試みてはならない。
- ② 正当な権限なしに、PCRのソフトウェアの構成を変更してはならない。又そのようなことを試みてはならない。
- ③ PCRの正常な機能を損なうような、いかなる種類のソフトウェアも導入してはならない。又そのようなことを試みてはならない。
- ④ PCRにおいて、システムの正常な機能を損なう可能性のある数量のファイル等を送受信してはならない。

(以下略)

23. 多摩キャンパスの IT サービスについて

多摩キャンパスで利用できる各種 IT サービスは、多摩 IT センターの Web サイトでご紹介しています。また、多摩キャンパス内の情報環境に関するお問合せは、多摩 IT センターサポートデスクにて受け付けています。

【多摩 IT センター Web サイト】

<URL> http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/informational/itcenter/it_tama/

<QR コード>



【多摩 IT センターサポートデスク】

<利用時間> 月曜～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:00、13:00～17:00

<電話番号> 042-674-2740 <場所> 多摩キャンパス 2号館 2階

24. 視聴覚教育（映像言語メディアラボ）

映像言語メディアラボ事務室が管理する CALL (Computer Assisted Language Learning) 教室と AV (Audio Visual) 教室が 2号館 1階にあります。外国語教育の充実と、総合教育科目・専門教育科目の学習効果を高める施設として利用されています。また、学生が AV 教材 (ソフト) を視聴できる AV 自習室と、パソコンを利用できる IT 自習室があります。

1. CALL 教室、AV 教室、自習室について

(1) CALL 教室: 4 教室

学生の各席に端末が設置されています。ここでは CD 等の音声教材や、ビデオ・DVD 等の映像教材をスクリーンに投影しての授業が行われています。また教員と学生または学生同士の会話学習・発音矯正を行うことができ学生自身が録音した音声や教材を USB メモリへ保存することもできます。

(2) AV 教室: 5 教室

CD 等の音声教材や、ビデオ・DVD 等の映像教材をスクリーンに投影しての授業が行われています。机は固定されておらず授業形態に応じて自由に並べ替えることができます。

(3) AV 自習室: 2 室

ビデオ・DVD・LD・CD 等の再生機が設置されており、映像言語メディアラボ所蔵の教材 (ドキュメンタリー・歴史・紀行・映画・語学等) の他、各自持参のソフト等の視聴に利用できます。利用希望者は必ず学生証持参の上、映像言語メディアラボ事務室で利用手続を行ってください。

開室時間: 授業実施期間中 月曜日～金曜日 10:00～19:50 (最終受付 18:15)

(4) IT 自習室: 1 教室

CALL 教室 (2105 号室) の端末を下記の開室時間に限り使用することができます。利用希望者は必ず学生証持参の上、映像言語メディアラボ事務室で利用手続を行ってください。

開室時間: 授業実施期間中 月曜日～金曜日 18:30～20:30 (最終受付 20:00)

※印刷はできません。詳細は映像言語メディアラボ事務室にお問い合わせください。

2. 端末の利用について

CALL 教室と IT 自習室に設置してある学生用端末の利用には、統合認証アカウントが必要です。なお、一部の学生 (聴講生など) は、統合認証アカウントの他に利用者登録が必要になる場合もあります。

3. 映像言語メディアラボの情報について

下記ホームページには新着ニュースなどが掲載されています。また所蔵教材の検索も行うことができます。

<http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/informational/medialab/>

中央大学学則

(規程第 293 号)

目次 (省略)

第1章 総則

(この学則の目的)

第1条 この学則は、大学の主旨に基づいて、学校法人中央大学の設置する中央大学(以下「本大学」という。)における教育・研究の組織及び運営について必要な基準を定めることを目的とする。

(本大学の使命)

第2条 本大学は、その伝統及び私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もって個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする。

第2章 本大学の組織

第1節 教育と研究の組織

(学部及び学科)

第3条 本大学に、次の学部を置く。

法学部
経済学部
商学部
理工学部
文学部
総合政策学部

2 前項の学部は、別表第1に掲げる学科を置く。

(学部の教育研究上の目的)

第3条の2 前条第1項に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 法学部 法学及び政治学の分野に関する理論と諸現象にかかる教育研究を行い、幅広い教養と深い専門的知識に裏打ちされた理解力、分析力及び問題解決能力を涵養し、現代社会のさまざまな分野において活躍することのできる人材を養成する。

(2) 経済学部 経済学及びその関連領域にかかる教育研究を行い、広く国際的で豊かな教養・学識と専門能力を有し、社会のさまざまな分野においてその学識と能力を発揮することのできる人材を養成する。

(3) 商学部 商学にかかる各専門分野及びその関連領域における理論並びに実務に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と優れた専門能力を有し、ビジネスをはじめとする各分野を通じて社会に貢献できる人材を養成する。

(4) 理工学部 理学並びに工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、新しい課題への果敢な挑戦力と組織をまとめる卓越した交渉力を持ち、人類共有の知的資産たる科学技術を継承し、自らの新発見の成果発表を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成する。

(5) 文学部 人文科学及び社会科学の諸分野に関する教育と研究を行う。専門的教育における知的訓練を経て得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成する。

(6) 総合政策学部 人文科学、社会科学、自然科学、工学及びその他の関連諸分野を総合する観点から、現代社会における政策に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、「政策と文化の融合」の理念の下に不確実でグローバルな時代に必要とされる高度な知識を持ち、文化的背景を理解して現代社会が抱える諸問題を解決し、より良い社会を構築しうる人材を養成する。

(学生定員)

第4条 第3条の学部及び学科の学生定員は、別表第1に掲げるとおりとする。

(通信教育課程)

第5条 法学部に、通信教育課程を置く。

2 通信教育課程に関する特則は、別に定める。

(大学院)

第6条 本大学に、大学院を置く。

2 大学院に関する特則は、別に定める。

(附属施設)

第7条 本大学に、附属の図書館を置く。

2 本大学には、前項のほか、附属の研究所、センターその他必要な教育・研究施設を置くことができる。

3 附属施設に関する規則は、別に定める。

第2節 運営の機関及び教職員

(学長)

第8条 本大学に、学長を置く。

2 学長は、本大学の全般に関する事項をつかさどり、本大学を代表する。

(副学長)

第8条の2 本大学に、学長の職務を助けるため、副学長を置くことができる。

2 副学長に関する細目は、別に定める。

(学部長)

第9条 各学部に学部長を置く。

2 学部長は、その学部に関する事項をつかさどり、その学部を代表する。

3 学部長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 学部長が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(学部長補佐)

第9条の2 各学部に、学部長の業務を補佐するために、学部長補佐を置くことができる。

2 学部長補佐に関する細目は、別に定める。

(学部長会議)

第10条 本大学に、各学部間の連絡協議のため、学部長会議を置く。

(教授会)

第11条 各学部に、教授会を置く。

2 教授会は、その学部の教授、准教授、助教及び専任講師をもって組織する。この場合において、教授会を組織する助教及び専任講師の範囲は、当該学部が定めるところによる。

3 教授会は、その学部に関する次の事項について審議決定する。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること

(2) 学位の授与に関すること

(3) その他その学部の教育研究に関する重要事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要と認めるものとして別に定める事項

4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長(以下「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について、審議し、又は、学長等の求めに応じて、学長等に意見を述べるることができる。

(連合教授会)

第12条 学長、学部長又は教授会が、各学部に通ずる重要事項について連絡協議する必要を認めるときは、連合教授会を開くことができる。

(共同の委員会)

第13条 教授会が必要と認めるときは、他の学部の教授会と共同して、共同の委員会を設けることができる。

(運営の手続き等)

第14条 学部長会議、教授会、連合教授会及び共同の委員会に関する運営の手続きその他必要な事項については、別に定める。

(教職員)

第15条 本大学に、専任の教授、准教授、助教、講師(実験講師を含む。)、事務職員、技術職員及び現業職員を置く。

2 本大学に、前項のほか、必要に応じ非常勤の教員(客員教授を含む。)及び臨時の職員を置く。

(名誉教授)

第16条 本大学は、別に定める細則により、教員であった者に対し、名誉教授の称号を授与することができる。

第3節 外国人研究者

(外国人研究者)

第16条の2 本大学に、外国人研究者を置くことができる。

2 外国人研究者の受入れについては、別に定める。

第3章 修学の期間

第1節 修業年限

(修業年限)

第17条 学部の修業年限は、4年とする。ただし、第43条第2項の規定により卒業を認められた者については、この限りでない。

2 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数は、通算して8年を限度とする。

3 在学できる年数の計算においては、第19条に定める学期を0.5年として計算する。

4 再入学及び編入学をした者の在学できる年数については、別に定める。

5 第2項の規定は、留学した者にも適用する。

第2節 学年、学期及び授業日

(学年)

第18条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第19条 学年は、2期に分け、次の各号のとおりとする。

(1) 前期 4月1日から9月20日まで

(2) 後期 9月21日から翌年3月31日まで

(休業日)

第20条 授業を行わない日(以下「休業日」という。)は、次のとおりとする。ただし、必要があるときは、休業日を変更し、又は臨時に休業することがある。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める休日

(3) 本大学の創立記念日 7月8日

(4) 夏季休業 7月21日から9月20日まで

(5) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

- (6) 春季休業 翌年2月15日から3月31日まで
2 休業日の変更又は臨時の休業日については、そのつど公示する。

第4章 入学、留学、休学、退学及び除籍

第1節 入学、留学等

(入学の時期)

第21条 入学の時期は、4月1日とする。

(入学の資格)

第22条 学部第1年次に入学する者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高専課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により他の大学に入学した者であつて、本大学における教育を受けるにふさわしい学力があると本大学が認めたもの
- (9) 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の志願)

第23条 入学を志願する者は、入学願書その他の出願書類に入学選考料を添えて願ひ出て、かつ、入学試験又はこれに代わる選考(以下「入学の選考」という。)を受けなければならない。

(入学の手続き)

第24条 入学の選考に合格した者は、入学の手続きをすることができる。

2 入学の手続きをする者は、別に定める入学手続要項により、保証人連署の誓約書その他必要な入学書類に学費を添えて、手続きをしなければならない。

(保証人)

第25条 保証人は、父、母又はその他の成年者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

3 学生は、保証人の変更又はその氏名若しくは居住地に変更があつたときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

(学生証)

第26条 入学(編入学を含む。)の手続を終えた者(以下「新入生」という。)には、学生証を交付する。

(編入学及び転部科)

第27条 第22条から第24条までの規定にかかわらず、編入学及び転部科の資格、志願及び手続については、別に定める。

(他の大学における授業科目の履修)

第27条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、別に定める細則により、学生が他の大学の授業科目を履修することを許可することができる。

(留学)

第27条の3 前条の規定は、学生が外国の大学へ留学する場合に準用する。

(二重学籍の禁止)

第28条 本大学の学部・学科には、他大学又は本大学のその他の学部・学科と併せて在学することはできない。

第2節 休学、退学及び除籍

(休学)

第29条 傷病、海外留学その他やむを得ない事由によって、学期のうち2カ月以上修学することができない者は、その理由を附して、保証人と連署の休学願を提出し、休学の許可を受けて、休学することができる。

2 休学の期間は、休学の許可を受けた日から、その学期の終了日までとし、休学の期間が終了した翌日に復学するものとする。

3 前項の期間中に休学の事由が消滅しない者は、その理由を附して、保証人と連署の休学願を提出し、許可を受けて引き続き休学することができる。

4 休学の許可を受けた日にかかわらず、休学の期間は学期ごとに0.5年として計算し、通算して4年を超えることはできない。

5 休学の期間は、第17条第1項に定める修業年限には算入しない。

6 休学の期間は、第17条第2項に定める在学できる年数に算入する。

7 休学の期間については、学費を減免することができる。

(退学)

第30条 病気その他の事由によって退学しようとする者は、保証人と連署の退学届に学生証を添えて、退学の手続きをしなければならない。

(除籍)

第31条 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

- (1) 新入生で、指定された期限までに履修届を提出しない者、その他本大学において修学する意志がないと認められる者
- (2) 第56条第2項に定める期限までに、学費を完納しない者
- (3) 在学できる年数を超える者
- (4) 退学の決定をされた者

(再入学)

第31条の2 前条の規定(第3号の規定を除く。)により除籍された者が、再入学を希望するときは、その理由を附して、保証人と連署の再入学願 126

を提出し、再入学の許可を受けることができる。

- 2 第52条の規定により退学の処分を受けた者の再入学については、特に反省が顕著であると認められたときでなければ許可しない。

第5章 教育課程及び履修方法

(授業科目)

第32条 授業科目の名称、単位数、年次配当及び履修方法は、別表第2に掲げるとおりとする。

2 前項のほか、文学部に学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格取得のために必要な授業科目を置く。

3 前項の授業科目の名称、単位数、年次配当及び履修方法は、別表第2の2、第2の3、第2の4及び第2の5に掲げるとおりとする。

(単位の計算方法及び授業期間)

第33条 各授業科目の単位は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 講義、演習、実験、実習又は実技のいずれかの授業科目について、2以上の方法の併用により行う場合は、その組合せに応じ、前2号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(履修の手続き)

第34条 学生は、その学年に履修しようとする授業科目について、指定された期限までに履修届を提出のうえ、履修しなければならない。

(単位の授与)

第35条 授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価(以下「試験」という。)に合格した者には、所定の単位を与える。

(他の大学において修得した単位)

第35条の2 第27条の2の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で各教授会が定めるところにより、本大学において修得したものとみなすことができる。

(外国の大学において修得した単位)

第35条の3 前条の規定は、学生が外国の大学に留学する場合に準用する。

(入学前に修得した単位)

第35条の4 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学の1年次に入学する前に第61条に規定する本大学の科目等履修生として修得した単位を、本大学入学後に本大学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、本大学に編入学した者が、本大学に入学する前に本大学、他大学、短期大学その他の中央大学学則施行規則(以下、「施行規則」という。)第3条に定める学校等において修得した単位を本大学において修得したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第35条の5 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、各教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、第35条の2及び第35条の3により本大学において修得したものとみなす単位数並びに施行規則第15条第1項により修得した単位と合わせて60単位を超えないものとする。

(教育職員免許を取得しようとする者の履修方法)

第36条 教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を履修しなければならない。

2 前項の履修により、本大学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第3に掲げるとおりとする。

(学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭資格を取得しようとする者の履修方法)

第36条の2 学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格を取得しようとする者は、それぞれの資格取得のために必要な授業科目を履修しなければならない。ただし、司書教諭の資格を取得しようとする者は、現に教育職員免許状を取得するために必要な授業科目を履修している者でなければならない。

第6章 試験及び成績

(試験の方法)

第37条 試験は、筆記又は口述によるものとする。ただし、論文の提出その他の方法によることができる。

(試験の時期)

第38条 試験は、学年末又は学期末において行う。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期においても行うことができる。

(受験の条件)

第39条 試験は、履修した授業科目でなければ、受けることができない。

2 学費及び必要な手数料を納入しない者は、試験を受けることができない。

3 休学又は停学の期間中は、試験を受けることができない。

(成績の表示)

第40条 試験の成績は、A、B、C、D及びEで示し、A、B、C及びDを合格とし、Eを不合格とする。

(成績の通知)

第41条 前条の成績は、学生に通知する。

第7章 卒業及び学士の学位

(卒業に必要な単位)

127 第42条 各学部の卒業に必要な単位は、別表第2に掲げるとおりとする。

(卒業の要件)

第43条 卒業の要件は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、休学の期間中は卒業できない。

- (1) 4年以上在学すること
 - (2) 卒業に必要な単位を修得していること
- 2 各学部教授会の定めるところにより、当該学部の学生として3年以上在学した者が、前項第2号に定める卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前項第1号の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

(卒業の時期)

第43条の2 卒業の時期は、学年末とする。ただし、別に定めるところにより、本人の申請があり、教授会の議を経て学長が決定した場合は、卒業の時期を前期末とすることができる。

(学士の学位)

第44条 卒業の要件を備えた者には、学士の学位を授与し、卒業証書・学位記を交付する。

(専攻分野の名称)

第45条 学士の学位に付する専攻分野の名称は、その学部又は学科に従って、別表第3の2に掲げるとおりとする。

第8章 奨学

(奨学)

第46条 能力があるにもかかわらず経済的理由によって修学が困難な者及び特に学力が優れている者には、奨学の方法を講ずることができる。

2 奨学の方法は、奨学金の貸与及び給付とする。

3 奨学の方法に関する規程は、別に定める。

第9章 教員、職員及び学生の責務

第1節 通則

(相互の尊重と協力)

第47条 教員、職員及び学生(科目等履修生及び聴講生を含む。以下同じ。)は、個人の尊厳を重んじ、学問の自由を尊重し、それぞれの職責・地位に即しつつ、相互の信頼と協力によって、本大学の使命を達成するように努めなければならない。

(環境の保持)

第48条 教員、職員及び学生は、本大学の使命にかんがみ、教育と研究にふさわしい環境が保持されるよう自ら努めるとともに、本大学の正常な運営に協力しなければならない。

第2節 学生の守るべき事項

(学生の守るべき事項)

第49条 学生は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 登校するときは、必ず学生証(科目等履修生証及び聴講生証を含む。)を携帯し、教職員から学生証の提示を求められた場合には、これを提示すること。
- (2) 教育・研究に支障を及ぼし、又は他の者の個人の尊厳若しくは人格を侵害するような言動をしないこと。
- (3) その他学生としての本分に反しないこと。

(変更届)

第50条 学生は、その氏名、居住地又は本籍に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

第10章 賞罰

(表彰)

第51条 学生として表彰に値する行為があったときは、表彰することができる。

(懲戒)

第52条 学則に違反し、その他不都合な行為のあった学生に対しては、行為の軽重と教育上の必要を考慮して、訓告、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対してでなければ行うことができない。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由がなくて出席の常でない者
 - (4) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- 2 前項に定める訓告、停学又は退学の処分は、学長が別に定めるところにより行うものとする。

第11章 学費等

第1節 選考料及び審査料

(選考料)

第53条 入学(再入学及び編入学を含む。)又は転科を志願する者は、別表第4に掲げる選考料を納めなければならない。ただし、推薦入学の 128

選考において、2段階選考を実施する場合は、別表第4の2に掲げる選考料を納めなければならない。

2 前項本文の規定にかかわらず、本大学は、特別の理由がある場合に、別に定めるところにより選考料を減額することがある。

(審査料)

第54条 第61条に規定する科目等履修生又は第61条の2に規定する聴講生となることを願い出る者は、別表第4の3に掲げる審査料を納めなければならない。ただし、第61条第5項に規定する履修期間又は第61条の2第4項に規定する聴講期間を超えて継続して履修又は聴講を願い出る者については、審査料を免除する。

2 前項の規定にかかわらず、同一年度に第61条又は第61条の2に基づき2つ以上の学部に履修又は聴講を願い出る者の審査料は、重複して納入することを要しない。

第2節 学費、科目等履修費及び聴講料

(学費)

第55条 学費は次のとおりとし、納入額は別表第5、別表第6及び別表第7に掲げるとおりとする。

- (1) 入学金
- (2) 授業料
- (3) 実験実習料
- (4) 削除
- (5) 施設設備費
- (6) 教職履修料
- (7) 学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料

2 学費の減免措置については、別に定める。

(納期)

第56条 前条第1項に規定する学費は、毎学年6月30日までに全納しなければならない。ただし、授業料、実験実習料及び施設設備費についてやむを得ない事由により全納できないときは、前期と後期の2期に分納することができる。

2 前項ただし書に定める分納の期限は次のとおりとする。

- (1) 前期 6月30日
- (2) 後期 1月14日

3 前項各号に定める期日までにやむを得ない事由により学費を納入することができない場合は、保証人と連署の延納願を提出して許可を受け、次に掲げる期日までに学費を納入した場合に限り、前項各号の期限までに学費が納入されたものとみなす。

- (1) 前期 7月14日
- (2) 後期 1月28日

(特殊学費)

第57条 再入学その他特殊な場合の学費については、別に定める。

(科目等履修費)

第58条 第61条に規定する科目等履修生の科目等履修費は次のとおりとし、納入額は別に定める。

- (1) 登録料
- (2) 科目履修料
- (3) 教職履修料
- (4) 学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料

(聴講料)

第58条の2 第61条の2に規定する聴講生の聴講料の納入額は、別に定める。

第3節 手数料

(手数料)

第59条 手数料の種類及び納入額については、別に定める。

第4節 学費等の返還制限

(学費等の返還制限)

第60条 納入した学費等は、返還しない。

第12章 科目等履修生及び聴講生

(科目等履修生)

第61条 各学部教授会(中央大学教育職員の養成に関する運営委員会(以下「教職運営委員会」という。)を含む。)は、本大学の学部学生以外の者が単位の修得を目的として、別表第4の3に掲げる審査料を添えて特定の授業科目の履修を願い出た場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。

2 前項により履修を願い出ることができる者は、第22条に定める入学の資格を有する者でなければならない。ただし、教授会が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める者については、この限りでない。

3 前項の規定にかかわらず、教育職員の免許並びに学芸員、社会教育主事、司書及び司書教諭の資格を取得するために必要な授業科目の単位の修得を目的として履修を願い出ることができる者は、学士の学位(大学院に在学する者を含む。)を有する者であって、教職運営委員会又は文学部教授会がそれぞれ定める要件を満たす者でなければならない。

4 履修を許可された者は、所定の期日までに、別に定める科目等履修費を納入し、履修の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、科目等履修生証を交付する。

- 5 科目等履修生として、授業科目を履修できる期間は、6カ月又は1年とする。
 - 6 科目等履修生が各学部において1学年度に履修できる単位は、30 単位を超えない範囲で当該学部教授会において定める。ただし、第3項の規定により科目等履修生となった者の1学年度に履修できる単位の上限は、必要に応じて教職運営委員会又は文学部教授会において定めるものとする。
 - 7 前項本文の規定にかかわらず、科目等履修生が2学部以上の授業科目を履修する場合において、1学年度に履修できる単位は、各学部を通算して 30 単位を超えることはできない。ただし、第3項の規定により科目等履修生となった者の1学年度に履修できる単位の上限については、この限りでない。
 - 8 科目等履修生が、授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価(以下「試験」という。)に合格したときには、所定の単位を与える。当該試験の成績は、科目等履修生に通知する。
 - 9 科目等履修生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。
(聴講生)
- 第 61 条の2 各学部教授会は、別表第4の3に定める審査料を添えて、特定の授業科目について聴講を願い出た者がいる場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、聴講生として当該授業科目の聴講を許可することができる。
- 2 聴講を願い出る者の資格は、各学部教授会が定める。
 - 3 聴講を許可された者は、所定の期日までに、別に定める聴講料を納入し、聴講の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、聴講生証を交付する。
 - 4 聴講生として、授業科目を聴講できる期間は、6カ月又は1年とする。
 - 5 聴講生が聴講した授業科目について試験を受けたときは、請求により成績証明書を交付する。ただし、授業科目の単位は与えない。
 - 6 聴講生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。

第 12 章の2 外国人留学生

(外国人留学生)

- 第 61 条の3 外国人留学生の受入れについては、別に定める。
- 2 外国人留学生で、外国の大学を卒業した者又はこれに準ずる者は、第3年次に編入学を認めることができる。
 - 3 外国人留学生については、学修の必要に応じて別表第2に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて特別の科目を置くことができる。
 - 4 前項に定める特別の科目として日本語及び日本事情に関する科目等(以下「日本語科目等」という。)を置く。
 - 5 日本語科目等の名称、単位数、年次配当及び履修の基本方法は、別表第2の6に掲げるとおりとする。

第 13 章 公開講座

(公開講座)

第 62 条 本大学は、正規の授業のほか、適時、公開講座を開設する。

第 14 章 改正

(改正)

第 63 条 この学則の改正は、教授会及び教学審議会の議を経なければならない。

第 15 章 雑則

(施行の細目)

第 64 条 この学則に特別の定めがあるものを除くほか、この学則の実施の手続きその他この執行について必要な細目は、別に定める。

附 則

附則(規程第 350 号)から附則(規程第 2822 号)までは、省略。

附 則(規程第 2835 号)

この学則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

別表第1 (学部・学科・学生定員)	省略
別表第2、2の2、2の3、2の4、2の5、2の6 (授業科目、単位数、履修方法)	省略
別表第3 (教育職員免許状の種類及び教科)、3の2 (学士の学位に付する専攻分野の名称)	省略
別表第4、4の2、4の3 (選考料、推薦入学選考料、審査料)	省略
別表第5、別表第6、別表第7 (学費)	省略

中央大学学則施行規則

(規程第 294 号)

(趣旨)

第1条 この規則は、中央大学学則(以下「学則」という。)第 64 条に基づき学則の施行に関し必要な事項を定める。

(再入学者の在学年限)

第2条 再入学した者の在学できる年数は、除籍の期間を含め、通算して8年とする。

(編入学の資格等)

第3条 本大学に編入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- (1) 学士の学位を有する者
 - (2) 短期大学を卒業した者
 - (3) 高等専門学校を卒業した者
 - (4) 旧国立工業教員養成所を卒業した者
 - (5) 旧国立養護教諭養成所を卒業した者
 - (6) 大学に2年以上在学し、当該学部教授会が定める所定の単位を修得した者(第1号に定める者を除く。)
 - (7) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- 2 前項の規定にかかわらず、各学部教授会は、その定めるところにより、前項の資格を制限し、又はこれに条件を付すことができる。
- 3 第1項第1号に該当する者は、学士の学位を取得した学部(「専攻」を含む。)に編入学することはできない。
- 4 編入学する者の編入学年次は、各学部教授会が定める。

(編入学の志願及び手続)

- 第4条 編入学を志願する者は、編入学願書その他の出願書類に選考料を添えて願ひ出て、かつ、編入学試験又はこれに代わる選考(以下「編入学の選考」という。)を受けなければならない。
- 2 編入学の選考に合格した者は、編入学の手続をすることができる。
- 3 編入学の手続をする者は、別に定める編入学手続要項により、保証人連署の誓約書その他必要な編入学書類に学費を添えて、手続をしなければならない。

(編入学生の修業年限)

第5条 編入学した者(以下「編入学生」という。)の修業年限は、学則第 17 条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

- (1) 第2年次に編入学した者 3年
 - (2) 第3年次に編入学した者 2年
- 2 前項の修業年限を超えて在学できる年数は、4年を限度とする。

(転部科の条件)

第6条 第2年次又は第3年次に欠員が生ずる学部においては、その学部内又はその学部と同一専攻の学部間(一部・二部間)に限り選考のうえ、転部科(「転専攻」を含む。以下同じ。)を許可することができる。

2 転部科を志願する者は、各学部教授会が定める要件を備えていなければならない。

(転部科の志願及び手続き)

第7条 転部科の志願及び手続きについては、転部科試験要項による。

(転部科者の在学年限)

第8条 転部科した者の在学できる年数は、転部科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

(除籍者の在学期間)

第9条 除籍された者の在学した期間は、入学の時期から除籍された日までとする。

第10条 削除

(休学許可の取消し)

第11条 休学の事由が休学した日から2カ月未満の期間内に消滅したときは、保証人と連署の休学許可取消願を提出し、休学許可の取消しを受けることができる。ただし、休学による学費の免除を受けた者は、その免除された額を学費として添えなければならない。

2 休学許可の取消しを受けた場合は、休学の許可を受けた日に遡り休学していなかったものとみなす。

(除籍の取消し)

第12条 学則第 31 条第1項第1号又は第4号(退学処分を受けた者を除く。)の規定により除籍された者が、学業の継続を希望するときは、除籍された日から2週間以内に保証人と連署の除籍取消願を提出し、許可を受けて引き続き修学することができる。

(入学前の単位の認定)

第13条 学則第 35 条の4の規定により行う本大学に入学する前に修得した単位の認定は、各学部教授会が定める認定基準によって行うものとする。

(転部科者の単位の認定)

第14条 転部科前に修得した単位は、各学部教授会が定める認定基準により、転部科後における修得すべき授業科目の単位とみなすことができる。

(他学部科目等の履修)

第15条 他の学部(部)に属する科目のうち、在学する学部(部)に設置されていない授業科目については、30 単位を超えない範囲において履修することができる。

2 前項の規定により、履修することができる科目は、各学部教授会が定める。

3 他の学部(部)に属する科目の履修を希望する者は、関係学部長の許可を受けなければならない。

(在学期間の延長)

第15条の2 学則第 43 条に規定する卒業の要件を満たした者が、引き続き学修の継続を希望するときは、各学部教授会は在学の延長を許可することができる。

2 前項の在学を延長できる期間は、原則として、卒業要件を満たした学年の翌年度1カ年とし、再度在学の延長を希望する者については、1カ年を限度として更に在学の延長を許可することができる。ただし、学則第 17 条第2項に規定する年数を超えることはできない。

3 在学の延長を許可された者の卒業年度は、在学期間が終了する年度とする。

4 学則第 43 条の2ただし書の規定は、第1項の規定により在学の延長を許可された者にも適用する。

5 第1項の規定により在学の延長を許可された者については、中央大学学則施行細則第 10 条の規定により各学部教授会の定めた範囲で授業科目の履修を許可することができる。

6 第1項の規定により在学の延長を許可された期間の休学は認めない。

7 その他在学の延長に関する細目は、別に定める。

(改正)

第16条 この規則の改正は、教授会及び教学審議会の議を経なければならない。

附 則

附則(規程第 660 号)から附則(規程第 1730 号)までは、省略。

附 則(規程第 2567 号)

この規則は、平成 27 年4月1日から施行する。

中央大学学則施行細則

(規程第 305 号)

(趣旨)

第1条 この細則は、中央大学学則(以下「学則」という。)第 64 条に基づき、運用の細目を定める。

(学籍番号)

第2条 入学の手続きを終えた者(以下「新入生」という。)には、学籍番号を付し、転部科その他特別の事由がないかぎり卒業まで変更しない。

(証明書)

第3条 新入生は、指定された期限までに住民票記載事項証明書を提出しなければならない。

2 学生は、その氏名に変更があったときは、戸籍抄本(これに代わる証明書を含む。)を提出しなければならない。この場合において、当該学生が外国人の場合は、住民票記載事項証明書を提出しなければならない。

(届出氏名)

第4条 届出の氏名は、原則として前条の証明書記載のとおりとする。ただし、所定の手続により大学が認めた場合は、学生は通称名を届け出ることができる。

2 前項ただし書により、通称名を届け出た学生については、本大学の発行する証明書(卒業証書を含む。)に通称名を表記することができる。(学生証の返還・再交付)

第5条 次の各号のいずれかに該当する場合は、学生証を返還しなければならない。

(1) 卒業したとき。

(2) 除籍されたとき。

2 学生証を紛失し、又ははなはだしく汚損したときは、届け出て再交付を受けなければならない。

3 前項の場合において、再交付までの間は、仮学生証を交付することがある。

(休学願の提出等)

第6条 休学願の提出期限は、次のとおりとする。

(1) 前期 7月20日

(2) 後期 1月31日

2 休学願を提出するときは、休学の事由を示す書類を添えなければならない。

3 次の各号に定める期日までに休学が許可された場合は、学則第 29 条第7項に基づき当該各号の学費を免除することができる。

(1) 前期 4月30日 授業料及び実験実習料の2分の1

(2) 後期 10月20日 授業料及び実験実習料の2分の1

4 前項の規定にかかわらず、入学した年度の初学期に休学した場合は、学費を免除しない。

5 すでに学費(授業料及び実験実習料)を納入している者が、第3項により免除の許可を受けた場合は、その免除された額について返還する。

第7条 削除

(除籍日)

第8条 学則第 31 条第1項第1号に該当する者は、入学した年の4月30日付で除籍する。

2 学則第 31 条第1項第2号に該当する者は、学則第 56 条第2項に指定された期限の翌日付で除籍する。

3 学則第 31 条第1項第3号に該当する者は、在学できる最終学年の3月31日付で除籍する。

4 学則第 31 条第1項第4号に該当する者は、退学の決定日をもって除籍する。

(再入学の期限)

第9条 学則第 31 条の2第1項(退学処分を受けた者を除く。)の規定による再入学願の提出期限は、再入学者選考要項に定めるところによる。

2 再入学を許可された者は、再入学手続要項により、指定された期限までに手続きをしなければならない。

3 学則第 31 条の2第2項の規定による再入学願の提出期限は、各学部教授会の定めるところによる。

(履修)

第10条 学則に定めるもののほか、授業、試験、成績その他履修に関する細目は、各学部教授会が定める履修要項による。

(成績表示の評点)

第11条 成績の表示の評点は、100点を満点とし、次のとおりとする。

A 90点以上

B 80点以上 90点未満

C 70点以上 80点未満

D 60点以上 70点未満

E 60点未満

(在学延長許可者に対する減免措置)

第12条 施行規則第 15 条の2の規定により、在学の延長が許可された者は、授業料及び実験実習料の2分の1を免除する。

2 前項に該当する者は、学則第 56 条第1項ただし書の規定による分納は許可しない。

3 施行規則第 15 条の2第4項の規定により、在学を延長し、かつ前期末において卒業する者は、第1項の免除は適用しない。

(前期末における卒業者に対する減免措置)

第13条 学則第 43 条の2ただし書の規定により、前期末において卒業する者は、授業料、実験実習料及び施設設備費の2分の1を免除する。

2 前項に該当する者は、学則第 56 条第1項ただし書の規定による分納は許可しない。

(選考料の減額)

第14条 学則第 53 条第2項に定める選考料は、別表第1に掲げるとおりとする。

(学費の分納)

第15条 学則第 56 条第1項ただし書の規定による授業料、実験実習料及び施設設備費の分納の手続きは、別に定める。

2 分納を認められた者の各期の納入額は、次のとおりとする。

(1) 前期 授業料、実験実習料及び施設設備費の2分の1

(2) 後期 授業料、実験実習料及び施設設備費の2分の1

(延納願の提出等)

第16条 延納願を提出するときは、支弁計画書を添えなければならない。

2 支弁計画書には次に掲げる事項を記載しなければならない。

(1) 延納を必要とするやむを得ない事由

(2) 延長した期日までに支払いが可能である旨

3 その他延納に関する必要な事項は別に定める。

(教職履修料の納期)

第17条 学則第 55 条に規定する教職履修料の納期は、学則第 56 条第1項の規定にかかわらず、本大学が指定した日とする。

132

(学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料の納期)

第 18 条 学則第 55 条に定める学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭履修料の納期は、学則第 56 条第 1 項の規定にかかわらず、本大学が指定した日とする。

(特殊学費)

第 19 条 学則第 57 条に定める特殊学費の種類及び納入額は、別表第 2 に掲げるとおりとする。

(科目等履修費)

第 20 条 学則第 58 条に定める科目等履修費の納入額は、別表第 3 に掲げるとおりとする。

(聴講料)

第 21 条 学則第 58 条の 2 に定める聴講料の納入額は、別表第 3 の 2 に掲げるとおりとする。

(手数料)

第 22 条 学則第 59 条に定める手数料の種類及び納入額は、別表第 4 に掲げるとおりとする。

(科目等履修生及び聴講生の履修等)

第 23 条 科目等履修生及び聴講生の履修等に関する細目は、各学部教授会が定める。

附 則

附則(規程第 365 号)から附則(規程第 2716 号)までは、省略。

附 則(規程第 2717 号)

この細則は、平成 29 年 10 月 1 日から施行する。

別表第 1 、別表第 2 、別表第 3 、別表第 3 の 2 、別表第 4 ……………省略

個人情報の取扱いについて

本学は、「中央大学個人情報保護規程」を定め、「個人情報取扱事業者」として、みなさんから取得した個人情報の適切な保護に努めます。

《本学が取得する個人情報の内容と利用目的について》

本学は、個人情報を取得する際には、その利用目的をお知らせしています。学生及び保証人等に係る個人情報の内容と利用目的は、以下のとおりです。なお、在留資格等の特別な手続に際しては、それぞれの手続書類に記載の個人情報を取得します。

<個人情報の内容>

【本人情報(手続者)】

入学手続に際して提供を受けた個人情報(下記参照)及びその更新情報、受験番号、入試形態、卒業証明書に記載された事項、住民票記載事項証明書に記載された事項、パスポートの身分事項ページ等に記載された事項(国際経営学部入学者に限る)、学籍番号及びパスワード等学内認証記号、全学メールアドレス、学籍異動に関する情報、履修及び成績情報、健康管理に関する情報、奨学金に関する情報、賞罰に関する情報、厚生補導に関する情報、就職活動及び進路に関する情報、学内施設設備の利用に関する情報

【保証人情報】

入学手続に際して提供を受けた個人情報、生年月日、Cplus ログイン ID 及びパスワード

【学費負担者情報】

入学手続に際して提供を受けた個人情報

【家族情報】

入学手続に際して提供を受けた個人情報、生年月日、職業(勤務先・学校名等)

【緊急連絡先情報】

入学手続に際して提供を受けた個人情報、緊急連絡先(住所・固定電話番号・携帯電話番号・勤務先名称・勤務先住所)

<入学手続に際して提供を受けた個人情報の内容>

【本人情報(手続者)】

氏名(漢字・カナ・ローマ字)、学部・学科等の所属、受験番号、生年月日、性別、出身高等学校(課程・学科)、最終学歴(入学形態が編入学試験の場合に限る)、最終学歴の卒業年月日(外国人留学生入学試験の場合に限る)、入学後住所、固定電話番号、携帯電話番号、メールアドレス、国籍、職歴、自己の性格、高校時代に力を入れたこと・表彰等、入学の動機と抱負・将来について、大学生活を送る上で支障を来す特記事項、印影、顔写真データ、試験結果

【保証人情報】

氏名(漢字・カナ)、続柄、住所、固定電話番号、携帯電話番号、メールアドレス、印影

【学費負担者情報】

氏名(漢字・カナ)、住所、固定電話番号、携帯電話番号

【家族情報】

氏名(漢字)、続柄

【緊急連絡先情報】

氏名(漢字)、続柄、緊急連絡先(連絡先名称・電話番号)、メールアドレス

<個人情報の利用目的>

本人確認、本人への通知及び連絡、各種証明書の発行、履修及び成績評価、教育研究の指導、学費等の納入に係る事務、奨学金手続、厚生補導、就職及び進路支援、学内の施設設備利用、保証人等への通知及び連絡、その他学生としての活動を支援するために必要な業務、各種統計処理

《個人情報の共同利用について》

本学は、本学が取得する入学手続者と在学生の個人情報の一部について、中央大学校友会、中央大学学生会、中央大学生活協同組合及び中央大学父母連絡会と共同利用します。共同利用の詳細は、本学公式 Web サイトで周知しています。

<中央大学学友会との共同利用について>

中央大学学友会は学部学生を正会員とする組織で、1911年に設立され、独自の規約をもって運営されています。その活動分野は学術、文化、体育など広範にわたりますが、それぞれ多くの部会(サークル)に分かれて活動が行われています。学部学生が入学手続き時に会費を納入する、全員加入の組織です。(中央大学学友会会則第3条、第42条)中央大学学友会は、その利用する個人情報の一部について、学校法人中央大学と共同利用しています。

1. 共同利用する個人情報の項目

【学部学生情報】

- (1) 学籍番号
- (2) 氏名(漢字・カナ)
- (3) 生年月日
- (4) 住所
- (5) 電話番号(固定または携帯)

【学部学生のうち体育連盟所属学生情報】

- (1) 履修科目名
- (2) 履修科目教員名
- (3) 履修科目授業期間
- (4) 履修科目授業日時

2. 共同利用する者の範囲

中央大学学友会

3. 共同利用する目的

- (1) 学友会各部会に所属する学生の照合及び緊急連絡への利用
- (2) 体育連盟各部会所属学生による配慮願(公欠届)申請科目・内容の照合及び学生への連絡

4. 学校法人中央大学(その設置する中央大学)における利用について管理責任を有する者

学校法人中央大学

(お問い合わせ先:中央大学学友会事務室 TEL 042-674-4304)

なお、中央大学学友会事務室は、中央大学の組織ですが、共同利用先の中央大学学友会の業務を併せて行っています。

<中央大学学生会との共同利用について>

中央大学学生会は、中央大学の卒業生(会員と称する)により組織される団体です。大学への各種支援事業、会員相互の親睦活動を行っています。

学部学生は、卒業年次に全員が会費を大学に預託することにより準会員となり、卒業後に正式な会員として全員加入となる組織です。(中央大学学生会会則第4条、第25条)

中央大学学生会は、その利用する個人情報の一部について、学校法人中央大学と共同利用しています。

1. 共同利用する個人情報の項目

【準会員(学部学生)情報】

- (1) 学籍番号
- (2) 氏名(漢字・カナ)
- (3) 住所

【保証人情報】

- (1) 氏名(漢字・カナ)
- (2) 住所

【卒業生情報】

- (1) 氏名(漢字・カナ)
- (2) 生年月日

- (3)住所
- (4)在籍時学籍番号
- (5)卒業学部・学科
- (6)卒業年
- (7)学会会費納入有無

2. 共同利用する者の範囲

中央大学学生会(その支部を含む)

3. 共同利用する目的

【準会員(学部学生)情報】

- (1)中央大学学生会(以下、学生会)からの機関紙「学員時報」の発送

【卒業生情報】

- (1)学生会からの機関紙「学員時報」の発送
- (2)学生会支部の会員拡大のためのダイレクトメール送付

4. 学校法人中央大学(その設置する中央大学)における利用について管理責任を有する者

学校法人中央大学

(お問い合わせ先:中央大学募金推進事務局学員ネットワーク課 TEL 03-6265-2830)

なお、共同利用の相手方の中央大学学生会におけるお問い合わせ先は、次のとおりです。

(お問い合わせ先:中央大学学生会本部事務局 TEL 03-3219-6175)

<中央大学生協同組合との共同利用について>

中央大学生協同組合は、学生・教職員一人ひとりが出資金を出し合って利用・運営し、大学生生活を豊かにしていく組織です。中央大学に学び研究し働く学生・教職員の合意によって1949年に設立されました。以来、書籍・購買・サービス関連・食堂等、各店舗事業を通じて、勉学・日常生活をサポートしています。

中央大学生協同組合は、その利用する個人情報の一部について、学校法人中央大学と共同利用しています。

1. 共同利用する個人情報の項目

【学部入学手続者情報】

- (1)学部・受験区分・手続区分
- (2)氏名(漢字・カナ)
- (3)住所

【学部除籍者情報】

- (1)学籍番号
- (2)学生氏名(漢字・カナ)
- (3)学生住所
- (4)学生電話番号(固定または携帯)
- (5)保証人氏名(漢字・カナ)
- (6)保証人住所
- (7)保証人電話番号(固定または携帯)

【学部卒業予定者情報】

- (1)学籍番号
- (2)氏名(漢字・カナ)
- (3)住所
- (4)電話番号(固定または携帯)

2. 共同利用する者の範囲

中央大学生協同組合

3. 共同利用する目的

(1) 入学準備に関する案内の発送

生協・キャンパス共済加入手続、生協利用(売店、食堂等)、一人暮らしに関すること(アパート、家具家電等)、教材(教科書、パソコン、電子辞書等)等

(2) 組合からの脱退に伴う出資金返還の案内

4. 学校法人中央大学(その設置する中央大学)における利用について管理責任を有する者

学校法人中央大学

(お問い合わせ先: 中央大学学事部学事・社会連携課 TEL 042-674-2135)

なお、共同利用の相手方の中央大学生生活協同組合におけるお問い合わせ先は、次のとおりです。

(お問い合わせ先: 中央大学生生活協同組合生協事務室 TEL 042-674-3011)

<中央大学父母連絡会との共同利用について>

中央大学父母連絡会は、在学生の保証人(父母等)及び本学教職員により組織される団体です。学部学生(入試形態が外国人留学生入試の場合を除く)の保証人(父母等)が、入学手続時及び毎年年度の始めに会費を納入する全員加入の組織であり(中央大学父母連絡会会則第5条、第18条)、在学生への支援活動及び会員相互の親睦活動を行っています。

中央大学父母連絡会は、その利用する個人情報の一部について、学校法人中央大学と共同利用しています。

1. 共同利用する個人情報の項目

【学部学生情報】

(1) 学籍(学籍番号・在籍状況)

(2) 氏名(漢字・カナ)

(3) 生年月日

(4) 住所

(5) 電話番号(固定または携帯)

(6) メールアドレス

【保証人情報】

(1) 氏名(漢字・カナ)

(2) 続柄

(3) 住所

(4) 電話番号(固定または携帯)

2. 共同利用する者の範囲

中央大学父母連絡会(その支部を含む)

3. 共同利用する目的

(1) 父母連絡会の支部活動、会議、各種行事(父母懇談会、ブロック会議、支部長会議等)の案内

(2) 機関誌「草のみどり」の発送

(3) 父母会員名簿、懇談会出席者名簿、会員数統計表作成

4. 学校法人中央大学(その設置する中央大学)における利用について管理責任を有する者

学校法人中央大学

(お問い合わせ先: 中央大学学事部学事・社会連携課 TEL 042-674-2135)

なお、共同利用の相手方の中央大学父母連絡会におけるお問い合わせ先は、次のとおりです。

(お問い合わせ先: 中央大学父母連絡会事務局 TEL 042-674-2161)

<開示・訂正・利用停止請求等について>

本人からの個人情報の開示・訂正・利用停止等の請求については、当該個人情報を保有している学内の機関において、所定の書面により受け付けます。請求を受け付けた機関の「個人情報保護管理者」は、速やかに請求の可否を決定し申請者に通知します。

以上

緊急時の避難

災害その他緊急の事態が発生した場合は、次のように行動してください。

(1) 緊急事態の発生した場合は、すべて大学から緊急放送でお知らせしますので、指示に従って冷静に行動してください。

(2) 大地震の際の行動マニュアル

I. 大地震が起きた場合の基本行動

- 地震の主震動は1分～2分程度であるため、落ち着いて行動する。
- 余震があることも頭に入れておく。
- 衣類・持ち物等で頭を覆い、落下物（黒板・モニター・蛍光灯等）や転倒物から身を守る。
- ドア付近の人はドアを開け、出口を確保する。

II. 避難する場合の基本行動

【屋内から屋外への避難】

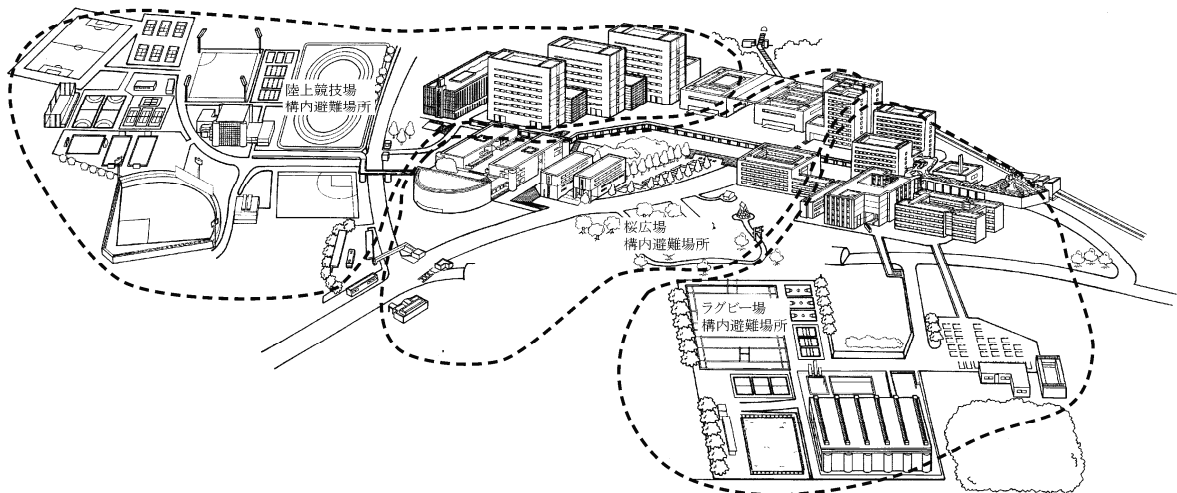
- ① 出口に殺到しないで整然と避難する。
- ② 身体障害者や負傷者がいる場合は、周りの学生とサポートをする。
- ③ 停電した場合、誘導灯を目印に避難する。
- ④ 避難には、必ず階段を使用する。その際には、姿勢を低く保つ。
- ⑤ ドアを開放したまま避難する。ただし、火災が発生し消火不能の場合はドアを閉めて避難する。
- ⑥ 煙が発生したら煙を吸わないよう、ハンカチ等を口と鼻にあて、姿勢を低くして避難する。

【屋外から避難場所への避難】

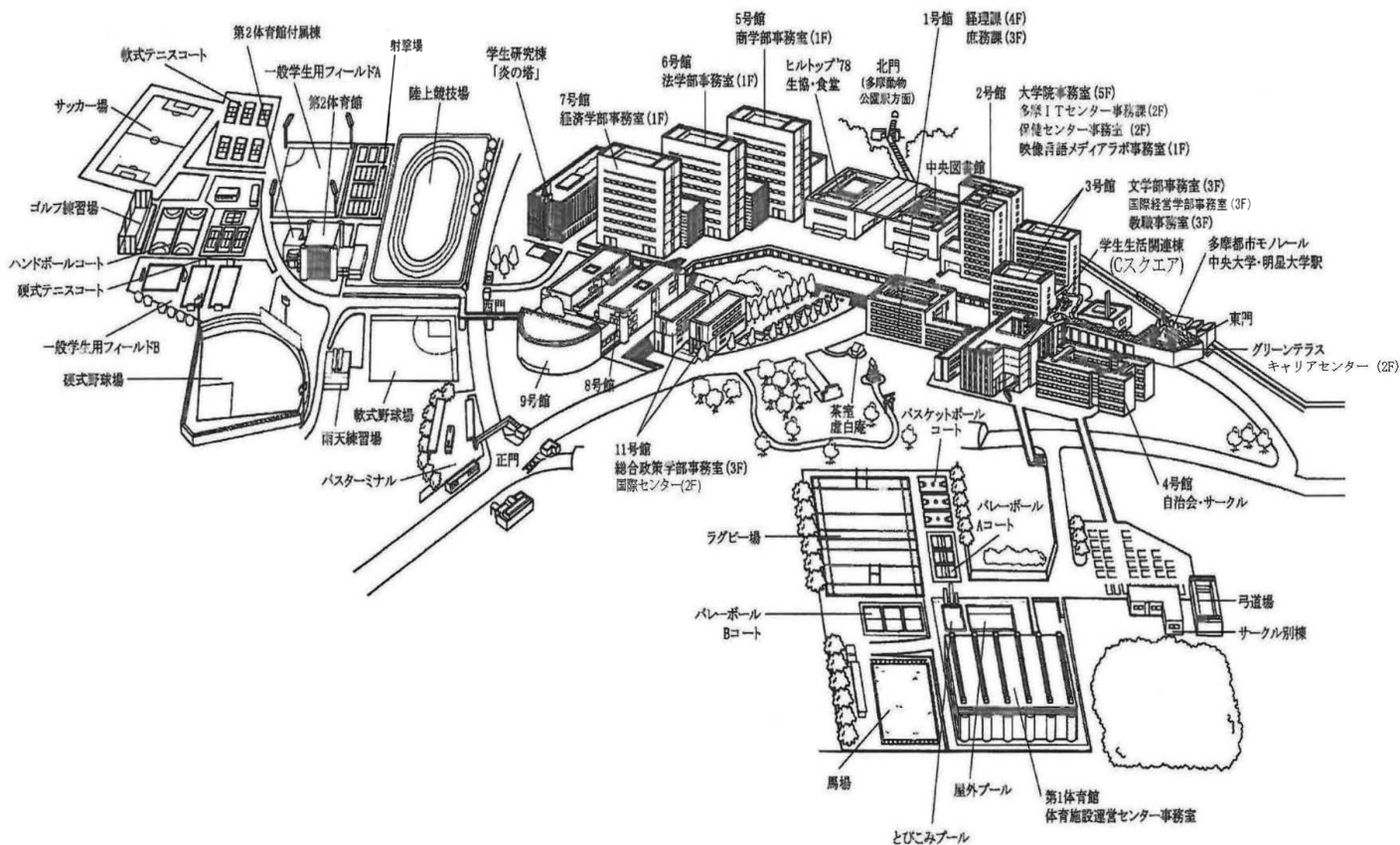
- ① 衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守る。
- ② 窓ガラス・外壁・看板等の落下物に注意する。
- ③ 地面の亀裂や陥没、隆起に注意する。

避難場所	号館・棟
桜広場	1号館、2号館、図書館、8号館～11号館
ラグビー場	3号館、4号館、第1体育館、サークル棟別棟(1)、弓道場、馬房、グリーンテラス、Cスクエア
陸上競技場	5～7号館、食堂棟、第2体育館、サークル棟別棟(2)(3)、炎の塔

〈多摩校舎構内避難場所〉



多摩キャンパス学生関係事務室・体育実技実施場所等案内図



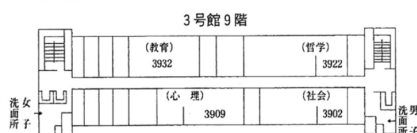
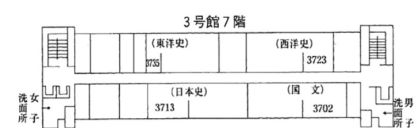
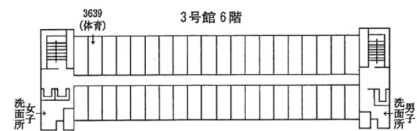
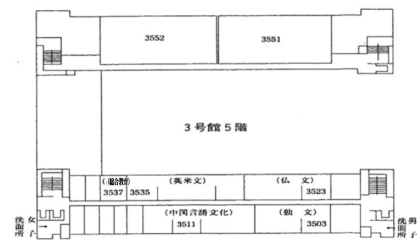
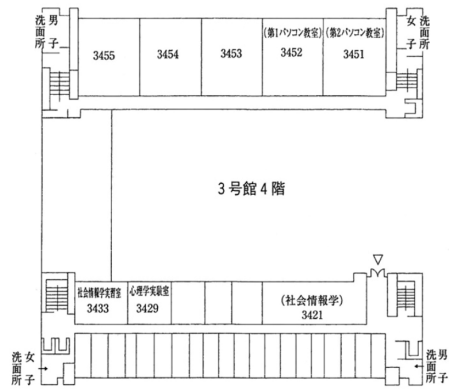
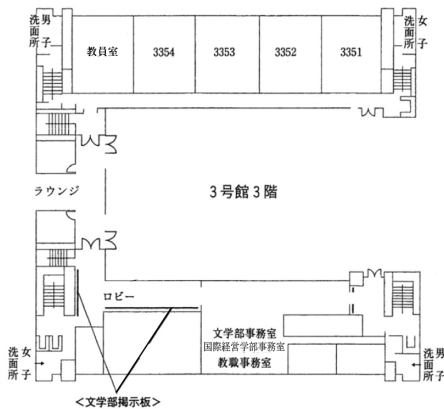
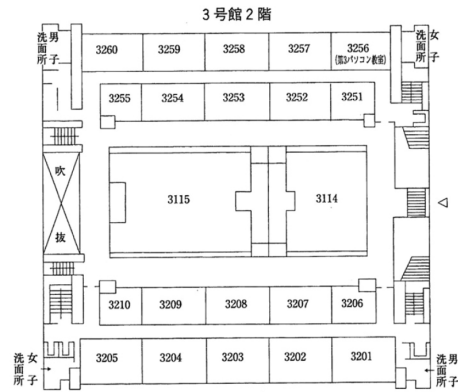
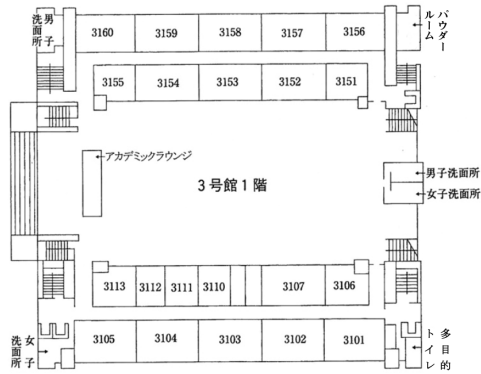
中央大学事務室電話番号一覧

(042-674-XXXX)

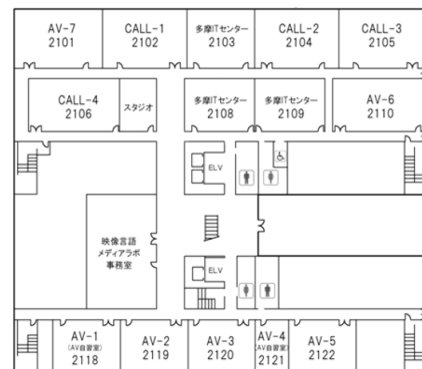
文学部事務室	3711	保健センター事務室	2756
教職事務室	3726	学生部学生課	3471
法学部事務室	3111	学生部厚生課	3461
経済学部事務室	3311	学生部学生相談室	3481
商学部事務室	3511	学友会事務室	4304
総合政策学部事務室	4111	図書館事務部閲覧課	2511
国際経営学部事務室	4410	キャリア支援課	3500
全学連携機構事務室	3722	入学企画課	2144
大学院事務室	2620	経理課	2172
映像言語メディアラボ事務室	2752	庶務課	2210
体育施設運営センター事務室	3913	クレセント・アカデミー事務室	2267
国際センター事務室	2211	父母連絡会事務局	2161
多摩 I Tセンター事務課	2734		

教室案内図

<例> 3 1 01 最後の2桁は教室番号を示す。
 次の桁は階数を示す。
 最初の1桁は号館を示す。



2号館1階 映像言語メディアラボ





人文社会学科					専攻
学籍番号 20E	⋮	⋮	⋮	⋮	
氏 名					